

宇部市自然環境調査報告書

令和5年(2023年)3月

宇部市

目 次

第1章 概要	
1. 調査目的	1
2. 調査対象	1
3. 調査期間	1
4. 報告書の作成・編集	1
第2章 地形・地質	
1. 調査概況	2
2. 地形・地質の概況	2
3. まとめ	13
第3章 植物・植生	
1. 調査概況	19
2. 植物相・植生の概況	19
3. まとめ	20
第4章 昆虫類	
1. 調査概況	40
2. 昆虫類の概況	40
3. まとめ	87
第5章 魚類	
1. 調査概況	131
2. 魚類の概況	133
3. まとめ	140
第6章 鳥類	
1. 調査概況	143
2. 鳥類の概況	145
3. まとめ	153
第7章 哺乳類・爬虫類・両生類	
1. 調査概況	159
2. 哺乳類・爬虫類・両生類の概況	160
3. まとめ	170

第1章 概要

1. 調査目的

本市では、「宇部市環境基本計画」策定の基礎資料にすることと等を目的として、自然環境調査を実施し、平成10年1月、平成16年3月及び平成20年3月に報告書としてとりまとめている。しかし、これらの既往調査からは期間が経過し、宇部市の自然環境の現状を把握するため、新たな自然環境調査が必要となった。本報告書は、自然環境保全のための基礎資料の整理及び生物多様性に対する市民意識の醸成を目的として、令和2～4年度に実施した調査結果を取りまとめたものである。

2. 調査対象

調査対象としたのは、以下の各分野である。

- | | |
|----------|---------------|
| ① 地形及び地質 | ② 植生と植物相 |
| ③ 昆虫 | ④ 魚類 |
| ⑤ 鳥類 | ⑥ 哺乳類、爬虫類、両生類 |

3. 調査期間

現地調査は令和2年4月から令和4年3月までの2年間を基本とし、令和4年度は、これらの補足調査を実施するとともに、調査結果をもとに報告書の作成を行った。

4. 報告書の作成・編集

第2章から第7章までについては、各分野の専門家が分担して原稿執筆を行った。

原稿を執筆した専門家の一覧

調査者氏名	所属・役職	担当分野
今岡 照喜	山口地学会	第2章 地形・地質
鶴谷 保	山口県立宇部高等学校 教諭	第3章 植物
後藤 和夫	山口むしの会 会長	第4章 昆虫
後藤 益滋	株式会社リクチコンサルタント	第5章 淡水魚類
原田 量介	宇部野鳥保護の会 会長	第6章 鳥類
村田 満	高川学園高等学校 講師	第7章 哺乳類・爬虫類・両生類

専門家による調査への協力者の一覧

高田 義弘	管 哲郎	伊ヶ崎伸彦	保阪 健市
村田 淳	吉原 太一	重中 良之	(故)椋木 博昭
室田 純子	田原 義寛	松向寺智哉	並川 愛知
原谷 一誠	繁里 昇	田村 竜人	豊田 拓也

第2章 地形・地質

1. 調査概況

(1) 調査対象地域

宇部市全域

(2) 調査期間

令和2年(2020年)から令和3年(2021年)まで

(3) 調査方法

宇部市に関して従来報告されている地形・地質・岩石等に関する文献調査を実施するとともに、現地を訪れて地質調査と確認を行い、本報告書を作成した。周知のように宇部市は石炭の町として繁栄してきたところで、最盛期には90を超える炭鉱があり、坑道は陸上部だけでなく海底にも広がっていた。現在、これらの炭鉱はすべて閉鎖されているが、常盤公園入り口にある石炭記念館で宇部炭田を構成する地層や、その中から発見された化石、当時の石炭採掘のための機材や炭鉱で働く労働者の風俗など様子をを知ることができる。宇部市は宇部炭田300年の歴史を有し、日本の古第三系の模式地の一つとなっているので宇部層群についてはとくに詳述する。

本調査・報告の目的である保存すべき自然環境については、島(2004, 2009)に記述されているように“保存すべきもの”の選定基準を定めることは極めて困難である。そこで、島(2004, 2009)で取り上げられているもののうち、現在保存が確認されているものは今後の自然環境の保全のための基礎資料とすべく、全て選定するとともに、筆者の調査結果を加えて記述することとした。

2. 地形・地質の概況

(1) 地形

(ア) 宇部市内の概況

宇部市の最北部(楠地域)は内陸の山地あるいは丘陵地からなり、標高が高く(250-400 m)。宇部市では概して北部で標高が高く、南へ下るにしたがって高度を下げる。地域最北部には、荒滝山(459 m)やその西方にあるある日ノ岳(458.6 m)がともに山地を形成している。

宇部市の中北部は、全体的におよそ標高200 m内外の丘陵地が広く分布するが、市域の北部境界をなす平原岳(395.1 m)あるいは南部厚東川東に位置する霜降山(250.2 m)は、この丘陵の上に残丘として存在し、山地地形をなしている。この丘陵地の中央部を厚東川が南流し、市域の西部で周防灘に注いでいる。厚東川は途中、木田の厚東川ダムにより堰き止められ、南北に約5.5 kmと細長くのびた人工湖・小野湖が形成されている。このほかに、市域には瓜生野に丸山池、市街地に常盤池などの小規模な人工池が存在している。市域の南部は、北部に比較するとより平坦な丘陵地帯で、一般に標高200 m以下である。北部に比較するとより平坦な丘陵地帯で、北から南、海岸に向かって次第に低くなり、周防灘に至っている。その間、岐波から真締川に至る海岸線に沿って海岸段丘の発達が見られる。平坦な台地(段丘)と急傾斜(段丘崖)をもつ階段状の地形を段丘と呼ぶ。宇部市から山陽小野田にかけての海岸は、県下でもまれな隆起海岸をなし、数段の海成段丘が認められ(金折, 2012)、前面の海も浅い。

宇部市街地は、沖積層が形成するほぼ平坦な地形上に位置し、とくに海岸線にほぼ平行な市の中心街は旧海岸線の砂丘堆積物の上に形成されている。また、厚東川河口周辺には広大な干拓地、あるいは石炭採掘の際の廃土その他による埋立地が形成されている。以上、概略を述べた宇部市全域の地形は、およそ以下のように区分できる(山口県, 1972a, b, 1973a, b)。

山地：荒滝山山地、平原岳山地、霜降山山地

丘陵地：厚東丘陵、宇部丘陵

台地(段丘)：宇部海成段丘

低地：宇部低地

本稿では、おもに山口県によって 1972-1973 年に実施された土地分類基本調査「小郡」、「宇部東部」、「厚狭」、および「宇部」に従って記述する。

(イ) 山地

① 荒滝山山地

荒滝山(459 m)、日ノ岳(458.6 m)、岡山(408 m)を含む山地で、起伏量 200 m 以上の中起伏山地である。その中に荒滝川、伊佐川、藤ヶ瀬川の小谷底平野が入りこんでおり、極めて小規模な山塊をなす。荒滝山は宇部市の最北部にある最高峰であり、重量感あふれる美しい姿によって「吉部富士」とも言われている。美祢市との境界にある日ノ岳と西北西—東南東方向の山系をなす。南麓の荒滝川には、荒滝の滝がある。荒滝山・日ノ岳は 40° 近い比較的急勾配の傾斜地に囲まれているが、岡山は白亜紀の火砕岩や石英閃緑岩からなり、傾斜も 15° と緩やかで、谷密度も荒滝山や日ノ岳と比べると低い。

② 平原岳山地

平原岳(391.5 m)からその東に位置する禅定寺山(392.2 m)に連なる山地は、周防変成岩、関門層群の砂岩・頁岩、周南層群の火山岩・貫入角礫岩、黒雲母花崗岩、花崗閃緑岩、斜長斑岩、珪長岩など各種の岩石が複雑に分布する地域である。

厚東川左岸一帯の 100-200 m の丘陵地の上に残丘状を呈して聳えており、宇部市域ではその北・西斜面が含まれている。標高の低い部分は、黒雲母花崗岩からなるゆるやかな山麓地形を示すが、斜長斑岩や花崗閃緑岩からなる標高 200 m 以上になると侵食崖をなし急峻な斜面が形成されている。

③ 霜降山山地

霜降山(250.2 m)の周辺は標高 100 m 前後の極めて平坦な丘陵地が広く発達しているが、その中で霜降山のみがかなり周囲より高く残丘となって聳えている。霜降山山地と周辺丘陵侵食平坦部との境界はほぼ標高 100 m で、丘陵地域では大部分 10-20°の緩傾斜を示すが、山地では 20°以上の山腹斜面を呈している。霜降山は山地全体が白亜紀の黒雲母花崗岩から成るので、平原岳のように岩質差による残丘ではなく、むしろ地質構造に支配された残丘であろうと考えられる。

(ウ) 丘陵地

厚東川の中・下流域にわたって、100-200 m の高度に侵食平坦面としての性質をもつ低平な丘陵が広く分布している。これは瀬戸内面とよばれる低い準平原の一部をなすものであるが、この地域は全国的にも数少ない従順な起伏をもつ老年期の地形としてよく知られている(山口県, 1972b)。

① 厚東丘陵

国道 2 号と JR 山陽本線の間を模式地とする丘陵で、起伏量 50 m 前後のゆるやかな侵食平坦面を形成している。この小起伏丘陵地は連続して厚東川中流域にまで広がっており、南は宇部丘陵につながっている。岩質は概ね黒雲母花崗岩で、一部宇部層群の厚東川礫岩層から成っている。

② 宇部丘陵

前述の厚東丘陵に連続する同じ性質の丘陵地であり、一般に霜降山以南を宇部丘陵と称している。標高 100 m あるいは 100 m 以下の小起伏面を形成しており、その縁辺では標高 30-50 m で海岸段丘

(宇部台地)に漸移している。このような老年期丘陵では断層、節理系のような地質構造の制約は地形上にはほとんど見られないが、霜降山南部では一部に南北方向の谷線の配列が見られる。

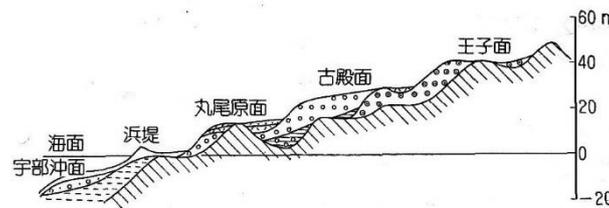
(工) 宇部海成段丘

小野田—宇部—小郡地域に分布する海成段丘面は、宇部海成段丘と総称され、高位から王子面、古殿面、丸尾原面(河野・小野, 1967; 高橋・河野, 1975)、および王子面より高位にある高位段丘面の4面に区分される(図 2-1; 金折, 2012)。○○面というのは、海面から高かった時の海食台で、その後海面が低下してできた海成段丘の一部と考えられる。海面変動のために形成される段丘を海成段丘という。以下、金折(2012)にしたがって記述する。

王子面は宇部市王子に広く分布するほか、宇部市沖宇部にも分布する。段丘面の標高は 30-35m であり、小沢によって開析が進み、分岐した尾根状の平坦面として残存する。段丘面の上には礫層がのっている。

古殿面は、宇部市古殿、柳ヶ瀬および床波に広く分布し、段丘面の高さは 25 m である。西方に行くとやや高くなり、常盤池付近では 30 m の台地面となる。宇部砂礫層からなり、直上を阿蘇 4 火山灰(Aso-4)が覆うことから、段丘面の形成時期は最終氷期最盛期と考えられる。

丸尾原面は、宇部市丸尾原、村松、花園に広く分布する。段丘面の標高は 10 m 程度であり、平坦面の保存はよい。Aso-4 火砕流堆積物に覆われる。



地質時代	段丘面高度	地層	層厚
完新世		砂層	
更後	宇部沖面 -6~-10 m	宇部沖礫層	
	丸尾原面 10~20 m	宇部砂質粘土層 宇部火山灰層	0.5~2 m 0.1~3 m
新期	古殿面 25~30 m	宇部砂礫互層	1~8 m
		古南層 黒崎粘土層 黒崎礫層	2 m 2 m
	高位面 王子面 30~40 m	王子礫層	6 m
前期		草江シルト層	20~80 m
先更新世		基盤岩	

図 2-1 宇部地域の段丘と洪積世の模式図(山口地学会、1984)

(オ) 宇部低地

厚東川河口の低地や真締川の三角州などを含めて宇部低地と称するが、大部分は干拓地および埋立地から成っている。宇部岬付近から北西にのびる幅約 600 m に及ぶ旧砂州は高度 2-4 m で、現在宇部の市街地はこの上の上のって広がっている。この砂州は、形状から「犬の尾」と呼ばれ(居能の語源とする説もある)、江戸時代初期に描かれた慶長図絵図控図でも確認できる(図 2-2)。現在は周辺が埋め立てられ、当時の砂州の位置は分かりづらくなっているものの、周辺地域よりも幾分標高が高いことが確認できる(図 2-3; 写真の A~C)。

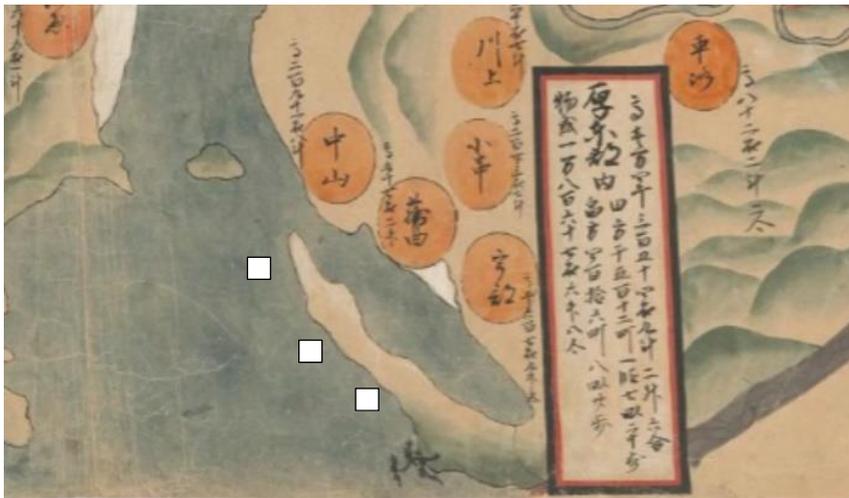


図 2-2 慶長国絵図控図 長門国の一部(1605 年頃作成)

出典: 宇部市デジタルミュージアム <https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/3520205100>

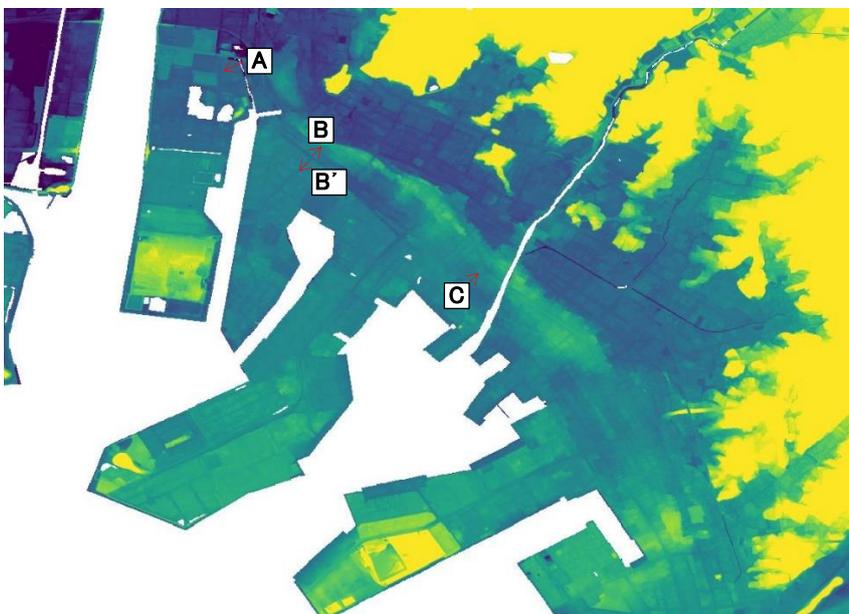


図 2-3 基盤地図情報(数値標高モデル)

出典: <https://fgd.gsi.go.jp/download/menu.php>



(2) 地 質

(ア) 宇部市内の概況

山口県には 5 億年以降に形成された優れた地質遺産があり、古くから多くの研究者が訪れ、教育・研究の舞台となってきた。そのため山口県の地質は日本の地質の模式地となっているところが多く、山口県は「地質の博物館」と呼ばれている。宇部市も例外ではなく、古第三紀には北九州から宇部市にかけては、温暖な気候と内湾性の環境にあり、石炭層を含む非海成層が形成された。これは小野田-宇部丘陵からその南方海底部にかけて分布し、古くから宇部炭田として知られ、詳細な地質学的研究が行われてきた(今岡ほか, 2003 参照)。その結果、宇部層群は下位の厚東川礫岩層と上位の宇部夾炭層に層序区分され、獣類(サイ)やシュロやイチョウなど亜熱帯植物の化石を産し、フィッショントラック年代も併せて始新世とみなされる。宇部層群の上位にはやや寒冷な気候を示す植物群を含む地層が知られ、漸新世の下片倉層として識別されている(石田ほか, 1994)。

山口県の地質系統表を図 2-4 に示す。県内の地質は詳細に調査され、たくさんの地層、岩体に区分されている。しかし、山口県の 5 億年の歴史は以下の 6 つのキーワードで語る事ができる。す

なわち、付加体の形成、変成作用、陸棚層の形成、火山ー深成作用、日本海の形成、島弧火山活動である。このうち宇部市には、比較的新期の日本海の形成や島弧火山活動以外の地質体が分布している。

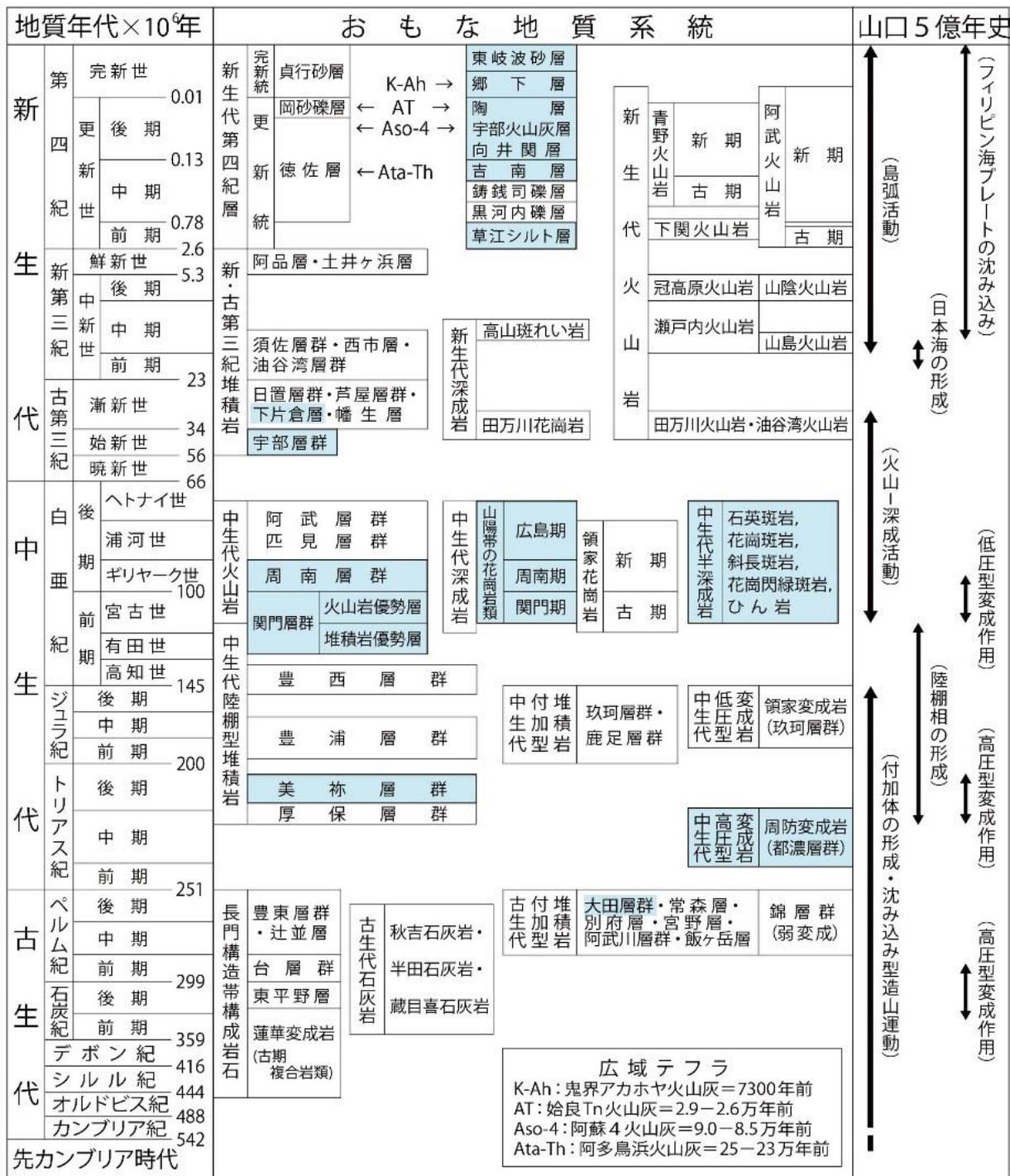


図 2-4 山口県の地質系統表(西村, 2012 を改変)宇部市にある地質体を水色で示す。

宇部市に分布する地質体は古いものから順に、石炭紀ーペルム紀大田層群、トリアス紀の変成年代を示す周防変成岩、トリアス紀の美祢層群、前期白亜紀関門層群、後期白亜紀周南層群、白亜紀の花崗岩・花崗斑岩・閃緑岩、古第三紀の宇部層群、下片倉層、および第四系に区分される(図 2-4、2-5)。

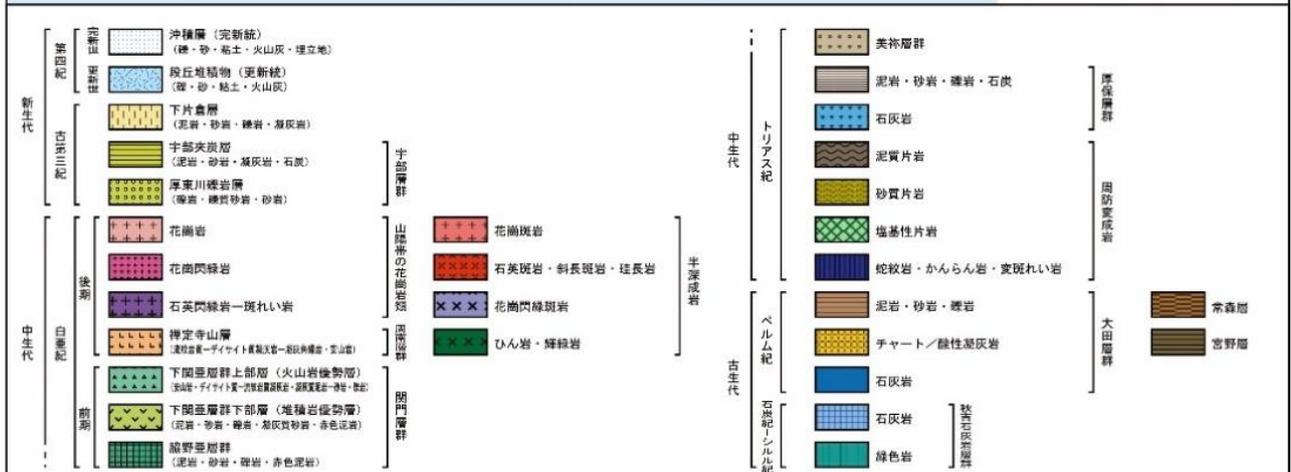
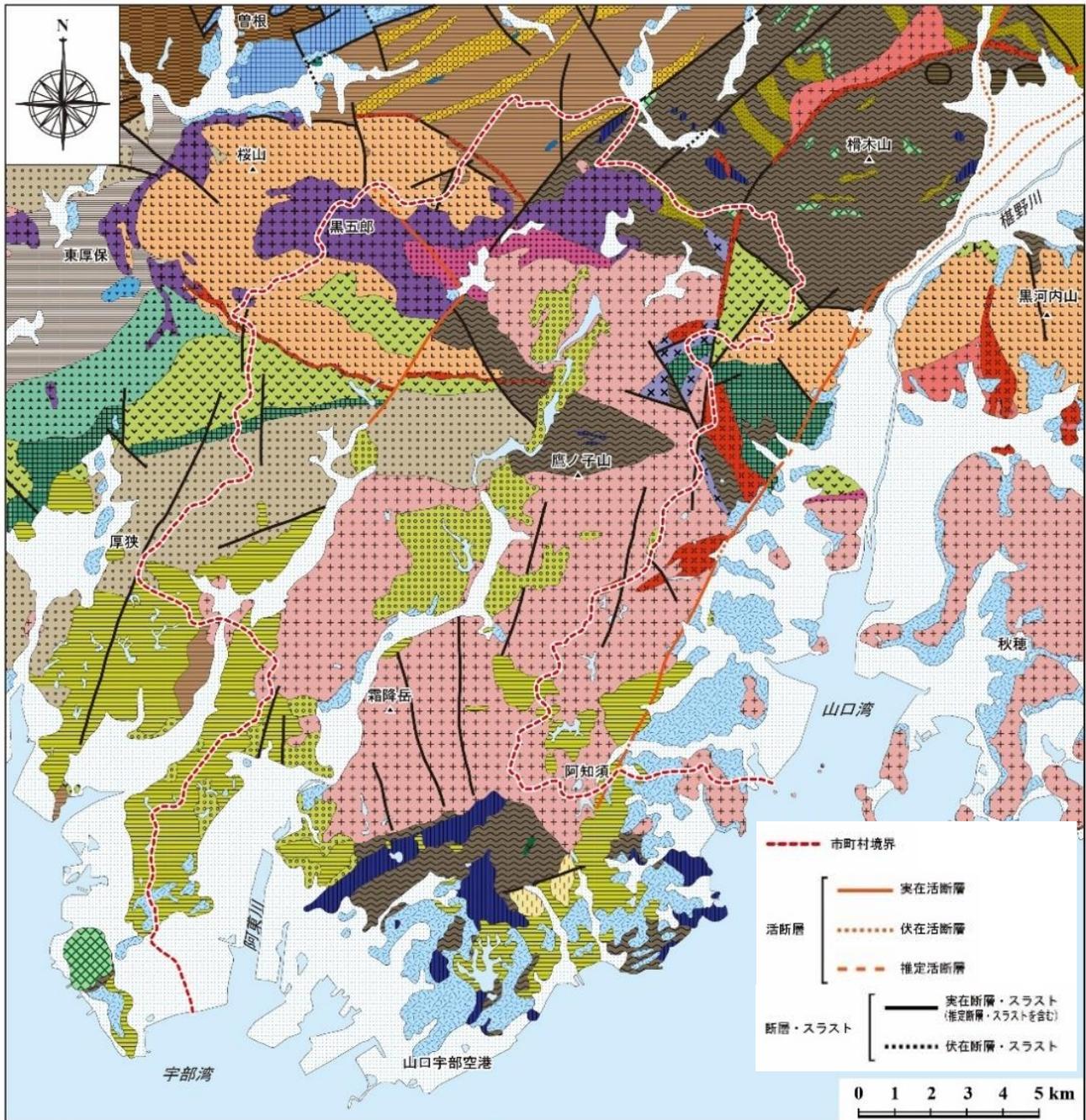


図 2-5 宇部市の地質図(山口地学会, 2012 を改変)赤の破線は宇部市のおおよその範囲を示す。

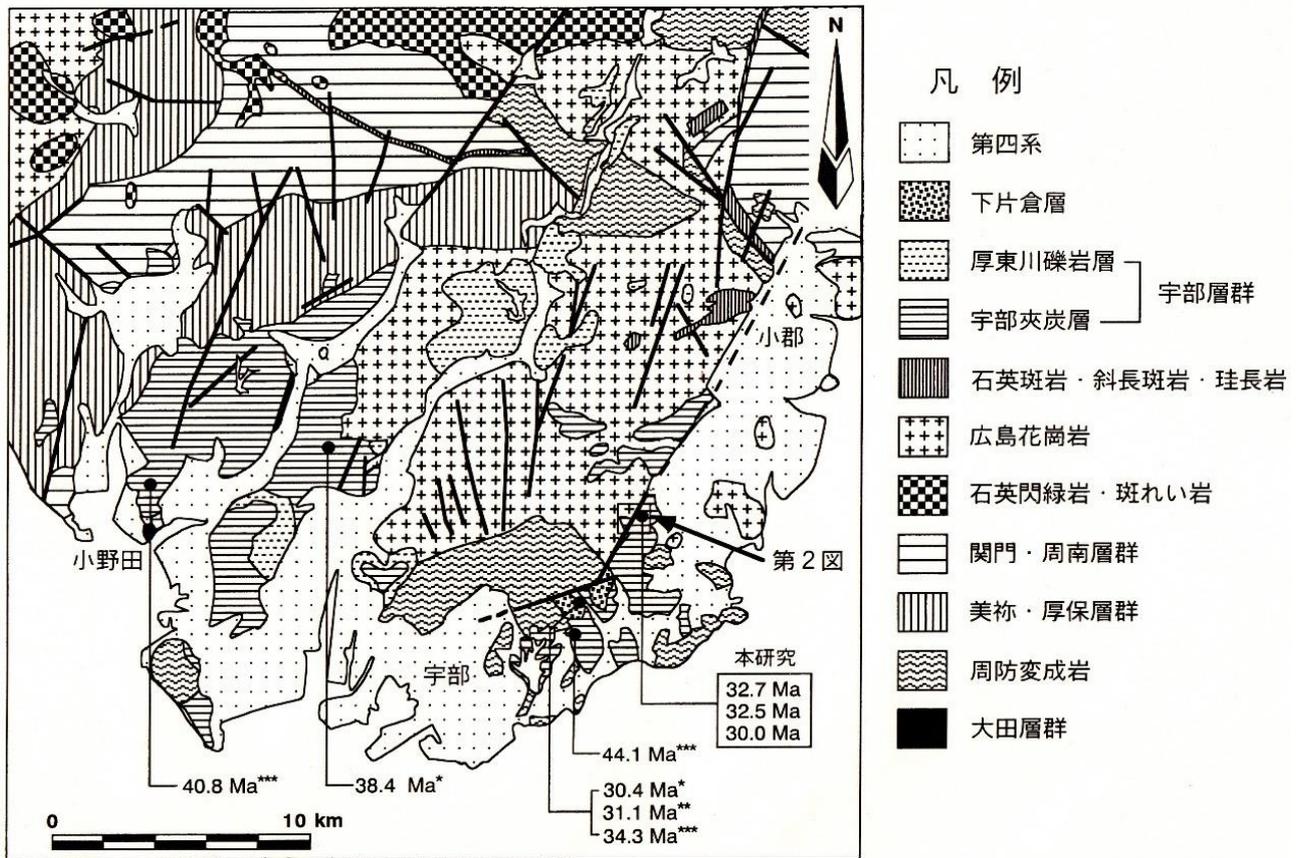


図 2-6 宇部市および周辺地域の地質図(西村ほか, 1995 を改変)ならびに下片倉層産凝灰岩のフィッション・トラック年代(*木村・辻, 1990、**木村・辻, 1992 ; ***石田ほか, 1994)

(イ) 大田層群

大田層群は宇部市域では最も古い地層で、荒滝山周辺地域に分布する。主に砂岩とチャートからなる付加体堆積物である。周南層群とはカルデラを画する断層で接する。周防変成岩とは北東-南西方向のオケ峠断層で接する(図 2-5)。

(ウ) 周防変成岩

周防変成岩は、従来三郡変成岩と呼ばれていたものの1つのメンバーで、約 220 Ma(2 億 2 千万年前)の高圧変成作用によって形成されたものである。宇部市岐波から請川、藤曲にかけて広く分布するほか、小野湖中流域や市北部の市小野にも分布する。おもに泥質片岩、苦鉄質片岩および蛇紋岩からなり、珪質片岩を伴う(図 2-6)。泥質片岩は泥岩起源のもので、おもに白雲母、黒雲母、石英、長石、炭質物などからなる。苦鉄質片岩は緑色雲母、緑簾石、緑泥石、アクチノ閃石、および石英、長石からなる。以上の変成岩類は白亜紀の花崗岩によって接触変成作用を受けている(西村ほか, 2012)。

(エ) 美祢層群

本層群はトリアス紀の代表的な地層であり、美祢・厚狭地域に分布し、良質の石炭や植物化石を多産することから古くから多くの研究が行われてきた(例えば、高橋・三上, 1975 ; 長谷, 1984 など)。主に礫岩、砂岩、頁岩の互層からなる。宇部市域では、小野湖右岸から西部にかけて東西方向に連続分布している(図 2-5)。

(オ) 関門層群

関門層群は前期白亜紀の地層群であり、下位の堆積岩優勢層である脇野亜層群と上位の火山岩優勢層である下関亜層群に区分される(松本, 1951 など)。Imaoka et al. (1993)により、104–107 Ma の K–Ar 角閃石年代が得られている。山口県下では下関市から長門市西部にかけて広く分布する。宇部市では平原岳の北東部では脇野亜層群と下関亜層群、奥万倉東部では下関亜層群、南部では脇野亜層群がごく限られた範囲に分布する(図 2-5)。

(カ) 周南層群

周南層群は瀬戸内側に分布する禅定寺山層と中国脊梁山地側に分布する物見岳層に分類される(今岡, 2012)。宇部地域には、前者が分布する。禅定寺山層は吉部カルデラ(Murakami and Matsusato, 1970; 岸ほか, 2007 ; 今岡ほか, 2019)と山口カルデラ(武田・今岡, 1999 ; 今岡ほか, 2019)を形成している(図 2-5)。吉部カルデラは宇部市北部から美祢市にかけて、山口カルデラは宇部市北東部から山口市にかけて分布する。構成火山岩類は、いずれも安山岩溶岩、デイサイト質火砕岩、流紋岩質火砕岩、および貫入角礫岩である。

(キ) 白亜紀花崗岩類

山口県には白亜紀の花崗岩類が県の全面積の 4 分の 1 を占めて広く分布する(山口地学会, 1991)。宇部市の中・北部には防府市・山口市から連続分布する白亜紀花崗岩バソリスが広く分布し、これは宇部市域でも最も広い分布域を有する(図 2-5)。石英閃緑岩や花崗閃緑岩は楠地域北部の黒五郎、伊佐地、上小野にかけて周南層群を貫いて東西方向に長くのびて分布する。これは黒五郎深成岩類として知られており、その K–Ar 年代が岸ほか(2007)によって報告されている。

(ク) 宇部層群

宇部炭田を構成する宇部層群の地質学的研究は、徳永・飯塚(1930)にはじまり、戦後の炭田調査のための地質調査(鈴木・三原, 1949 ; 鈴木, 1950 ; 河野, 1956 ; 清原, 1956)を経て、海底炭田開発のための研究(松本・瀬戸, 1961 ; 瀬戸, 1972 など)、そして陸上部の層序学的・古生物学的研究(高橋・横山, 1960 ; 高橋ほか, 1961, 1963 ; 高橋, 1975 など)が行われた。その結果、宇部層群は中・後期始新世に相当し、下位の厚東川礫岩層と上位の宇部夾炭層に区分されている(図 2-6)。

厚東川礫岩層は小野湖周辺、厚東川ダム周辺から車地にかけてなど厚東川流域に分布する。宇部夾炭層は宇部市の中南部に点在分布する。写真 2-1 は荒瀬北付近で道路工事中に出現した厚東川礫岩層の露頭写真である。



写真 2-1 厚東川礫岩層の露頭写真(荒瀬北(N34.06928, E131.2919)で撮影)

古第三紀宇部層群の層序区分図を図 2-7 に示す。宇部層群の層序・構造・分布については高橋(1975)や河野ほか(1987)により総括されている。それによると、本層群は宇部市周辺の丘陵地から南側の海底にかけて分布し、全体としては、南側の海域にむかってゆるく傾斜し、西部では江汐池を中心とした緩やかな向斜構造を示す。海底下では層厚約 300 m で、下位から東見初層・沖の山層・長沢層の 3 層に区分されている(松本・瀬戸, 1961)。東見初層は粗粒ないし中粒砂岩と頁岩の互層からなり、3 枚の炭層および礫岩層を夾む。沖の山層は四尺から一重石層にいたる間の主要な炭層を含む地層である(図 2-7)。宇部沖のボーリング・コア中の重鉱物組成の詳細な検討からは、沖の山層の堆積時期に火成活動が活発化したと推定されている(小原, 1968)。長沢層中には稼行に堪える炭層はない。

一方、陸上部では既述のように厚東川を境として中・西部と東部に分けられ、中・西部では、下位の厚東川礫岩層と上位の宇部夾炭層に 2 分されている。東部では、下位から床波層、宇部夾炭層、岐波層に分けられており、岐波層は宇部夾炭層を不整合に覆う(松尾, 私信)。

	層序とおもな炭層			凝灰岩の FT 年代 (Ma)
	海底	おもな炭層 (層厚, cm)	陸上	
宇部層群	長沢層			36.0 34.6 40.8
	60m±	一重石層 (40-70)	宇部層 上部層	
	沖の山層	二重石層 (30-50)	宇部夾炭層 中部層	
		大派層 (110-170)		
		土石層 (<±100)		
		五段層 (120-150)		
		二段層 (30-60)		
	85-90m	三尺層 (30-130)	宇部夾炭層 下部層	
		四尺層 (<70)		
		東見初層		
130m		50-100m		

地層名の下に数字は層厚を、一点鎖線はおもな凝灰岩層を示す。凝灰岩の FT 年代は、石田ほか (1994) と今岡ほか (2003) による。

図 2-7 山口県南部の宇部層群の層序(河野ほか, 1987 及び今岡ほか, 2003 に基づく)

厚東川礫岩層は海底部の東見初層に対比され、宇部市厚南、厚東、二俣瀬および山陽小野田市の南部など主に厚東川流域に分布する(図 2-5)。固結度の高い礫岩層で、礫岩・含礫砂岩のほかに、一部に凝灰岩の薄層を夾む。最大層厚は 100 m 程度であるが、南側ほど層厚が薄くなる。礫は垂円礫一垂角礫で、礫種としては凝灰岩・花崗岩・結晶片岩・砂岩・頁岩がある。古第三紀始新世の頃の古厚東川の堆積物と考えられる。

宇部夾炭層は海底部の沖の山層と長沢層の一部に対比され、江汐池周辺の中心部に主に分布している。主要炭層(五段層と大派層)をもとに上部層・中部層・下部層の 3 部層に区分され(図 2-7)、層厚は 90-130 m である(高橋, 1975)。上部層は砂岩と頁岩の互層で、下部に二重石(30-50 cm)・一重石(40-70 cm)の 2 枚の炭層が夾まれる。上部は砂岩と頁岩の比較的厚い互層で、斜交葉理がみられる。層厚は 40-60 m である。中部層の下部は頁岩と細粒砂岩の互層からなり、白色の粘土化した凝灰岩の薄層を夾む。上部は主に中一粗粒砂岩であるが、ところにより礫質となり、斜交葉理が見られ、土石層・大派層(110-170 cm)の 2 枚の炭層を夾む。層厚約 20 m である。下部層は中部層を取り囲むように分布している。主に砂岩と頁岩の互層からなり、炭層を夾む。炭層のうち、三尺層(30-130 cm)・二段層(30-60 cm)は共に薄く連続性に乏しいが、最上部の五段層は厚く(120-150 cm)、炭質・連続性ともに良く、その上部には層厚 10 cm 程度の白色凝灰岩を伴う。この凝灰岩は、従来、「白ボタ」あるいは「ヒール硬」などと称され、それが鍵層として重要なことは、すでに田村(1954)によって注目されていた。下部層の層厚は約 30-50 m である。宇部層群の凝灰岩の代表的試料を写真 2-2 に示す。



写真 2-2 宇部層群中の凝灰岩(沢波)

(ケ) 下片倉層

かつては岐波層と呼ばれ、厚東川礫岩層に対比されていた(河野, 1956)。石田ほか(1994)は、層序・植物化石および凝灰岩中のジルコンのフィッション・トラック年代に基づいて宇部夾炭層の一部を漸新世とみなし、下片倉層と命名し、宇部層群から分離・独立した。宇部市下片倉付近に分布する。

また、今岡ほか(1999, 2003)は漸新世の白岸凝灰岩、始新世の小野田千崎の凝灰岩の岩石記載、フィッション・トラック年代およびストロンチウム同位体比の検討を行った。白岸凝灰岩は旧山口宇部有料道路の工事中に出現した。その位置、露頭柱状図および凝灰岩の産状をそれぞれ図 2-8、写真 2-3 に示す。また写真 2-4 に白岸凝灰岩の偏光顕微鏡写真を示す。凝灰岩には非常に新鮮な斜長石を含み(写真 2-4A, B)、基質には多量の方解石が認められる。偽豆石(写真 2-4C)や安山岩片(写真 2-4D)が認められる。かつて(1990 年代)存在した下片倉層の露頭の多くは、宅地造成等で失われている。

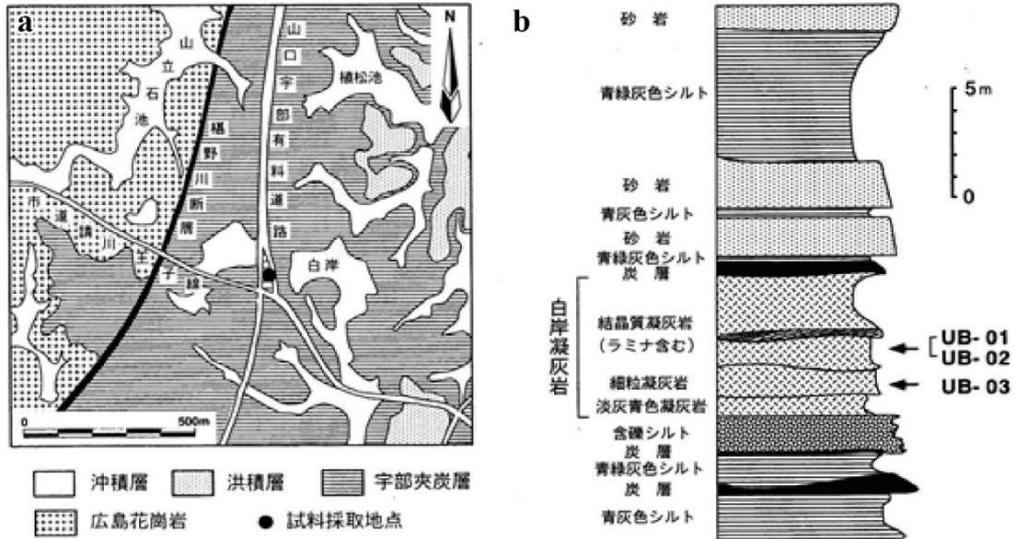


図 2-8 白岸凝灰岩の試料採取地点 a: 採取地点とその付近の地質図 b: 露頭柱状図(今岡ほか, 1999)

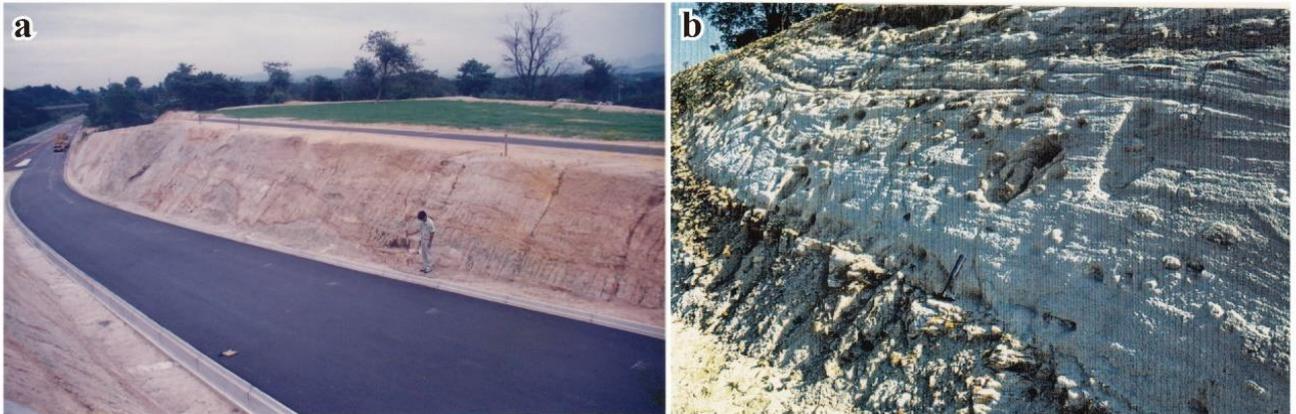


写真 2-3 白岸凝灰岩露頭 a:山口宇部有料道路(1995 年撮影) b:凝灰岩層のクローズアップ(今岡ほか, 1999)

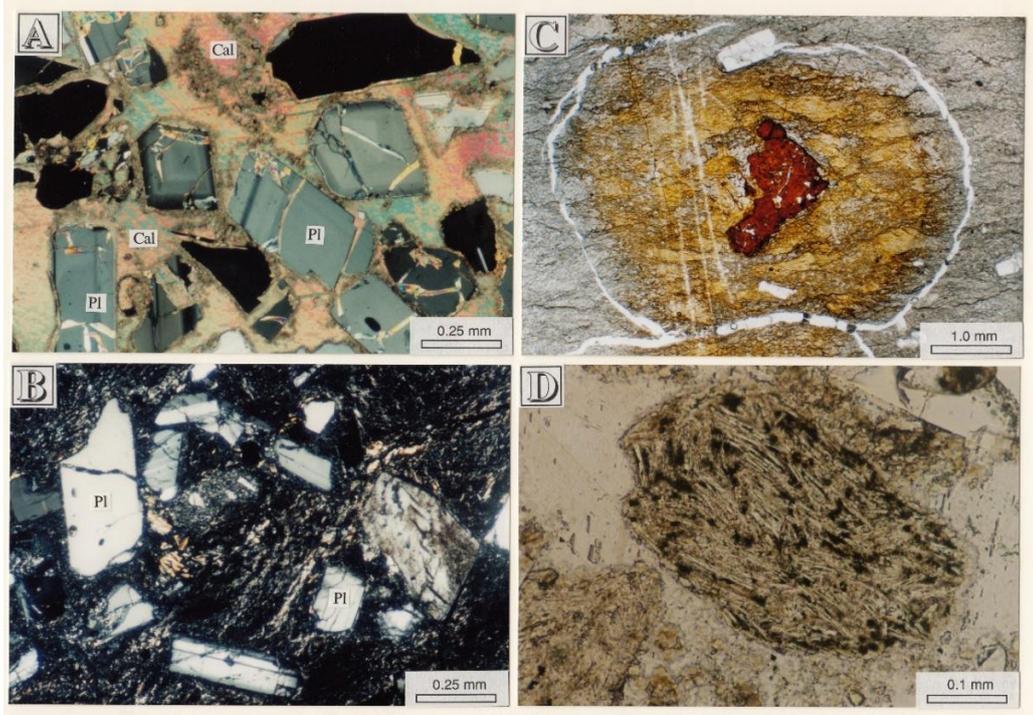


写真 2-4 白岸凝灰岩の偏光顕微鏡写真

A: UB-01, B: UB-02, C: UB-03 (白線は偽豆石), D: UB-01 中の安山岩岩片, Pl: 斜長石, Cal: 方解石

3. まとめ

島(2004, 2009)に基づき選定した保存すべき地形・地質の現況を以下に述べる。

(1) 荒滝山・日ノ岳周辺山地一帯の自然

人の手が入っていない自然が残されている。荒滝の滝(N 34.14325, E 131.298222)は県道 30 号線のバス停「小松小野」(県指定史跡 荒滝山城跡登山口入口)から犬ヶ迫方面に 1.8 km 行った道路上に案内板があり、そこから 80 m ほど下ったところにある。6 m ずつの 2 段で構成され(写真 2-5)、清水秀登著による「防長 48 滝」のひとつに数えられている。上部は 3 条、下部は 1 条である。周辺地質は太田層群砂岩で、沢の流れの屈曲点に形成されている。美観を害する倒木を撤去する必要がある。



写真 2-5 「荒滝の滝」の全景

(2) 吉部大岩郷地域の自然と景観

吉部大岩郷は東吉部に位置する国指定天然記念物(昭和 10 年 12 月指定)(写真 2-6)であり、保存は必須である。谷を埋める数 10 cm から 2 m を超す円礫の集合体が岩海をなしている。この形成時期や成因は必ずしも明らかではないが、白亜紀に形成された黒五郎深成岩類が風化・侵食作用を受けて形成されたことは明らかである。この小規模なものは、黒五郎深成岩体の分布域の谷筋にはしばしば認められる。現状では必ずしも管理は十分ではない。駐車場から上がっていく道の草刈りの必要も感じる。また、岩郷の岩石の隙間から植物が生育しており、景観を変えてしまっているようにも感じる。



写真 2-6 吉部大岩郷

(3) 日の山と花崗岩の露頭

日の山(146.1 m)は全山花崗岩の残丘である(写真 2-7a)。自然環境が保存されており、登山道が良く整備されているため市民が手軽に登山を楽しめる憩いの山である。花崗岩の観察には最適であり、麓から粗粒花崗岩が続く。山頂から 200 m 手前から少し斑状組織が顕著になる。頂上は粗粒斑状花崗岩である。中腹標高 70 m のところにある千畳敷からの展望はすばらしく、波雁ヶ浜や岐波の街並みが一望できる(写真 2-7b)。ここでは大きな 1 枚岩の粗粒花崗岩が露出している。山頂には粗粒花崗岩が露出している(写真 2-7c, d)。山頂からは山口湾を隔てて秋穂がよく見える。

小さな山であるが、昭和天皇・皇后も訪れていて、天智天皇の時代には国土防衛のための壱岐・対馬・大宰府から瀬戸内海沿いに大和にいたる間に烽火の制がしかれ、この山に狼煙場が設けられていたらしい。「防長風土注進案」によれば、西は西岐波の黒崎、東は管倉山との中継点としての役割を担っていた。さらに山麓では縄文や弥生時代の土器や石器が出土し、中世の貝塚や経塚もある。ジオツーリズムだけでなく歴史散歩としても登山を楽しめる山であり、保存すべき山である。

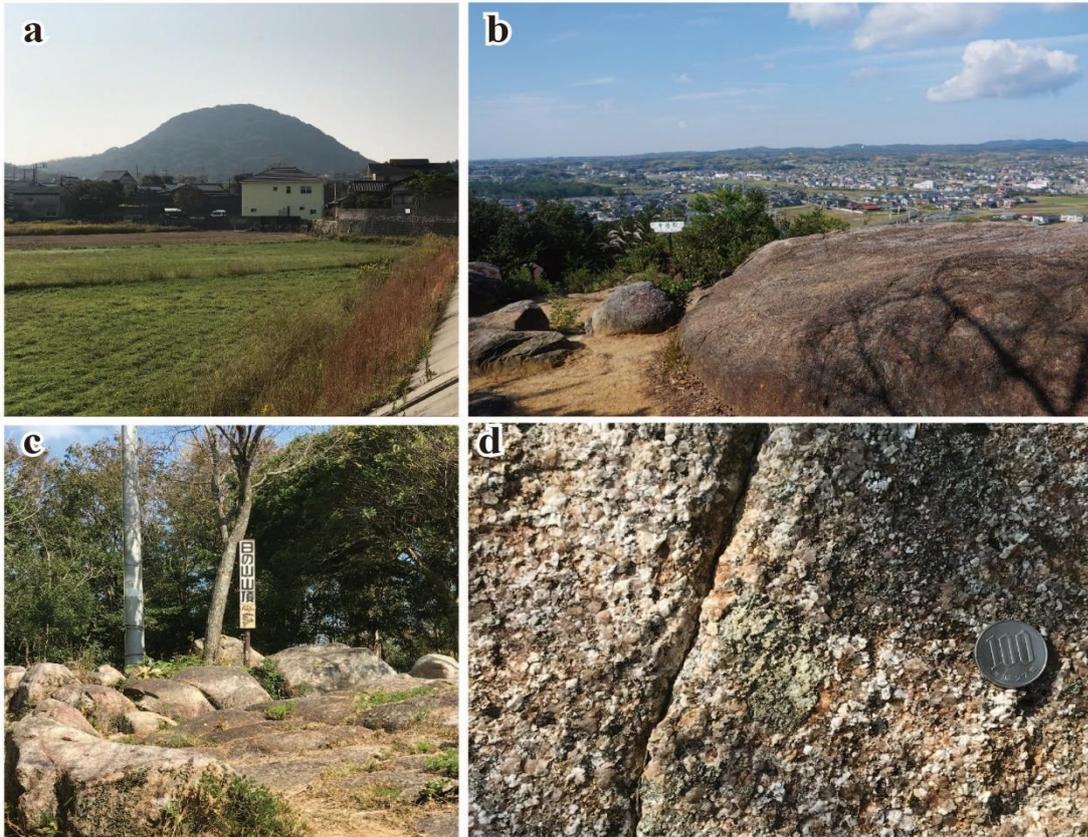


写真 7 日の山 a: 阿知須から望む b: 千畳敷から岐波の町並みを望む c: 山頂 d: 山頂にある花崗岩の接写

(4) 小野湖周辺地域

厚東川の上流域を厚東川ダムで堰き止めた人工湖であり、水没地が旧小野村(現宇部市)であり、水没村名を後世に残したいとの理由で小野湖と呼ばれるようになった。平成 9(1997)年に国土交通省により「地域に開かれたダム」に指定された。また、平成 17(2005)年には(財)ダム水源池環境整備センターによって、地域に親しまれ、地域にとってかけがえのないダム湖として「ダム湖百選」に選ばれている(写真 2-8)。周囲は十分に自然が保たれており(写真 2-9)、日本でも有数のオシドリ
の飛来地となっているほか、絶滅危惧種であるトモエガモの越冬地として、全国的に貴重な場所となっている (www.wec.or.jp/library/100selection/content/onoko.html)。周辺にはトリアス紀の美祢層群や、古第三紀の宇部層群厚東川礫岩層が分布している。宇部市民の水源であり、環境保全上重要である。



写真 2-8 ダム湖百選に選ばれた小野湖

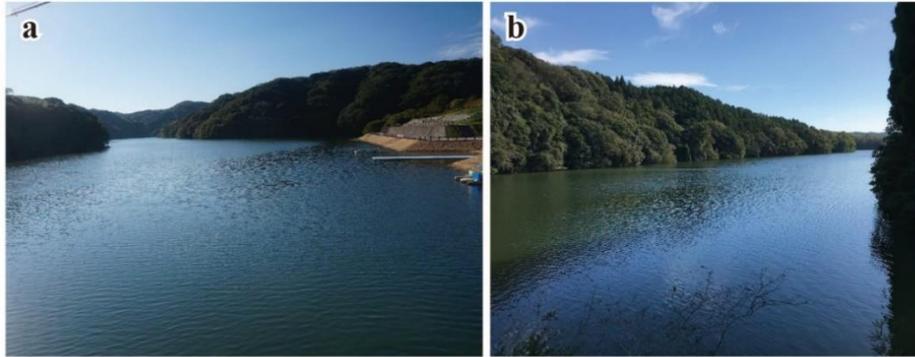


写真 2-9 小野湖 a: 下流側 b: 上流側

(5) 宇部—小野田境界地域の宇部夾炭層の露頭

宇部市はかつての石炭採掘によって発展した歴史をもっているが、現在では宅地造成によりほとんど夾炭層の露頭を見ることはできない。その中でも下記の2地点では宇部夾炭層が現在も観察でき、学術上重要である。

・宇部市迫条(際波 ; N34.007083, E 131.211194)

よく成層したかなり大規模な地層で、地層は緩やかに北北西に傾斜している(写真 2-10a)。厚さ約1mの石炭層や炭質泥岩層があり、その下位に厚さ0.3mの灰黒色の凝灰岩層がある(写真 2-10b)。そのほか地層には灰白色の細粒砂岩、暗灰色や青灰色の泥岩互層が含まれる。山口地学会(1980)「日曜の地学 12-山口の地質をめぐって」の154ページには露頭スケッチなどの詳細が記載されている(図 2-9)。

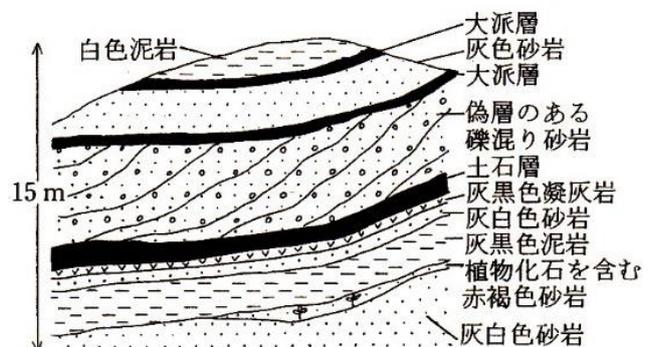


写真 2-10 迫条の宇部夾炭層露頭(a:西側,b: 東側) 図 2-9 露頭スケッチ(山口地学会、1980)

・宇部市東須恵(平尾池の西)の斎場駐車場横の露頭

よく成層した宇部夾炭層が現在も観察できる露頭で、灰色の砂岩・褐色の泥岩、黒色の夾炭層からなる。夾炭層が中央部に見られる(写真 2-11)。

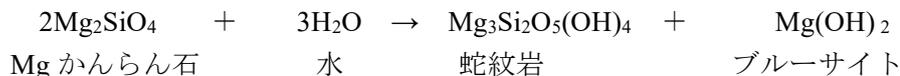


写真 2-11 宇部市東須恵で見られる宇部夾炭層

(6) 宇部市丸尾海岸の蛇紋岩メランジと周防変成岩

宇部市丸尾から床波周辺の海岸には、結晶変成岩と蛇紋岩とからなる複雑な地質体が分布する。結晶片岩は、大小のブロックとして蛇紋岩中に取り込まれ、変形が著しく、全体として蛇紋岩メランジを構成する。結晶片岩類は、220 Ma 前後の変成年代を示す周防変成岩である。

蛇紋岩とは、主に蛇紋石から構成される岩石で、かんらん岩が比較的低温での変成作用(あるいは熱水変質)を受けて形成される。かんらん岩は、主として Mg に富んだかんらん石と輝石類から構成される。Mg かんらん石は、基本的に高温・無水の条件で安定な鉱物であり、低温で熱水が作用すると以下のような反応によって蛇紋石が形成される。



元のかんらん岩には、Ca を含む単斜輝石が含まれることがあるが、Ca は蛇紋石中には入れないので、余分の Ca が流体とともに移動集積し、Ca に富む鉱物の集合体(ゾイサイトや Ca ザクロ石など、スカルンに似る)を形成することがある。これが「ロジン岩」である。またしばしば、Ca や Mg を主成分とする炭酸塩鉱物(方解石・ドロマイト・マグネサイト)が、蛇紋岩の割れ目に網状～脈状に形成される(渋谷・原田, 1980)。さらに、かんらん岩に含まれる Fe や Cr は、磁鉄鉱やクローム鉄鉱となる。このほか、丸尾から床波にかけての海岸には数多くの鉱物の産出が知られている。この海岸は、学術上、また学習の場として重要である。

(7) 霜降山地域

霜降山(250.2 m)は5つの峰からなる小高い山である。市街地からも近く、多彩なトレッキング・コースも設定されており、宇部市民の森として、憩いの場として親しまれている(写真 2-12a)。毎年4月には生活環境保全林に指定されている。NPO 法人「霜降会」は将来にわたって住民が自然環境と触れ合える「市民の森」として維持するため、霜降山系のハイキング・コースも整備を行っている。宇部市営バス停「上中山」北側の広い道を登って約 10 分にある白岩公園は東の常盤公園に対して西の白岩公園と称され、昭和7年にオープンした。霜降会によって霜降山へのルートも良く整備されている。途中には大きな粗粒花崗岩の転石が見られる。公園には高さ 4 m の粗粒花崗岩の巨石があり、「大自然」と刻まれている(写真 2-12b)。五重の塔もあり、「宇部のアンコールワット」と呼ばれている。

山頂は高木に覆われて展望はないが、前城からの展望はすばらしく、宇部の町が一望できる。美しい自然が保たれており、とく山系の西側はほとんど開発されていないので貴重である。霜降山の近くには高い山がないことや厚東川をおさえる位置にあるなど、戦術的には重要な山で、瀬戸内の海

上交通をも支配する絶好の地であった。そのため、県史跡霜降城は中世防長の三大山城の一つに数えられる(中島, 1997)。

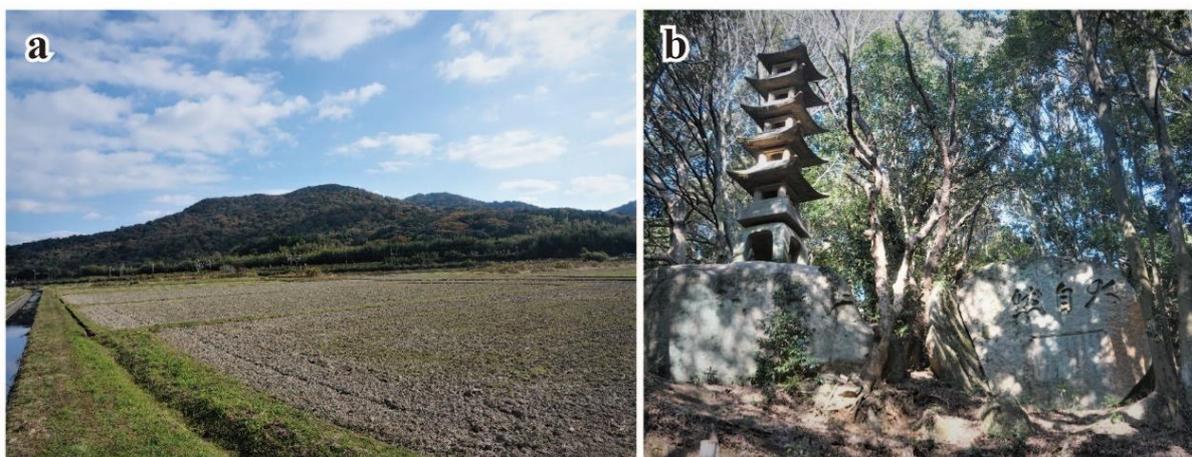


写真 2-12 a: バス停「棚井中」付近から霜降山を望む b: 白岩公園の五重の塔と花崗岩の巨石

文 献

- 長谷 晃, 1958, 西中国・北九州の後期中生界の層序と構造. 広島大学地学研究報告, 6: 1-50.
- 長谷 晃, 1984, 三疊系, 白亜系. 日本地方地質誌, 中国地方新版. pp122-149, 朝倉書店, 東京.
- 今岡照喜, 1991, 古第三紀田万川コールドロンの巡検ガイド. 山口の自然, 51: 42-47.
- 今岡照喜, 2012, 白亜紀-古第三紀の火山-深成活動. 山口県地質図第 3 版(15 万分の 1)説明書. pp59-88, 山口地学会, 山口.
- 今岡照喜・小室裕明・山脇恵理香・金折裕司・大川侑里・金田孝典・山本明彦, 2012, 山口県後期白亜紀防府バソリスの三次元形態: 地質・岩石と重力異常からの推定. 地質学雑誌, 118: 782-800.
- 今岡照喜・松本崇雅・松里英男・松尾征二・飯泉滋・岩野英樹, 2003, 古第三紀宇部層群中の凝灰岩のフィッシュン・トラック年代と Sr 同位体比. 地質学雑誌, 109: 106-115.
- 今岡照喜・村上允英, 1986, 匹見層群および関連貫入岩類. 西中国および周辺地域の酸性から中性火成活動. 山口大教養部紀要, 村上允英教授記念号: 84-99.
- Imaoka, T., Nakajima, K. and Itaya, T., 1993, K-Ar ages of hornblendes in andesite and dacite from the Cretaceous Kanmon Group, Southwest Japan. Jour. Mineral. Petrol. Econ. Geol., 88: 265-271.
- Imaoka, T. and Nakashima, K., 1983, Temporal and spatial variations of magnetic susceptibility of Cretaceous to Neogene igneous rocks from the central and western Chugoku Province, Japan. Jour. Sci. Hiroshima Univ., Ser. C, 8: 1-30.
- 今岡照喜・西村祐二郎・吉原和彦・田中盛正・加々美寛雄, 1999, 古第三紀宇部層群中の白岸凝灰岩の岩石記載とその噴出源. 地質学論集, 53: 393-401.
- 石田志朗・松下弘樹・精松保貴・松尾征二, 1994, 山口県宇部東部の古第三系層序と漸新世下片倉化石植物群. 日本地質学会西日本支部会報, 105: 19-20.
- 金折裕司, 2012, 地形. 山口県地質図第 3 版(15 万分の 1)説明書. pp59-88, 山口地学会, 山口.
- 河野通弘・小野忠瀬, 1967, 中国地方西部の第四系. 地学団体研究会専報, 15: 377-391.
- 河野通弘・田附治夫・松尾征二, 1987, 古第三系, (1)宇部地域, 日本の地質 7「中国地方」(猪木幸男・村上允英・大久保雅弘編). pp106-107, 共立出版, 東京.
- 河野迪也, 1956, 5 万分の 1 地質図「宇部東部」及び同説明書. 地質調査所. 25p, 地質調査所, つくば.
- 木村勝弘・辻喜弘, 1990, 堆積盆の生成発展の研究. 石油開発技術センター年報(平成元年度) 12-15.
- 木村勝弘・辻喜弘, 1992, 堆積盆の生成発展の研究. 石油開発技術センター年報(平成 4 年度) 90-98.
- 岸司・今岡照喜・東風平宏・西村祐二郎・板谷徹丸, 2007, 山口県における白亜紀吉部コールドロンおよび関連岩類の K-Ar 年代: 西中国地域における白亜紀火山-深成活動の時空変遷. 地質学雑

- 誌, 113: 479–491.
- 清原清人, 1956, 5 万分の 1 地質図「宇部」及び同説明書. 地質調査所, つくば.
- 小松原琢・水野清秀・金折裕司・小笠原洋・新見健・木下博久, 2005, 山口県大原湖断層帯西部, 宇部東部断層のトレンチ調査. 活断層・古地震研究報告, 5: 139–145.
- 松本達郎, 1951, 蝦夷層群と関門層群. 地質学雑誌, 57: 95–98.
- 松本隆一・瀬戸弘之, 1961, 宇部炭田の地質学的展望. 鉱山地質, 11: 257–263.
- Murakami, N. and Matsusato, H., 1970, Intrusive volcanic breccias in the late Mesozoic Zenjoji-yama Formation in western Chugoku and the impossible relevance to the formation of cauldron structure. J. Japan. Assoc. Min. Petr. Econ. Geol., 64: 75–94.
- 中島篤巳, 1997, 山口県百名山. 葦書房, 福岡.
- 西村祐二郎, 2012, 山口県の主要地質系統表の改定(2012-12-25). 山口地学会ホームページ (https://yamaguchichigaku.sakura.ne.jp/geol_era_table/index.html). 令和 3 年 10 月 31 日閲覧
- 西村祐二郎・今岡照喜, 1995. 山口県の放射年代–1994 年総括. 山口地学会誌, 34: 1–13.
- 西村祐二郎・今岡照喜・金折裕司・亀谷敦, 2012, 山口県地質図第 3 版(15 万分の 1)説明書. 167p, 山口地学会, 山口.
- 西村祐二郎・今岡照喜・宇多村護・亀谷敦, 1995, 新編山口県地質図(1:150,000)山口地学会, 山口.
- 小原浄之介, 1968, 宇部沖試錐岩芯の重鉱物-宇部炭田の重鉱物(その 1)-. 九大教養部地学研究報告, 15: 45–56.
- 瀬戸弘之, 1972, 宇部炭田(とくに海域)における新知見について. 岩井淳一教授記念論文集, 295–308.
- 島 徹史, 2004, 地形・地質. 宇部市自然環境調査報告書. 5–22.
- 島 徹史, 2009, 地形・地質. 宇部市自然環境調査報告書(楠地域). 3–14.
- 清水秀登, 1982, 防長 48 滝.
- 渋谷五郎・原田進造, 1980, 山口県宇部市域の蛇紋岩に伴う炭酸塩鉱物について. 鉱物学雑誌, 14: 293–313.
- 鈴木倉次, 1950, 東部宇部炭田の地形・地質, 山口大工学部報告, 1: 46–51.
- 鈴木倉次・三原常治, 1949, 宇部炭田地質説明書. 西部石炭協会, 29p.
- 高橋英太郎, 1975, 宇部層群. 山口県の地質. pp154–163, 山口県立山口博物館, 山口.
- 高橋英太郎・河野通弘, 1975, 第四系. 山口県の地質. pp205–221, 山口県立山口博物館, 山口.
- 高橋英太郎・松尾裕・日比野至・久保田恵林・倉田芳明, 1961, 宇部炭田東部の地質. 山口大学理科報告, 12: 67–74.
- 高橋英太郎・三上貴彦, 1975, 三畳系, ジュラ系. 山口県の地質. pp93–108, 109–122, 山口県立山口博物館, 山口.
- 高橋英太郎・宮本祥史・蔵田博, 1974, 宇部炭田中央部および西部の宇部層群. 山口地学会, 7: 6–11.
- 高橋英太郎・渡辺富士男・田中恒夫, 1963, 宇部炭田西部の地質. 山口大学理科報告, 14: 71–76.
- 高橋英太郎・横山健治, 1960, 宇部炭田中央部の地質. 山口大理科報告, 11: 165–169.
- 田村実, 1954, 宇部炭田の炭層対比について. 中国炭鉱技術会誌, 7: 1538–1544.
- 武田賢治・今岡照喜, 1999, 山口地域の白亜紀環状岩脈とコールドロン. 地質学論集, 53: 199–219.
- 徳永重康・飯塚実, 1930, 宇部炭田の地質学的研究. 早稲田大学理工学部紀要, 6: 1–151.
- 山口県, 1972a, 土地分類基本調査「宇部東部」5 万分の 1.
- 山口県, 1972b, 土地分類基本調査「小郡」5 万分の 1.
- 山口県, 1973a, 土地分類基本調査「宇部」5 万分の 1.
- 山口県, 1973b, 土地分類基本調査「厚狭」5 万分の 1.
- 山口地学会, 1979, 山口県地学のガイド. コロナ社, 東京.
- 山口地学会, 1980, 日曜の地学[12] 山口の地質をめぐって. 築地書館, 東京.
- 山口地学会, 1991, 山口県の岩石図鑑. 第一学習社, 広島.

第3章 植物相・植生

1. 調査概況

(1) 調査対象地域

宇部市全域

(2) 調査期間

令和2年(2020年)4月～令和4年(2022年)12月

(3) 調査方法

植物相調査のため、現地踏査及び末広(2004)・末広(2009)を対象とした文献調査を行った。現地踏査は、自然度が高いと思われる小野湖周辺、霜降山周辺、厚南・原地区、ときわ公園周辺、東部海岸周辺の5地域を中心に実施した。植生は「自然環境調査 Web-GIS 植生調査(1/2.5万)第6-7回(1999～2012/2013～)」を参考とし、植物相調査にあわせ現地確認を行った。

2. 植物相・植生の概況

(1) 宇部市内の概況

宇部市南部は周防灘に面しており、河口部や海岸部には工業地帯や住宅などが建ち並び、植生が人為的に改変されている場所が多い。一方、北部には自然度の高い山地や丘陵地帯を擁する地域もある。

これまで、末広(2004)の旧宇部市域での調査では1313種、末広(2009)の旧楠町域での調査では84種が確認され、現在の宇部市域で1397種が記録されている。今回の植物相調査の結果、544種の維管束植物を確認したが、そのうち38種はこれまで記録されていないものであった。したがって旧楠町域を含む宇部市全体で記録された種は全部で1435種となった(表3-1)。

(2) 地域ごとの状況

(ア) 楠地域

自然植生はヤブツバキクラス域であり、コジイ等の常緑広葉樹が優占するが、荒滝山など標高の高い一部地域では、イヌシデ等の「暖温帯中間域自然植生」が存在する。また、吉部の大岩郷など岩角地特有の植生がみられる。

(イ) 小野湖周辺

小野湖周辺の丘陵ではコジイやタブノキ等の常緑広葉樹が優占する。小野湖周辺の湿地ではヤナギ類が生育し、タコノアシ[山口県絶滅危惧Ⅱ類]、アギナシ[環境省準絶滅危惧]等の湿地性・草原性の植物がみられた。アギナシは水田雑草でもあるが現在は水田でほとんど見ることができない。一方で、小野湖周辺ではオオフサモやナガエツルノゲイトウといった外来種もみられる。これらの種は観賞用水草として導入されたものだが、現在では侵略的外来生物として注目されている種である。また、耕作放棄地の増加により水田周辺の湿地性・草原性の植物の減少が心配される。放置された竹林も多く、竹害も課題となっている。今回初記録のヒメドコロ[山口県絶滅危惧ⅠB類]は、このような里山環境にみられたものである。

(ウ) 霜降山周辺、厚東・二俣瀬地区

霜降山地域では植生遷移の進行等により、かつて優勢であった「コバノミツバツツジーアカマツ群集」が見られる場所は限定的になりつつあり、タブノキ等の照葉樹林が広がっている。トキワガキ[山口県絶滅危惧Ⅱ類]は今回初記録であり、照葉樹林中に稀に見られる。点在する草地やため池・湿地では、イヌタヌキモ、ヒメタヌキモ[山口県準絶滅危惧]、ミミカキグサ、イヌセンブリ[山口県絶滅危惧Ⅱ類]等の湿地性の植物をみることができた。今回初記録のノタヌキ

モは環境省の絶滅危惧Ⅱ類であり、他のタヌキモ類とは異なり、休眠芽をつくらず種子で越冬する。また、霜降山では植生遷移が進み、以前に比べれば草原性の植物は減少したが、他地域と比べればまだ十分に残存している。全国にも草原が減少する中、草原性の植物の大変貴重な生育場所となっている。

(エ) 厚南・原地区

厚東川河口ではハマツナやハマサジ〔山口県絶滅危惧Ⅱ類〕、ハマボウ〔山口県絶滅危惧Ⅱ類〕等の塩湿地性植物が生育する。須恵丘陵地帯は宅地開発等が進み、利用されていないと思われるため池が多い。そのような場所では池周囲の湿地は樹林に覆われて荒廃し、調査で近づくことすら困難な場所もあった。

(オ) 宇部西部地域（厚東川以東、真締川以西）

鍋倉山～桃山台・小串台～宇部東部域の常盤台には、「エノキームクノキ群集」が見られる。暖温帯性の落葉広葉樹林は、山口県内において貴重なものである。また段丘崖に残存し、巨樹も多いが、近年は宅地開発等で減少している。

(カ) ときわ公園周辺

常盤池北側～西岐波・東岐波に至る内陸部の丘陵地にはスタジイやタブノキの常緑広葉樹が広がる。また、花崗岩質土壌にはネズミサシ等の貧栄養地を好む植生も見られる。点在する草地やため池・湿地では、草原性のスズサイコ〔山口県準絶滅危惧〕や湿地性のオギノツメ〔山口県絶滅危惧Ⅱ類〕、イヌウメモドキ等を確認できた。しかし、近年は開発が進み、そのような場所ではタカサゴユリやメリケンカルカヤ等の全市域に分布する外来種が多くみられた。

(キ) 東部海岸周辺（亀浦から月崎などの沿岸部）

海岸付近には僅かではあるが、ウバメガシ等の海岸林が残されている。植松川、丸尾三神社等ではハマボウ〔山口県絶滅危惧Ⅱ類〕、シバナ〔山口県絶滅危惧Ⅱ類〕、ハマサジ〔山口県準絶滅危惧〕等の塩湿地性植物の生育を確認できた。永ヶ久保海岸や日の山付近は、海岸植物群落が比較的良好な状態で残されており、ヒメヤブラン〔山口県準絶滅危惧〕は、海岸の草地性群落の中にみられた。海岸の風や波によって定期的に攪乱される環境は、ヒメヤブランのような草丈の低い植物の生育場所として大変重要である。また、亀浦から月崎海岸にかけての干潟では、海草のコアマモやアマモが生育している。岩などの付着物が少なく、海藻が生育しづらい干潟において、これらの植物は砂泥中に根茎をのばしてアマモ場のような独特の環境をつくり、多くの生物の住処となっている。一方、海水浴場や炭鉱跡地等には、ヤノネボンテンカ、オオフトバムグラ、オオブタクサ、アメリカネナシカズラ、シチヘンゲのような外来種が多くみられた。シチヘンゲは元来、園芸植物「ランタナ」として植栽されていたものだが、世界の熱帯・亜熱帯ではいたるところで野生化し、問題となっている要注意外来生物である。宇部市でも温暖地な海岸に逸出しているため、これ以上拡大しないように注意が必要である。

3. まとめ

前回の調査までに確認された 1397 種のうち、今回の調査で再確認されたものは 506 種（約 36%）、環境省または山口県のレッドリスト掲載種 123 種のうち、今回初確認が 7 種、前回からの再確認が 116 種中 12 種（約 10%）であった。再確認されたもののうち、レッドリスト掲載種の割合が低い原因としては、生育環境の悪化のほかに、実施期間が短く、前回調査と同程度の調査努力量がかけられなかったことや調査地域・時期の偏り等があったことなどが挙げられる。特に楠地域の調査が不十分であったため、植物相の網羅的な解明には、今後も継続的な調査を行う必要がある。

参考文献

- 大橋広好ほか, 2015. 改訂新版 日本の野生植物 第1巻, 平凡社, 東京.
- 大橋広好ほか, 2016. 改訂新版 日本の野生植物 第2巻, 平凡社, 東京.
- 大橋広好ほか, 2016. 改訂新版 日本の野生植物 第3巻, 平凡社, 東京.
- 大橋広好ほか, 2017. 改訂新版 日本の野生植物 第4巻, 平凡社, 東京.
- 大橋広好ほか, 2017. 改訂新版 日本の野生植物 第5巻, 平凡社, 東京.
- 大井次三郎, 1992. 新日本植物誌 顕花篇, 至文堂, 東京.
- 岡国夫ほか, 1972. 山口県植物誌, 山口県植物誌刊行会
- 小川みふゆ・松崎紗代子・石濱史子, 2020. 環境省 1/25,000 植生図凡例に対応した日本全国標準土地利用メッシュデータの凡例の作成. 保全生態学研究, (25): 117-122.
- 長田武正, 1993. 増補 日本イネ科植物図譜, 平凡社, 東京.
- 環境省, 自然環境調査 Web-GIS 植生調査(1/2.5万)第6-7回(1999~2012/2013~), 環境省自然環境局生物多様性センター (<http://gis.biodic.go.jp/webgis/index.html>). 令和4年12月27日閲覧
- 末広雄次, 2004. 宇部市自然環境調査報告書, 宇部市
- 末広雄次, 2009. 宇部市自然環境調査報告書, 宇部市
- 山口県, 2018. 山口県レッドリスト 2018, 山口県環境生活部自然保護課 (<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/41/20708.html>). 令和4年12月27日閲覧
- 米倉浩司・梶田忠, 2003-. BG Plants 和名-学名インデックス」(YList), (<http://ylist.info>). 令和4年12月27日閲覧

海岸の塩性湿地の植物



図 3-1 海岸の塩性植物群落



図 3-2 満潮時の塩性植物群落



図 3-3 アマモ



図 3-4 シバナ



図 3-5 ハママツナ



図 3-6 シオクグ



図 3-7 ハマボウ



図 3-8 ハマボウ

海岸性植物



図 3-9 ハマボウフウ



図 3-10 ボタンボウフウ



図 3-11 ハマゴウ



図 3-12 アメリカネナシカズラ



図 3-13 イワタイゲキ



図 3-14 ヒメヤブラン



図 3-15 ウバメガシ



図 3-16 オニヤブソテツ

湿地性・草地性植物



図 3-17 山間部の湿原



図 3-18 オギノツメ



図 3-19 イヌウメモドキ



図 3-20 ヒメタヌキモ



図 3-21 ツシマママコナ



図 3-22 キガンピ



図 3-23 スズサイコ



図 3-24 ネズミサシ

南部・沿海地の植物



図 3-25 耕作放棄地と放置地竹林



図 3-26 エノキ・ムクノキ林



図 3-27 クスドイゲ(雄花)



図 3-28 エノキ・ムクノキ林



図 3-29 ヤブツバキ



図 3-30 アマナ



図 3-31 トウダイグサ



図 3-32 コナギ

北部・内陸の植物



図 3-33 ナガエツルノゲイトウ



図 3-34 小野湖の湖畔の湿地



図 3-35 ナガエツルノゲイトウ



図 3-36 タコノアシ



図 3-37 吉部の大岩郷



図 3-38 アカガシ



図 3-39 シマサルナシ



図 3-40 アラカシ

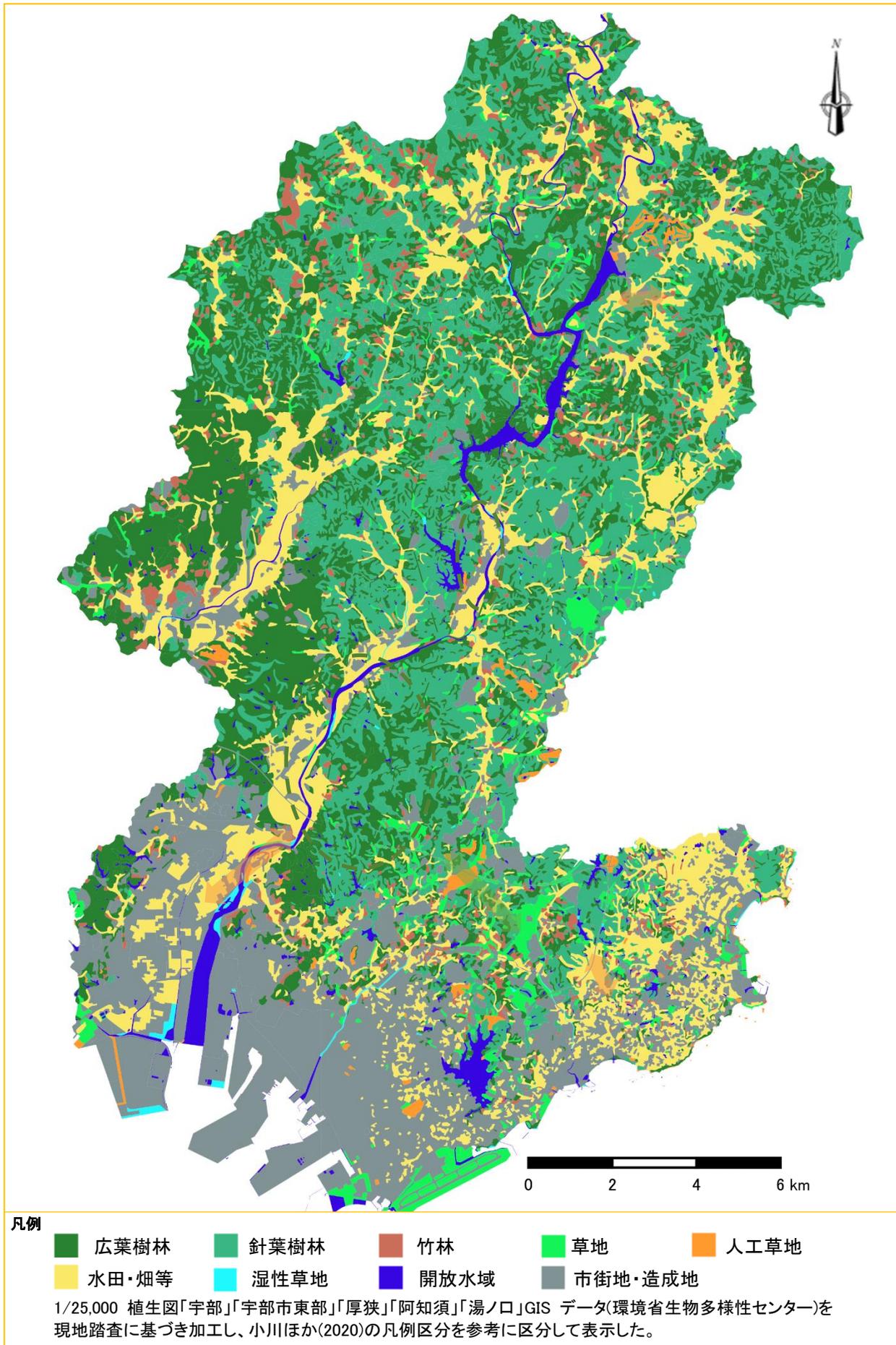


図 3-41 植生の分布状況

表3-1 宇部市の植物

本表は、今回の調査及び過去の調査記録（末広(2004)、末広(2009)）を合わせたものである。

① ○：今回の調査で確認した植物(●は今回初確認)

② 外：外来種 栽：栽培種(Yリストによる)

③ 山口県レッドデータブック掲載種 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

④ 環境省レッドデータブック掲載種 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④
1	ヒカゲノカ	トウゲシバ					53	ヒメシダ科	コハシゴシダ				
2	ズラ科	ミズスギ	○				54		ゲジゲジシダ				
3		ヒカゲノカズラ	○				55		イブキシダ				
4	イワヒバ科	ヒメクラマゴケ	○				56		ハシゴシダ				
5		カタヒバ					57		ハリガネワラビ				
6		タチクラマゴケ				VU	58		ヤワラシダ				
7		クラマゴケ					59		ヒメシダ				
8		イワヒバ					60		ミゾシダ	○			
9		コンテリクラマゴケ				外	61		ヒメワラビ	○			
10	ハナヤスリ科	オオハナワラビ					62	メシダ科	イヌワラビ				
11		フユノハナワラビ	○				63		ウラボシノコギリシダ				
12		コヒロハハナヤスリ	○				64		カラクサイヌワラビ				
13	ハマハナヤスリ				EN	65	シケチシダ		○				
14	トクサ科	スギナ	○				66		ホソバイヌワラビ				
15		イヌドクサ					67		タニイヌワラビ				
16	ゼンマイ科	ゼンマイ	○				68		ヤマイヌワラビ				
17	コケシノブ科	ウチワゴケ					69		ヒロハイヌワラビ				
18	ウラジロ科	コシダ	○				70		セイタカシケシダ				
19		ウラジロ	○				71		シケシダ				
20	キジノオシダ科	オオキジノオ					72	ヘラシダ					
21		キジノオシダ					73	オオヒメワラビ					
22		フタツキジノオ					74	ナチシケシダ					
23	ホングウシダ科	ホラシノブ	○				75	ヒカゲワラビ					
24	コバノイシカグマ科	イヌシダ					76	シロヤマシダ					
25		コバノイシカグマ					77	ミヤマノコギリシダ					
26		イワヒメワラビ					78	キヨタキシダ					
27		フモトシダ	○				79	ノコギリシダ					
28		ケブカフモトシダ					80	シシガシラ科	シシガシラ				
29		イシカグマ	○				81		オオカグマ				
30		クジャクフモトシダ					82		コモチシダ				
31		ワラビ	○				83	オシダ科	オニカナワラビ				
32		イノモトソウ科	イワガネゼンマイ					84		ホソバカナワラビ			
33	イワガネソウ						85		オオカナワラビ				
34	シシラン						86		ハカタシダ				
35	タチシノブ		○				87		コバノカナワラビ				
36	オオバノイノモトソウ		○				88		リョウメンシダ				
37	アマクサシダ						89		オニヤブソテツ	○			
38	イノモトソウ		○				90		ヤマヤブソテツ				
39	セフリイノモトソウ						91		ヤブソテツ	○			
40	オオバノアマクサシダ						92		ヒロハヤブソテツ				
41	オオバノハチジョウシダ						93		ヤマイタチシダ				
42	チャセンシダ科	コバノヒノキシダ	●				94		サイゴクベニシダ				
43		トラノオシダ	○				95		ミサキカグマ				
44		コウザキシダ				VU	96		ツクシイワヘゴ				
45		コタニワタリ					97		イワヘゴ				
46		イワトラノオ				VU	98		イヌナチクジャク			VU	
47		チャセンシダ					99		オオクジャクシダ				
48		イヌチャセンシダ					100		ベニシダ	○			
49		アオガネシダ				VU	101		マルバベニシダ				
50		クルマシダ					102		エンシュウベニシダ			VU	
51		ハウビシダ				NT	103		ニセヨゴレイタチシダ			VU	NT
52	ヒメシダ科	ホシダ	○				104		オオベニシダ				

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④	
105	オシダ科	オオイタチシダ					163	クスノキ科	クロモジ	○				
106		クマワラビ	○				164		カゴノキ	○				
107		キヨスミヒメワラビ					165		アオガシ					
108		トウゴクシダ					166		タブノキ	○				
109		ヒメイタチシダ					167		イヌガシ					
110		ナガサキシダ					168		シロダモ	○				
111		ナガバノイタチシダ					169		ショウブ科	セキショウ				
112		オクマワラビ	○				170		サトイモ科	ムサシアブミ	○			
113		ナンカイイタチシダ					171			ナンゴクウラシマソウ				
114		アイノコクマワラビ					172		ウラシマソウ			CR		
115		カタイノデ					173		アオウキクサ	○				
116		イノデ	○				174		カラスビシャク	○				
117		サイゴクイノデ					175		オオハンゲ					
118		イノデモドキ					176		ウキクサ					
119		ツヤナシイノデモドキ					177	オモダカ科	ヘラオモダカ					
120		ウラボシ科	マメヅタ	○				178		アギナシ	○			NT
121			ヤノネシダ					179		ウリカワ				
122			ノキシノブ	○				180		クワイ			裁	
123			クリハラン					181	トチカガミ科	マルミスブタ			VU	VU
124	ヒトツバ						182			スブタ			VU	VU
125	ミツデウラボシ		○				183			オオカナダモ		外		
126	マツ科	モミ					184			クロモ				
127		アカマツ	○				185			ホッスモ				
128		テーダマツ	○	外			186			トリゲモ			DD	VU
129		クロマツ	○				187			ミズオオバコ				VU
130		アイグロマツ					188			セキショウモ				
131	マキ科	ナギ	●				189	シバナ科		シバナ	○		VU	NT
132		イヌマキ	○				190	アマモ科	コアマモ	○				
133	ヒノキ科	ヒノキ					191		アマモ	○				
134		スギ					192	ヒルムシロ科	イトモ			NT	NT	
135		ビャクシン					193			エビモ				
136		ネズミサシ	○				194			コバノヒルムシロ			VU	VU
137	イチイ科	イヌガヤ					195			ヒルムシロ				
138	ジュンサイ科	ジュンサイ					196			フトヒルムシロ				
139		フサジュンサイ			外		197		ヤナギモ					
140	スイレン科	コウホネ					198	カワツルモ科	カワツルモ			CR	NT	
141		ヒツジグサ					199	キンコウカ科	ソクシンラン					
142	マツブサ科	シキミ	○				200		ノギラン	○				
143		サネカズラ	○				201	ヤマノイモ科	ヤマノイモ	○				
144		マツブサ					202			カエデドコロ	○			
145	マツモ科	マツモ	○			203			ヒメドコロ	●		EN		
146	センリョウ科	ヒトリシズカ					204			オニドコロ	○			
147		フタリシズカ					205	シュロソウ科	シライトソウ					
148		センリョウ					206			ショウジョウバカマ				
149	ドクダミ科	ドクダミ	○				207	イヌサフラン科	ホウチャクソウ					
150		ハンゲショウ					208	サルトリイバラ科	サルトリイバラ	○				
151	コショウ科	フウトウカズラ					209			シオデ				
152	ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ	○				210	ユリ科	アマナ	○				
153		サンヨウアオイ					211			ウバユリ				
154	モクレン科	オガタマノキ					212			タカサゴユリ	○	外		
155		コブシ	●				213			オニユリ				
156		ホオノキ					214			コオニユリ	○			
157		タムシバ					215			ヤマジノホトトギス				
158	クスノキ科	クスノキ					216			ヤマホトトギス				
159		ヤブニッケイ	○				217	ラン科	シラン	○			NT	
160		カナクギノキ					218			ムギラン			VU	NT
161		ヤマコウバシ					219			キエビネ			NT	EN
162		アブラチャン					220			エビネ			VU	NT

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④						
221	ラン科	ギンラン			VU		279	シヨウガ科	ミヨウガ	○	外								
222		キンラン			NT	VU	280		シヨウガ			裁							
223		サイハイラン					281	ガマ科	ヒメガマ										
224		シュンラン	○				282		ガマ	○									
225		ツチアケビ					283		コガマ	○									
226		コ克蘭					284	ミクリ科	ヤマトミクリ			EN	NT						
227		カキラン			NT		285		ナガエミクリ			VU	NT						
228		ミヤマウズラ			NT		286		ミクリ					NT					
229		サギソウ			VU	NT	287		ホシクサ科	ヒロハノイヌノヒゲ									
230		ミズトンボ			VU	VU	288	オオホシクサ											
231		ヒナラン			VU	EN	289	イトイヌノヒゲ											
232		ムカゴソウ			CR	EN	290	ツクシクロイヌノヒゲ						VU					
233		クモキリソウ			NT		291	イヌノヒゲ											
234		オオバノトンボソウ					292	シロイヌノヒゲ											
235		コバノトンボソウ			VU		293	クロホシクサ					EN	VU					
236		トキソウ			VU	NT	294	ニッポンイヌノヒゲ											
237		ヤマトキソウ			CR		295	イグサ科		ハナビゼキシヨウ	○								
238		ネジバナ					296			イグサ	○								
239		キンバイザサ科	キンバイザサ			CR	297		タチコウガイゼキシヨウ										
240		アヤメ科	ヒメヒオウギズイセン	○	外		298		アオコウガイゼキシヨウ										
241	ノハナシヨウブ					299	コウガイゼキシヨウ												
242	シャガ		○	外		300	ホソイ		○		VU								
243	キシヨウブ		○	外		301	クサイ		○	外									
244	アヤメ						302		ハリコウガイゼキシヨウ										
245	セッカニワゼキシヨウ		●	外		303	スズメノヤリ												
246	オオニワゼキシヨウ			外		304	ヤマスズメノヒエ												
247	ニワゼキシヨウ	○	外		305	ヌカボシソウ													
248	ワスレグサ科	ヤブカンゾウ				306	カヤツリグサ科	コウキヤガラ											
249	ヒガンバナ科	ノビル	○			307		ハタガヤ											
250		ヤマラッキョウ	○			308		イトテンツキ				EN	NT						
251		ニラ	○	外		309		イトハナビテンツキ											
252		ハマオモト			VU	310		シラスゲ											
253		ヒガンバナ	○			311		マツバスケ											
254		キツネノカミソリ				312		コゴメスケ											
255		シロバナマンジュシャゲ	●			313		ヒメカンスゲ											
256	クサスギカズラ科	クサスギカズラ				314		ナルコスゲ											
257		ハラン	○			315		ダイセンスゲ				VU							
258		ツルボ	○			316	オニスゲ												
259		オオバギボウシ				317	アゼナルコ												
260		コバギボウシ				318	カサスケ												
261		オモトギボウシ			裁	319	ハマアオスゲ	○											
262		ヒメヤブラン	●		NT	320	オクノカンスゲ												
263		ヤブラン	○			321	タニガワスゲ												
264		コヤブラン				322	マスクサ												
265		ノシラン	○			323	ジュズスゲ												
266		ジャノヒゲ	○			324	ヒゴクサ												
267	ナガバジャノヒゲ	○			325	テキリスゲ					CR								
268	ナルコユリ				326	コウボウムギ	○												
269	アマドコロ				327	ヒカゲスゲ													
270	キチジョウソウ				328	ナキリスゲ	○												
271	オモト				329	アオスゲ													
272	ヤシ科	シュロ		外		330	サツマスゲ												
273	ツユクサ科	ツユクサ	○			331	タチスゲ												
274		イボクサ	○			332	ゴウソ												
275		ヤブミヨウガ				333	フサスゲ					VU							
276		ムラサキツユクサ			裁	334	ノゲヌカスゲ												
277	ミズアオイ科	ホテイアオイ		外		335	ヒメシラスゲ												
278		コナギ	○			336	ミヤマカンスゲ												

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④			
337	カヤツリグ	アキカサスゲ					395	カヤツリグ	コイヌノハナヒゲ							
338	サ科	シバスゲ					396	サ科	イヌノハナヒゲ							
339		ヤチカワズスゲ					397		イガクサ							
340		オタルスゲ					398	ホタルイ								
341		コジュズスゲ					399	イヌホタルイ								
342		キンキカサスゲ					400	カンガレイ								
343		アオゴウン					401	タイワンヤマ			CR					
344		コウボウシバ	○				402	フトイ								
345		クサスゲ					403	サンカクイ								
346		シオクグ	○				404	ノグサ								
347		アゼスゲ					405	コマツカサススキ	○							
348		イソアオスゲ					406	マツカサススキ			CR					
349		ヤワラスゲ					407	アブラガヤ								
350		モエギスゲ					408	シンジュガヤ								
351		ヒメモエギスゲ					409	コシンジュガヤ								
352		オニナルコスゲ					410	ケシンジュガヤ			CR					
353		ヒゲスゲ					411	イネ科	ハネガヤ			CR				
354		ヒトモトススキ	○				412		ヒメヌカボ							
355		シュロガヤツリ	○	外			413		ヤマヌカボ							
356		アイダクグ					414		ヌカボ							
357		クグガヤツリ					415		コヌカグサ		外					
358		イヌクグ					416		ヌカススキ		外					
359		タマガヤツリ					417		ハナヌカススキ		外					
360		アゼガヤツリ					418		スズメノテッポウ							
361		コアゼガヤツリ	○				419		セトガヤ							
362		コゴメガヤツリ	○				420		メリケンカルカヤ	○	外					
363		ヒンジガヤツリ					421		コブナグサ	○						
364		カヤツリグサ	○				422		トダシバ	○						
365		アオガヤツリ			NT		423	ダンチク								
366		ウシクグ					424	カラスムギ		外						
367		オニガヤツリ					425	ハウライチク		外						
368		イガガヤツリ					426	カズノコグサ								
369		ハマスゲ	○				427	ヤマカモジグサ								
370		カワラスガナ					428	コバンソウ		外						
371		ミズガヤツリ	○				429	ヒメコバンソウ		外						
372		ヒメガヤツリ					430	イヌムギ		外						
373		マツバイ					431	スズメノチャヒキ								
374		ハリイ	○				432	マドリードチャヒキ		外						
375		ヤリハリイ			VU		433	キツネガヤ								
376		クロハリイ					434	カラスノチャヒキ		外						
377		クログワイ					435	ヒメアブラススキ								
378		ヌマハリイ					436	チョウセンガリヤス								
379		シカクイ					437	ヒナザサ				NT				
380		イヌシカクイ					438	ジュズダマ	○	外						
381		ヒメテンツキ					439	オガルカヤ	○							
382		テンツキ					440	ギョウギシバ	○							
383		クロテンツキ					441	カモガヤ		外						
384		ヒデリコ	○				442	ノガリヤス	○							
385		ヤリテンツキ	●		CR	NT	443	ヤマアワ								
386		イソヤマテンツキ	○				444	オニノガリヤス								
387		アゼテンツキ			VU		445	メヒシバ	○							
388		ヤマイ	○				446	コメヒシバ								
389		メアゼテンツキ					447	アキメヒシバ	○							
390		クロタマガヤツリ			CR		448	カリマタガヤ								
391		アンペライ					449	アゼガヤ								
392		ミカツキグサ			NT		450	ケイヌビエ	○							
393		トラノハナヒゲ					451	イヌビエ	○							
394		イトイヌノハナヒゲ					452	ヒメイヌビエ								

No.	科名	種名	①	②	③	④
453	イネ科	タイヌビエ				
454		オヒシバ	○			
455		タチカモジグサ				
456		アオカモジグサ	○			
457		カモジグサ				
458		イトスズメガヤ			VU	
459		シナダレスズメガヤ	○	外		
460		カゼクサ	○			
461		コスズメガヤ		外		
462		ニワホコリ	○			
463		ナルコビエ				
464		ウシノケグサ				
465		アオウシノケグサ			CR	
466		トボシガラ				
467		オオウシノケグサ				
468		ムツオレグサ				
469		ドジョウツナギ				
470		コバノウシノシッペイ				
471		ウシノシッペイ	○			
472		シラゲガヤ		外		
473		チガヤ	○			
474		チゴザサ				
475		ハイチゴザサ				
476		ケカモノハシ	○			
477		カモノハシ				
478		ミノボロ				
479		アシカキ	○			
480		サヤヌカグサ				
481		ササガヤ				
482		オニウシノケグサ		外		
483		ネズミムギ		外		
484		ホソムギ		外		
485		ヒロハノウシノケグサ		外		
486		ポウムギ		外		
487		ササクサ	○			
488		アシボソ	○			
489		ヒメアシボソ	●			
490		トキワススキ	○			
491		ススキ	○			
492		ヌマガヤ			VU	
493		コチヂミザサ				
494		ケチヂミザサ	○			
495		ヌカキビ	○			
496		オオクサキビ		外		
497		ハイキビ				
498		シマスズメノヒエ	○	外		
499		キシウスズメノヒエ		外		
500		アメリカスズメノヒエ	○	外		
501		スズメノヒエ	○			
502		タチスズメノヒエ	○	外		
503	チカラシバ	○				
504	アイアシ	○				
505	タキキビ					
506	クサヨシ					
507	カナリークサヨシ	○	外			
508	オオアワガエリ		外			
509	ヨシ	○				
510	ツルヨシ					

No.	科名	種名	①	②	③	④
511	イネ科	セイタカヨシ				
512		ホテイチク		裁		
513		モウソウチク	○	外		
514		ハチク				
515		クロチク		裁		
516		マダケ	○	外		
517		ネザサ	○			
518		メダケ	○			
519		ケネザサ				
520		ミゾイチゴツナギ				
521		スズメノカタビラ				
522		ツルスズメノカタビラ		外		
523		ツクスズメノカタビラ				
524		イトイチゴツナギ				
525		オオイチゴツナギ				
526		ミスジナガハグサ		外		
527		ナガハグサ		外		
528		イチゴツナギ	○			
529		イタチガヤ				
530		ヒエガエリ				
531		ハマヒエガエリ				
532		ウキシバ			VU	
533		ヤダケ	○			
534		ヌメリグサ	○			
535		ハイヌメリグサ				
536		チマキザサ			DD	
537		クマザサ				
538		アキノエノコログサ	○			
539		キンエノコロ	○			
540		コツブキンエノコロ				
541		エノコログサ	○			
542		ムラサキエノコロ				
543		ハマエノコロ	○			
544		イヌエノコロ		外		
545		オオエノコログサ				
546		オカメザサ		外		
547		トウチク		裁		
548		セイバンモロコシ	○	外		
549		アブラススキ				
550		ムラサキネズミノオ				
551		ネズミノオ	○			
552		メガルカヤ	○			
553		カニツリグサ				
554		ナギナタガヤ		外		
555		オオナギナタガヤ		外		
556		マコモ				
557		シバ	○			
558		オニシバ				
559		ナガミノオニシバ	○			
560		ケシ科	ツクシケマン			
561	キケマン				EN	
562	ムラサキケマン					
563	フウロケマン					
564	タケニグサ					
565	ケナシチャンパギク					
566	ナガミヒナゲシ			外		
567	トゲミゲシ			外		
568	ヒナゲシ			外		

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④
569	アケビ科	アケビ	○				627	アカバナ科	ミズユキノシタ	○			
570		ミツバアケビ	○				628		ミズキンバイ(?)			CR	VU
571		ゴヨウアケビ					629		メマツヨイグサ	○	外		
572		ムベ	○				630		オオマツヨイグサ		外		
573	ツツラフジ	アオツツラフジ	○				631		オニマツヨイグサ		外		
574	科	ツツラフジ					632		コマツヨイグサ	○	外		
575		ハスノハカズラ					633		ユウゲショウ		外		
576	メギ科	ヒイラギナンテン	○	裁			634		ヒルザキツキミソウ		外		
577		ナンテン	○	外			635		マツヨイグサ	○	外		
578	キンボウゲ	シュウメイギク		外			636	マメ科	モリシマアカシア		裁		
579	科	イチリンソウ					637		クサネム	○			
580		オオバショウマ					638		ネムノキ	○			
581		ポタンヅル	○				639		イタチハギ	○	外		
582		ケハンショウヅル					640		ヤブマメ	○			
583		センニンソウ	○				641		ホドイモ				
584		ケキツネノポタン					642		ゲンゲ		外		
585		ウマノアシガタ	○				643		ジャケツイバラ	○			
586		トゲミノキツネノポタン		外			644		ハマナタマメ				
587		タガラシ					645		カワラケツメイ				
588		キツネノポタン	○				646		タヌキマメ				
589		ヒメウズ	○				647		ノアズキ	○			
590		アキカラマツ	○				648		ツルマメ	○			
591	アワブキ科	ヤマビワ					649		シバハギ			VU	
592	フウ科	モミジバフウ	●	裁			650		フジカンゾウ				
593	マンサク科	イスノキ					651		ケヤブハギ	○			
594		マンサク			NT		652		ヌスビトハギ	○			
595	ユズリハ科	ユズリハ	○				653		ヤブハギ				
596		ヒメユズリハ	○				654		コマツナギ	○			
597	ユキノシタ科	ユキノシタ					655		ヤハズソウ	○			
598	ベンケイソウ	コモチマンネングサ	○				656		ハマエンドウ	○			
599	科	メノマンネングサ			VU		657		ヤマハギ				
600		タイトゴメ	○				658		メドハギ	○			
601		オノマンネングサ		外			659		ハイメドハギ	○			
602		マルバマンネングサ					660		マルバハギ	○			
603		ヒメレンゲ					661		ツクシハギ	○			
604	タコノアシ科	タコノアシ	○		VU	NT	662		ネコハギ	○			
605	アリノトウ	アリノトウグサ	○				663		ビッチュウヤマハギ				
606	グサ科	オオフサモ	○	外			664		ミヤコグサ	○			
607		フサモ			VU		665		セイヨウミヤコグサ		外		
608	ブドウ科	ノブドウ	○				666		ハネミイヌエンジュ	○			
609		ヤブカラシ	○				667		コメツブウマゴヤシ		外		
610		ウドカズラ			EN		668		コウマゴヤシ		外		
611		ツタ	○				669		ウマゴヤシ		外		
612		エビヅル	○				670		コシナガワハギ		外		
613		サンカクヅル					671		シナガワハギ		外		
614	フウロソウ科	アメリカフウロ		外			672		クズ	○			
615		ゲンノショウコ					673		トキリマメ				
616	ミツバウツギ	ミツバウツギ					674		タンキリマメ				
617	科	ゴンズイ	○				675		ハリエンジュ	○	外		
618	キブシ科	キブシ					676		クララ				
619	ミソハギ科	ミソハギ	○				677		コメツブツメクサ		外		
620		エゾミソハギ					678		タチオランダゲンゲ		外		
621		キカシグサ					679		ムラサキツメクサ		外		
622		ミズマツバ				VU	680		シロツメクサ	○	外		
623		ヒシ					681		スズメノエンドウ				
624	アカバナ科	アカバナ	○				682		カラスノエンドウ				
625		ムツアカバナ					683		カスマグサ				
626		チョウジタデ	○				684		ナンテンハギ			VU	

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④		
685	マメ科	ヤブツルアズキ	○				743	グミ科	ナワシログミ	○					
686		ヤマフジ	○				744		アキグミ	○					
687		ナツフジ	○				745	クロウメモ ドキ科	クマヤナギ	○					
688	ヒメハギ科	ヒメハギ	○				746		イソノキ	○					
689		ヒナノカンザシ			VU		747		ケンポナシ						
690	バラ科	ヒメキンミズヒキ	○				748		ネコノチチ	○					
691		キンミズヒキ	○				749	ニレ科	ハルニレ						
692		ザイフリボク					750		アキニレ	○					
693		ウラジロノキ					751		ケヤキ						
694		ヤマザクラ	○				752	アサ科	ムクノキ	○					
695		カスミザクラ					753		エノキ	○					
696		ソメイヨシノ	●	裁			754		カナムグラ	○					
697		ピワ	○	外			755	クワ科	ヒメコウゾ	○					
698		ダイコンソウ	○				756		カジノキ						
699		ヤマブキ					757		コウゾ			裁			
700		リンボク					758		クワクサ	○					
701		ズミ					759		イヌピワ	○					
702		イヌザクラ			NT		760		ホソバイヌピワ						
703		ウワミズザクラ					761		イタビカズラ	○					
704		カナメモチ					762		ヒメイタビ						
705		オヘイイチゴ	○				763		ヤマグワ	○					
706		キジムシロ					764		イラクサ科	ニオウヤブマオ					
707		ミツバツチグリ					765	ヤブマオ		○					
708		ヘビイチゴ	○				766	カラムシ		○					
709		ヤブヘビイチゴ					767	ナンバンカラムシ				外			
710		オキジムシロ		外			768	メヤブマオ		○					
711		カマツカ	○				769	ナガバヤブマオ							
712		ワタゲカマツカ					770	コアカソ							
713		ウメ		裁			771	カテンソウ							
714		タチバナモドキ		裁			772	オオサンショウソウ							
715		トキワサンザシ	●	裁			773	ミズ							
716		ヤマナシ					774	アオミズ							
717		シャリンバイ	●				775	イラクサ							
718		テリハノイバラ	○				776	ウリ科	ゴキヅル	○					
719		ノイバラ	○				777		アマチャヅル	○					
720		モリイバラ	●				778		アレチウリ	○	外				
721		ヤブイバラ					779		カラスウリ	○					
722		ミヤコイバラ					780		キカラスウリ	○					
723	ヤマイバラ					781	スズメウリ		○						
724	ピロードクサイチゴ					782	ブナ科	クリ	○						
725	セイヨウヤブイチゴ		外			783		コジイ	○						
726	フユイチゴ	○				784		スダジイ	○						
727	ピロードイチゴ	○				785		マテバシイ							
728	クマイチゴ					786		シリブカガシ	○						
729	ミヤマフユイチゴ					787		アカガシ	○						
730	クサイチゴ	○				788		クヌギ	○						
731	モミジイチゴ	○				789		ナラガシワ							
732	ナワシロイチゴ	○				790		アラカシ	○						
733	エビガライチゴ					791		シラカシ	○						
734	オオフユイチゴ					792		ウバメガシ	○						
735	ホウロクイチゴ					793		ウラジロガシ							
736	コジキイチゴ					794		コナラ	○						
737	カジイチゴ	○				795		ツクバネガシ							
738	ワレモコウ	○				796		アベマキ							
739	シモツケ					797		オオツクバネガシ							
740	ユキヤナギ	●	外			798		ヤマモモ科	ヤマモモ	○					
741	グミ科	ツルグミ	○				799	クルミ科	オニグルミ	○					
742		マルバグミ					800	ノグルミ	○						

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④	
801	クルミ科	シナサワグルミ	●	裁			859	ヤナギ科	ウンリュウヤナギ		裁			
802	カバノキ科	ヤマハンノキ					860		アカメヤナギ					
803		ハンノキ					861		ジャヤナギ		外			
804		ヒメヤシャブシ	○				862		ネコヤナギ					
805		オオバヤシャブシ	○				863		コリヤナギ		裁			
806		イヌシデ					864		カワヤナギ			CR		
807		ニシキギ科	ツルウメモドキ	○				865		ヤマヤナギ				
808	オオツルウメモドキ						866		サイコクキツネヤナギ					
809	ニシキギ						867		クストイゲ	○				
810	コマユミ		○				868	アブラナ科	シロイヌナズナ					
811	ツルマサキ						869			ヤマハタザオ				
812	マサキ		○				870			セイヨウカラシナ		外		
813	ツリバナ						871			ナズナ				
814	マユミ						872			ニシノオオタネツケバナ				
815	カタバミ科	ハナカタバミ	○	外			873			ミチタネツケバナ		外		
816		カタバミ	○				874			タネツケバナ	○			
817		ムラサキカタバミ	○	外			875			ヤマタネツケバナ				
818		オッタチカタバミ			外		876			クジラグサ				
819		ミヤマカタバミ					877			カラクサナズナ		外		
820	ホルトノキ科	コバンモチ					878		マメグンバイナズナ	○	外			
821		ホルトノキ					879		オランダガラシ		外			
822	トウダイグサ科	エノキグサ	○				880		ダイコン		裁			
823		トウダイグサ	○				881		ハマダイコン	○	外			
824		イワタイゲキ	●				882		ミチバタガラシ					
825		ニシキソウ					883		イヌガラシ	○				
826		コニシキソウ	○	外			884		スカシタゴボウ					
827		オオニシキソウ	○	外			885		ハタザオ					
828		ハイニシキソウ			外		886	ウルシ科	ヌルデ	○				
829		イリオモテニシキソウ			外		887			ツタウルシ				
830		アカメガシワ	○				888			ハゼノキ	○			
831		ヤマアイ					889			ヤマハゼ	○			
832		シラキ					890			ヤマウルシ	○			
833		ナンキンハゼ	○	外			891	ムクロジ科	オオモミジ					
834		シナアブラギリ			裁		892			チドリノキ				
835		アマ科	キバナアマ	●	外				893	ウリカエデ				
836	オトギリソウ科	ミズオトギリ	○				894		イロハモミジ	○				
837		オトギリソウ	○				895		ウリハダカエデ	○				
838		ヒメオトギリ	○				896		コハウチワカエデ					
839		コケオトギリ	○				897		ムクロジ					
840		キンシバイ			外		898	ニガキ科	ニガキ					
841		コゴメバオトギリ			外		899	センダン科	センダン	○				
842		サワオトギリ					900	ミカン科	マツカゼソウ					
843		スミレ科	アリアケスミレ						901	ツルシキミ				
844	コタチツボスミレ		○				902		ミヤマシキミ			NT		
845	タチツボスミレ		○				903		ハマセンダン					
846	アオイスミレ						904		カラスザンショウ	○				
847	ヒメスミレ		○				905		フユザンショウ					
848	コスミレ						906		サンショウ	○				
849	オオタチツボスミレ						907		イヌザンショウ	○				
850	スミレ		○				908	コミカンソウ科	ヒトツバハギ			EN		
851	ニオイタチツボスミレ						909		カンコノキ	○				
852	ナガバノタチツボスミレ		○				910		コミカンソウ	○				
853	アギスミレ						911		ヒメミカンソウ	○				
854	ツボスミレ						912	アオイ科	イチビ		外			
855	シハイスミレ		○				913		カラスノゴマ					
856	ノジスミレ						914		ハマボウ	○		VU		
857	ヤナギ科	イイギリ					915		フヨウ		外			
858		シダレヤナギ	●	裁			916		ムクゲ		外			

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④	
917	アオイ科	ヤノネボンテンカ	●	外			976	ナデシコ科	ウシハコベ					
918		キンゴジカ					977		サワハコベ					
919		ヘラノキ					978		コハコベ		外			
920	ジンチョウゲ科	コショウノキ					979		ミドリハコベ					
921		コガンピ					980	ヒユ科	イノコヅチ	○				
922		ガンピ					981	ホソバツルノゲイトウ	●	外				
923		キガンピ	○				982	ナガエツルノゲイトウ	●	外				
924		ミツマタ		外			983	イヌビユ	○	外				
925	ビヤクダン科	ヒノキバヤドリギ	○				984	ホソアオゲイトウ		外				
926		カナビキソウ	○				985	アオビユ		外				
927		ヤドリギ					986	ホナガイヌビユ		外				
928	イソマツ科	ハマサジ	○		NT	NT	987	ホソバハマアカザ						
929	タデ科	イタドリ	○				988	ハマアカザ						
930		ヒメツルソバ		外			989	ノゲイトウ		外				
931		ミズヒキ	○				990	シロザ	○	外				
932		ヤナギヌカボ	●		NT	VU	991	アカザ		外				
933		ヤナギタデ	○				992	ケアリタソウ	○	外				
934		シロバナサクラタデ	○				993	ウラジロアカザ		外				
935		サナエタデ					994	オカヒジキ	○					
936		オオイヌタデ					995	マツナ						
937		イヌタデ	○				996	ヒロハマツナ			CR	VU		
938		ハルタデ					997	ハママツナ	○					
939		ヤノネグサ	○				998	ザクロソウ科	クルマバザクロソウ		外			
940		シンミズヒキ	○				999		ザクロソウ	○				
941		サクラタデ					1000	スベリヒユ科	スベリヒユ	○				
942		オオケタデ		外			1001			ハナスベリヒユ		裁		
943		イシミカワ					1002			ヒメマツバボタン		外		
944		ハナタデ					1003	ハマミズナ科	ツルナ	○				
945		ホソバノウナギツカミ					1004	ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	○	外			
946		ポントクタデ					1005	オシロイバナ科	オシロイバナ	○	外			
947		アキノウナギツカミ	○				1006	ミズキ科	モミジウリノキ					
948		ママコノシリヌグイ	○				1007			ウリノキ				
949		ミゾソバ	○				1008			ミズキ				
950		ミチヤナギ					1009			ヤマボウシ	○			
951		アキノミチヤナギ	○				1010		クマノミズキ	○				
952		スイバ	○				1011	アジサイ科	ウツギ	○				
953		ヒメスイバ		外			1012			クサアジサイ				
954		アレチギシギシ	○	外			1013			イワガラミ				
955		ナガバギシギシ		外			1014			コガクウツギ	○			
956		コギシギシ			NT	VU	1015			ツルアジサイ				
957		ギシギシ	○				1016			ヤマアジサイ				
958		エゾノギシギシ		外			1017	モッコク科	サカキ	○				
959		モウセンゴケ科	モウセンゴケ	○					1018		ハマヒサカキ	○		
960			コモウセンゴケ			VU			1019		ヒサカキ	○		
961		ナデシコ科	ノミノツヅリ						1020		モッコク	○		
962	ムシトリナデシコ			外			1021	カキノキ科	カキノキ	○	外			
963	ミミナグサ						1022			ヤマガキ		外		
964	オランダミミナグサ			外			1023			トキワガキ	●		VU	
965	ハマナデシコ		○				1024	サクランソウ	マンリョウ	○				
966	カワラナデシコ						1025			カラタチバナ				
967	ヨツバハコベ			外			1026			ヤブコウジ	○			
968	ツメクサ						1027			ツルコウジ				
969	ハマツメクサ						1028			オカトラノオ	○			
970	ナンバンハコベ						1029			ヌマトラノオ				
971	スイセンノウ			裁			1030			コナスビ	○			
972	フシグロ						1031			ハマボッス	○			
973	マンテマ						1032			クサレダマ				
974	ウシオツメクサ						1033		イズセンリョウ					
975	ノミノフスマ													

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④
1034	サクラソウ科	タイミンタチバナ	○				1092	アカネ科	オオアカネ				
1035		ツルマンリョウ			CR	NT	1093		ハクチョウゲ		裁		EN
1036	ツバキ科	ヤブツバキ	○				1094		カギカズラ				
1037		サザンカ					1095	マチン科	ホウライカズラ				
1038		チャノキ		外			1096		アイナエ				
1039		ナツツバキ					1097	リンドウ科	ベニバナセンブリ		外		
1040	ハイノキ科	タンナサワフタギ					1098		ハナハマセンブリ	●	外		
1041		ミミズバイ					1099		リンドウ				
1042		クロキ	○				1100		フデリンドウ	○			
1043		シロバイ					1101		アケボノソウ	○			
1044		ハイノキ					1102		センブリ	○			
1045		クロバイ	○				1103		ムラサキセンブリ			NT	NT
1046		サワフタギ					1104		イヌセンブリ	○		VU	VU
1047		クロミノサワフタギ			CR		1105		ツルリンドウ				
1048		カンザブロウノキ			VU		1106	キョウチク	サカキカズラ				
1049	エゴノキ科	アサガラ					1107	トウ科	コイケマ				
1050		エゴノキ	○				1108		キジョラン				
1051	マタタビ科	サルナシ					1109		ガガイモ	○			
1052		オニマタタビ		裁			1110		キョウチクトウ	●	裁		
1053		マタタビ					1111		テイカカズラ	○			
1054		シマサルナシ					1112		ツルニチニチソウ	○	外		
1055	リョウブ科	リョウブ	○				1113		オオカモメヅル				
1056	ツツジ科	ネジキ	○				1114		フナバラソウ	○			VU
1057		ギンリョウソウ					1115		コカモメヅル	○			
1058		アセビ	○				1116		タチカモメヅル			EN	
1059		イチヤクソウ					1117		スズサイコ	○		NT	NT
1060		ヤマツツジ	○				1118		コバノカモメヅル				
1061		ムラサキヤマツツジ					1119	ムラサキ科	ハナイバナ				
1062		ピッチュウヤマツツジ					1120		チシャノキ				
1063		モチツツジ					1121		スナビキソウ				
1064		コバノミツバツツジ	○				1122		ホタルカズラ				
1065		キシツツジ	○				1123		ミズタビラコ				
1066		フジツツジ					1124		キュウリグサ				
1067		ヒラドツツジ	●	裁			1125	ヒルガオ科	コヒルガオ	○			
1068		シャシャンボ	○				1126		ヒルガオ				
1069		アクシバ					1127		ハマヒルガオ	○			
1070		ナツハゼ					1128		セイヨウヒルガオ		外		
1071		スノキ					1129		マメダオシ			CR	CR
1072	アオキ科	アオキ					1130		アメリカネナシカズラ	●	外		
1073	アカネ科	アリドオシ					1131		ネナシカズラ				
1074		ニセジュズネノキ					1132		アオイゴケ	○			
1075		メリケンムグラ		外			1133		マルバルコウ	○	外		
1076		ヒメヨツバムグラ	○				1134		マルバアメリカアサガオ		外		
1077		キクムグラ					1135		ノアサガオ	●			
1078		ヤマムグラ					1136		マメアサガオ	○	外		
1079		オオバノヤエムグラ					1137		マルバアサガオ		外		
1080		ヤエムグラ					1138	ナス科	ホオズキ		外		
1081		ヨツバムグラ	○				1139		シロバナチョウセンアサガオ		外		
1082		ホソバノヨツバムグラ	○				1140		クコ	○	外		
1083		クチナシ	○				1141		センナリホオズキ		外		
1084		オオフタバムグラ	●	外			1142		テリミノイヌホオズキ	○	外		
1085		ソナレムグラ					1143		ワルナスビ		外		
1086		ツルアリドオシ	○				1144		アメリカイヌホオズキ	○	外		
1087		ハシカグサ					1145		ヒヨドリジョウゴ	○			
1088		フタバムグラ					1146		マルバノホロシ				
1089		サツマイナモリ					1147		イヌホオズキ	○	外		
1090		ヘクソカズラ	○				1148		ハダカホオズキ				
1091		アカネ	○				1149	モクセイ科	ネズミモチ	○			

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④	
1150	モクセイ科	ケネズミモチ					1208	シソ科	アキノタムラソウ	○				
1151		イボタノキ	○				1209		ミゾコウジュ			VU	NT	
1152		オオバイボタ			CR		1210		タツナミソウ					
1153		ヒイラギ		外			1211		コバノタツナミ	○				
1154		シマモクセイ			EN		1212		ツクシタツナミソウ					
1155	オオバコ科	ミズハコベ					1213		シソバタツナミ					
1156		サウトウガラシ					1214		ツルニガクサ					
1157		アブノメ					1215		ハマゴウ	○				
1158		キクモ					1216		サギゴケ科	ムラサキサギゴケ				
1159		マツバウンラン		外			1217			ヤマサギゴケ	●			
1160		オオバコ	○				1218	トキワハゼ		○				
1161		へらオオバコ		外			1219	ハエドクソウ			EN			
1162		ツボミオオバコ		外			1220	科	ナガバハエドクソウ					
1163		タチイヌノフグリ		外			1221	キリ科	キリ		外			
1164		フラサバソウ		外			1222	ハマウツボ科	ナンバンギセル					
1165		ムシクサ					1223		ママコナ	○				
1166		オオイヌノフグリ	○	外			1224		ツシマママコナ	○				
1167		カワヂシャ				NT	1225		シオガマギク	●		VU		
1168	ゴマノハグサ科	ウラジロフジウツギ				1226	コシオガマ		●					
1169		ゴマノハグサ			EN	VU	1227	ヒキヨモギ						
1170		ビロードモウズイカ		外			1228	タヌキモ科	ノタヌキモ	●		EN	VU	
1171	アゼナ科	ヒメアメリカアゼナ		外		1229	イヌタヌキモ						NT	
1172		アメリカアゼナ		外		1230	ミミカキグサ							
1173		アゼナ				1231	ホザキノミミカキグサ							
1174		ウリクサ	○			1232	タヌキモ						NT	
1175		アゼトウガラシ	○			1233	ヒメタヌキモ		○		NT	NT		
1176	シソ科	カワミドリ				1234	ムラサキミミカキグサ				NT	NT		
1177		キランソウ				1235	キツネノマ	○		NT				
1178		コムラサキ				1236	ゴ科	キツネノマゴ	○					
1179		ムラサキシキブ	○			1237	ハグロソウ							
1180		オオムラサキシキブ				1238	クマツヅラ科	シチヘンゲ	●	外				
1181		ヤブムラサキ	○			1239		ヤナギハナガサ	○	外				
1182		ポタンクサギ		外		1240		アレチハナガサ	○	外				
1183		クサギ	○			1241		クマツヅラ						
1184		クルマバナ				1242	ハナイカダ科	ハナイカダ						
1185		トウバナ	○			1243	モチノキ科	シイモチ	○					
1186		イヌトウバナ				1244		ナナミノキ	○					
1187		ヤマトウバナ	○			1245		イヌツゲ	○					
1188		ナギナタコウジュ				1246		モチノキ	○					
1189		カキドオシ	○			1247		タラヨウ	○					
1190		ヤマハッカ	○			1248		アオハダ	○					
1191		アキチヨウジ				1249		タマミズキ						
1192		イヌヤマハッカ				1250		ソヨゴ	○					
1193		オドリコソウ				1251		クロガネモチ	○					
1194		ホトケノザ				1252		ウメモドキ	○					
1195		ヒメオドリコソウ		外		1253	イヌウメモドキ	○						
1196		メハジキ				1254	キキョウ科	ツリガネニンジン						
1197		ヒメサルダヒコ				1255		サイヨウシャジン						
1198		コシロネ	●			1256		ホタルブクロ	○					
1199		シロネ	○			1257		ツルニンジン						
1200		ヒメシロネ	○			1258		ミゾカクシ	○					
1201		ヨウシュハッカ		外		1259		サワギキョウ				NT		
1202		オランダハッカ		外		1260		タニギキョウ						
1203	セイヨウハッカ	●	外		1261	キキョウ					NT	VU		
1204	ヒメジソ	○			1262	キキョウソウ			外					
1205	イヌコウジュ	○			1263	ヒナギキョウ		○						
1206	ハマクサギ	○			1264	キク科	ノブキ							
1207	ウツボグサ	○			1265		ヌマダイコン	○						

No.	科名	種名	①	②	③	④
1266	キク科	キッコウハグマ	○			
1267		ブタクサ	○	外		
1268		オオブタクサ	○	外		
1269		カワラヨモギ				
1270		フクド				NT
1271		ヨモギ	○			
1272		オトコヨモギ				
1273		ヒメヨモギ				
1274		ホソバコンギク				
1275		ハマベノギク			VU	
1276		ヒメシオン			VU	
1277		ヤマジノギク				
1278		シロヨメナ	○			
1279		ノコンギク				
1280		サワシロギク				
1281		シラヤマギク	○			
1282		ヤマシロギク				
1283		シュウブソウ	○			
1284		ヨメナ	○			
1285		オオユウガギク				
1286		オケラ				
1287		キンバイタウコギ		外		
1288		センダングサ	○			
1289		アメリカセンダングサ	○	外		
1290		コシロノセンダングサ	○	外		
1291		コセンダングサ	○	外		
1292		タウコギ				
1293		ヤブタバコ				
1294		コヤブタバコ	○			
1295		ホソバガンクビソウ			VU	
1296		ガンクビソウ	○			
1297		サジガンクビソウ	○			
1298		ヒメガンクビソウ			NT	
1299	トキンソウ					
1300	シマカンギク					
1301	ノジギク					
1302	リュウノウギク					
1303	サンインギク					
1304	ヒメヤマアザミ					
1305	モリアザミ					
1306	ノアザミ	○				
1307	ケショウアザミ					
1308	キセルアザミ					
1309	シコクアザミ					
1310	オオキンケイギク	○	外			
1311	ハルシャギク		外			
1312	マメカミツレ		外			
1313	ベニバナボロギク	○	外			
1314	ヤクシソウ	○				
1315	タカサブロウ	○				
1316	ダンドボロギク	○	外			
1317	ヒメジョオン	○	外			
1318	アレチノギク		外			
1319	ヒメムカシヨモギ	○	外			
1320	ハルジオン		外			
1321	ヤナギバヒメジョオン		外			
1322	ケナシヒメムカシヨモギ	○	外			
1323	ヘラバヒメジョオン		外			

No.	科名	種名	①	②	③	④
1324	キク科	オオアレチノギク	○	外		
1325		サケバヒヨドリ	○			
1326		サワヒヨドリ	○			
1327		ヒヨドリバナ	○			
1328		キクバヒヨドリ				
1329		ミツバヒヨドリ				
1330		ツワブキ	○			
1331		ハキダメギク		外		
1332		タチチチコグサ		外		
1333		ウラジロチチコグサ	○	外		
1334		チチコグサモドキ	○	外		
1335		ウスベニチチコグサ	○	外		
1336		チチコグサ	○			
1337		イヌキクイモ	○	外		
1338		キクイモ	○	外		
1339		キツネアザミ				
1340		ヤナギタンポポ			NT	
1341		スイラン				
1342		ブタナ	○	外		
1343		ホソバオグルマ			NT	VU
1344		カセンソウ				
1345		ニガナ	○			
1346		ハイニガナ				
1347		オオジシバリ				
1348		ハマニガナ				
1349		イワニガナ	○			
1350		アキノノゲシ	○			
1351		コオニタバコ				
1352		ヤブタバコ				
1353		センボンヤリ	○			
1354		フランスギク		外		
1355		ハンカイソウ				
1356		サワギク				
1357	ムラサキニガナ					
1358	ナガバノコウヤボウキ					
1359	フキ	○				
1360	コウゾリナ	○				
1361	ハハコグサ	○				
1362	アラゲハンゴンソウ		外			
1363	ノボロギク		外			
1364	コメナモミ					
1365	メナモミ			CR		
1366	セイタカアワダチソウ	○	外			
1367	オオアワダチソウ		外			
1368	アキノキリンソウ	○				
1369	オニノゲシ		外			
1370	ノゲシ	○				
1371	ヒロハホウキギク		外			
1372	ホウキギク	○	外			
1373	ヤブレガサ					
1374	ハバヤマボクチ					
1375	キクバヤマボクチ					
1376	シロバナタンポポ					
1377	セイヨウタンポポ	○	外			
1378	オカオグルマ					
1379	サワオグルマ					
1380	ウラギク			NT	NT	
1381	オオオナモミ	○	外			

No.	科名	種名	①	②	③	④	No.	科名	種名	①	②	③	④
1382	キク科	オニタビラコ	○				1409	ウコギ科	ヤツデ	○			
1383	ガマズミ科	ソクズ	○				1410		タカノツメ				
1384		ニワトコ					1411		キヅタ	○			
1385		ガマズミ					1412		オオバチドメ				
1386		コバノガマズミ					1413		ノチドメ	○			
1387		ハクサンボク			NT		1414		オオチドメ				
1388		ヤブデマリ					1415		チドメグサ				
1389		コミヤマガマズミ					1416		ハリギリ	○			
1390		ミヤマガマズミ	○				1417	トベラ科	トベラ	○			
1391	スイカズラ	コツクバネウツギ					1418	セリ科	ヨロイグサ				
1392	科	ツクバネウツギ					1419		ノダケ				
1393		ハマニンドウ	○				1420		ハマウド	○			
1394		スイカズラ	○				1421		シャク				
1395		オミナエシ					1422		ミシマサイコ			VU	VU
1396		オトコエシ	○				1423		ツボクサ	○			
1397		オトコオミナエシ					1424		セントウソウ				
1398		カノコソウ					1425		ハマゼリ	●			
1399		ツルカノコソウ					1426		ミツバ	○			
1400		ノヂシャ		外			1427		マツバゼリ		外		
1401		ヤブウツギ					1428		ハマボウフウ	○			
1402	ウコギ科	ウド					1429		カワラボウフウ				
1403		タラノキ	○				1430		セリ	○			
1404		メダラ					1431		ヤブニンジン				
1405		コシアブラ	○				1432		ボタンボウフウ	○			
1406		カクレミノ	○				1433		ウマノミツバ	○			
1407		ウラゲウコギ					1434		ヤブジラミ				
1408		ヤマウコギ	○				1435		オヤブジラミ				

第4章 昆虫類

1. 調査概況

宇部市の環境政策の一環として昆虫類の調査を実施したが、その概要について報告する。

昆虫類は種類も多く専門性を必要とするため、それぞれの分野の専門の担当者が、定められた期間に計画的に調査にあたった。

(1) 調査対象地域

宇部市全域については昼間の調査を主体に実施したが、これは昼間に活動する種に限られる。また期間内では時間の関係上限定的となるため、多くの昆虫類が活動する夜間調査を月1回場所を定めて、4月から11月まで続けた。その場所は、2020年は宇部市平原岳・二俣瀬車地（里山ビオトープ二俣瀬）、2021年は宇部市櫛原・如意寺、2022年は宇部市如意寺・竹の小島である。

(2) 調査期間

令和2年(2020年)から令和4(2022年)までの成虫の活動する期間を主な調査期間とし、夜間調査については4月から11月まで実施した(令和4年は4月から8月まで)。

(3) 調査方法

目撃法(撮影主体)、見つけ採り法、叩き網法・掬い網法、夜間のライトトラップ(カーテン)法(発電機等で水銀灯や蛍光灯を照らし昆虫を誘引する)。また微小な昆虫や徘徊する昆虫類を調べるため衝突板トラップ法、ピットホールトラップ法、ベイトトラップ方式などで実施する。

2. 昆虫類の概況

調査対象とする昆虫類は全種になるが、その主なものはトンボ目、バッタ目、カメムシ目、コウチュウ目、ハチ目、ハエ目、チョウ目(蛾・蝶類)などである。またライトトラップなどによく飛来する、カゲロウ目、ヘビトンボ目、アミメカゲロウ目、トビケラ目なども対象にしているが、特異な分野となり専門性が高いことで、同定に時間を要するため簡易な調べにしている。

調査した各目の概要は、目ごとに可能な限り詳細にまとめているので参照いただきたい。

(1) 宇部市の昆虫目録

(ア) 作成の基準

この目録は2020年から2022年に調べた昆虫類を基に、過去宇部市で記録された種が文献上に記載されていることを基本に全種を集約している。そのため、伝聞として残されているものは出典が定かでないため、集約はしていない。ただし一部の種でリストに記載しても支障がないと判断した種はこの限りでない。

目録に集約した種の根拠となるものは、目ごとに引用・参考文献として宇部市に関する文献を全て集約しているため、これを参照いただきたい。

目録作成に必要な文献で、各目に共通する文献については共通文献として下記にまとめた。

共通文献

環境省, 2020. 【昆虫類】環境省レッドリスト2020. 環境省HP (<http://www.env.go.jp/press/107905.html>)
別添資料3, 18-35.

平嶋義宏・森本 桂(監), 2008. 新訂原色昆虫大図鑑Ⅲ. 654pp., 北隆館.

宇部市環境部環境政策課(編), 2004. 宇部自然環境調査報告書. 294pp., 宇部市環境部環境政策課, 宇部.

宇部市環境部環境政策課(編), 2009. 宇部自然環境調査報告書(楠地域). 187pp., 宇部市環境政策課.

山口県立山口博物館(編), 1988. 山口県の昆虫. 198pp., 山口県立山口博物館, 山口.

山口県立山口博物館, 2016. 山口県立山口博物館所蔵昆虫標本目録 2016 年度版. Version 1.00, 山口, (CD-R).
 山口県自然保護課 (編), 2002. レッドデータブックやまぐち 2002. 513pp., 山口県自然保護課, 山口.
 山口県自然保護課 (編), 2003. レッドデータブックやまぐち (普及版). 209pp., 山口県自然保護課.
 山口県自然保護課 (編), 2019. レッドデータブックやまぐち 2019—山口県の絶滅のおそれのある野生生物.
 山口県自然保護課HP (<https://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/rdb/site/index.php>)
 山口むしの会稀少昆虫類選定委員会, 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト 2011. 198pp., 山口むしの会.
 山口むしの会昆虫目録制作委員会 (編), 2018. 山口県の昆虫目録 2018. 84pls., 2049pp., 山口むしの会.

(イ) 目録の配列と掲載した各目・科・種数について

目録の各目の配列については、新訂原色昆虫大図鑑 (2008) を基に作成した山口県の昆虫目録 2018 に 25 目を集約しており、これに準拠して作成している。そのため、ここで集約できない目は、山口県で記録があっても宇部市からは全く記録がない目になる。これらはイシノミ目、シミ目、ハサミムシ目、ガロアムシ目、シロアリ目、チャタテムシ目、アザミウマ目である。

これ以外のトンボ目からチョウ目までの 17 目の昆虫類を宇部市の昆虫目録 (2022) として作成した (表 4-3 として章末に掲載する)。目別の科数、種数は表-1 のとおりであり、これらをまとめた結果 17 目 271 科 3181 種の記録となる。

表 4-1 昆虫類の種数等集計表

No	目	科数	種数	No	目	科数	種数	
1	トンボ	11	87	10	ラクダムシ	1	1	
2	カゲロウ	7	17	11	ヘビトンボ	1	1	
3	カワゲラ	1	1	12	アミメカゲロウ	3	4	
4	ナナフシ	2	4	13	ハチ	25	223	
5	バッタ	8	14	14	シリアゲムシ	1	1	
6	カマキリ	1	5	15	ハエ	22	144	
7	ゴキブリ	2	3	16	トビケラ	7	9	
8	カメムシ	54	400	17	チョウ	蛾類	37	636
9	コウチュウ	83	1550			蝶類	5	81
						小計	42	717
				合計 17 目		271 科	3181 種	

(ウ) 山口県の絶滅危惧種について

レッドデータブックやまぐち 2019 に記載されている種 (以降 RDB 種と呼ぶ) のカテゴリー区分は以下のとおりである。

表 4-2 絶滅危惧種のカテゴリー

絶滅	EX	山口県ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧 I A 類	CR	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 I B 類	EN	I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧 II 類	VU	絶滅の危険性が増大している種
準絶滅危惧	NT	現時点では絶滅の危険は小さいが、棲息条件の変化によって絶滅危惧に移行する危険性がある種
情報不足	DD	評価するだけの情報 (データ) が不足している種

上記のカテゴリーによって宇部市から絶滅 1 種、絶滅危惧 I A 類 4 種、絶滅危惧 I B 類 7 種、絶滅危惧 II 類 14 種、準絶滅危惧 24 種、情報不足 54 種が該当する。多くは情報不足の種で今後の推移を注視することが重要である。これらのカテゴリーは表 4-3 昆虫目録の備考欄に略号で記す。

(2) トンボ目

2020年～2022年までの3年間に確認してきた種および、過去宇部市で記録されていたトンボ類の全種について集約した結果、11科87種を目録にリストアップすることができた。

(ア) 宇部市内の概況

水棲昆虫であるトンボは、流水系と止水系に分かれるが、環境の変化に敏感であり、流水系のトンボであれば河川改修、大雨による河川の変化、農薬などの流入による水質変化などで影響をうける。止水系のトンボであれば、維持管理されたため池が多く、トンボの棲息圏になることが多い。

宇部市は丘陵地帯が続く地形で、市中心部から東北部の山口市と美祢市との境界になる山間奥地へと続く。河川については太田川と厚東川が小野湖に流入し、ダム湖を経由し厚東川は周防灘にそそぐことになり、厚東平野と小野平野の田園地帯を潤してきた。ため池の多さも県内一で、この水を棲息圏にする水生昆虫類のトンボは2000年代までに調べられ、多くの種類が記録された。全リストの87種の内、83種が発見された。

(イ) 地域ごとの状況

① 荒滝山・日ノ岳周辺（東吉部、今小野地区）

荒滝山は宇部市最北部に位置する標高459mの最高峰で、厚東川に流れ込む荒滝川を有し、いわゆる「溪流」を含んだ生物の豊かな水系である。2022年までの調査では10科46種を確認した。その科別の内訳は、アオイトトンボ科3種、カワトンボ科3種、モノサシトンボ科1種、イトトンボ科6種、ヤンマ科4種、サナエトンボ科5種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科2種、ヤマトンボ科2種、トンボ科19種である。

特筆すべきことは、「荒滝川」が厚東川の支流として流れているが、宇部市内唯一の溪流性のトンボ「オジロサナエ」を育んでいる。ほかの河川での溪流性のトンボは過去の記録には記載されているが、現在では見あたらない。

② 平原岳周辺（小野、藤河内、椋小野区）

平原岳は標高395mで、裾野は豊かな森林に囲まれた山であり、自然林も多く残っている。

小野地区は水田が広がり、スギやヒノキが植えられており、河川も小さく流水系トンボも種類が少ない。圃場整備も済まされており、かろうじてため池がトンボ類の残された棲息場所になっている。椋小野地区も同様に圃場整備は行われたが、自然林が多く残されており、昆虫相は小野地区に比べ豊かなようである。

ここでは11科36種を確認した。科別の内訳は、アオイトトンボ科2種、カワトンボ科3種、モノサシトンボ科1種、イトトンボ科1種、ヤンマ科4種、サナエトンボ科6種、ムカシヤンマ科1種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科1種、ヤマトンボ科2種、トンボ科14種である。

溪流性のヒメサナエなどが過去に記録されているが、現在では棲息環境が悪化し、2010年以降では未確認のようである。

③ 今富ダム周辺（奥万倉、西吉部地区）

厚東川ダムに次ぐ二つ目のダムであり、流入、流出の河川は興味深い。ダムに流入する河川2本を抱えており、溪流状の河川もある。環境は両河川の上流部まで水田が広がっているが、期待したほど溪流性のトンボは確認できなかった。

この地区では10科41種を確認した。科別の内訳は、アオイトトンボ科4種、カワトンボ科3種、モノサシトンボ科1種、イトトンボ科3種、ヤンマ科6種、サナエトンボ科2種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科2種、ヤマトンボ科2種、トンボ科17種である。

ダム上流部の谷間で、寒冷地型のルリボシヤンマが飛翔していたのが印象的であった。

④ 小野湖周辺（芦河内、如意寺、櫛原）

小野湖は、市北部に位置し流入は厚東川と大田川となり、流出は厚東川となる、市の水がめにあたる人造湖である。その周辺は常緑樹林が広がり、小さなため池もわずかだが点在する。小野湖の水量の変化は激しく、安定して水草が育たないため、湖本体に棲息するトンボ類は限定される。

小野湖の北側は厚東川の本流が流れ下り、流入する支流の河川のほとんどが細流で、溪流部が見あたらない。流入する小さな流れの周囲や湿地、ため池では少ないながらトンボ類は見られたが、種類は思ったほど多くなかった。

ここでは10科29種を確認した。科別の内訳は、アオイトトンボ科3種、カワトンボ科2種、モノサシトンボ科1種、イトトンボ科3種、ヤンマ科3種、サナエトンボ科3種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科2種、ヤマトンボ科2種、トンボ科9種である。

⑤ 船木地区周辺（船木、万倉、西万倉、矢矯）

宇部市の中でも放棄田や休耕田が特に目立つ地域であり、そのため農業用ため池も不要となり、止水系のトンボの種数が減少しつつある地域となっている。流水系のトンボは「有帆川」に多く集中しているが、溪流性のトンボは多くない。その中で細い流れの中で、グンバイトンボを確認できた。川沿いでムカシヤンマが確認でき、過去にはエゾトンボが飛翔していたが、最近では見られなくなっている。

ここでは10科32種を確認した。科別の内訳は、アオイトトンボ科3種、カワトンボ科2種、モノサシトンボ科2種、イトトンボ科2種、ヤンマ科5種、サナエトンボ科2種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科2種、ヤマトンボ科2種、トンボ科11種である。

⑥ 霜降山周辺（善和、持世寺、末信、川上）

霜降岳を中心に、軽登山で宇部市民に親しまれており、裾野以外は開発が進んでいない場所だが、思った以上に種数は少なかった。裾野では開発が進み、水田や畑地など多く人の手が入っており、農薬などの影響が関わっているのかもしれない。農業用の河川にはコシボソヤンマやヤマサナエなどのトンボが少ないながら見られる。

ここでは11科31種を確認した。科別の内訳は、アオイトトンボ科2種、カワトンボ科2種、モノサシトンボ科1種、イトトンボ科3種、ヤンマ科4種、ムカシヤンマ科1種、サナエトンボ科2種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科1種、ヤマトンボ科2種、トンボ科12種である。

⑦ 厚東川中流域周辺（棚井、温見、吉見、車地、瓜生野、木田、広瀬、沖の旦）

宇部市郊外にあたり農耕地が多く、厚東川沿いには流水系のトンボなどが多くみられ、絶滅危惧種がほかの地域と比べて多く棲息する区域でもある。

ここでは11科45種を確認した。科別の内訳は、アオイトトンボ科3種、カワトンボ科2種、モノサシトンボ科2種、イトトンボ科5種、ヤンマ科5種、ムカシヤンマ科1種、サナエトンボ科5種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科2種、ヤマトンボ科3種、トンボ科16種である。

特にキイロヤマトンボが確認できており、アオサナエ、ホンサナエ、ネアカヨシヤンマなどRDBに記載のトンボが集中しており、またマルタンヤンマも棲息している。ほかにグンバイトンボやコヤマトンボ、オオヤマトンボ、ヤマサナエなども多く見られる地域である。

⑧ 厚東川河口周辺（妻崎開作、中川遊水地、竹の小島）

埋め立てられた開作地域であり、一部には広大な湿地も広がっているが、個人所有の土地が大部分であり、湿原の調査は立ち入り許可が必要のため、調査は過去に1回しかできていない。

また、湾岸道路が建設され、湿地の一部が埋め立てられ、工場や建造物が増えた。中川遊水地には汽水域特有のヒヌマイトトンボが見られ、迷入種の飛来もあるようである。過去、ベッコウトンボも飛来していた

が、移動の途中に立ち寄ったようで安定的ではない。ほかにアオヤンマやムスジイトトンボ、コフキトンボも見られ、タイワンウチワヤンマの飛来もある。

ここでは5科25種を確認した。科別の内訳は、カワトンボ科1種、イトトンボ科4種、ヤンマ科3種、オニヤンマ科1種、トンボ科16種である。

⑨ ときわ公園周辺

市街地が周囲を取り囲んでいる場所だが、大きい常盤湖を中心にした緑豊かな公園になっており、トンボの種類も多い。止水系のトンボを中心にし、大型のトンボが多くみられる。

ここでは10科46種を確認した。科別の内訳は、アオイトトンボ科2種、カワトンボ科2種、モノサシトンボ科1種、イトトンボ科6種、ヤンマ科5種、サナエトンボ科3種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科2種、ヤマトンボ科2種、トンボ科22種である。

常盤湖では、広く大きな池を好むウチワヤンマ及びオオヤマトンボが多く棲息しており、ため池に変化がなければこの2種は安泰で、RDB掲載種であるキイロサナエも発見された。

また、南方系のトンボとしてアオビタイトンボや、ときわ動物園の池ではリュウキュウベニイトトンボ、ベニトンボが確認されたことは注目に値する。

⑩ 西岐波地区周辺

地域全体がなだらかな丘陵地であり、河川よりもため池のほうが多い地区である。当然止水系のトンボが多く見られるが、近年では市街地や道路整備が進み、環境悪化によるトンボの減少が見られる。過去RDB該当種のコバネアオイトトンボやアオヤンマが棲息していたが、ため池の放棄により10年ほど前から姿を消し、今では全く確認できない。

ここでは11科31種を確認した。科別の内訳は、アオイトトンボ科3種、カワトンボ科2種、モノサシトンボ科1種、イトトンボ科2種、ヤンマ科4種、サナエトンボ科2種、ムカシヤンマ1種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科2種、ヤマトンボ科2種、トンボ科11種である。

⑪ 日の山・東岐波地区（東部海岸）（宇部市に限定しているため、阿知須側は対象外としている）

この地区もなだらかな丘陵地が大部分を占めており、海岸沿いに、標高150m少々の「日の山」がある。

以前は「日の山」の周辺には小さなため池が点在し、トンボも少ないながら見られたが、隣接する山口市阿知須と同じように市街地化が進み、ため池や田畑が少なくなった。農村部だった地域でも道路や住宅地が多く占有し、ため池が埋め立てられ、調査すべき場所も少なくなり、トンボの棲める環境がほとんど無くなり、期待できなくなっている。

一帯で7科13種を確認した。科別の内訳は、カワトンボ科1種、イトトンボ科3種、ヤンマ科1種、サナエトンボ科1種、オニヤンマ科1種、エゾトンボ科1種、トンボ科5種である。

（ウ）山口県RDB種の確認状況

宇部市で確認されたトンボ類の中で、RDB種（8科20種）について記述する。

① アオイトトンボ科

オツネイトンボ（準絶滅危惧）

止水系のトンボで枯草によく似ており探しにくい小さなトンボだが、最近個体数が減少している。

コバネアオイトトンボ（絶滅危惧IB類）：止水系トンボだが、植生豊かな古いため池などで見られる。

環境の変化に弱く年々棲息場所が失われており、宇部市だけでなく県内でも絶滅が懸念される。

② イトトンボ科

ヒヌマイイトトンボ（絶滅危惧IA類）

湾岸道路建設と中川の浚渫工事などによる水量の減少で、幼虫がダメージを受け個体数が激減し

た。代替地を作って保全保護作業を行っているが、回復には時間がかかりそうである。

オオイトトンボ（絶滅危惧ⅠB類）

宇部市のため池で何とか生き延びているが、数を減らしている。県内でもあと数ヶ所しか確認されていない。他県では90ヶ所の棲息地が2020年には3ヶ所に激減した例もある。

アジアイトトンボ（準絶滅危惧）

水田の減少によると考えられるが、そのため数を減らしている。水田とため池が必要なトンボのようで、種の保存には浅くて日あたりのよい植生の豊かなため池や湿地が要求される。

③ ヤンマ科

サラサヤンマ（準絶滅危惧）

浅いため池や湿地、落ち葉の堆積した水たまりなどにヤゴ(幼虫)は棲息している。休耕田や放棄田の開放水面などが雑草で覆いつくされても棲めなくなるようで、開発行為などにより、たまりの水が遮断され水分がなくなると、乾燥し棲息できなくなるようである。

アオヤンマ（準絶滅危惧）

止水性のヤンマであり、ヨシの群生地を好むようで、その中を縫うように飛翔し産卵する。そのような条件を持つため池が少ないので、この種の数も限られてくる。

ネアカヨシヤンマ（絶滅危惧Ⅱ類）

水田湿地の減少によるものか、近頃では非常に少なくなったヤンマである。以前は「黄昏飛翔」などである程度の個体数が判断できたが、近頃では「たそがれ飛翔」も見られない。

ルリボシヤンマ（準絶滅危惧）

北方系のトンボで高地や寒冷地を好むと思われていたが、宇部市内の植生豊かなため池でも羽化が確認されている。しかし、そのような条件の湿地やため池の減少に伴い、ほとんど見られなくなった。

④ サナエトンボ科

アオサナエ（準絶滅危惧）

流水系のトンボであり、厚東川には多く見られた。しかし、近頃では数を減らしている。

オグマサナエ（絶滅危惧ⅠB類）

止水系のトンボだが、かなり前より棲息するため池が消滅しており、絶滅したようである。隣接する山口市阿知須のため池にはかろうじて生き残っていたのだが、そこでも現在では姿を見ることが難しくなっている。

ホンサナエ（絶滅危惧Ⅱ類）

アオサナエと同じ場所に混在するが、極端に数が少ない。厚東ダムの下流部の車地付近でしか確認できていない。

キイロサナエ（絶滅危惧Ⅱ類）

止水域、流水域両方で見られるが、緩やかな流れの泥土を好むようである。ヤマサナエと混在するが、圧倒的にヤマサナエが多く見られる。もともと水田わきの浅い溝などを好み、その付近の小さな河川に棲み着くことが多い。宇部市内でも棲息場所が限定される。

⑤ ムカシヤンマ科

ムカシヤンマ（準絶滅危惧）

ため池や川の中といった水の中ではなく特殊な環境に棲息するトンボである。宇部市では各所に棲息地が確認されており、考えている以上にしたたかに生きている大型のトンボである。棲息地は水の滴る斜面にトンネルを穿ち、あるいはコケの中に身を潜め生き延びている。このような特殊な環境は開発の影響を受けやすく地域によって消滅する危険性がある。

⑥ エゾトンボ科

エゾトンボ（準絶滅危惧）

山の中のため池や、森の中の湿原地によく見られたが、近頃は見る機会は少なくなった。多い時には

車の通る道路に出て、パトロール飛翔する個体も居たが、今はその様な光景は少ない。

ハネビロエゾトンボ (絶滅危惧Ⅱ類)

森に囲まれた植生豊かな山池を好むようだが、そのような池は少なく、本種もほとんど見られなくなった。現在、山林やため池が荒れ、立ち入りができなくなり、見落としているかもしれない。

⑦ ヤマトンボ科

キイロヤマトンボ (絶滅危惧ⅠB類)

厚東川周辺の土手付近でよく見られたものだが、近年全く姿を見せない。2021年に車地付近で目撃されたのが唯一である。

⑧ トンボ科

アキアカネ (絶滅危惧Ⅱ類)

全国的にも激減したアカトンボだが、宇部市でも数が少ない。昔のように枝先に数多く静止している姿は見られなくなった。

ハッチョウトンボ (絶滅危惧Ⅱ類)

市内の湿地や休耕地の各地で発生していたが、環境の変遷で近年ほとんど見られなくなった。

ベッコウトンボ (絶滅危惧ⅠA類)

2000年代初頭まで前開作池など数地点で発見されたが、現在安定した棲息池は見あたらない。

(エ) 各科の注目すべき種

一部前項に重複する部分もあるが、下記のトンボについて補足する。

アオイトトンボ科については、コバネアオイトトンボが心配される。宇部市内はもとより山陽小野田市、山口市の棲息地などの地区でも軒並み姿を消してしまった。現在確実な棲息地が見あたらない。

カワトンボ科は溪流が少なくミヤマカワトンボの棲息する場所は少ない。多いのはハグロトンボである。アサヒナカワトンボはまだ各川で見られ一時期に比べ個体数は少ないがまだ安泰のようである。

モノサシトンボ科ではモノサシトンボが減少している。水田とため池の減少が主な原因ではないかと思われる。グンバイトンボは流水系であり、数は少ないが、棲息場所は維持されているようだ。

イトトンボ科はヒヌマイトンボの減少は著しい。またセスジイトトンボが特に心配される。ムスジイトトンボのように流水でも生き延びられれば良いのだが、過去のデータ以外では宇部市内の棲息地を特定できていない。オオイトトンボも個体数を減らしており、以前のように数が多くないのが懸念される。

ヤンマ科はネアカヨシヤンマ、アオヤンマ、ルリボシヤンマを見る機会が年々少なくなっている。マルタンヤンマはため池で相変わらず羽化殻を多く見かけるので、当面は心配なさそうである。コシボソヤンマやミルヤンマなどは人目につかないだけで、溪流部で生き延びているようだ。

サナエトンボ科では、ホンサナエ、アオサナエ、キイロサナエ、オナガサナエが数を減らしている。ヒメサナエ、ヒメクロサナエ、オグマサナエは20年ほど前より棲息地が消滅したりして、全く姿を見せない。

ムカシヤンマ科のムカシヤンマは減少しているようだが、棲息環境が特異で池や川といったわかりやすい場所ではなく、気づいていない場所に、ひそかに生き延びているようだ。

オニヤンマ科のオニヤンマは数が減っているようだ。水田や水田周りの小さな溝、小川などがつぶされ産卵に適した浅い水溜りが減少しており、成虫を見る機会も少なくなった。

エゾトンボ科は絶滅の心配されるトンボである。開発が進まない農地と山林部の残る市内ではまだ見られるが、手入れされない林地部や休耕地では小川や湿地帯がつぶされ、エゾトンボ系の棲息地がなくなっているようである。そのため成虫はほとんど見られなくなり、タカネトンボが何とか発生しているようである。

ヤマトンボ科についてはオオヤマトンボ、コヤマトンボは止水、流水域で発生しており心配はない。ただ、キイロヤマトンボの最近のデータは2022年の一例のみで成虫を見る機会が激減し危惧される。

トンボ科は種類が多いが、やはりRDB種を中心に心配される。ため池を棲息地にしているトンボは今のところあまり心配ないが、水田や湿地に依存するトンボ類に影響が見られる。最近までどこにでも多く見られたシ

オカラトンボ、シオヤトンボ、アカネ類なども数を減らしており、これまでの常識が覆されるようになる懸念がある。

(オ) 南方種三種の変遷について

①リュウキュウベニイトトンボは2010年に厚東の立熊で初めて撮影し、以後2011年に東須恵の前開作池で確認した。さらに2017年には車地、2019年には則貞でも記録された。隣接する山陽小野田市や下関市、山口市にも棲息地が発見されるなど、県内の動向に注意が必要である。

②アオビタイトンボは2010年に東須恵の前開作の池から初めて記録され、追跡調査で山口市の秋穂からも確認された。また同じ年に阿知須のきらら浜自然観察公園からも発見されている。その後、市内では厚東の立熊、車地、則貞からも確認されるなど市外にも分布を拡大している種である。

③ベニトンボは2021年に山口市黒川で初めて記録され、追跡調査から鑄銭司地域、防府市台道から確認された。2022年になって山口市の秋穂地区から、宇部市では則貞で記録された。また、かなり離れた光市からも撮影情報もたらされ、南方種特有の分布拡大が見られる。2021年に発見された地域は全て継続発生しており、宇部市においても今後の発生に期待が高い種となる。

(カ) 宇部市で採集された偶産種（迷トンボ）

① オオギンヤンマは1998年に善和から記録されている。市内からはこの1例のみで、県内でも下関市や周防大島町などからと、記録はまだ少ない種である。

② スナアカネは2015年に阿武町で初めて確認され、以後、下関市、秋穂、光市と記録された。宇部市からは2019年に西岐波、東岐波の海岸で発見された。

③ タイリクアキアカネは宇部市では1994年に竹の小島から記録されたのが唯一となる。

④ オナガアカネも宇部市では1994年に竹の小島から記録され、2020年も同地で確認されている。

⑤ ハネビロトンボの宇部市での確認は1993年の西岐波が最初で、その後、善和など単発的であり2022年には竹の小島から確認された。偶産種としては県内各地に飛来例の多い種となる。

⑥ アメイロトンボは1994年に竹の小島で記録された一例がある。

⑦ ウスパキトンボは毎年発生を繰り返す迷トンボの常連種である。3月の末頃から発生を始め、11月始め頃まで個体数を増やしながら大発生をする種だが、耐寒性が無いため冬期は全て死滅していることから偶産種として扱われる。

以上の7種が偶産種として記録されている。いずれも大陸から南方系で、飛来の経過については台風など気象に関する事項が関わっていると考えられ、これからも注意が必要となる。

(キ) まとめ

2000年代に入ると減反政策等により農耕地が大きく縮小されることになった。それに伴い水の利用も少なくなり、特にため池はその影響を受け利用の無い水溜りとして放置されるようになってきた。里地里山として維持管理されてきた農村環境地域も人の関わりが少なくなったことで、山野や田畑の多くが利用されなくなり、これは水環境が大きく影響するトンボにとって安泰でないことにつながっている。

この3年間で絶滅危惧種を確認できた種は10種程度と半数しかない。環境の変化は農村地帯や山間部を歩いてもオニヤンマをはじめ、シオカラトンボや水田を棲息圏にしているアカネ類、河川に棲むサナエトンボ類などが減少している。反面南方種3種が2010年以降発見されるなど、新たな発見は望ましいことになる。

参考文献

阿部友哉, 2005. 楠町と美祢市で採集したトンボ数例. 山口のむし, (4) : 108.

伴 一利, 2005. 山口県で採集したトンボ (2004年). 山口のむし, (4) : 101-105.

伴 一利, 2006. 山口県で採集したトンボ (2005年). 山口のむし, (5) : 87-89.

- 伴 一利, 2007a. カワトンボとオオカワトンボの分布調査 I. 山口のむし, (6) : 83-84.
- 伴 一利, 2007b. 山口県で採集したトンボ (2006 年). 山口のむし, (6) : 85-87.
- 伴 一利, 2008. 山口県で確認したトンボ (2007 年). 山口のむし, (7) : 97-100.
- 伴 一利, 2009. 山口県で確認したトンボ (2008 年). 山口のむし, (8) : 103-106.
- 伴 一利, 2010. 山口県で確認したトンボ (2009 年). 山口のむし, (9) : 143-148.
- 伴 一利, 2011a. 山口県で確認したトンボ (2009 年以前). 山口のむし, (10) : 93-94.
- 伴 一利, 2011b. 山口県で確認したトンボ (2010 年). 山口のむし, (10) : 95-96.
- 伴 一利, 2012. 山口県で確認したトンボ (2011 年). 山口のむし, (12) : 97-100.
- 伴 一利, 2013. 山口県で確認したトンボ (2012 年). 山口のむし, (12) : 93-96.
- 伴 一利, 2014. 2012 年及び 2013 年に山口県で確認したトンボ. 山口のむし, (13) : 95-100.
- 伴 一利, 2015a. 山口県で確認したトンボ (2014 年). 山口のむし, (14) : 100-103.
- 伴 一利, 2015b. 標本箱に眠っていたトンボのデータ. 山口のむし, (14) : 104-117.
- 伴 一利, 2016. 山口県のトンボ目録 (2015). 山口のむし, (15) : 127-135.
- 伴 一利, 2017. 山口県で確認したトンボ (2016 年). 山口のむし, (16) : 123-128.
- 伴 一利, 2018. 山口県で確認したトンボ (2017). 山口のむし, (17) : 141-146.
- 伴 一利, 2019. 山口県で確認したトンボ (2018). 山口のむし, (18) : 113-118.
- 伴 一利, 2020. 山口県で確認したトンボ (2019). 山口のむし, (19) : 136-141.
- 伴 一利, 2021. 山口県で確認したトンボ (2020). 山口のむし, (20) : 139-143.
- 伴 一利, 2022a. 山口県で確認したトンボ (2021). 山口のむし, (21) : 145-152.
- 伴 一利, 2022b. 山口県で 2021 年に確認したレッドリスト種. 山口のむし, (21) : 153-155.
- 伴 一利, 2022c. 山口県にベニトンボが定着. 山口のむし, (21) : 157-159.
- 伴 一利, 2023. 山口県で 2022 年に採集確認したハネビロトンボ. 山口のむし, (22) : 88.
- 伴 一利・後藤和夫, 2011. 山口県でのアオビタイトンボの記録. 山口のむし, (10) : 91-92.
- 伴 一利・管 哲郎, 2004. カワトンボの分布調査. 山口のむし, (3) : 76-79.
- 後藤和夫, 2008. 夜間の投下に飛来したトンボ数例. 山口のむし, (7) : 109.
- 後藤和夫, 2013. 2012 年に確認したベニイトトンボ. 山口のむし, (12) : 99.
- 後藤和夫, 2015a. 南方種アオビタイトンボその後の動向. 山口のむし, (14) : 118.
- 後藤和夫, 2015b. 2014 年に確認したベニイトトンボ. 山口のむし, (14) : 119.
- 後藤和夫, 2016. 2015 年に確認したベニイトトンボ. 山口のむし, (15) : 158.
- 後藤和夫, 2021. 山口県で確認した偶産トンボ (2020). 山口のむし, (20) : 163.
- 後藤和夫・管 哲郎・五味 清, 2020. 山口県で確認した偶産トンボの記録. 山口のむし, (19) : 149-152.
- 原 隆, 1994. 宇部市におけるトンボの採集と観察. 山口県の自然, (54) : 18-24., 1p1.
- 原 隆, 1995. 宇部市におけるトンボの採集と観察 (第 2 報). 山口県の自然, (55) : 37-38.
- 原 隆, 1997. 宇部市におけるトンボの採集と観察 (第 3 報). 山口県の自然, (57) : 39.
- 原 隆, 1999. 宇部市におけるトンボの採集と観察 (第 4 報). 山口県の自然, (59) : 23-24.
- 原 隆, 2000. オグマサナエの胸部側面に現れた分岐黒条について. ちょうしゅう, (12) : 12-13.
- 原 隆, 2001a. タイリクアキアカネとオナガアカネの採集について. ちょうしゅう, (13) : 15.
- 原 隆, 2001b. 右前翅の著しく短いマユタテアカネの採集. ちょうしゅう, (13) : 19.
- 原 隆, 2007a. 宇部市でシオカラトンボ♂型♀を採集. 山口のむし, (6) : 97.
- 原 隆, 2007b. 宇部市でオナガアカネを採集. 山口のむし, (6) : 97-98.
- 平田真二, 1993. 宇部市丘陵におけるトボ相報告<第 1 報>, 山口県の自然, (53) : 29-36.
- 弘津義擴, 2002. 宇部市でのキイロヤマトンボの記録. 山口県の自然, (62) : 41.
- 久重克己・伴 一利, 2006. 第 II 章山口県のトンボ (種ごとの解説). 山口県のトンボ : 9-32.
- 保阪健市・優菜・明歩, 2006. 自由研究で採集した山口県産トンボの採集記録 (2003 年~2005 年).

山口のむし, (5) : 87-89.

- 石田昇三ほか, 1998. 日本産トンボ幼虫・成虫図説. 140pp. 東海大学出版会, 東京.
- 管 哲郎, 2005. 低山地に行動するルリボシヤンマの観察例. 山口のむし, (4) : 93-94.
- 管 哲郎, 2007. 宇部市(旧厚狭郡楠町)で確認したトンボ類. 山口のむし, (6) : 89-96.
- 管 哲郎, 2008b. 宇部市(旧楠町)で追加したトンボ類. 山口のむし, (7) : 108.
- 管 哲郎, 2010. 山口県におけるキイロサナエの生息地について. 山口のむし, (9) : 135-137.
- 管 哲郎, 2011a. 山口県におけるヒメサナエの生息状況について. 山口のむし, (10) : 99-104.
- 管 哲郎, 2011b. トンボ類レッドリスト対象種の記録. 山口のむし, (10) : 110-115.
- 管 哲郎, 2012a. 山口県内でのオグマサナエの記録. 山口のむし, (11) : 112-116.
- 管 哲郎, 2012b. マイコアカネ♀の赤色同色型を確認. 山口のむし, (11) : 125.
- 管 哲郎, 2012c. タイリクアカネ連結産卵行動を確認. 山口のむし, (11) : 126.
- 管 哲郎, 2016. 2011年から2015年に山口県で確認したトンボ. 山口のむし, (15) : 136-155.
- 管 哲郎, 2017. 2016年・17年に山口県で確認したトンボのレッドリスト種. 山口のむし, (17) : 160-162.
- 管 哲郎, 2019. キトンボの遅い記録. 山口のむし, (18) : 133.
- 管 哲郎, 2020a. ベニイトトンボの羽化を撮る. 山口のむし, (19) : 143.
- 管 哲郎, 2020b. 南方系のトンボ「リュウキュウベニイトトンボ」宇部市で発見. 山口のむし, (19) : 148.
- 管 哲郎, 2020c. シオカラトンボ羽化の観察記録. 山口のむし, (19) : 145-147.
- 管 哲郎, 2021a. 宇部市でマユタテアカネとマイコアカネの交雑種を発見. 山口のむし, (20) : 157.
- 管 哲郎, 2021b. 山口県のリュウキュウベニイトトンボについて. 山口のむし, (20) : 160-161.
- 管 哲郎, 2021c. アオビタイトンボ生息地追加報告. 山口のむし, (20) : 162.
- 管 哲郎, 2023a. ベニトンボの新産地、追加報告. 山口のむし, (22) : 90.
- 管 哲郎・後藤和夫, 2021. 山口県でベニトンボが発生. 月刊むし, (610) : 4-5.
- 管 哲郎・稲田博夫, 2017. ハッチョウトンボの新たな発見地. 山口のむし, (17) : 151.
- 小坂一章, 2005. 川に棲むオオヤマトンボあり. 山口のむし, (4) : 76-80.
- 日本環境動物昆虫学会編, 2005. トンボの調べ方. 306pp. 文教出版, 大阪.
- 豊田拓也, 2019. ときわ公園でキイロサナエを確認. 山口のむし, (19) : 142.
- 辻本典顯, 2022. 2022年始めに観察したキトンボについて. 山口のむし, (21) : 160.

(3) カゲロウ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から7科17種が記録されているが、系統的な調べではなく詳細は不明である。

参考文献

- 合屋晏秀・脇坂宣尚, 1985. 厚東川の早瀬における底生動物相と水質汚濁階級. 宇部短期大学環境科学研究所報告, (6) : 29-41.
- 後藤益滋, 2016. 1997~2015年に山口県内で採集したカゲロウ目, カワゲラ目, トビケラ目について. 山口のむし, (15) : 196-200.
- 増本育子・中西 毅・若尾拓志・川野敬介, 2008. 豊田町の水生物相. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (1) : 25-38.

(4) カワゲラ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から1科1種が記録されているが、系統的な調べではなく詳細は不明である。

参考文献

水情報国土データ管理センター, 2015. 河川環境データベース. 入手先, 河川環境データベースシステム, <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/03/index.htm>, (参照2022-12-11) .

(5) ナナフシ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から2科4種が記録されている。生態や分布の解明は今後委ねられる。

この中から、タイワントビナナフシについて少し説明する。和名のとおり南方種である。本種は1983年に岩国市で始めて記録されたが、その後、山陽側、山陰側へと分布を拡大し各地から記録が出ている。分布の拡大には家畜の餌としてススキやカヤが県外から持ち込まれたことが関係していると考えられている。宇部市では2002年に発見された。

参考文献

後藤和夫, 2003. 宇部・小野田市で見たタイワントビナナフシ. 山口のむし, (2) : 83.
後藤和夫, 2021. 宇部市で確認したタイワントビナナフシ. 山口のむし, (20) : 138.
日本直翅類学会 (編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 384pp., 学研プラス, 東京.
岡田正哉, 1999. ナナフシのすべて. 56pp., トンボ出版, 大阪.
竹内泰子, 1983. タイワントビナナフシを採集. 昆虫と自然, 18(14) : 13.

(6) バッタ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から8科14種が記録・確認されている。常日頃から見慣れた昆虫類だが、研究対象としていないため、生態を含め詳しいことは今後委ねられる。

この中から、ヤマトマダラバッタについて少し説明する。山陽側と山陰側の海岸の砂浜が棲息地になっているが、海岸の砂浜のどこにでも棲息してなく産地は局限されている。局限される要因については今後の研究課題となる。宇部市では西岐波の限られた海岸の砂浜に棲息している。山口県により準絶滅危惧種に選定されている。

参考文献

福田竹美, 2018. ヤマトマダラバッタの分布調査. 山口のむし, (17) : 132.
後藤和夫, 2020. 山陰・山陽側で確認したヤマトマダラバッタ. 山口のむし, (19) : 130.
柿沼 進, 2009. 海岸でみられる直翅類3種の分布調査 (2007~2008年) . 山口のむし, (8) : 120.
村井貴史・伊藤ふくお, 2011. バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑. 449pp., 北海道大学出版会, 札幌.
日本直翅類学会 (編), 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 687pp., 北海道大学出版会, 札幌.
日本直翅類学会 (編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 384pp., 学研プラス, 東京.
田中 馨, 2004. 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし, (3) : 96-110.

山口むしの会保全委員会調査班, 2010. 宇部市稔小野地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (9) : 173-178.

(7) カマキリ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から1科5種が記録されている。常日頃から見慣れた昆虫類だが、研究対象としていないため生態を含め詳しいことは今後に委ねられる。

この中から、最近急速に、分布拡大する外来種として注目されるムネアカハラビロカマキリについて説明する。2009年以降関東地方から、関西方面で発見されており、山口県では2016年に宇部市内から記録された。その後、小野湖周辺、厚南北、二俣瀬、亀浦あたりでも確認されている。宇部市以外からの報告は2022年現在見あたらないが、注意が必要である。

参考文献

- 福田竹美, 2022. 外来種ムネアカハラビロカマキリを宇部市で確認. 山口のむし, (21) : 187.
福田竹美, 2023. 宇部市のムネアカハラビロカマキリについて. 山口のむし, (22) : 156.
後藤和夫, 2008. オオカマキリ前翅萎縮個体を撮影. 山口のむし, (7) : 111.
管 哲郎, 2018. カマキリの捕食行動観察記録. 山口のむし, (17) : 135-136.
日本直翅類学会 (編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 384pp., 学研プラス, 東京.
田中 馨, 2004. 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし, (3) : 96-110.
田中 馨, 2016. 山口県でムネアカハラビロカマキリを採集. 月刊むし, (550) : 39.

(8) ゴキブリ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。山口県には3科11種が記録されているようだが、市内からは2科3種のみで、この分野の研究者は専門性を有するため山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究に委ねられる。

参考文献

- 日本直翅類学会 (編), 2016. 日本産直翅類標準図鑑. 384pp., 学研プラス, 東京.
田中 馨, 2004. 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし, (3) : 96-110.
辻 雄介, 2019. 山口県のゴキブリ目Blattodea (1). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (11) : 137-146.
山口むしの会保全委員会調査班, 2010. 宇部市稔小野地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (9) : 173-178.
山野勝次, 2011. 昆虫学講座第5回・ゴキブリ目. 文化財の虫菌害, (62) : 32-38.

(9) カメムシ目

2020年~2022年までの3年間に確認してきた種を中心にまとめたが、過去宇部市で記録されていたカメムシ目の全種について集約した結果、54科400種を目録にリストアップすることができた。

これらの種の中から、RDB種として選定されている種や、注目される種について説明する。

(ア) 宇部市内の概況

山地から海までの広大で多様な環境に恵まれた宇部市全域では、このたび、山口県内で記録されているカメムシの約半数が確認された。調査地域は異なるが、前回の平成16年3月の調査報告書記載の18科73種

から大幅に増加した。広大で多様であるがゆえに、今後も調査を継続して行えば、もっと多くの種を確認できるものとする。

(イ) 地域ごとの状況

① 平原岳一帯

この地域は、山地、農耕地が広がっており適度な水環境もあるため、多くの種が確認できるものとする。当該地域の注目すべき種としては、2022年に検小野で確認したツノカメムシ科のハサミツノカメムシが挙げられる。山口県では、標高の高い山で確認される種である。

② 荒滝山周辺

この地域も、山地、農耕地が広がっており適度な水環境もあるため、多くの種が確認できるものとする。当該地域の注目すべき種としては、2021年に登山口の広葉樹で確認されたハネナガウンカ科のマエグロハネナガウンカが挙げられる。日本では確認記録が少ない種で、RDB種に選定している県もある。

③ 霜降岳周辺

霜降岳は、標高250mに満たない低山であるが、山麓には多くの池が点在しており、エコトーンの変化に伴って多くの種が確認できるものとする。当該地域の注目すべき種としては、山口県では絶滅危惧Ⅱ類のセミ科ハルゼミが挙げられる。霜降岳では、マツ林を多く見かけるが、かつては、春から初夏にかけて、ハルゼミが鳴いていたものとするが、2020年～2022年までの調査では、鳴き声を確認していない。なお、山麓の池では、山口県及び環境省準絶滅危惧種のアメンボ科のエサキアメンボが確認されている。

④ 小野湖周辺

小野湖の広大な水域、丸山ダムなど厚東川の恵まれた水環境により、多くの種が確認できるものとする。恵まれた水環境のもと、2021年の調査では、如意寺地区において、環境省準絶滅危惧種のみずむし科のミヤケミズムシが確認されている。また、2022年の調査では、二俣瀬地区で、山口県及び環境省準絶滅危惧種のアメンボ科バシアメンボが確認されている。

特に注目すべき種は、カメムシ科のヒメチャバネアオカメムシである。本種は、山口県において確認報告が少ないカメムシであるが、丸山ダムでの2020年の調査では、10個体以上も確認し、それから2022年までの三年間、生息するネズの実で数多く確認している。そのことから、この丸山ダムは、ヒメチャバネアオカメムシの棲息地であると思われる。実態がよくわからず、レッドデータブックで不明種として扱っている県もある。

⑤ 今富ダム周辺

今富ダムの水環境と周辺の森林により、多くの種が確認できるものとする。特に注目すべき種はないが、2020年の調査では、ヒョウタンナガカメムシ科のヒナナガカメムシ、2021年の調査では、ハナカメムシ科のヒメダルマハナカメムシが確認されている。どちらの種も山口県では、初記録の種である。

⑥ 常盤湖一帯

常盤湖の水環境と周辺のときわ公園の森林により、多くの種が確認できるものとする。注目すべき種としては、環境省絶滅危惧Ⅱ類のサシガメ科のゴミアシナガサシガメが1975年に確認されている。近年では、山口県及び環境省準絶滅危惧種のアメンボ科エサキアメンボが2019年に確認されている。

⑦ 日の山一帯

海水浴場などがあり、海洋性のカメムシの種が確認できるものとする。2020年～2022年までの調査では、確認できなかったが、ツチカメムシ科のハマベツチカメムシを確認できる可能性がある。ハマベツチカメムシ

は、RDB種に選定している県が多く、浜辺という環境が悪化しやすいところに棲息する。過去においては、1965年に宇部市藤曲、1978年に阿知須干拓と、その近辺地区で確認されている。

⑧ 厚東川河口

淡水と海水がまじりあう汽水域もある水環境と周辺の草原により、多くの種が確認できるものとする。この地域では、注目すべき種が多い。山口県情報不足で環境省準絶滅危惧種のカスマカメムシ科クヌギヒイロカスミカメ、山口県絶滅危惧Ⅱ類のセミ科ハルゼミ、山口県情報不足、環境省準絶滅危惧種のカメムシ科ヒラタトガリカメムシ、水生カメムシ類の山口県及び環境省準絶滅危惧種のアメンボ科エサキアメンボ、山口県及び環境省準絶滅危惧種のアメンボ科ババアメンボ、山口県及び環境省絶滅危惧Ⅱ類のアメンボ科イトアメンボ、山口県情報不足、環境省準絶滅危惧種のみずみし科ミゾナシみずみし、及び環境省準絶滅危惧種のコオイムシ科コオイムシなどが、注目すべき種である。

(ウ) まとめ

上記に、地域ごとに注目すべき種を記載したが、その中でも、ヒラタトガリカメムシとコオイムシは、宇部市全域に分布している。数の上では普通種とも考えられるが、かつて宇部市で普通に見られたハルゼミがマツの衰退により激減し、山口県で絶滅危惧Ⅱ類となっていることを考えれば、短期的な数の増減傾向によって、どの種が保全すべき対象となるかの判断は難しい。ビオトープ視点での保全が重要となる。

参考文献

- 相本篤志, 2018. 2017年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (17): 184-190.
- 相本篤志, 2019. 2018年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (18): 159-166.
- 相本篤志, 2020. 2019年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (19): 182-187.
- 相本篤志, 2021. 2020年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (20): 193-198.
- 相本篤志, 2022. 2021年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (21): 199-204.
- 朝比奈正二郎・石原 保・安松京三, 2001. 原色昆虫大図鑑(第Ⅲ巻). 358pp., 北隆館, 東京.
- 後藤和夫, 2003. オオキンカメムシ確認2例. 山口のむし, (2): 80.
- 後藤和夫, 2009. オオキンカメムシ山陰地方にも分布. 山口のむし, (8): 119.
- 後藤和夫, 2011. 県内のキマダラカメムシ追加報告. 山口のむし, (10): 129.
- 原 隆, 2002. 霧降岳でヒメハルゼミを採集. 山口のむし, (1): 67.
- 平嶋義宏・森本 桂(監修), 2008. 新訂原色昆虫大図鑑Ⅲ. 654pp., 北隆館, 東京.
- 伊ヶ崎伸彦, 2015. 山口県で確認したカメムシ類(2012年~2014年). 山口のむし, (14): 127-128.
- 伊ヶ崎伸彦, 2016. 田中 馨氏が山口県で確認したカメムシ類(ヨコバイ亜目, カスマカメムシ科, グンバイムシ科, ハナカメムシ科). 山口のむし, (15): 175-181.
- 伊ヶ崎伸彦, 2016. 山口県で確認したカメムシ類(2015年). 山口のむし, (15): 165-173.
- 伊ヶ崎伸彦, 2016. 山口県で情報不足のカメムシ四種. 山口のむし, (15): 174.
- 伊ヶ崎伸彦, 2017. 山口県レッドリスト選定種のカメムシを確認. 山口のむし, (16): 145-146.
- 伊ヶ崎伸彦, 2021a. 山口県初記録のカメムシ6種. 山口のむし, (20): 167-168.
- 伊ヶ崎伸彦, 2021b. 山口県で確認例が少ないヒメチャバネアオカメムシを多く確認. 山口のむし, (20): 169.
- 伊ヶ崎伸彦, 2022a. 山口県初記録のカメムシ7種. 山口のむし, (21): 163-164.
- 伊ヶ崎伸彦, 2022b. 山口県で確認例が少ないカメムシ17種を確認. 山口のむし, (21): 165-166.
- 伊ヶ崎伸彦, 2022c. 宇部市での確認報告がないカメムシ55種を確認. 山口のむし, (21): 167-170.
- 伊ヶ崎伸彦, 2023a. 山口県初記録のカメムシ6種. 山口のむし, (22): 128-129.
- 伊ヶ崎伸彦, 2023b. カワラムクゲカメムシを確認. 山口のむし, (22): 130.
- 伊ヶ崎伸彦, 2023c. 宇部市での確認報告がないカメムシ11種を確認. 山口のむし, (22): 131.

- 管 哲郎, 2012. 11月にツクツクボウシの生存を確認. 山口のむし, (11) : 132.
- 小川鷹祐, 2020. 山口県初記録, 海浜性のカメムシ2種を採集. 山口のむし, (19) : 159.
- 久保田 孝・久保田光矢, 2002. 宇部市霧降岳で採集したカメムシ2種について. 山口のむし, (1) : 66.
- 久保田 孝・久保田光矢, 2003. 2002年, キマダラカメムシ山口県に北上定着か. 山口のむし, (2) : 76.
- 大木克行, 1999. 山口県におけるヨコヅナサシガメの記録. ちょうしゅう, (11) : 27-30.
- 大木克行, 1999. 山口県とその近県におけるセミ・アメンボ類および大型水生半翅類の記録. ちょうしゅう, (11) : 31-34.
- 大木克行, 2001. 山口県におけるイトアメンボの産地および同所で得られた水生・半水生半翅類. *Rostria*, (50) : 43-46.
- 大木克行, 2002a. ホームページに掲載した山口県産半翅類118種の記録(2001年). 山口のむし, (1) : 58-64.
- 大木克行, 2002b. 山口県から未記録の同翅類32種. 山口県の自然, (62) : 31-38.
- 大木克行, 2003a. トゲミズギワカメムシを宇部市で採集. 山口のむし, (2) : 77.
- 大木克行, 2003b. 山口県および愛媛県で得られたユミアシサシガメ類とアシナガサシガメ類. *Rostria*, (51) : 27-36.
- 大木克行, 2003c. 山口県におけるオモナガコミズムシの記録. 山口県の自然, (63) : 47-48.
- 大木克行・三時輝久, 1995. 山口県の水生半翅類. 山口県立山口博物館研究報告, (21) : 21-34.
- 大木克行・三時輝久, 2001. 山口県のアメンボ類の分布資料と生息環境. 山口県立山口博物館研究報告, (27) : 1-14.
- 田原美桜, 2018. 宇部市二俣瀬の江で確認された水生昆虫. 山口のむし, (17) : 182-183.
- 高井幹夫ほか, 2012. 日本原色カメムシ図鑑(第3巻). 574pp., 全国農村教育協会, 東京.
- 田中 馨, 1999. 「山口県の昆虫」後に追加されたカメムシ. ちょうしゅう, (11) : 24-26.
- 田中 馨, 2006. 平地の灯火に多数飛来したカメムシ2種. 山口のむし, (5) : 101.
- 田中 馨, 2009. 2008年に宇部市で採集したカメムシ類. 山口のむし, (8) : 116-118.
- 田中 馨, 2011. 山口県産カメムシ目(半翅目)の記録. 山口のむし, (10) : 116-128.
- 田中 馨, 2013a. ヒラタトガリカメムシを山口県で採集. 月刊むし, (514) : 3-4.
- 田中 馨, 2013b. 山口県初記録のカメムシ数種. 山口のむし, (12) : 108.
- 田中 馨, 2014. 山口県でヒラタトガリカメムシが異常発生. 月刊むし, (526) : 21.
- 田中 馨, 2018. 山口県絶滅危惧種のカメムシとウンカの記録. 山口のむし, (17) : 181.
- 田中 馨, 2019a. 外来種のマツヘリカメムシを宇部市で採集. 山口のむし, (18) : 144.
- 田中 馨, 2019b. 宇部市でイネカメムシが2年連続灯火に飛来. 山口のむし, (18) : 144.
- 田中 馨, 2020. 2019年に宇部市で採集したカメムシ. 山口のむし, (19) : 160-161.
- 田中 馨・久保田 孝, 2005. 2004年に採集した山口県のカメムシ類. 山口のむし, (4) : 114.
- 田中伸一, 2019. 山口県産半翅目目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告, (11) : 49-136.
- 豊田拓也, 2020. ときわ公園でエサキアメンボを記録. 山口のむし, (19) : 162.
- 豊田拓也, 2023. 宇部市里山ビオトープ二俣瀬における水生甲虫・半翅の記録. 山口のむし, (22) : 126-127.
- 辻 雄介, 2019. 山口県に分布するコナジラミ上科・アブラムシ上科・カイガラムシ上科の目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告, (11) : 151-192.
- 辻 雄介, 2020. 山口県のキジラミ上科(1). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告, (12) : 39-48.
- 山口むしの会保全員会調査班, 2010. 宇部市檜小野地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (9) : 173-178.
- 安永智秀・高井幹夫ほか, 2000. 日本原色カメムシ図鑑. 380pp., 全国農村教育協会, 東京.
- 安永智秀ほか, 2001. 日本原色カメムシ図鑑(第2巻). 350pp., 全国農村教育協会, 東京.

(10) コウチュウ目

コウチュウ目は、昆虫類の中でもとりわけ種類数が多く、鈴木（2022）によると、世界で386,290種、日本列島では132科14,421種（2022年5月8日現在）が報告されており、今も増え続けている。一方、山口むしの会昆虫目録制作委員会（編）（2018）（以下、県目録）によると、山口県全体では3,050種のコウチュウ目が記録されており、およそ日本列島に分布するコウチュウの約5分の1が分布していることになる。本州の西端に位置し気候が温暖であることや、2,000メートル級の高山は存在しないが低地の平野部や里山環境、ブナ林なども有し自然環境豊かな査証であろう。

また、2022年11月末現在で過去に宇部市から文献により報告されているコウチュウ目は83科1,550種になる。およそ山口県産のコウチュウ目の半数が宇部市では記録されている。宇部市は中国山地の山を含まないが、低地の自然環境が豊かなことと、特に調査が行き届いていることによる。

これはひとえに、山口県のコウチュウ目研究の中心人物である宇部市在住の田中 馨氏による功績が大きい。三好・田中（1988）の根拠の中心になった田中 馨氏採集標本が山口県立山口博物館に寄贈され、それらが山口県立博物館（2016）で報告されており、その中で、多くの宇部市産コウチュウ目が報告されている。2000年以降も宇部市内の高層マンションの灯火に誘引されたコウチュウ目を数多く報告（田中，2021ほか）されている。

1,550種の内訳は以下の通りである。

ナガヒラタムシ科1種、ミズスマシ科1種、ハンミョウ科7種、オサムシ科223種、コガシラミズムシ科5種、コツブゲンゴロウ科3種、ゲンゴロウ科20種、ガムシ科17種、エンマムシ科16種、ダルマガムシ科1種、ムクゲキノコムシ科2種、タマキノコムシ科12種、シデムシ科7種、ハネカクシ科178種、センチコガネ科2種、コブスジコガネ科1種、クワガタムシ科6種、アカマダラセンチコガネ科1種、コガネムシ科78種、マルハナノミ科7種、タマムシ科34種、マルトゲムシ科2種、ヒメドロムシ科11種、ドロムシ科1種、チビドロムシ科2種、ナガドロムシ科1種、ヒラタドロムシ科5種、ナガハナノミ科3種、コメツキダマシ科4種、ヒゲブトコメツキ科1種、コメツキムシ科81種、ベニボタル科18種、ホタル科6種、ジョウカイボン科21種、ヒメトゲムシ科1種、カツオブシムシ科11種、ナガシクイムシ科6種、ヒョウホンムシ科7種、キスイモドキ科3種、ムクゲキスイ科3種、コクヌスト科1種、ジョウカイモドキ科10種、サビカッコウムシ科1種、カッコウムシ科7種、オオキスイムシ科1種、オオキノコムシ科20種、ネスイムシ科2種、キスイムシ科8種、ホソヒラタムシ科8種、ヒメハナムシ科3種、チビヒラタムシ科6種、ヒゲボソケキスイ科1種、ケシキスイ科33種、カクホソカタムシ科1種、ミジンムシダマシ科1種、テントウムシダマシ科10種、テントウムシ科50種、ミジンムシ科3種、ヒメマキムシ科6種、コキノコムシ科6種、ツツキノコムシ科5種、キノコムシダマシ科3種、ナガクチキムシ科4種、ハナノミ科3種、オオハナノミ科1種、アトコブゴミムシダマシ科4種、ゴミムシダマシ科72種、クビナガムシ科1種、カミキリモドキ科9種、ツチハンミョウ科5種、アカハネムシ科1種、チビキカワムシ科2種、アリモドキ科18種、ニセクビボソムシ科5種、ホソカミキリムシ科1種、カミキリムシ科102種、ハムシ科133種、ヒゲナガゾウムシ科18種、オトシブミ科20種、ミツギリゾウムシ科7種、オサゾウムシ科7種、イボゾウムシ科4種、ゾウムシ科138種となる。

（ア） 宇部市内の概況

宇部市で記録のあるコウチュウ目83科1,550種の内、環境省および山口県のレッドリスト掲載種は19科53種である。以下に科ごとに掲載種について紹介する。

ミズスマシ科 Gyridae 1種

- ・ミズスマシ *Gyrinus (Gyrinus) japonicus* Sharp, 1873

環境省（VU） 霜降岳の山中の貯水槽で2021年に採集されたのが宇部市初めての記録である（保阪・田村，2022）。そのほか、楠町奥万倉の池で確認している（保阪，未発表）。水質が良好な止水～緩流域で見られ、かつては普通種であったが、現在は全国的に稀な種である（中島ほか，2020）。

ハンミョウ科 Cicindelidae 2種

- ・ヨドシロヘリハンミョウ *Callytron inspeculare inspeculare* (W. Horn, 1904)

環境省（VU）、山口県（CR） 厚東川下流域の干潟が形成されヨシ原が広がる環境に生息するが（柿沼、

2007)、現在までに実際に確認された場所は1か所のみで、2020年から2022年の調査では、確認できなかった。ただ、棲息環境がヨシ原で近づけない場所が広範なため、厚東川河口域のどこかに棲息しているものと思われる。

- ・アイヌハンミョウ *Cicindela (Cicindela) gemmata aino* Lewis, 1891

環境省 (NT)、山口県 (NT) 厚東川中流域の河原で1個体採集された(保阪, 2007) 以外に記録はない。大きな河川の河原に棲息するが、調査が可能で、棲息に適した広い河原が少ないことが理由と考えられる。

オサムシ科 Carabidae 12種

- ・キベリマルクビゴミムシ *Nebria (Paranebria) livida angulata* Bänninger, 1949

環境省 (EN)、山口県 (DD) 1980年に上宇部の池畔で採集された個体(山口県立博物館編, 2016) (以下県博目録)以降確認されていない。

- ・キバネキバナガミズギワゴミムシ *Bembidion (Desarmatocillenus) aestuarii* (S. Uéno & Habu, 1955)

環境省 (VU)、山口県 (DD) 厚東川下流で1965年に採集された古い記録(県博目録)のみである。

- ・キバナガミズギワゴミムシ *Bembidion (Desarmatocillenus) yokohamae* (Bates, 1883)

山口県 (DD) キバネキバナガミズギワゴミムシと1965年に同時同所で記録されている他に、2007年に厚東川の汽水域で採集されている(柿沼, 2008)。厚東川の汽水域に棲息している可能性が高いが、2020年から2022年の調査では確認できていない。

- ・カオルコミズギワゴミムシ *Tachys (Paratachys) kaorutanakai* Habu, 1977

山口県 (DD) 上宇部風呂ヶ迫で田中馨氏によって採集された個体を基に1977年に土生和申氏が新種記載したが、模式産地の環境は、開発により当時の状態を残しておらず、再発見されていない。

- ・ムツモンコミズギワゴミムシ *Tachys (Paratachys) plagiatus shimosa* Tanaka, 1956

山口県 (VU) 宇部市に隣接する山口市阿知須町では2001年頃は多産したが(伴ほか, 2004)、2022年の調査では再発見できなかった。宇部市では東岐波の海岸で1965年に採集された古い記録がある(県博目録)のみだったが、2022年に竹の小島で8月にライトトラップ調査をした折に2個体確認できた(保阪, 2023)。体長約2.8mmと非常に小さく目につきにくい、発生期に海岸近くでライトトラップによる調査を行えば、もう少し分布域が判明するものと思われる。

- ・ハマベゴミムシ *Pogonus (Pogonus) japonicus* Putzeys, 1875

環境省 (NT)、山口県 (DD) 上記ムツモンコミズギワゴミムシや同属のドウイロハマベゴミムシ *P. (P.) itoshimaensis* とともに2001年に山口市阿知須町のきらら浜自然観察公園で多数確認されており(伴ほか, 2004)、2022年の同地での調査で1個体ライトトラップに飛来した個体が確認されている(保阪, 2023)。宇部市では1960年に藤山地区で灯火により採集された記録がある(三好・田中, 1988)のみで、現在は開発により、当時とは環境が悪化しているが、竹の小島周辺や工場地帯の緑地部分などで棲息している可能性は否定できず、調査が必要である。

- ・ウミホソチビゴミムシ *Perileptus (Perileptus) morimotoi* S. Uéno, 1954

環境省 (NT)、山口県 (DD) 厚東川汽水域最上流部にあたる広瀬で2008年に採集されている(柿沼, 2009)。その後確認されていないが採集当時と状況に変化はないので、今も当地に棲息していると考えられる。

- ・ヒラタマルゴミムシ *Cosmodiscus platynotus* (Bates, 1873)

山口県 (DD) 2005年に小松原町のマンションに飛来(田中, 2006)して以来、2020年までに複数回、同地に飛来している(田中, 2021ほか)。市街地のマンションの灯火、もしくはビル風による飛来なので棲息状況は不明であるが、おそらく近辺に棲息地があるものと考えられる。

- ・ヒトツメアオゴミムシ *Callistoides deliciolus* (Bates, 1873)

環境省 (NT) 県博目録に旧楠地区や中山、上宇部などの市街地周辺で1960年代から1970年代にかけての古い記録があるのみで近年は記録がない。

- ・クビナガキベリアオゴミムシ *Chlaenius (Chlaeniellus) prostenus* Bates, 1873
環境省 (DD) 県博目録に1961年から1985年に小野湖周辺や厚東川河原、上宇部などで複数個体記録があるが、近年では記録がない。
- ・タナカツヤハネゴミムシ *Harpalomimetes fukiensis* (Jedlička, 1957)
環境省 (DD) 1965年に宇部市西山で採集された個体が *H. orbicollis* の副模式標本に指定された (Ito, 1995) が、現在、上記のシノニムとされている。県博目録に1961年に上宇部で採集された個体が登録されている。ほか2000年以降、2017年までの複数年で、小松原町のマンションにおいて十数個体が採集されている (田中, 2019)。おそらく、棲息環境は現存しているものと考えられる。
- ・オオトックリゴミムシ *Oodes vicarious* Bates, 1873
環境省 (NT) 県博目録に1961年から1979年にかけて小野湖周辺や上宇部地区などで複数個体記録があり、近年では2003年に小松原町のマンションで採集されている (田中, 2004) が、現在の状況は不明である。

コガシラミズムシ科 3種

- ・クロホシコガシラミズムシ *Halipilus (Liaphlus) basinotatus latiusculus* Nakane, 1985
環境省 (VU) 2019年に船木で採集されている (相本, 2020) ほか、2022年の調査で、里山ビオトープ二俣瀬で確認されている。
- ・キイロコガシラミズムシ *Halipilus (Liaphlus) eximius* Clark, 1863
環境省 (VU) 2017年以降、厚東地区の吉見 (相本, 2018) や二俣瀬地区の木田で記録されている (相本, 2021)。また、2022年の調査でも里山ビオトープ二俣瀬で確認されている。植生の豊かな溜池などが棲息地となっており、市内各地に同様の溜池は多く、安定して棲息しているものと考えられるが、溜池は人の生活と密接に影響を受けやすいので正確な棲息地の把握が重要と考えられる。
- ・マダラコガシラミズムシ *Halipilus (Liaphlus) sharpi* Wehncke, 1880
環境省 (VU) 2020年に小松原町のマンション (田中, 2021) と二俣瀬地区の木田で記録されている (相本, 2021)。キイロコガシラミズムシ同様、植生の豊かな溜池などが生息地であり、今後の調査が重要である。

コツブゲンゴロウ科 2種

- ・キボシチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus bivittis* (Motschulsky, 1859)
環境省 (EN) 2017年に木田で記録された (相本, 2018)。植物が豊富な止水域を棲息地にしているが、産地は局地的でかなり稀な種である (中島ほか, 2020)。
- ・ムモンチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus* sp.
環境省 (VU) 2016年に二俣瀬地区の車地で (相本, 2017)、2017年に吉見で (相本, 2018) で記録している。2022年の調査では、里山ビオトープ二俣瀬で確認されている。植物の豊富な止水域に棲息し、かなり稀な種であるが、現在に至るまで学名が未決定である (中島ほか, 2020)。

ゲンゴロウ科 11種

- ・キベリクロヒメゲンゴロウ *Ilybius apicalis* Sharp, 1873
環境省 (NT) 2020年に小松原町のマンションで採集されている (田中, 2021)。岩国市周東町樋余地 (後藤, 2018)、下関市菊川 (相本, 2018 ほか) などの記録があるが、宇部市の記録は上記の記録のみなので、棲息地は不明である。抽水植物が繁茂する比較的大きな池沼の植生帯に棲息し、西日本では明らかに減少傾向にある (中島ほか, 2020)。
- ・コガタノゲンゴロウ *Cybister (Cybister) tripunctatus lateralis* Fabricius, 1798
環境省 (VU)、山口県 (NT) 2014年以降、宇部市北部の厚東地区、二俣瀬地区、小野地区、楠地区で多数記録されている (後藤, 2015 ほか)。2022年調査では、里山ビオトープ二俣瀬で確認されている。水生植物の豊かな止水域の他、休耕田や水生植物がない水たまりや河川の岸際の植生帯などでもみられる。本土では一時期絶滅寸前だったが、近年になって九州や本州西部では増加しており (中島ほか, 2020)、山口県も同様の傾向である。

- ・クロゲンゴロウ *Cybister (Melanectes) brevis* Aubé, 1838
環境省 (NT)、山口県 (NT) 近年の調査で2015年以降、小野地区 (後藤, 2016) や吉部地区 (相本, 2019) などで確認されている。水生植物の豊富な、やや水温の低い池沼などに棲息し、西日本ではかなり減少している (中島ほか, 2020)。
- ・シマゲンゴロウ *Hydaticus (Guignotites) bowringii* Clark, 1864
環境省 (NT) 2014年以降、宇部市内の北部地域を中心にかんがりの記録があるが (後藤, 2015 など)、近年激減している (中島ほか, 2020) ので、注意が必要である。
- ・マルチビゲンゴロウ *Leiodytes frontalis* (Sharp, 1884)
環境省 (NT) 2017年に吉見で記録された (相本, 2018) 他、北部各地から採集されている (相本, 2020 など)。水質の良好な止水域に棲息し、特にごく浅い植生の間を好む (中島, 2020)。
- ・コマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859
環境省 (NT) 2021年に吉見 (相本, 2022) で記録された。2022年調査では、里山ビオトープ二俣瀬で確認されている。植物が豊かな止水域に棲息し、池沼の岸際や休耕田にできた浅い湿地環境を好む (中島ほか, 2020)。
- ・オオマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus bonvouloiri* Sharp, 1882
環境省 (NT) 2017年に吉見 (相本, 2018) で記録され、その後楠地区 (相本, 2020) でも採集されている。2022年調査では、里山ビオトープ二俣瀬で確認されている。植物が豊かな止水域に棲息し、遷移がやや進み抽水植物が繁茂する富栄養な環境を好む (中島ほか, 2020)。
- ・マルケシゲンゴロウ *Hydrovatus subtilis* Sharp, 1882
環境省 (NT) 2017年に吉見で記録され (相本, 2018)、以後北部の各地や市街地に近い平原でも採集されている (相本, 2019)。コマルケシゲンゴロウ同様の環境に棲息する (中島ほか, 2020)。2022年の調査では、8月に如意寺で行ったライトトラップに飛来した。
- ・ヤギマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus yagii* Kitayama, Mori & Matsui, 1993
環境省 (NT) 2019年に船木で記録された (相本, 2020)。本種もコマルケシゲンゴロウ同様の環境に生息する (中島ほか, 2020)。
- ・ケンゲンゴロウ *Hyphydrus japonicus japonicus* Sharp, 1873
環境省 (NT) 県目録には宇部市の記録があるものの、その根拠となる県博目録を確認すると産地が宇部市焼野となっており、現在の山陽小野田市焼野の誤りと考えられる。本種は下関市菊川で2017年に採集されており (相本, 2018)、本市にも棲息する可能性はあるが現在のところ記録はない。
- ・ルイスツブゲンゴロウ *Laccophilus lewisius* Sharp, 1873
環境省 (VU) 2017年に吉見 (相本, 2018)、2020年に木田 (相本, 2021) で記録されている。植物が豊富な止水域に棲息し、平野部の水質の良好な環境を好む (中島ほか, 2020)。

ガムシ科 5種

- ・チュウブホソガムシ *Hydrochus chubu* Balfour-Browne & M. Satô, 1962
環境省 (VU) 2017年に吉見 (相本, 2018)、2020年に木田 (相本, 2021) で記録されている。平地～丘陵地の止水域に棲息し、水質が良好で植物が豊富な池沼を好む (中島ほか, 2020)。
- ・スジヒラタガムシ *Helochaeres (Hydrobaticus) nipponicus* Hebauer, 1995
環境省 (NT) 2017年に吉見で記録された (相本, 2018)。北部地域各地で記録があるほか、市街地に近い平原でも記録されている (相本, 2019)。2022年調査では、里山ビオトープ二俣瀬で確認されている。止水域に棲息し、水質が良好で植物が豊富な湿地を好む (中島ほか, 2020)。
- ・コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp, 1873)
環境省 (DD) 1977年の古い記録がある他 (県博目録)、2014年の厚東棚井 (後藤, 2016) 以降、2021年の如意寺 (保阪・田村, 2022) など北部地域に多くの記録がある。止水域に棲息し、全国的に減少傾向がある (中島ほか, 2020) が、宇部市の2022年調査では、小学校のプールや沿岸部の竹の小島でのライトト

ラップでも確認できた。

- ・ガムシ *Hydrophilus (Hydrophilus) acuminatus* Motschulsky, 1854
環境省 (NT) コガムシ同様、1977 年の古い記録があるほか (県博目録)、2018 年の西吉部 (相本, 2019)、2021 年の如意寺 (保阪・田村, 2022) の記録があるのみである。止水域に棲息し、かつては普通種として知られたが、1980 年代以降は全国的に減少傾向にある (中島ほか, 2020)。2021 年から 2022 年の調査では如意寺でのライトトラップに多数飛来してきた。
- ・ミュキシジミガムシ *Laccobius (Laccobius) inopinus* Gentili, 1980
環境省 (NT) 吉見で 2017 年に記録された (相本, 2018)。2022 年の調査では、里山ビオトープ二俣瀬で確認されている。平地の水生植物が豊富なごく浅い湿地に棲息する (中島ほか, 2020)。

エンマムシ科 1 種

- ・アラメエンマムシ *Hister salebrosus subsolanus* (Newton, 1991)
山口県 (DD) 2017 年に小松原町のマンションに飛来した個体が唯一の記録である (田中, 2019)。

ハネカクシ科 3 種

- ・オオズウミハネカクシ *Liparocephalus tokunagai* Sakaguti, 1944
環境省 (EN) 西岐波白土海岸の干潮時以外は海水に没するような岩礁のヒジキやアオサが生える根際で採集された (保阪, 2022)。全国的にも極めて産地が少なく、棲息地でも本種が採集できるような微環境はほとんどないので、保護が望まれる。
- ・オオツノハネカクシ *Bledius (Bledius) salsus* Miyatake, 1963
環境省 (DD)、山口県 (DD) 県博目録には 1970 年代の記録が複数あるが、2019 年に小松原町のマンションで 40 年ぶりに記録された (田中, 2021)。かつては塩田に棲息する種として知られたが、塩田の衰退とともに減少し、干拓地などの一部にわずかに棲息しているようだが、本市では棲息状況がつかめていない。
- ・キンボシマルズオオハネカクシ *Agelosus weisei* (Harold, 1877)
山口県 (DD) 2013 年に小松原町のマンションで採集されている (田中, 2019)。2015 年には西隣の山陽小野田市で確認されており (後藤, 2016)、本市でもおそらく棲息しているものと思われる。

クワガタムシ科 1 種

- ・オオクワガタ *Dorcus hopei binodulosus* Waterhouse, 1874
環境省 (VU)、山口県 (DD) 詳細な記録はなく、レッドデータブック山口 (2003) に本市が産地として記録されているのみで、県博目録にも記録は見当たらない。里山環境の樹液のどる樹洞があるようなクヌギの大木を好み、人気があるため採集圧も強く、全国的にも激減している一方、飼育個体の放虫の問題も各地で起きており、本市でも注意が必要である。

コガネムシ科 2 種

- ・クロモンマグソコガネ *Aphodius (Aphodaulacus) variabilis* Waterhouse, 1875
環境省 (NT) 川上の霜降岳へと続く遊歩道で 1961 年に採集された記録があるのみ (県博目録)。
- ・アカマダラハナムグリ *Anthrachophora rusticola* Burmeister, 1842
環境省 (DD)、山口県 (DD) 1959 年の古い記録 (県博目録) 以降、記録がなかったが、60 年ぶりに二俣瀬で確認された (管, 2020)。猛禽類の巣材が発生源になっており、安定して生息している場所は全国的にもほとんどない。

タマムシ科 1 種

- ・キンイロエグリタマムシ 基亜種 *Endelus (Endelus) collaris collaris* (E. Saunders, 1873)
山口県 (NT) 平地から山地のシダ類につくが、県内では限られた地域しか記録はない (県目録)。宇部市から末信や川上、櫛原の記録がある (保阪, 2023)。

ヒメドロムシ科 1 種

- ・ヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis gracilis* Sharp, 1888
環境省 (VU) 2020 年 10 月に二俣瀬で採集された (相本, 2021)。河川の中～下流域の岸際の植生帯や

流木上に棲息する（中島ほか，2020）。

カッコウムシ科 1種

- ・ヤマトヒメメダカカッコウムシ *Neohydnius hozumi* Nakane, 1981

山口県（DD） 2017年5月末から6月にかけて小松原町のマンションに飛来した個体が獲られている（田中，2020）。

テントウムシ科 1種

- ・ジュウクホシテントウ *Anisosticta kobensis* Lewis, 1896

山口県（VU） 県目録には宇部市の記録はないが、2012年に小松原町のマンションに飛来した記録（田中，2019）があるほか、2021年に竹の小島のヨシ原で採集している（保阪・田村，2022）。河口のヨシ原に棲息する種で、竹の小島のヨシ原同様の環境を調査すれば、さらに確認できるものと思われる。

ハナノミ科 1種

- ・クリイロヒゲハナノミ *Macrotomoxia castanea* Pic, 1922

山口県（DD） 小松原町のマンションに夏季、灯火に飛来している。2022年の調査では、6月に如意寺で行ったライトトラップに飛来してきた。

カミキリムシ科 2種

- ・クロソンホソハナカミキリ *Mimostrangalia kurosonensis* (Ohbayashi, 1936)

山口県（DD） 2013年に今富ダム近くで採集されている（後藤，2014）。

- ・ヨツボシカミキリ *Stenygrinum quadrinotatum* Bates, 1873

環境省（EN）、山口県（EN） 県目録に1970年代に上宇部で採集された2例のみで、近年確認されていない。全国的に激減している種で、県内では2000年以降に山口市（柿沼，2008）と光市（池田，2012、福田，2015）で数例記録がある。生態が不明で、採集例はいずれも市街地の灯火に飛来したものである。

ハムシ科 2種

- ・イネネクイハムシ *Donacia (Cyphogaster) provostii* Fairmaire, 1885

山口県（VU） 県目録には1977年に東岐波の灯火で6個体採集した記録があり、最近では2013年に二俣瀬で確認されている（佐伯，2014）。平地～低山地にかけての浮葉植物が豊かな湿地や池沼に棲息している。

- ・キンイロネクイハムシ *Donacia (Donaciomima) japana* Chûjô & Goecke, 1956

環境省（NT）、山口県（NT） 近年では車地で2017年に（辻，2018）、吉見で2017年に確認されている（相本，2018）ほか、2020年に車地で確認されている（保阪・田村，2022）。池沼に自生するミクリ類に依存しているので棲息地は限られるが、棲息地での個体数は少なくない。2022年の調査では、8月に善和で1個体、確認できた。

ゾウムシ科 1種

- ・アカサビシギゾウムシ *Curculio (Curculio) lateritius* Morimoto, 1981

山口県（DD） 2006年から2015年にかけて小松原町のマンションで複数回採集されている（田中，2007ほか）。

（イ） 地域ごとの状況

① 北部（霜降岳、平原岳、荒滝山周辺）

宇部市内には標高の高い山がない中で標高が比較的高く、二次林ではあるが自然度が高いため、低山地に分布の中心がある種が棲息している。レッドリスト掲載種では、ミズスマシ、アカマダラハナムグリ（確認は二俣瀬）、クロソンホソハナカミキリ（確認は今富ダム）が確認できたが、クロモンマグソコガネは近年確認できていない。レッドリスト掲載種以外では、スジクワガタやジュウシチホシハナムグリ（後藤，2009）などが近年当地で確認できた。

② 北部(旧楠町、小野、二俣瀬、厚東地区)

水田が多いため、溜池が多く止水域に分布する種が多く棲息している。レッドリスト掲載種では近年以下の種が確認できた。

クロホシコガシラミズムシ、キイロコガシラミズムシ、マダラコガシラミズムシ、キボシチビコツブゲンゴロウ、ムモンチビコツブゲンゴロウ、コガタノゲンゴロウ、クロゲンゴロウ、シマゲンゴロウ、マルチビゲンゴロウ、コマルケシゲンゴロウ、オオマルケシゲンゴロウ、マルケシゲンゴロウ、ヤギマルケシゲンゴロウ、ルイスツブゲンゴロウ、チュウブホソガムシ、スジヒラタガムシ、コガムシ、ガムシ、ミュキシジミガムシ、イネネクイハムシ、キンイロネクイハムシ

これらの多くは、放棄水田の湿地や管理されなくなった溜池で多く確認され、植生の遷移が進み、草地化することも考えられるので、注意が必要である。

また、里山環境が保存されており、2021年の調査で、アカマダラセンチコガネやヒメコブスジコガネなどが確認された(保阪・田村, 2022)。

③ 小野湖周辺～厚東川中流域

大きな河川の河原に依存する種が多く棲息している。レッドリスト掲載種では、アイヌハンミョウ、ヨコミゾドロムシが確認できたが、クビナガキベリアオゴミムシについては近年確認できていない。2021年の調査では、カワバナガエハネカクシやツマアカカワバナガエハネカクシなどが確認された(保阪, 2022)。

④ 厚東川下流域(竹の小島を含む)

大きな河川の干潟周辺に発達するヨシ原や干潟の転石下などに棲息する種が確認できる。レッドリスト掲載種では、ヨドシロヘリハンミョウ、キバナガミズギワゴミムシ、ウミホソチビゴミムシ、ジュウクホシテントウ、ムツモンコミズギワゴミムシが確認されている。キバネキバナガミズギワゴミムシ、ハマベゴミムシ、オオツノハネカクシなどのレッドリスト掲載種は近年確認できていないが、生息の可能性があり、さらに詳細な調査が望まれる。

⑤ 西岐波～東岐波海岸

クロマツの海岸林があり、砂浜の海岸に岩場がところどころ発達している。砂浜の潮上帯以上には海浜植物が生え、飛沫帯には海藻などの海岸ゴミが打ち上げられている。レッドリスト掲載種では、オオズウミハネカクシが確認された。レッドリスト掲載種以外では、ヒョウタンゴミムシやオサムシモドキ(保阪・田村, 2022)、シロスジコガネ(角田, 2015)などの海岸性甲虫が多く確認された。

⑥ 市街地及び周縁部

雑木林や水田などのいわゆる里山的環境が市街地近くに多いことから、走光性昆虫が灯火に飛来したり、強風などで運ばれてきたりするなど、意外に多くの種の確認がある一方、キベリマルクビゴミムシやヨツボシカミキリ、オオクワガタなど、近年では確認できない種が多い。レッドリスト掲載種では、タナカツヤハネゴミムシ、オオトクリゴミムシ、マダラコガシラミズムシ、キベリクロヒメゲンゴロウ、オオツノハネカクシといった走光性昆虫が確認された。

(ウ) まとめ

過去に宇部市に記録のある53種の環境省および山口県レッドリスト掲載種について中心に、本市の甲虫類の現在の状況を含めて概要をまとめた。また、6地域に分けて地域ごとの状況を述べた。

本市のクワチュウ目の大きな特徴は、里山環境、特に水質が良く水生植物の豊富な止水域に依存する種が多いことである。また、瀬戸内海に面し、厚東川が流れ込み広大な干潟を形成することから、そういった内湾干潟環境に依存する種も重要である。これらはいずれも、人がその棲息環境に影響を与えることが大きい

種ばかりであることから、人の生活と環境保護の両立という観点での保護活動が重要であろう。

今回の調査において新しい知見を数多く得ることができた一方、調査不足や調査方法の偏りは否めず、今後の更なる詳細な調査が必要であると痛感している。

参考・引用文献および参考HP

- 相本篤志, 2017. 山口県初記録となるセマルガムシ属2種について. 山口のむし, (16) : 109-110.
- 相本篤志, 2017. 山口県におけるムモンチビコツブゲンゴロウの記録. 山口のむし, (16) : 117.
- 相本篤志, 2018. 2017年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (17) : 184-190.
- 相本篤志, 2019. 2018年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (18) : 159-166.
- 相本篤志, 2020. 2019年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (19) : 182-187.
- 相本篤志, 2021. 2020年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (20) : 193-198.
- 相本篤志, 2022. 2021年に山口県内で確認した水生昆虫類. 山口のむし, (21) : 198-204.
- 相本篤志・井上大輔・伊藤 昂, 2022. 山口県におけるサンインヒメツヤドロムシの初記録. さやばねニューシリーズ, (46) : 17-18.
- 伴 一利・後藤和夫・原 隆・原田量介・管 哲郎・久保田光矢・三時輝久・椋木博昭・岡 耿一郎・大木克行・田中 馨・田中伸一・濱崎詔三郎, 2004. 山口県立きらら浜自然観察公園の昆虫相 (2001年~2002年). 中国昆虫, (17) : 39-54.
- 藤谷美文・田中 馨, 2006. 山口県のチビシデムシ目録. 山口県の自然, (66) : 39-44.
- 福田竹美, 2015. 光市におけるヨツボシカミキリ採集例. 山口のむし, (14) : 97.
- 後藤和夫, 2004. 宇部市迫条でタマムシを採集. 山口のむし, (3) : 59.
- 後藤和夫, 2005. ブタクサハムシの新たな生息地. 山口のむし, (4) : 70-71.
- 後藤和夫, 2005. トウキョウヒメハンミョウ宇部・小野田・下関市の採集例. 山口のむし, (4) : 72.
- 後藤和夫, 2009. 第4章 昆虫. pp. 39-102. 宇部市自然環境調査報告書 (楠地域). 宇部市環境部環境共生課 (編), 宇部.
- 後藤和夫, 2009. ブタクサハムシの追加記録 (2008年). 山口のむし, (8) : 75-76.
- 後藤和夫, 2010. ブタクサハムシの追加記録 (2009年). 山口のむし, (9) : 114.
- 後藤和夫, 2011. ナミテントウの斑紋異常型を確認. 山口のむし, (10) : 85-86.
- 後藤和夫, 2013. タケトゲハムシの動向. 山口のむし, (12) : 84.
- 後藤和夫, 2014. クロソンホソハナカミキリ今富ダムで確認. 山口のむし, (13) : 88.
- 後藤和夫, 2015. 2014年に確認したゲンゴロウ数種. 山口のむし, (14) : 94.
- 後藤和夫, 2016a. 2015年に確認したゲンゴロウ数種. 山口のむし, (15) : 118-119.
- 後藤和夫, 2016b. 水生甲虫類のコガムシは普通種か. 山口のむし, (15) : 119.
- 後藤和夫, 2016c. 南方種ヨツモンカメノコハムシ県内各地に分布か. 山口のむし, (15) : 124.
- 後藤和夫, 2016d. 2015年に確認したタケトゲハムシ. 山口のむし, (15) : 125.
- 後藤和夫, 2016e. キンボシハネカクシ山陽小野田市で確認. 山口のむし, (15) : 126.
- 後藤和夫, 2017a. 山口県のコガタノゲンゴロウの状況. 山口のむし, (16) : 111.
- 後藤和夫, 2017b. 2016年に確認したゲンゴロウ数種. 山口のむし, (16) : 112.
- 後藤和夫, 2018a. 山口県で確認したコガムシ (2017). 山口のむし, (17) : 96.
- 後藤和夫, 2018b. コガタノゲンゴロウ2017年の調査結果と気づき. 山口のむし, (17) : 112-113.
- 後藤和夫, 2018c. 2017年に確認したゲンゴロウ数種と気づき. 山口のむし, (17) : 115-116.
- 後藤和夫, 2019a. 宇部市の常盤公園でヨツモンカメノコハムシを採集. 山口のむし, (18) : 79.
- 後藤和夫, 2019b. 県内で確認したコガムシ (2018). 山口のむし, (18) : 104.
- 後藤和夫, 2019c. 2018年に確認したゲンゴロウ数種と気づき. 山口のむし, (18) : 106.
- 後藤和夫, 2021. コガムシ宇部市二俣瀬で確認. 山口のむし, (20) : 133.

- Habu, A., 1977. Two New Species of Ground Beetles from Honshu, Japan (Coleoptera, Carabidae). *Entomological Review of Japan*, 30 (1/2) : 35-40.
- Habu, A., 1978. Some Rare Species of Ground-Beetles found by Mr. S. Kasahara in the Ryukyus (Coleoptera, Carabidae). *Entomological Review of Japan*, 32 (1/2) : 61-80.
- 原 隆, 2002. 宇部市でタマムシを採集. *山口のむし*, (1) : 53.
- 保阪健市, 2007. 2006年に山口県各地で採集したコウチュウ類. *山口のむし*, (6) : 33-41.
- 保阪健市, 2008. 2007年に山口県各地で採集したコウチュウ類. *山口のむし*, (7) : 47-63.
- 保阪健市, 2009. 2008年に山口県各地で採集したコウチュウ類. *山口のむし*, (8) : 55-63.
- 保阪健市, 2010a. 2009年に山口県各地で採集したコウチュウ類. *山口のむし*, (9) : 82-95.
- 保阪健市, 2010b. モグラの坑道で採集されたチビシデムシ類. *山口のむし*, (9) : 96.
- 保阪健市, 2018a. 山口県のハネカクシ科資料①. *山口のむし*, (17) : 117-124.
- 保阪健市, 2018b. 山口県各地で2009年から2017年に採集した記録の少ない甲虫類. *山口のむし*, (17) : 125-131.
- 保阪健市, 2019. 山口県のハネカクシ科資料②. *山口のむし*, (18) : 70-74.
- 保阪健市, 2020. 山口県のハネカクシ科資料③. *山口のむし*, (19) : 96-102.
- 保阪健市, 2021a. 2020年までに山口県各地で採集した甲虫類. *山口のむし*, (20) : 101-105.
- 保阪健市, 2021b. 山口県のハネカクシ科資料④. *山口のむし*, (20) : 106-111.
- 保阪健市, 2022. 山口県のハネカクシ科資料⑤. *山口のむし*, (21) : 124-128.
- 保阪健市, 2023a. 山口県の甲虫類分布資料. *山口のむし*, (22) : 92-95.
- 保阪健市, 2023b. 山口県のハネカクシ科資料⑥. *山口のむし*, (22) : 96-98.
- 保阪健市・田村竜土, 2022. 宇部市で採集した甲虫類. *山口のむし*, (21) : 119-124.
- 池田一喜, 2012. 光市におけるヨツボシカミキリの採集記録. *山口のむし*, (11) : 91.
- Ito, N., 1995. Species of the Genus *Harpalomimetes* (Coleoptera, Carabidae, harpalini). *Elytra*, 23 (2) : 267-282.
- 柿沼 進, 2007. ヨドシロヘリハンミョウ新産地の報告, および山口県における生息状況. *山口のむし*, (6) : 43-44.
- 柿沼 進, 2008. 山口市で採集した甲虫類 (2005年から2007年調査). *山口のむし*, (7) : 35-39.
- 柿沼 進, 2009. 山口県の甲虫類分布記録 -2008年調査-. *山口のむし*, (8) : 71-72.
- 管 哲郎, 2019. 記録の少ないカミキリムシ2種. *山口のむし*, (18) : 81.
- 管 哲郎, 2020. 珍しいコガネムシ「アカマダラハナムグリ」を宇部市で採集. *山口のむし*, (19) : 110.
- 管 哲郎, 2020b. 宇部市内で確認したカミキリムシ4種. *山口のむし*, (19) : 113.
- 川元 裕, 2004. 宇部市におけるスオウヒメオサムシ調査結果. *山口のむし*, (3) : 61.
- 川野敬介, 2008. 山口県におけるホタル類とその分布. 豊田ホタルの里ミュージアム研究報告書, (1) : 1-23.
- 岸井 尚, 2004a. 山口博物館所蔵のコメツキムシ. 山口県立山口博物館研究報告, (30) : 53-90.
- 岸井 尚, 2004b. 椋木博昭氏蒐集の西南日本のコメツキムシ. 山口県立山口博物館研究報告, (30) : 91-104.
- 岸井 尚, 2004c. 田中 馨氏蒐集の山口県のコメツキムシ. 山口県立山口博物館研究報告, (30) : 105-143.
- 久保田 孝・久保田光矢・久保田文子, 2004. 2003年に採集した山口県の甲虫類. *山口のむし*, (3) : 111-112.
- 久保田 孝・久保田光矢・久保田文子, 2005. 2004年に採集した山口県の甲虫類. *山口のむし*, (4) : 68-69.
- 三好和雄・田中 馨, 1988. 鞘翅目. pp. 44-45, 126-187, pls. 26-29. 山口県の昆虫. 山口県立山口博物館 (編), 山口.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. *ネイチャーガイド-日本の水生昆虫-*. 351pp., 文一総合出版, 東京.
- 佐伯真一, 2014a. 宇部市二俣瀬のイネネクイハムシ. *山口のむし*, (13) : 90.
- 佐伯真一, 2014b. 宇部市二俣瀬にてハラグロオオテントウを撮影. *山口のむし*, (13) : 90.
- 角田正明, 2015. 山口県産所蔵標本のリストについて. *山口のむし*, (14) : 162-169.

- 鈴木 茂, 2022. 日本列島の甲虫全種目録 (2022年). <https://japanesebeetles.jimdofree.com/>
- 田原美桜, 2018. 宇部市二俣瀬の江で確認された水生昆虫. 山口のむし, (17) : 182-183.
- 田村竜土, 2020. 山口県の昆虫目録2018に未掲載のコウチュウ6種. 山口のむし, (19) : 111-112.
- 田村竜土, 2021. 山口県の昆虫目録2018に未掲載のコウチュウ22種. 山口のむし, (20) : 117-121.
- 田中 馨, 1975a. 山口県の甲虫類 (1). 北九州の昆蟲, 21 (1) : 15-20.
- 田中 馨, 1975b. 山口県の甲虫類 (2). 北九州の昆蟲, 21 (2) : 43-48.
- 田中 馨, 1975c. 山口県の甲虫類 (3) ハネカクシ主科. 北九州の昆蟲, 21 (3) : 65-70.
- 田中 馨, 1976a. ムモンズジバネゴミムシ本土初記録. 北九州の昆蟲, 22 (2) : 40.
- 田中 馨, 1976b. 山口県産ゴミムシの珍種. 昆虫と自然, 11 (3) : 28.
- 田中 馨, 1994. 山口県の甲虫類. 昆虫と自然, 29 (14) : 24-25.
- 田中 馨, 2004. 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし, (3) : 96-110.
- 田中 馨, 2005a. 山口県のアカハネムシ科. 山口のむし, (4) : 54-55.
- 田中 馨, 2005b. 山口県のコウチュウ類分布資料 (2004年). 山口のむし, (4) : 56.
- 田中 馨, 2006. 宇部市で記録されたゴミムシ2種. 山口のむし, (5) : 43.
- 田中 馨, 2007a. 宇部市の昆虫類分布資料 (2005~2006年). 山口のむし, (6) : 47-48.
- 田中 馨, 2007b. 甲虫の異常個体2例の記録. 山口のむし, (6) : 50.
- 田中 馨, 2008. 宇部市北部 (旧楠町) のコウチュウ類. 山口のむし, (7) : 45-46.
- 田中 馨, 2010a. 宇部市の高層マンションに飛来したコウチュウ類 (2003年~2009年のまとめ). 山口のむし, (9) : 97-109.
- 田中 馨, 2010b. シコクフタホシヒメテントウ宇部市での記録. 山口のむし, (9) : 109.
- 田中 馨, 2011. 山口県産のベニボタル科新リスト (1). 山口のむし, (10) : 87-89.
- 田中 馨, 2012. 山口県産のベニボタル科新リスト (2). 山口のむし, (11) : 77-79.
- 田中 馨, 2017. 山口県でモンクチビルテントウを採集. 月刊むし, (551) : 59.
- 田中 馨, 2019. 宇部市の高層マンションに飛来したコウチュウ類 (2010~2018). 山口のむし, (18) : 93-100.
- 田中 馨, 2021. 宇部市の高層マンションに飛来したコウチュウ類 (2019~2020年). 山口のむし, (20) : 112-115.
- 田中 馨・松田 潔, 2015. 山口県産ベニボタル科甲虫の記録. 山口県の自然, (75) : 43-52.
- 田中 馨・椋木博昭・安田正利, 1999. 「山口県の昆虫」以後に採集された甲虫類. ちょうしゅう, (11) : 17-24.
- 田中伸一, 2017. 山口県初記録または記録の少ない甲虫類 (2). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (9) : 57-62.
- 田中伸一, 2018. 山口県産ゴミムシダマシ科の分布記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10) : 85-106.
- 田中伸一, 2020. 山口県産ジョウカイボン科の採集記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (12) : 61-70.
- 田中伸一, 2021. 山口県産ジョウカイボン科の採集記録 (II). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (13) : 67-83.
- 田中伸一・椋木博昭・川野敬介, 2014. 山口県産ゾウムシ上科の分布記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (6) : 31-103.
- 辻 雄介, 2017. 山口県初記録および記録の少ない湿地性ゾウムシ類4種の記録. 山口のむし, (16) : 104-105.
- 辻 雄介, 2018. 2017年に山口県で採集したネクイハムシ類3種の記録. 山口のむし, (17) : 102-103.
- 辻 雄介, 2020. 2014年~2019年に山口県内で採集したゴミムシダマシ科. 山口のむし, (19) : 103-106.
- 山口むしの会保全委員会調査班, 2010. 宇部市稔小野地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (9) : 173-178.

(11) ラクダムシ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から1科1種が記録されているが、断片的なもので詳細は不明である。

参考文献

田中 馨, 2019. 山口県でラクダムシとキスジラクダムシの記録. 山口のむし, (18) : 158.
山口むしの会稀少昆虫類選定委員会, 2011. 山口県の昆虫類レッドリスト2011. 198pp., 山口むしの会.

(12) ヘビトンボ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から2021年になり初めて1科1種が記録されているが、断片的なもので詳細は不明である。

参考文献

福田竹美, 2022. タイリククロスジヘビトンボの確認記録. 山口のむし, (21) : 192.

(13) アミメカゲロウ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から3科4種が記録され、確認されている。カマキリモドキやツノトンボなど形態の特徴のある種も居るが、ほとんど未報告で記録としては無い。

参考文献

後藤和夫, 2021. アミメカゲロウ目三種の記録. 山口のむし, (20) : 185.
山内健生・柿沼 進, 2018. 山口県の海浜におけるウスバカゲロウ科3種の記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10) : 1-3.

(14) ハチ目

2020年から2022年までの3年間に確認できた種および過去宇部市で記録されていたハチ目の全種について集約した結果、25科223種をリストアップすることができた。

(ア) 宇部市の調査の概況

ハチ目においては棲息域がほぼハエ目と重なっているが、確認作業は森林の樹木の樹液、草地の草花、つる性の花、花壇に植えられた園芸花や植木の花、森林周辺に自生する草花、林道や農道などの裸地や落ち葉の堆積したところ、法面や斜面の土壌などで行った。

(イ) 地域ごとの状況

① 荒滝山・日ノ岳（東吉部、荒滝、今小野）

美祢市との境界に位置し林業や農業(水田が多い)が営まれており、農家の周辺に植えられた花や農道脇に多く見られる草花によく集まるが、樹木の花にも多くのハチ類が集まるので、花の開花時期には特に注意を払い観察した。

確認した種類は44種でその内訳は以下のとおりである。

イヌノフグリハバチ、セグロカブラハバチ、カブラハバチ、ルリチュウレンジハバチ、クロハバチ、メス

グロキモンハバチ、コキモンハバチ、カタアカスギナハバチ、チビキアシヒラタヒメバチ、ミノオキイロヒラタヒメバチ、キアシプトコバチ、ベッコウクモバチ、フトカギチビドロバチ、キオビチビドロバチ、クチビロハムシドロバチ、ケブカスジドロバチ、スズバチ、ムモントックリバチ、キボシアシナガバチ、ツルガハキリバチ、キンケハラナガツチバチ、オオモンツチバチ、イワタギングチ、ヒメコオロギバチ、リュウキウコオロギバチ、コアシナガバチ、オオスズメバチ、キイロスズメバチ、クロスズメバチ、アカガネコハナバチ、ヤマトムカシハナバチヤドリ、ニッポンヒゲナガハナバチ、シロスジヒゲナガハナバチ、ヤマトヒメハナバチ、ナミルリモンハナバチ、ツルガハキリバチ、コキマダラハナバチ、ハリマキマダラハナバチ、アシプトムカシハナ、キムネクマバチ、スジボソフトハナバチ、コマルハナバチ、クロマルハナバチ、ニホンミツバチ

② 平原岳周辺（小野、藤河内、椋小野）

山口市との境に位置し、農村地帯である。水田も多いし手入れも行き届いた地域であり、調査はやりやすいが、反面イノシシやサルの出没が多いようである。水田地帯と森林地帯の間にはウメやサクラ、クリ林などが多く、花の時期には多くのハチ類が集まる。花の時期以外にも樹木を住みかとする甲虫の幼虫などを狙って集まるハチ類も多く、終年目が離せない。

確認した種類は75種でその内訳は以下のとおりである。

ウツギハバチ、キイロハバチ、クロハバチ、クロムネハバチ、チュウレンジハバチ、アカスジチュウレンジ、ルリチュウレンジハバチ、カブラハバチ、ハルニレハバチ、ニホンカブラハバチ、セグロカブラハバチ、イヌノフグリハバチ、ツノキナガラビハバチ、イヨヒメバチ、マダラヒメバチ、コンボウアメバチ、ウマノオバチ、ヒメウマノオバチ、ムネアカツヤコマユバチ、オオコンボウヤセバチ、コクロアナバチ、オオハヤバチ、アルマンアナバチ、ベッコウクモバチ、アオスジクモバチ、ナミコオロギバチ、カバオビドロバチ、ケブカスジドロバチ、キオビチビドロバチ、ハグロフタオビドロバチ、スズバチ、オオモンツチバチ、オオハラナガツチバチ、ヒメハラナガツチバチ、キンケハラナガツチバチ、ミカドトックリバチ、ムモントックリバチ、キボシトックリバチ、キアシトックリバチ、ニッポンヒゲナガハナバチ、シロスジヒゲナガハナバチ、サトジガバチ、オオジガバチモドキ、ヤマジガバチ、ミカドジガバチ、フタホシアリバチ、キボシアシナガバチ、コアシナガバチ、セグロアシナガバチ、オオスズメバチ、クロスズメバチ、キイロスズメバチ、コガタスズメバチ、マルモンツチスガリ、ミツクリフシダカヒメハナバチ、ニッポンキマダラハナバチ、ヤマトムカシハナバチヤドリ、アカガネコハナバチ、ナミルリモンハナバチ、アオスジハナバチ、バラハキリバチ、ツルガハキリバチ、サカガミハキリバチ、イマイツツハナバチ、キムネクマバチ、オオマルハナバチ、コマルハナバチ、クロマルハナバチ、キオビツヤハナバチ、コムカシハナバチ、アシプトムカシハナバチ、スジボソフトハナバチ、ケブカコシプトハナバチ、セイヨウミツバチ、ニホンミツバチ

③ 今富ダム周辺（奥万倉、西吉部）

山も深く広く調査はすべての区域での調査は十分に行われていない。ダム湖に流れ込む溪流が2本あるが、両方ともに水田農地が多くあり、桜並木、畑地や果樹園なども見られる。樹木の花の咲く時期や、春～夏～秋にかけ草地に咲く草花も多く、定点調査する場所にはこだわらず調査した。

確認した種類は13種でその内訳は以下のとおりである。

セグロカブラハバチ、ニッポンカブラハバチ、ルリチュウレンジハバチ、ホソトゲアシクモバチ、オオフタオビドロバチ、ヒメハナバチ、ヒメキマダラハナバチ、ナミコオロギバチ、ヒメコオロギバチ、リュウキウコオロギバチ、シロスジカタコハナバチ、キムネクマバチ、ニホンミツバチ

④ 小野湖周辺（芦河内、如意寺、櫛原）

ダム湖の周回道路があり広範囲を調査した。周辺には田園地域が広がっており、同じようなハチ目が見られたが、その地区内の公園である「アクトビレッジ小野」には花畑が管理されており、ハーブ園にいろんなハチ類を見ることができた。定点観測地点の一つとなった。

確認した種類は6種でその内訳は以下のとおりである。

イヨヒメバチ、キイロコウライコマユバチ、ルリモンハナバチ、アシプトムカシハナバチ、スジボソフハナバチ、ツルガハキリバチ

⑤ 船木地区周辺（船木、万倉、西万倉、矢矯）

郊外の田園地帯であるが、水田以外に畑地が多くあり、神社の周辺に花畑があつたり花の咲く樹木（庭木）が植えられており、ハチ目の昆虫類がまざまざ集まった。

確認した種類は23種でその内訳は以下のとおりである。

カブラハバチ、ニホンカブラハバチ、セグロカブラハバチ、イヌノフグリハバチ、オオホシオナガバチ、ニッポンハヤバチ、リュウキュウコオロギバチ、オオシロフクモバチ、ナミヒメクモバチ、キンケハラナガツチバチ、ヒメハラナガツチバチ、ミカドトックリバチ、トゲムネアリバチ、アカガネコハナバチ、ハラアカヤドリハキリバチ、ウツギヒメハナバチ、ニホンヒゲナガハナバチ、キムネクマバチ、ヒメキマダラハナバチ、コムカシハナバチ、イマイツツハナバチ、アオスジハナバチ、ニホンミツバチ

⑥ 霜降岳周辺（善和、持世寺、末信、川上）

市民のハイキングに多く利用される山地だが、周辺には水田が広がり農道も管理されており、調査はしやすい地区である。農道脇の草花や果樹木を目あてに調査するしかないが、まざまざのハチ目に出会えた。

確認した種類は60種でその内訳は以下のとおりである。

カブラハバチ、ニホンカブラハバチ、セグロカブラハバチ、イヌノフグリハバチ、コシアキハバチ、ルリチュウレンジハバチ、クロアナバチ、オオシロフクモバチ、ツマアカクモバチ、オデコフタオビドロバチ、ケブカスジドロバチ、オオフタオビドロバチ、キオビチビドロバチ、スズバチ、ミカドトックリバチ、キアシトックリバチ、キボシトックリバチ、ムモントックリバチ、サトジガバチ、ヒメコオロギバチ、ナミコオロギバチ、リュウキュウコオロギバチ、ヤマトルリジガバチ、キンケハラナガツチバチ、ヒメハラナガツチバチ、オオスズメバチ、コガタスズメバチ、クロスズメバチ、キイロスズメバチ、ヤマトアシナガバチ、コアシナガバチ、セグロアシナガバチ、アカガネコハナバチ、アオスジコハナバチ、アトジマコハナバチ、フタモンカタコハナバチ、ウツギヒメハナバチ、ヤマトヒメハナバチ、ヤヨイヒメハナバチ、ハラナガツヤコハナバチ、ニッポンヒゲナガハナバチ、シロスジヒゲナガハナバチ、ヒメキマダラハナバチ、ケブカコシプトハナバチ、スジボソフハナバチ、コムカシハナバチ、アオスジハナバチ、ツツハナバチ、イマイツツハナバチ、ムラカミツツハナバチ、サカガミハキリバチ、クズハキリバチ、ヤノトガリハナバチ、ハラアカヤドリハキリバチ、ナミルリモンハナバチ、キムネクマバチ、コマルハナバチ、クロマルハナバチ、ニホンミツバチ、セイヨウミツバチ

⑦ 厚東川周辺（棚井、温見、吉見、車地、瓜生野、木田、広瀬、沖の旦）

厚東川を中心とした田園地帯。土手や農地、林地と入り交り、畑地や雑草地、農作物や果樹園などがあり、いろいろな昆虫に出会える豊かな地域であった。確認した種類は87種でその内訳は以下のとおりである。

アケビコンボウハバチ、チュウレンジハバチ、アカスジチュウレンジ、ルリチュウレンジ、ハグロハバチ、クロハバチ、クロムネハバチ、ニホンカブラハバチ、カブラハバチ、セグロカブラハバチ、イヌノフグリハバチ、キコシホソハバチ、マダラヒメバチ、ウマノオバチ、ヒメウマノオバチ、キアシプトコバチ、シリアゲコバチ、クロアナバチ、コクロアナバチ、カバオビドロバチ、ミナミカバフドロバチ、エントツドロバチ、オオフタオビドロバチ、ミカドドロバチ、ケブカスジドロバチ、カタグロチビドロバチ、スズバチ、キボシトックリバチ、ミカドトックリバチ、ムモントックリバチ、サトジガバチ、ミカドジガバチ、オオモンクロクモバチ、オオシロフクモバチ、ベッコウクモバチ、トゲアシオオクモバチ、アカゴシクモバチ、ヒメコオロギバチ、ナミコオロギバチ、リュウキュウコオロギバチ、ヒメハラナガツチバチ、キンケハラナガツチバチ、フタホシアリバチ、オオスズメバチ、コガタスズメバチ、キイロスズメバチ、ヒメスズメバチ、クロス

ズメバチ、セグロアシナガバチ、ヤマトアシナガバチ、キアシナガバチ、アカガネコハナバチ、ニッポンヒゲナガハナバチ、シロスジヒゲナガハナバチ、フタホシアリバチ、ナミハセイボウ、ハラアカヤドリハキリバチ、ヤノトガリハナバチ、ヒロバトガリハナバチ、バラハキリバチ、イマイツツハナバチ、ムラカミツツハナバチ、ムナカタハキリバチ、ツルガハキリバチ、サカガミハキリバチ、スミスハキリバチ、クズハキリバチ、オオハキリバチ、アカガネコハナバチ、アオスジハナバチ、ズマルコハナバチ、ヤマトヒメハナバチ、ウツギヒメハナバチ、コガタウツギヒメハナバチ、ヤヨイヒメハナバチ、ナミルリモンハナバチ、シロスジカタコハナバチ、コマルハナバチ、クロマルハナバチ、ケブカコシブトハナバチ、スジボソフトハナバチ、ニッポンキマダラハナバチ、ダイミョウキマダラハナバチ、ヒメキマダラハナバチ、キムネクマバチ、ニホンミツバチ、セイヨウミツバチ

⑧ 厚東川河口周辺（妻崎開作、中川遊水地、竹の小島、ヒヌマイトトンボ代替地）

もともと埋め立て地であり、沖には広大な埋め立て湿原地が広がる。中川遊水地を中心にした汽水域であり、ハチ目はある程度限定されるが、狩人バチを中心としたそれなりの種類が確認できた。

確認した種類は44種でその内訳は以下のとおりである。

セグロカブラハバチ、ニホンカブラハバチ、ルリバラハバチ、クロハバチ、イヨヒメバチ、キアシブトコバチ、コクロアナバチ、キオビツチバチ、ヒメハラナガツチバチ、フタホシアリバチ、ヤマトアシナガバチ、コアシナガバチ、セグロアシナガバチ、フタモンアシナガバチ、オオスズメバチ、コガタズメバチ、ヒメスズメバチ、キイロスズメバチ、ヒメコオロギバチ、ナミコオロギバチ、ナミヒメクモバチ、オオヒメクモバチ、ホソトゲアシクモバチ、ツマアカクモバチ、マルモンツチスガリ、ナミジガバチモドキ、キオビチビドロバチ、フトカギチビドロバチ、オオフタオビドロバチ、ミナミカバフドロバチ、ミカドドロバチ、ケブカスジドロバチ、キボシトックリバチ、ミカドトックリバチ、サトジガバチ、アカガネコハナバチ、ヤヨイヒメハナバチ、ニッポンヒゲナガハナバチ、ダイミョウキマダラハナバチ、イマイツツハナバチ、ツルガハキリバチ、キムネクマバチ、トラマルハナバチ、ニホンミツバチ

⑨ ときわ公園周辺

ときわ動物園や常盤湖を中心に、花畑やハーブ園、花をつける植木などでハチ目の昆虫がよく集まる。それなりの種類が確認された。

確認した種類は71種でその内訳は以下のとおりである。

ニホンカブラハバチ、セグロカブラハバチ、チュウレンジハバチ、イヌノフグリハバチ、ルリチュウレンジ、シロオビクロハバチ、イヨヒメバチ、キアシブトコバチ、シリアゲコバチ、ウマノオバチ、ヒメウマノオバチ、クロアナバチ、サトジガバチ、キオビクモバチ、アオスジクモバチ、ベッコウクモバチ、オオシロフクモバチ、ヤマモトクロクモバチ、キンケハラナガツチバチ、ヒメハラナガツチバチ、オオモンツチバチ、キオビツチバチ、アカオビケラトリバチ、ヒメコオロギバチ、ナミコオロギバチ、リュウキュウコオロギバチ、イワタギングチ、オオフタオビドロバチ、カタグロチビドロバチ、キオビチビドロバチ、オオフタオビドロバチ、スズバチ、ミカドドロバチ、ムモントックリバチ、ミカドトックリバチ、ヤマトアシナガバチ、キボシアシナガバチ、セグロアシナガバチ、コアシナガバチ、オオスズメバチ、コガタズメバチ、キイロスズメバチ、クロスズメバチ、オオセイボウ、クロバネセイボウ、ハリマキマダラハナバチ、ダイミョウキマダラハナバチ、オオトガリハナバチ、シイバムカシハナバチヤドリ、ヤマトムカシハナバチヤドリ、オオハキリバチ、バラハキリバチ、ツルガハキリバチ、アカガネコハナバチ、ニッポンメンハナバチ、ニッポンヒゲナガハナバチ、シロスジヒゲナガハナバチ、ミツクリヒゲナガハナバチ、アカガネコハナバチ、スジボソフトハナバチ、ケブカコシブトハナバチ、ミツクリヒゲナガハナバチ、コマルハナバチ、クロマルハナバチ、オオムカシハナバチ、ヤヨイヒメハナバチ、キムネクマバチ、アシブトハナバチ、アシブトムカシハナバチ、ニホンミツバチ、セイヨウミツバチ

⑩ 西岐波地区（床波、片倉、白土海岸）

宇部市近郊でやはり道路整備や宅地開発が進み調査できる範囲が少なくなった。山際の変化のない農村部を選び定点調査した。種類は限定されるが、それなりに固有のハチ類がまざまざ観察された。まだまだ多くの種が確認されそうな場所であった。

確認した種類は45種でその内訳は以下のとおりである。

イヨヒメバチ、カブラハバチ、セグロカブラハバチ、ルリチュウレンジ、ニホンカブラハバチ、イヌノフグリハバチ、コシジロハバチ、クロムネハバチ、クロハバチ、ハグロハバチ、オオコツチバチ、トゲアシオオクモバチ、モンクモバチ、ベッコウクモバチ、キオビクモバチ、オオモンククロクモバチ、スズバチ、ミカドトックリバチ、ムモントックリバチ、エントツドロバチ、シブヤスジドロバチ、キアシトックリバチ、ヒメハラナガツチバチ、ヒメコオロギバチ、オオスズメバチ、クロスズメバチ、キイロスズメバチ、コガタスズメバチ、キボシアシナガバチ、ムモンホソアシナガバチ、セグロアシナガバチ、フタホシアリバチ、オオセイボウ、ニッポンヒゲナガハナバチ、シロスジヒゲナガハナバチ、ヒメキマダラハナバチ、ケブカコシブトハナバチ、アシブトムカシハナバチ、ヤマトヒメハナバチ、アカガネコハナバチ、ヤノトガリハナバチ、バラハキリバチ、スジボソフトハナバチ、キムネクマバチ、コマルハナバチ

⑪ 東岐波地区（日の山、東部海岸）

西岐波地区よりも道路整備や開発行為が進み、ため池の減少が顕著であった。昆虫の集まるような場所が限られ、調査が困難になった。特に自然の残っている場所は荒れており入ることは難しく、開発の影響か農薬の影響なのか昆虫類が20年前に比べ少なくなった。

確認した種類は2種でその内訳は以下のとおりである。

カブラハバチ、セグロカブラハバチ

（ウ） まとめ

この3年間に宇部市内の調査を行った結果、ハチ目においても一定の成果が得られたと思っている。これまでは宇部市内でハチ目の調査はほとんどされていないようで、データも生態写真や標本もハエ目と同様に宇部市にはあまり残されていないようである。今回の調査ではハチ目も目視により確認できた種だけを撮影し採集した。理由はスウィーピングなどによる調査では、生態写真が撮れないので、今回はあえてこの方法を選択した。

2020年から2022年にかけての調査で確認したハチ目は24科206種であったが、12科47種は同定できずに未発表とした。さらにハナバチ類やヤドリバチ類の中で微小なものを調査すれば、これ以上の種が多く発見されるはずである。今回、各科における基本的な種がある程度確認できたと思っており、これを基本に積み重ねてゆけば、宇部市のハチ目が解明できると考えている。

宇部市のハチ目について上述の種を確認したものの、絶滅の危険性を評価できるだけの調査が行われておらず、絶滅危惧種の選定ができないことをお断りしておく。山口県の昆虫類レッドリスト2011やレッドデータブックやまぐち2019で示されるように情報不足の域を出ないと思われ、環境省レベルでも情報不足とされているものが多い。この調査を担当した山口むしの会としては継続調査から、これからのさらなる成果を期待したい。

参考文献

- 槐 真史, 2013. ポケット図鑑日本の昆虫1400・コウチュウ・ハチ. 319pp., 文一総合出版, 東京.
- 福田晴夫ほか, 2005. 昆虫図鑑 採集と標本の作り方. 236pp.. 南方新社, 鹿児島.
- 藤丸篤夫, 2014. ハチハンドブック. 104pp., 文一総合出版, 東京.
- 後藤和夫, 2013a. ウマノオバチとヒメウマノオバチの記録. 山口のむし, (12) : 112.
- 後藤和夫, 2014a. ウマノオバチ調査報告 (2013年). 山口のむし, (13) : 111.
- 後藤和夫, 2015a. ウマノオバチ調査報告 (2014年). 山口のむし, (14) : 133.
- 後藤和夫, 2015b. ヒメウマノオバチ調査報告 (2014年). 山口のむし, (14) : 134.

- 後藤和夫, 2016a. ウマノオバチ県内の分布状況について. 山口のむし, (15) : 189-190.
- 後藤和夫, 2016b. ヒメウマノオバチ調査報告 (2015年). 山口のむし, (15) : 191.
- 後藤和夫, 2017. ウマノオバチの追加記録 (2016). 山口のむし, (16) : 159.
- 後藤和夫, 2018a. 2017年に確認したウマノオバチ. 山口のむし, (17) : 198.
- 後藤和夫, 2018b. 2017年に確認したヒメウマノオバチ. 山口のむし, (17) : 199.
- 後藤和夫, 2019b. 2018年に確認したウマノオバチ. 山口のむし, (18) : 153.
- 後藤和夫, 2022. ウマノオバチ2021年の記録. 山口のむし, (21) : 182.
- 柿沼 進, 2016. 山口県双翅目分布記録 (2015). 山口のむし, (15) : 184-187.
- 管 哲郎, 2021a. キオビクモバチの狩り (撮影記録). 山口のむし, (20) : 176-177.
- 管 哲郎, 2022a. アリバチ類の記録. 山口のむし, (21) : 178.
- 管 哲郎, 2022b. カバオビドロバチ2例の記録. 山口のむし, (21) : 180.
- 管 哲郎, 2022c. ヒメウマノオバチ♂を採集. 山口のむし, (21) : 183.
- 管 哲郎, 2023. 2022年までに山口県宇部市で確認したハチ目. 山口のむし, (22) : 134-145.
- 川元 裕・中村 孝, 2017. 2016年の山口県におけるハチ目昆虫の採集記録について.
山口のむし, (16) : 153-155.
- 内藤親彦・篠原明彦ほか, 2020. 日本産ハバチ・キバチ類図鑑. 530pp., 北海道大学出版会, 札幌.
- 中村 孝, 2015. 山口県のハチ類の採集記録. 山口のむし, (14) : 139-142.
- 中村 孝, 2018. 2017年に確認したハチ類. 山口のむし, (17) : 194-196.
- 鈴木知之, 2017. 小さな小さな昆虫図鑑. 144pp., (株) 偕成社, 東京.
- 多田内修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 470pp., 文一総合出版, 東京.
- 田中 馨, 2004. 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし, (3) : 105.
- 田中 馨, 2005. ニッポンハナダカバチとスミゾメハキリバチの記録. 山口のむし, (4) : 127.
- 田中 馨, 2006. 山口県初記録のハチ類2種. 山口のむし, (5) : 105.
- 田中 馨, 2007. 宇部市でヒゲジロキバチを採集. 山口のむし, (6) : 117.
- 田中 馨, 2020. 宇部市で採集した“オオアメイロオナガバチ”の記録. 山口のむし, (19) : 173.
- 田中伸一, 2010. 山口県の有剣類 II. 山口のむし, (9) : 155-158.
- 田中伸一・田中 馨, 2007. 山口県のハバチ類. 山口のむし, (6) : 101-114.
- 田中伸一・田中 馨, 2008. 山口県の有剣類. 山口のむし, (7) : 112-129.
- 田中伸一, 2011. 山口県産有剣類のデータ集. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (3) : 65-98.
- 田中伸一, 2013. 山口県産ヒメバチの採集記録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (5) : 21-29.
- 田中伸一, 2015. 山口県産ハバチ・キバチ類目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (7) : 27-44.
- 辻 雄介, 2018. 山口県におけるアリ科の分布調査. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (10) : 11-49.
- 辻 雄介, 2020. 山口県におけるアリ科の分布調査 (II). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (12) : 49-60.
- 寺山 守・須田博久, 2016. 日本産有剣ハチ類図鑑. 735pp., 東海大学出版, 神奈川県.
- 海野和男, 2013. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑. 255pp., (株) 誠文堂新光社, 東京.

(15) シリアゲムシ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市からヤマトシリアゲムシ1科1種が記録されているが、ほとんど未報告である。

参考文献

- 山口むしの会保全委員会調査班, 2010. 宇部市稔小野地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (9) : 173-178.

(16) ハエ目

2020年から2022年までの3年間に確認できた種および過去宇部市で記録されていたハエ目の全種について集約した結果、22科144種をリストアップすることができた。

(ア) 宇部市内の概況

ハエ目にはアブ、カ、ハエ、ガガンボ類に分かれており、人家の周りに棲む種類と畑や森の中で生息する種、湿地や海岸などに生息する種などに別れ、ヒトや動物の屍骸の血をなめ吸い、果物の実、あるいは花粉を食べ、ほかの生き物に寄生する種と様々で、あらゆる場所に生息している。

ハエ目は体の大きさもまちまちで、ウシアブやミカドガガンボのように大型のものから、ミバエのような微小なものまで生息するが、今回の調査では微小なものはあまり専門に調査できなかった。

加えてそれぞれの分野で詳しく研究された文献が少なく、採集しても同定できない種が多くあった。

なお、ハエ目は宇部市全域に広く棲息しているようで、調査した結果、特殊な種以外は宇部市全域に見みられるようである。特に宇部市民に親しまれるときわ公園は、ときわ動物園を始め自然と調和させた公園造りがなされおり、ハエ目などが観察できる場所として最適なところになっている。

宇部市内の調査範囲は広く、3年間の調査では確認種類は限定されてくるが、四季をとおして以下の地域を可能な限り調査した結果をまとめた。

(イ) 地域ごとの状況

① 荒滝山・日の岳（東吉部、荒滝、今小野）

美祢市との境界に位置し林業や農業（水田が多い）が営まれており、農家の周辺に植えられた花や農道の脇に多く見られる草花によく集まる。ため池もあり、湿地性のアブなどもよく見られた。

確認した種類は25種でその内訳は以下のとおりである。

クロバエ、ケブカクロバエ、キンバエ、センチニクバエ、ツマグロキンバエ、マルボシヒラタヤドリバエ、キイロケブカミバエ、ビロウドツリアブ、スズキハラボソツリアブ、セダカコガシラアブ、スキバツリアブ、トゲアリノスアブ、ホソヒラタアブ、クロヒラタアブ、ヨコジマオオヒラタアブ、キアシマメヒラタアブ、ルリボシヒラアシヒラタアブ、オオハナアブ、アシブトハナアブ、シマアシブトハナアブ、ハラナガハナアブ、ナミハナアブ、ホシメハナアブ、クロハナアブ、キョウコシマハナアブ

② 平原岳周辺（小野、藤河内、楢小野地区）

山口市との境に位置し、農村地帯である。水田も多いし手入れも行き届いた地域であり、調査はやりやすいが、反面イノシシやサルの出没が多いようである。大きな河川はないが、ため池より流れる小川があり、その環境に応じてアブ類が多く見られた。

確認した種は36種でその内訳は以下のとおりである。

クロバエ、マルボシヒラタヤドリバエ、キンバエ、ツマグロキンバエ、コンボウナガハリバエ、ハダラミバエ、アオメアブ、ウシアブ、アカウシアブ、ヤマトアブ、ヒメキンイシアブ、マガリケムシヒキ、ビロウドツリアブ、スキバツリアブ、スズキハラボソツリアブ、セダカコガシラアブ、アリノスアブ、キンアリノスアブ、トゲアリノスアブ、ハチモドキハナアブ、ホソヒラタアブ、クロヒラタアブ、ヨツボシヒラタアブ、キアシマメヒラタアブ、ナミホシヒラタアブ、アシブトハナアブ、ハラブトハナアブ、ルリハナアブ、ナミハナアブ、クロハナアブ、オオハナアブ、シマアシブトハナアブ、キゴシハナアブ、クロハラナガハナアブ、フタガタハラブトハナアブ、ナミルリイロハラナガハナアブ

③ 今富ダム周辺（奥万倉、西吉部地区）

山も深く広く調査は十分に行われていない。ダム湖に流れ込む溪流が2ヶ所あるが、両方ともに水田農地が広がっており、場所を決めて調査した。

確認した種は12種でその内訳は以下のとおりである。

キンバエ、マルボシヒラタヤドリバエ、ピロウドツリアブ、ホソヒラタアブ、ヒメヒラタアブ、クロヒラタアブ、オオハナアブ、クロハナアブ、キゴシハナアブ、ツマグロコシボソハナアブ、ハラアカハラナガハナアブ、フタガタハラブトハナアブ

④ 小野湖周辺（芦河内、如意寺、櫟原）

ダム湖の周回道路を中心に広範囲に調査した。周辺には田園地域が広がっており、同じようなハエ目が見られた。また「アクトビレッジ小野」には花畑が管理されており、ハーブ園に各種のアブやハエを見ることができた。記録した種はキイロコウカアブ1種である。

⑤ 船木地区周辺（船木、万倉、西万倉、矢矯）

郊外の田園地帯であるが、水田以外に畑地も多くあり、神社の周辺では花畑があつたりしてハエ目の昆虫類が多く集まった。確認した種は15種でその内訳は以下のとおりである。

キンバエ、ツマグロキンバエ、マガリケムシヒキ、マルボシヒラタヤドリバエ、ピロウドツリアブ、クロヒラタアブ、ホソヒラタアブ、ホソツヤヒラタアブ、フタホシヒラタアブ、ナガヒラタアブ、ニセキアシマメヒラタアブ、シマアシブトハナアブ、シマハナアブ、ルリハナアブ、キゴシハナアブ

⑥ 霜降山周辺（善和、持世寺、末信、川上）

市民のハイキングに多く利用される山林だが、周辺には水田が広がり農道も管理されており、調査に適した地区である。農道脇の草地を目あてに調査することになるが、まずまずの昆虫に出会えた。

確認した種は40種でその内訳は以下のとおりである。

クロバエ、ケバエ、キンバエ、センチニクバエ、コンボウナガハリバエ、マルボシヒラタヤドリバエ、ハマダラミバエシギアブ、アメリカミズアブ、マガリケムシヒキ、ウシアブ、シオヤアブ、コウカアブ、ピロウドツリアブ、クロバネツリアブ、スキバツリアブ、スズキハラボソツリアブ、セダカコガシラアブ、アリノスアブ、ホソヒラタアブ、クロヒラタアブ、フタスジヒラタアブ、オオフタホシヒラタアブ、オオオビヒラタアブ、キアシマメヒラタアブ、オオヒメヒラタアブ、ツヤタマヒラタアブ、ナミハナアブ、オオハナアブ、クロハナアブ、アシブトハナアブ、シマハナアブ、オオシマハナアブ、シマアシブトハナアブ、キョウコシマハナアブ、ツヤホソハナアブ、ルリハナアブ、キゴシハナアブ、ヒメハナアブ、ルリハナアブ、ホシメハナアブ

⑦ 厚東川周辺（棚井、温見、吉見、車地、瓜生野、木田、広瀬、沖の旦）

厚東川を中心とした田園地帯、農耕地帯、林地と入り交り、いわゆる里山で多くの昆虫に出会える自然豊かな地域であった。確認した種は60種でその内訳は以下のとおりである。

クロバエ、キンバエ、イエバエ、ミドリイエバエ、センチニクバエ、ツマグロキンバエ、コンボウナガハリバエ、ヒラタヤドリバエ、ヒゲナガヤチバエ、ヒメフンバエ、マルボシヒラタヤドリバエ、マダラメバエ、シギアブ、ナガレシギアブ、クロバネツリアブ、スキバツリアブ、コウヤツリアブ、ピロウドツリアブ、スズキハラボソツリアブ、ムシヒキアブ、マガリケムシヒキ、シオヤアブ、アオメアブ、ウシアブ、セダカコガシラアブ、クロバネツリアブ、スキバツリアブ、スズキハラボソツリアブ、アオメアブ、ケンランアリノスアブ、アメリカミズアブ、オオイシアブ、コムライシアブ、ヒメキンイシアブ、オオヒメヒラタアブ、ホソヒラタアブ、ヘリヒラタアブ、クロヒラタアブ、ナガヒラタアブ、オオヒメヒラタアブ、キアシマメヒラタアブ、ナミホシヒラタアブ、フタスジヒラタアブ、ヨコジマオオヒラタアブ、ルリハナアブ、キアシマメヒラタアブ、アシブトハナアブ、シマアシブトハナアブ、オオハナアブ、ナミハナアブ、クロハナアブ、ツヤハナアブ、キゴシハナアブ、ホシメハナアブ、シマハナアブ、キョウコシマハナアブ、クロハラナガハナアブ、ハラアカハラナガハナアブ、シロスジナガハナアブ、ルリハナアブ

⑧ 厚東川河口周辺（妻崎開作、中川遊水地、竹の小島、ヒヌマイトトンボ代替地）

もともと埋め立て地であり、沖には広大な埋め立て湿原地が広がる。中川遊水地を中心にした汽水域であり、ハエ目はある程度限定されるが、それなりの種類が確認できた。

確認した種は20種でその内訳は以下のとおりである。

クロバエ、キンバエ、センチクバエ、ツマグロキンバエ、コンボウナガハリバエ、オオイシアブ、シオヤアブ、アオメアブ、マガリケムシヒキ、スキバツリアブ、ヒメヒラタアブ、ホソヒラタアブ、キアシマメヒラタアブ、ノヒラマメヒラタアブ、アシブトハナアブ、シマアシブトハナアブ、アカハラハラナガハナアブ、ヨツモンハラナガハナアブ、ホシメハナアブ、クロハナアブ

⑨ ときわ公園周辺

ときわ動物園や常盤湖を中心に、花畑やハーブ園、花をつける植木などでハエ目の昆虫がよく集まり、それなりの種類が確認された。確認した種は45種でその内訳は以下のとおりである。

クロバエ、ノイエバエ、ケブカクロバエ、キンバエ、ツマグロキンバエ、マルボシヒラタヤドリバエ、コンボウナガハリバエ、ユミトリハマダラミバエ、クチナガハリバエ、マダラメバエ、ヒメフンバエ、ミナミカマバエ、ヒゲナガヤチバエ、コウヤツリアブ、スキバツリアブ、クロバネツリアブ、ビロウドツリアブ、スズキハラボソツリアブ、アメリカミズアブ、シギアブ、オオイシアブ、マガリケムシヒキ、アオメアブ、シオヤアブ、オオウシアブ、ホソヒラタアブ、クロヒラタアブ、ナガヒラタアブ、フタスジヒラタアブ、オオフタホシヒラタアブ、ナミホシヒラタアブ、オオオビヒラタアブ、キアシマメヒラタアブ、ヨコジマオオヒラタアブ、アシブトハナアブ、シマアシブトハナアブ、オオシマハナアブ、クロハナアブ、ツヤハナアブ、ナミハナアブ、シマハナアブ、ホシメハナアブ、キゴシハナアブ、オオハナアブ、ハラアカハラナガハナアブ

⑩ 西岐波地区（床波、片倉、白土海岸）

宇部市近郊でやはり道路整備や宅地開発が進み調査できる範囲が少なくなった。山際の環境の変化のない農村部を選び定点調査した。確認した種は20種でその内訳は以下のとおりである。

キンバエ、センチクバエ、アオメアブ、アメリカミズアブ、マガリケムシヒキ、シオヤアブ、ビロウドツリアブ、スキバツリアブ、クロバネツリアブ、スズキハラボソツリアブ、セダカコガシラアブ、ホソヒラタアブ、クロヒラタアブ、ルリボシヒラアシヒラタアブ、キアシマメヒラタアブ、ナミハナアブ、オオハナアブ、シマハナアブ、アシブトハナアブ、ハラナガハナアブ

⑪ 東岐波地区（日の山、東部海岸）

西岐波地区よりも道路整備や開発行為が進み、ため池の減少が顕著であった。昆虫の集まるような場所は限られ、自然林の残っている所は荒れて入れないなど、調査のできない環境が多い。開発の影響か農薬の影響なのかは定かでないが、昆虫類は全般に20年前に比べ少なかった。確認した種は2種でその内訳は以下のとおりである。

ビロウドツリアブ、シマハナアブ

(ウ) まとめ

約3年にわたり宇部市内の定点調査を行った結果、まずまずの成果が挙げられたと思っている。

これまでは宇部市内でのハエ目の調査はほとんどされていないようで、データも生態写真や標本もあまり残されていないようである。今回の調査ではまず目視により確認できた種だけを撮影し採集した。ハエ類あるいはガガンボ類、微小なハエ類も多くいることはわかっているが、3年間の調査ではその種を同定できるだけの時間がないので、ほとんど調査していないものもある。微小種などは専門性も高く特殊な分野であり、図鑑や

資料などがあまりないため、同定が簡単にできないものが多く、今後の調査や研究結果を待ちたい。

絶滅危惧種についても宇部市のハエ目について、評価を行うだけの調査が行われておらず、評価できないこととお断りしておく。山口県の昆虫類レッドリスト 2011 やレッドデータブックやまぐち 2019 で示されるように情報不足の域を出ないと思われ、環境省レベルでも情報不足とされているものが多い。ハエ目のうち、山口県で正式に同定されていない種はこれからまとめるとして、ある程度の種が宇部市内の各地で判明してきた。しかしアブ・ハエ類（ハエ目のうち短角亜目）の調査は今後委ねることも多く、ここでの論評は差し控えた

参考文献

- 槐 真史, 2013. ポケット図鑑日本の昆虫 1400・コウチュウ・ハチ. 319pp., 文一総合出版. 東京.
- 福田晴夫ほか, 2005. 昆虫図鑑 採集と標本の作り方. 236pp., (株) 南方新社, 鹿児島.
- 柿沼 進, 2008a. 山口県のニクバエ I (2007 年の調査より). 山口のむし, (7) : 133-136.
- 柿沼 進, 2008b. 山口県の海浜で採集したムシヒキアブ. 山口のむし, (7) : 137-139.
- 柿沼 進, 2008c. ドウガネホシメハナアブとルリハナアブを宇部市で採集. 山口のむし, (7) : 141.
- 柿沼 進, 2009a. オガサワラツリアブの山口県における分布記録. はなあぶ, (27) : 53.
- 柿沼 進, 2009b. 山口県・島根県の海浜性ツルギアブ分布記録. はなあぶ, (27) : 54-55.
- 柿沼 進, 2009c. 本州新記録のホリホソニクバエ. はなあぶ, (27) : 57.
- 柿沼 進, 2009d. 山口県のニクバエ II. 山口のむし, (8) : 129-130.
- 柿沼 進, 2010a. 山口県のアブ科分布記録. 山口のむし, (9) : 162-163.
- 柿沼 進, 2010b. 山口県のニクバエ III. 山口のむし, (9) : 164-166.
- 柿沼 進, 2011a. 山口県双翅目分布記録 (2010). 山口のむし, (10) : 131-134.
- 柿沼 進, 2011b. 山口県のクロバエ. 山口のむし, (10) : 13-138.
- 柿沼 進, 2011c. 山口県のニクバエ IV (完). 山口のむし, (10) : 139-140.
- 柿沼 進, 2011d. 山口県のニクバエ科目録. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (3) : 55-64.
- 柿沼 進, 2012a. スエナガヤチニクバエを山口県の瀬戸内海河口で採集. はなあぶ, (34) : 57.
- 柿沼 進, 2012b. 山口県新記録のタイワンハラボソツリアブ. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (4) : 71-72.
- 柿沼 進, 2013a. 山口県のイエバエ (1). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (5) : 39-41.
- 柿沼 進, 2013b. 山口県のケバエ類の記録 (1). はなあぶ, (35) : 15.
- 柿沼 進, 2015. 山口県で採集したミギワバエ類の記録 (1). はなあぶ, (40) : 17-18.
- 柿沼 進, 2016. 山口県のイエバエ (2). 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (8) : 195-197.
- 柿沼 進, 2016. 山口県双翅目分布記録 (2015). 山口のむし, (15) : 184-187.
- 管 哲郎, 2020. ケンランアリノスアブの交尾を観察. 山口のむし, (19) : 169.
- 管 哲郎, 2023. 2022 年までに山口県宇部市で確認したハエ目. 山口のむし, (22) : 146-153.
- 佐伯真一・管 哲郎, 2018. ケンランアリノスアブを宇部市で確認. 山口のむし, (17) : 191-192.
- 鈴木知之, 2017. 小さな小さな昆虫図鑑. 144pp., (株) 偕成社, 東京.
- 田中 馨, 2004. 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし, (3) : 105-106.
- 田中 馨, 2008. タイワンオオヒラタアブを宇部市で再記録. 山口のむし, (7) : 141.
- 田中 馨, 2009. 高層マンションに飛来したドウガネホシメハナアブ. 山口のむし, (8) : 126.
- 田中 馨・田中伸一, 2003. 山口県のハナアブ. 山口のむし, (2) : 85-92.
- 田中伸一, 2007a. 山口県でアカアシツマグロイシアブ (仮称) の記録. 山口のむし, (6) : 114.
- 田中伸一, 2007b. 山口県産ハナブトハナアブ属について. 山口のむし, (6) : 115.
- 田中伸一, 2009. 山口県産ハナアブの変更・追加について. 山口のむし, (8) : 124-126.
- 田中伸一・田中 馨, 2009. 山口県のメバエ. はなあぶ, (27) : 70-71.
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2004. 山口県のムシヒキアブ. 山口のむし, (3) : 88-93.

- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2005. 山口県のハナアブ (Part2). 山口のむし, (4) : 115-126.
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2006a. 山口県のアブ類. 山口のむし, (5) : 103-104.
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2006b. 山口県のみズアブ. 山口のむし, (5) : 104-105.
- 田中伸一・田中 馨・椋木博昭, 2006c. 山口県のみシヒキアブ (Part2). 山口のむし, (5) : 106-107.
- 海野和男, 2013. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑. 255pp., (株) 誠文堂新光社, 東京.
- 山口のむしの会保全委員会調査班, 2010. 宇部市椋小野地区の昆虫調査報告. 山口のむし, (9) : 173-178.

(17) トビケラ目

この分野の研究者は山口県にはほとんど居ない。そのため、県内はもとより宇部市の分布状況についてはほとんど判っていない。よって今後の調査研究をする課題として残されている。宇部市から7科9種が記録されている。いずれも断片的なもので系統だった調べはなされてない。よって分析などは今後の課題である。

参考文献

- 合屋晏秀・脇坂宣尚, 1985. 厚東川の早瀬における底生動物相と水質汚濁階級. 宇部短期大学環境科学研究所報告, (6) : 29-41.
- 後藤和夫, 2013. ホタルトビケラとムラサキトビケラの記録. 山口のむし, (12) : 119.
- 後藤和夫, 2015. 2014年に確認したトビケラ数種の記録. 山口のむし, (14) : 143.
- 後藤和夫, 2016. 2015年に確認したトビケラ2種. 山口のむし, (15) : 194.
- 後藤和夫, 2017. ホタルトビケラの確認記録 (2016) . 山口のむし, (16) : 160.
- 後藤和夫, 2021. トビケラ数種の記録 (2020) . 山口のむし, (20) : 186.
- 後藤益滋, 2016. 1997~2015年に山口県内で採集したカゲロウ目, カワゲラ目, トビケラ目について. 山口のむし, (15) : 196-200.

(18) チョウ目 (蛾類)

2020年~2022年までの3年間調査を併せ、宇部市内において37科636種の蛾類を記録した。この中には、山口県の絶滅危惧Ⅱ類1種(フチグロトゲエダシヤク)、情報不足1種(スゲドクガ)、偶産種とされる種が14種(タテシマノメイガ、フタシロオビノメイガ、キョウチクトウスズメ、ウスバフタホシコケガ、モンシロモドキ、イチジクヒトリモドキ、クロスジシロコバガ、シンジュキノカワガ、オオアカマエアツバ、ヒメコバヒゲアツバ、ヒメアケビコノハ、キマエコノハ、クロモンシタバ、そして、山口県唯一の記録であるヒロオビクロモンシタバ)が含まれる。

(ア) 宇部市内の概況

各地域において、その環境に応じた種が安定的に棲息している。一方、気候の温暖化に伴い南方系の種(偶産種)が確認されている。また、荒廃地や湿地などの管理の行き届かない場所で、稀少種に指定されている上述の2種が確認された。

(イ) 地域ごとの状況

① 小野湖近辺の櫛原、如意寺

2021年~2022年に、良好な自然環境を形成している緑地保全地区を調査したところ、森林性の種は、ヒサカキムモンハモグリ、カエデキンモンホソガ、ハイイロマダラノコメキバガほか、樹木を幼虫の食餌植物とする小蛾類が多数、山口県初記録種として記録された。湿地性の種でもミゾソバキバガやホソバヤマメイガ、モトシロアトモンミズメイガほか多数、同じく小蛾類で山口県の初記録種として確認できた。湿地性の確認種はそれぞれ異なる水辺の植物や特定の苔類を食すが、このような食性をもった種にとって、恵まれた植生環境である。小蛾類以外では、特筆する種こそ確認されなかったが、調査を重ねれば多様な蛾類の分布が解明できる。

② 妻崎開作の中川ポンプ場付近の湿地帯（竹の小島）

夜間調査では、山口県の情報不足に指定されるスゲドクガが確認された。この場所は、同絶滅危惧 IA 類に選定されるトンボ目のヒスマイトトンボの保全地でもあるため、保全活動の継続が望まれる。

③ 棚井・末信

山口県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているフチグロトゲエダシャクが、例年確認できるが、その棲息数は減少傾向にある。本種の棲息場所は、耕作が放棄され荒廃しはじめた農地内が主であるため、荒廃の行き過ぎや、逆に農地整備で再開されることと個体数がさらに減少する可能性が高い。

④ 市街地（小松原町2丁目のマンションにて12階建て地上36m）

2003年～2020年まで調査で、夜間の照明に誘引され、市街地でありながら珍しい種が多数記録されている。とくに偶産種の記録は県内で最も多く、モンシロモドキ、キョウチクトウスズメ、シンジュキノカワガ、ヒメアケビコノハ、クロモンシタバ、ヒロオビクロモンシタバとなり、偶産蛾14種のうち6種が記録されている。

(ウ) まとめ

調査では、普通にみられる種は食餌植物が生育する場所に行けば確認することができる場合が多かった。蛾類の種数は国内だけでも6,100種を超えと言われており、棲息域は水中から高山帯に及んでいる。食性は、食植の種や肉食性など様々であるが、系統だった調査はなされておらず、分析などは今後委ねられる。宇部市は、南部の沿岸域から北部の山地と環境が多様であるため、様々な場所を調査することができれば、さらに多くの蛾が確認でき、種数は大幅に増加すると思われる。

参考文献

- 五味 清, 2014. フチグロトゲエダシャクの交尾行動観察. 山口のむし, (13) : 81.
- 後藤和夫, 2002. 宇部市でオオシモフリスズメ採集. わたしたちの自然史, (80) : 21.
- 後藤和夫, 2007. フチグロトゲエダシャクを山口県で採集. 月刊むし, (439) : 41.
- 後藤和夫, 2010. フチグロトゲエダシャクの追加記録. 山口のむし, (9) : 79-80.
- 後藤和夫, 2012. フチグロトゲエダシャクの追加記録(2011). 山口のむし, (11) : 74.
- 後藤和夫, 2013. フチグロトゲエダシャクの追加報告と動向. 山口のむし, (12) : 73.
- 後藤和夫・中西 淳, 2013. ツマキホソハマキモドキ県内各地に分布か. 山口のむし, (12) : 71.
- 管 哲郎, 2016. 自宅でオオモモブトスカシバを確認. 山口のむし, (15) : 102.
- 広渡俊哉ほか(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅲ. 359pp., 学研教育出版, 東京.
- 中西 淳, 2008. 旧楠町で確認した蛾類. 山口のむし, (7) : 25-30.
- 中西 淳, 2009a. クロメンガタスズメの遅い発生例. 山口のむし, (8) : 47.
- 中西 淳, 2009b. フチグロトゲエダシャクの新産地. 山口のむし, (8) : 52-53.
- 中西 淳, 2011a. 山口県内におけるイチジクヒトリモドキの発生. 山口のむし, (10) : 63.
- 中西 淳, 2011b. ナカグロクチバの記録. 山口のむし, (10) : 65.
- 那須義次ほか(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑Ⅳ. 552pp., 学研教育出版, 東京.
- 重中良之・吉原太一, 2021. 2020年の宇部市自然環境調査における蛾類調査報告. 山口のむし (20) : 88-95.
- 村田 淳・吉原太一, 2022. 2021年の宇部市自然環境調査における蛾類調査追加報告. 山口のむし (21) : 101-108.
- 吉原太一, 2023. 2022年の宇部市自然環境調査における蛾類の追加報告. 山口のむし (22) : 60-62.
- 田中 馨, 2003. 宇部市でキマエコノハの古い記録. 山口のむし, (2) : 20.
- 田中 馨, 2004. 宇部市の高層マンションに飛来した昆虫. 山口のむし, (3) : 96-110.

- 田中 馨, 2005. ツキワクチバが12月下旬に灯火に飛来. 山口のむし, (4) : 36.
- 田中 馨, 2006a. 宇部市で11~12月に採集したガ類. 山口のむし, (5) : 30.
- 田中 馨, 2006b. 宇部市の市中でモンシロモドキを採集. 山口のむし, (5) : 30.
- 田中 馨, 2009. 宇部市でイチジクヒトリモドキを採集. 山口のむし, (8) : 47.
- 田中 馨, 2010. 宇部市中でシンジュキノカワガを採集. 山口のむし, (9) : 73.
- 田中 馨, 2012. 宇部市中の住宅地で2種の蛾を採集. 山口のむし, (11) : 75.
- 田中 馨, 2018. 南方系の偶産蛾キョウチクトウスズメの記録. 山口のむし, (17) : 92.
- 渡辺一雄・中西 淳・後藤和夫・管 哲郎・岡村元昭, 2012. フチグロトゲエダシャクー山口県南西部における記録と生態. 山口のむし, (11) : 57-71.

(19) チョウ目 (蝶類)

2020年~2022年までの3年間に確認してきた種を中心にまとめたが、過去宇部市で記録されていた蝶類の全種について集約した結果、5科81種を目録にリストアップすることができた。これらの種の中から、RDB種として選定されている種や、注目される種についてその概要を述べる。

(ア) 宇部市内の概況

宇部市の南側は周防灘に面し北東部にかけて丘陵地帯が続く温暖な地域で、厚東川で東西に二分されるように農耕地帯が市内を除き厚東地域から小野地域にかけて広がっている。標高の高い山は無く北部の荒滝山(450m) 一帯から東部の平原岳(395m) で、低山に属する。

このことから蝶類においても中国山地帯にのみ分布する山地性の種は棲息しない。下記の(イ)の項に記述してきた種はほとんどが平地性の種になる。ただ平地性の種とはいえ、その棲息圏は県内の全ての山間奥地まで広域に垂直分布をしているのが現状である。よって、市中心部あたる常盤湖周辺から霜降岳一帯(250m)に棲息する種は、市内の全域に全て分布することが調査から明らかである。このことは普通種と分類される種は全て宇部市内に棲息していることになる。

宇部市にはウスバアゲハやギフチョウのように地域特有の種は棲息しないが、絶滅危惧種に該当するシルビアシジミとウラナミジャノメの棲息密度は県内一で、県内のほかの市町にはこの様な地域は存在しない。この2種については、市内全域を20年以上探索したことの成果となり、この棲息密度の濃さは国内でもトップレベルになるものである。このことは農山村地域に広がる里地里山が、代々維持管理されてきた証にもなる。ただ種によっては最近の記録が無いなど、変遷も見られ継続的な調査からその推移を見極めることが今後の課題として残されている。

(イ) 地域ごとの状況

① 平原岳一帯

2012年の定点調査で5科58種を確認した。

その科別の内訳はセセリチョウ科9種、アゲハチョウ科10種、シロチョウ科5種、シジミチョウ科13種、タテハチョウ科21種となる。また2009年にタテハチョウ科のウラギンヒョウモンを確認し、2020年の調査で同じくアサマイチモンジを記録したことから、2022年末現在、60種が平原岳山塊部一帯で確認されたことになる。

注目すべき種として、セセリチョウ科ではヒメキマダラセセリが健在で、宇部市内では北東部の山地沿いに棲息しており、市内の丘陵部から南の海岸沿いには分布しない種になる。

アゲハチョウ科ではギフチョウとウスバアゲハを除く種が棲息している。注目すべき種として、ミヤマカラスアゲハは山地性の種のため当山塊辺りが市内で確認できる地域となる。ミカドアゲハは東側の檜小野の集落地辺りで見られ、庭木として植栽したヒメタイサンボで発生している。局所的な種だけに注視しておく必要がある。

シロチョウ科では特に注目する種は見あたらない。

シジミチョウ科ではシルビアシジミが東側の農耕地帯に広く分布している。ミヤコグサで発生しており山口県の絶滅危惧種に該当する種だけに、これからも推移を注視しておく必要がある。

タテハチョウ科では2009年に絶滅危惧種のウラギンヒョウモンを確認していたが、以後2022年まで再確認されていない。ヒョウモン類は県内でも減少の傾向が強い種で、要注意種として見守る必要がある。イチモンジチョウと近縁のアサマイチモンジが2020年の調査で山口市との境界に近い柳小野で確認された。後者は国内の分布域は山口県が西限となり四国や九州には分布しない。これまで県内での最も西側からの記録は秋吉台の東側（美東町）付近であった。宇部市で確認されたことは本種の国内の西限域が更新されたことになり、今後この傾向が続くのか、分布の拡大状況について注意深く見守る必要がある。ジャノメチョウ類では絶滅危惧種のウラナミジャノメが局所的に分布しており、棲息状況を注視しておく必要がある。

② 荒滝山周辺

2006年の定点調査で5科55種を確認した。

その科別の内訳はセセリチョウ科9種、アゲハチョウ科8種、シロチョウ科5種、シジミチョウ科9種、タテハチョウ科24種となる。その時、周辺部となる吉部大畑からミカドアゲハも確認し、2010年にはタテハチョウ科のスミナガシ、コムラサキを確認したことから2022年末現在、58種が荒滝山周回部一帯で確認されたことになる。

注目すべき種として、セセリチョウ科ではアオバセセリが分布しており、市内では非常に局所的な種になる。ヒメキマダラセセリについても①の項と同様のことになる。

アゲハチョウ科でも①の項とほぼ同様の結果になり、ミカドアゲハも吉部に棲息しているが、食樹については神木として植栽したオガタマノキで発生している。

シロチョウ科では特に注目する種は見あたらない。

シジミチョウ科はムラサキツバメやコツバメが未確認となっているが、今後の調査で発見される可能性はある。絶滅危惧種のシルビアシジミは、山塊の麓の田園地帯に自生するミヤコグサで広く発生している。

タテハチョウ科ではサカハチチョウが荒滝川の下流部から確認されたが少なく、県西部域では当地は数少ない分布地となる。スミナガシについても市内では局所的になり、霜降山の麓になる末信に次ぐ2例目の記録となる。食樹は当概地域ではアオバセセリと同様にヤマビワとなる。

ジャノメチョウ類ではジャノメチョウが山頂部に自生するススキで発生している。絶滅危惧種のウラナミジャノメは山塊の麓で局所的に発生しており、推移を注視する必要がある。

③ 霜降山周辺

2005年の定点調査で過去の記録も含め5科64種を確認した。

その科別の内訳はセセリチョウ科8種、アゲハチョウ科9種、シロチョウ科5種、シジミチョウ科15種、タテハチョウ科27種となる。この種数は県内の低山地に分布する種数としては平均以上の種類となり、宇部市の霜降山一帯の蝶相は豊かであることを意味している。

セセリチョウ科では一時期南方種として騒がれたクロセセリは、人家周辺に植栽されたミョウガで発生している。ミヤマセセリは2000年以降は未確認となっており、ホソバセセリについても安定性を欠く棲息状態で注意が必要となる。

アゲハチョウ科ではジャコウアゲハが局地的に分布している。ミヤマカラスアゲハについても低山地での分布は限られる種になる。クロアゲハについても個体数は少ない傾向にある。

シロチョウ科はツマキチョウが局地的に発生しており、ツマグロキチョウは2000年以降ほとんど記録が途絶えた。最近の記録は2019年に山塊近郷の棚井からの一例がある。ツマグロキチョウの衰退は食草となるカワラケツメイがことごとく駆逐されたからで、これは宇部市に限らず県内全域に及ぶ。駆逐された原因は9月頃に実施される草刈が全てで、1年草となるカワラケツメイは種子を弾くことなく、草刈をされた時点で滅びることになる。現在県内でカワラケツメイが安定して自生している場所は、健康茶として栽培されている

山口市徳地の限られた地域と萩市むつみや、福栄などしか見あたらなく、かつての多産地だった秋吉台も壊滅状態になっている。そのため本種は全国的にも稀少性が高い種として、絶滅危惧種に選定されている。

シジミチョウ科ではムラサキツバメが見られ、シリブカガシで発生している。年1化性のコツバメが棲息しているが、個体数は少ない。トラフシジミも局地的な分布傾向にある。またサツマシジミも局地的で発生年に変動が見られ安定性を欠く。

絶滅危惧種となるシルビアシジミは安定しており、当該地域一帯は本種の食草となるミヤコグサが密に自生していることから、県内で最も安定した棲息地となっている。ただ植生遷移により食草が衰退する懸念もあり、農耕地帯の維持管理が今後の課題として残されている。

タテハチョウ科では山地性のミドリヒョウモンが少ないながら見られる。スミナガシについても1例の記録があり、低山地帯の記録としては稀になるが、継続性が無いため注視する種になる。コムラサキについては厚東川沿いに自生するヤナギで発生しており、個体数も安定している。ただ川沿いのヤナギは簡単に伐採される傾向にあり、河川改修工事などでは配慮することも必要になる。

アサギマダラについては10月頃になって見られるが、これは渡りに由来するものと考えられ、幼虫の餌となるキジョランやイケマは当概山塊では見あたらず、定着性については難しい。

ジャノメチョウ類のジャノメチョウが山頂の周回部から少ないながら発生しているようだが、最近の調べでは個体数も少なく、注意が必要になっている。絶滅危惧種のウラナミジャノメは山塊の周回部に局所的に見られ、個体数も少ない。クロコノマチョウは山塊の麓あたりの農耕地周辺で広域に発生している。ただ近縁のウスイロコノマチョウについても時折発生することはあるが、偶産種に分類されているように冬期の耐寒性が無いため、定着は認められない。

④ 今富ダム周辺

2013年の定点調査で過去の記録も含め5科56種を確認した。

その科別の内訳はセセリチョウ科8種、アゲハチョウ科8種、シロチョウ科5種、シジミチョウ科13種、タテハチョウ科22種となる。この種数は県内の低山間域では妥当な種数と言える。

注目すべき種として、セセリチョウ科ではやや山地性となるヒメキマダラセセリは当概地域が宇部市内の境界になり、これより南側(海岸側)からは記録が無い。クロセセリが未確認になっているが、調査次第で発見は可能となる種である。

アゲハチョウ科はジャコウアゲハが局所的に棲息している。食草となるウマノズクサは農耕地帯に自生する植物になるが、その多くは駆逐されることが多く、保全を視野に入れておく必要性を感じず。そのほか大型のアゲハチョウ類はミヤマカラスアゲハを除き分布している。

シロチョウ科については市内に普通に棲息する種は全て分布しており特に記述は無い。

シジミチョウ科についても市内に棲息する種は全て分布している。2009年から一時的に県内で分布を拡大する南方種クロマダラソテツシジミも当地でも発生した。ただ冬期の越冬個体は全て死滅し定着に至らないため、偶産種として扱われる。

タテハチョウ科では市内に棲息する種の大半は当地域にも見られる。ただヒオドシチョウが未確認となっており、要調査種として残されている。絶滅危惧種のウラナミジャノメも2006年の調査で確認しており、今富湖周回に局所的に分布している。

⑤ 小野湖周辺

2020年の定点調査で過去の記録も含め5科56種を確認した。

その科別の内訳はセセリチョウ科10種、アゲハチョウ科8種、シロチョウ科5種、シジミチョウ科13種、タテハチョウ科20種となる。この種数は今富ダム湖の種数とほぼ同様である。

注目すべき種として、セセリチョウ科で特筆すべきは2004年に木田で確認したミヤマチャバネセセリがある。宇部市では厚東の立熊での記録もあるが、僅か2例しか見あたらぬ。絶滅危惧種のカテゴリーも絶滅危

惧IB類と、稀少性も高い。県内でも安定した棲息地は無く要調査種として注視する必要がある。

ほかのセセリチョウ類については特に気づきはない。

アゲハチョウ科はジャコウアゲハを含め大型の種はミヤマカラスアゲハを除き分布しており、特にモンキアゲハは個体数の多い種になる。これは食樹となるカラスザンショウが多く自生することによるものである。ジャコウアゲハについてもダム湖のやや下流部にウマノスズクサが自生しており、ここ20年来発生を続けて、市内では唯一安定した棲息地となる。

シロチョウ科については特に注目する種は見あたらない。

シジミチョウ科では絶滅危惧種のシルビアシジミが小野湖周回部に点々と棲息するが、過去、櫛原で発生していた所は食草のミヤコグサが消滅気味になっており、要観察としたい。

南方種のクロマダラソテツシジミは2019年に県内でも一時的に発生した。小野湖周辺では一の坂と下小野の2ヶ所から確認したが、人家に植栽したソテツで一時発生したことがわかった。

タテハチョウ科は市内に分布する種の多くが棲息している。絶滅危惧種のウラナミジヤノメは2003年の調べで藤河内、如意寺、櫛原で確認している。ただ植生遷移のこともあり注意が必要。

そのほか小野湖の西側エリア(旧楠町との境界部)で太陽光発電(ソーラーパネル)の設置事業が施された。工事後の環境への影響について確認はなされていない。

⑥ 常盤湖一带

2021年の定点調査で5科52種を確認した。

その科別の内訳はセセリチョウ科6種、アゲハチョウ科7種、シロチョウ科4種、シジミチョウ科14種、タテハチョウ科21種となる。この種数は市内の中心部となる地域では少ないものではない。52種の中には偶産種となるクロマダラソテツシジミとリュウキュウムラサキが含まれる。

注目すべき種として、クロセセリは公園内の薬草園や周回部の人家に植栽されているミョウガで発生している。オオチャバネセセリに注意したが、市内での棲息は難しいようである。

アゲハチョウ科では大型のアゲハチョウ類は分布するが、クロアゲハなど個体数は少ない。ミカドアゲハに期待したが、未確認となった。ただヒメタイサンボクは人家周辺に植栽されており、今後発見される可能性はある。ジャコウアゲハについては食草が無く、難しいようである。

シロチョウ科はスジグロシロチョウが未確認となったが、今後発見される可能性は残されている。

1化性のツマキチョウの個体数は少なく、局所的に発生していると推察される。

シジミチョウ科ではゼフィルスと称される種のみズイロオナガシジミとアカシジミが常盤湖周回部に広く分布している。これは食樹となるコナラやクヌギが多く自生していることによる。

ムラサキツバメも比較的多く、これは食樹となるマテバシイが植栽されているためと見られる。

絶滅危惧種となるシルビアシジミも常盤湖周回部に自生しているミヤコグサで発生しているが、公園の維持管理のため草刈が定期的になされる関係で、個体数については不安定になる。

南方種となるヤクシマルリシジミが発生しているが、これは幼虫の餌となる食餌が多岐にわたるため、常盤湖では園芸用のバラで発生しており、秋期に個体数を増す。また南方種のクロマダラソテツシジミも毎年のように一時発生を繰り返す種で、常盤湖でも各所に植栽されているソテツで発生している。ただ耐寒性が弱いため現時点では越冬は無理で、偶産種扱いになる種である。

タテハチョウ科は常盤湖近郷で見られる種の多くが分布している。ただ個体数については偏り、アカタテハやルリタテハ、イチモンジチョウなどは非常に少なく、比較的安定している種はヒメアカタテハやコムラサキ、ゴマダラチョウなどである。

なお調査時に予想もしない南方種のリュウキュウムラサキの発見があった。当然偶産種になるもので、通常は台風などの通過に伴い発見されることが多いが、確認した前後では通過した台風は無く、日にち的にはかなり経過してからの発見になる。いずれにしても気象に関わる要因で当地に運ばれてきたと推察できる。過去県内で本種の記録は点々とあるが、宇部市では初記録になる。

アサギマダラはフジバカマを植栽している場所と、公園の周回部から確認した。10月に入ってからの確認で、この時期の個体は渡りに由来するものと考えてよい。

ジャノメチョウ類ではコジャノメとウラナミジャノメに期待したが、確認できなかった。またジャノメチョウも回りが宅地や公共の施設で占められていることもあり、市内の中心部となる環境を考えると棲息は難しいと思われる。

常盤湖は都市公園ということで定期的に維持管理が実施されているようである。そのため特に草を食餌とするチョウ類に与える影響も少なからずあるようで、時期によっては何も見られないような日もあり、種の観察には日時を考えたりし工夫を要する。

⑦ 日の山一帯（宇部市に限定しているため、阿知須側は対象外としている）

2022年の定点調査で5科36種を確認した。

その科別の内訳はセセリチョウ科3種、アゲハチョウ科8種、シロチョウ科4種、シジミチョウ科9種、タテハチョウ科12種となる。なお2020年にクロマダラソテツシジミの一時発生があった、また、20年以前にシルビアシジミを確認しており、この2種を加え38種を記録したことになる。

この結果は予想した種数を10種程度下回ると考えている。

この少なかった考えられる要因として、人家ばかりで調査に不適な場所が多いことにあり、簡単に立ち入ることができないことになる。また2022年は全国的に昆虫類が少なく、県内でも全域で異常事態であった。特に夏場以降の2化、3化の発生は通常では考えられない状況で、確認種数が少なくなった要因の一つと思われる。この状態が次年度以降も続くのかなどは、今後の推移を見極める必要がある。

注目すべき種として、セセリチョウ科はキマダラセセリやホソバセセリが未確認となった。またクロセセリの未確認も、山塊の周回部は全て人家が密集し調査に不適で、これはほかの種についても同様となる。

アゲハチョウ科ではジャコウアゲハを見たが一度だけで、個体数は少ないと思われる。クロアゲハやカラサアゲハ、モンキアゲハも当山一帯は少なく多くは期待できない。なかで比較的安定している種はナガサキアゲハで、これは食餌となる柑橘類が多く植栽されていることによる。またキアゲハも海岸近くに自生するシシウドで発生している。

シロチョウ科はツマキチョウが少ないながら発生している様である。モンシロチョウとキタキチョウの分布は当然だが、スジグロシロチョウは海岸に近い地域から記録が少ないこともあり、確認の難しい種となる。モンキチョウは人家周辺から海岸近くの農耕地で発生している。

シジミチョウ科はアカシジミが山域に棲息している。ミズイロオナガシジミも発見できる種と考えている。サツマシジミも少ないながら発生しているようである。近年分布拡大の大きいヤクシマルリジミは未確認となったが、これから発生する種と考えられる。

20年以前にはシルビアシジミが登山道入り口付近の農耕地で発生していたが、この調査では未確認となった。現在農耕地の維持管理はなされてなく、食草のミヤコグサは僅かに自生するものの再発見の可能性は低いと思われる。ムラサキツバメは当山にも分布していることがわかった。

南方種クロマダラソテツシジミは、2022年は当地まで分布拡大に至らなかったようである。

タテハチョウ科の少なさは予想してなかったことになる。これらの種はルリタテハやキタテハ、ヒョウモンチョウ類のミドリヒョウモンやメスグロヒョウモンなどだが、今後発見される可能性はある。またイチモンジチョウも期待に反し未確認だが、食餌となるスイカヅラは局所的に自生しており、発見される可能性は残されている。テングチョウについては広く棲息しているようである。

ジャノメチョウ類は非常に少なく、ヒメジャノメについても僅か数個体の確認に留まった。これはクロヒカゲやサトキマダラヒカゲにも該当する。中でもクロコノマチョウの未確認は予想してなく、探す場所が外れていたことしか考えられないが、今後発見は可能な種となる。また迷蝶になるウスイロコノマチョウを、1999年に当山から少し離れた黒崎で確認したことがあり、これからも飛来してくることは考えられる。

渡りに由来するアサギマダラも見られる機会は一度も無かった。ただ全国的に2022年の発生は少なく、通常年

に確認できる数と比較して1/10程度と、これに関係したようである。

⑧ そのほかの地域の特異種など

1) 厚東立熊・平栗

ミヤマチャバネセセリの記録がある。県内でも現在安定した発生地は無く、絶滅が危惧される種になっており、要調査地として注意が必要になる。また絶滅危惧Ⅱ類のクモガタヒョウモンも宇部市の記録は平栗からで、現在継続的な確認はなされていないが、要調査地として注視する必要がある。

2) 善和・甲石

絶滅危惧ⅠB類となるウラギンスジヒョウモンの記録は善和付近のみで、その後継続性は見あたらないが、要注意種として残されている。甲石では準絶滅危惧種となるオオウラギンスジヒョウモンが確認されている。宇部市のような標高の低い丘陵地帯からは稀な種になり、県内の分布域を考察する過程でも関心もたれる。

3) 琴崎

市内の中心部あたるところで、稀少種には選定されないが、特異な分布域のミカドアゲハが棲息している。神木として植栽したオガタマノキが食樹で、オガタマノキの自生しないところでは、代用食となるヒメタイサクボクでも発生する。後者の場合、民家の庭木として植栽されることが多く、市内の各所からミカドアゲハの発見事例が増えている。

4) 西宇部・船木地域

宇部市の西部にあたる地域で山口県が本州の西限となるウラナミアカシジミが分布している。通称ゼフィルスと称される種で年一回初夏に発生する。食樹はクヌギをホストにしており、コナラやウバメガシでも発生する。

⑨ 宇部市で地域に限らず、ほぼどこにでも棲息している蝶類

- ・セセリチョウ科：ダイミョウセセリ、クロセセリ、チャバネセセリ、イチモンジセセリ
- ・アゲハチョウ科：キアゲハ、ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハ、アオスジアゲハ
- ・シロチョウ科：キタキチョウ、モンキチョウ、ツマキチョウ、モンシロチョウ
- ・シジミチョウ科：ウラギンシジミ、ムラサキツバメ、ムラサキシジミ、ミズイロオナガシジミ、アカシジミ、ベニシジミ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、シルビアシジミ、ツバメシジミ、ルリシジミ
- ・タテハチョウ科：テングチョウ、ツマグロヒョウモン、コムスジ、イシガケチョウ、ヒオドシチョウ、ルリタテハ、アカタテハ、ヒメアカタテハ、ゴマダラチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ヒカゲチョウ、クロヒカゲ、サトキマダラヒカゲ、ヒメジャノメ、クロコノマチョウ

⑩ 宇部市の偶産蝶（迷蝶）

1) ホソオチョウ

宇部市沖宇部で1988年に1♂の採集記録がある。報を得て付近一帯を調べて見たが、追加は無かった。採集された要因は気象条件など何らかの影響があったかと推察したが、詳細は不明である。

2) クロマダラソテツシジミ

2009年に山口県で初めて記録されてから、以後毎年のように夏場に飛来し一時発生を繰り返す迷蝶の常連種となっている。冬場の耐寒性が無く、越冬できず全て死滅しているが、温暖化のこともあり、今後の動向に注意が必要である。幼虫はソテツの新芽を食害する。

3) メスアカムラサキ

宇部市では1951年に岬で1♂1♀の採集事例がある。調べた結果、標本は残念ながら失われており、

南方種の採集事例としての古い記録が残されている。

4) リュウキュウムラサキ

上記と同様代表的な南方種で、宇部市では2021年に常盤湖周回部の開で発見された。

5) ウスイロコノマチョウ

県内では比較的多く採集される南方種だが、耐寒性が無く冬場に死滅し越冬はできない。宇部市からは厚東瓜生野や末信、東岐波黒崎の記録などで一時発生したことがある。

⑪ 絶滅危惧種に指定される種

宇部市で山口県の絶滅危惧種に選定されている種は4科8種で、その内訳は以下のとおりである。

1. セセリチョウ科：ミヤマチャバネセセリ（絶滅危惧ⅠB類）
2. シロチョウ科：ツマグロキチョウ（絶滅危惧Ⅱ類）
3. シジミチョウ科：シルビアシジミ（準絶滅危惧）
4. タテハチョウ科：ウラギンスジヒョウモン（絶滅危惧ⅠB類）、オオウラギンスジヒョウモン（準絶滅危惧）、クモガタヒョウモン（絶滅危惧Ⅱ類）、ウラギンヒョウモン（準絶滅危惧）、ウラナミジャノメ（準絶滅危惧）

(ウ) まとめ

宇部市で保全すべき蝶類の対象種は存在しない。

本来は、⑪の項で述べた種が該当するようになるのだが、ミヤマチャバネセセリの継続的な発生は確認されておらず要調査種になる。ツマグロキチョウも厚東の棚井、霜降岳の川上、西万倉などから記録があるが、上述と同じ見解になる。

シルビアシジミとウラナミジャノメについては、宇部市は県内はもとより全国的に見ても稀に見る多産地で、現在は保全対象種にはならない。しかし他県では多くの地域で減少が大きく、県内でも各地で植生遷移による影響は少なからずあり、棲息地の推移を注意深く見極める必要がある。

また、シルビアシジミの保全の活動としては過去、ため池改修工事の際、食草となるミヤコグサの移植など厚東の末信で実施している。このような事項はその時の状況によって、地域の住民と担当行政を交えて活動することが、生物多様性の時代では重要なことと考えている。

宇部市では1998年と2004年に旧宇部市、2009年に旧楠地域の環境調査を実施している。

それらと並行して、イ)の地域ごとの概要に記したように、定点調査を実施して全蝶類の把握に努めてきた。この3年間に実施した地域を除き、既に10年以上経過しているが、定期的に探索してきた限り大きな変化は見あたらない。

生物は昆虫類を含め環境の変化に大きく影響するもので、最近の宇部市では開発により大きく環境改変された地域は少なく、蝶類に及ぼす影響は微小なものと思われる。よって上述で調べた地域の蝶類については、大きな変動はないものと考えている。

課題は過疎化に伴い、年々里地里山が少なくなっており草地を棲息圏とするセセリチョウ類やヒョウモンチョウ類、ジャノメチョウ類に影響を与えている懸念がある。

また、日の山一帯は予想した多くの種が未確認になったのは、調べる場所が限られることにある。また地球規模の温暖化など、気象に関わる何らかの影響が蝶類にも与えた感は否めない。これは全国的なことでもあり、今後の動向を見極めることが必要となる。

参考文献

五味 清・山本弘三, 2017. クロマダラソテツシジミ2016年の発生状況. 山口のむし, (16) : 76-77.

後藤和夫, 1996 [1997] a. スミナガシ宇部市で採集. ちょうしゅう, (9) : 3.

後藤和夫, 1996 [1997] b. 宇部、小野田市に於けるミズイロオナガシジミの生息状況について. ちょうしゅう

う,

(9) : 1-2.

- 後藤和夫, 1997 [1998]. シルビアシジミの異常型4例. ちょうしゅう, (10) : 3-4.
- 後藤和夫, 1999a. 蝶の遅い採集記録2例. ちょうしゅう, (11) : 6.
- 後藤和夫, 1999b. 暖冬に於ける蝶採集から思うこと. ちょうしゅう, (11) : 8-10.
- 後藤和夫, 1999c. ツマグロヒョウモンの異常型を撮影, 採集. ちょうしゅう, (11) : 10.
- 後藤和夫, 1999d. 宇部, 小野田市のシルビアシジミに付いて. 北九州の昆虫, 46(1) : 63-65.
- 後藤和夫, 1999e. 蝶の遅い採集記録2例. ちょうしゅう, (11) : 6.
- 後藤和夫, 2000a. 山口県で確認したウスイロコノマチョウ. 北九州の昆虫, 47(2) : 113-114.
- 後藤和夫, 2000b. クロセセリ山口県下全域に分布. 蝶研フィールド, (164) : 12-13.
- 後藤和夫, 2000c. 山口県下で確認したクロコノマチョウ. ちょうしゅう, (12) : 1-5.
- 後藤和夫, 2000d. ヒメウラナミジャノメの遅い発生. ちょうしゅう, (12) : 11.
- 後藤和夫, 2000e. モンキチョウ (♀), 黄色型の観察例. 山口県の自然, (60) : 39-40.
- 後藤和夫, 2000f. 山口県西部地区のウラナミアカシジミ. 月刊むし, (358) : 4-5.
- 後藤和夫, 2001a. 山口県下のアカシジミについて. 蝶研フィールド, (176) : 16-17.
- 後藤和夫, 2001b. 山口県下のウラナミジャノメ. 山口県の自然, (61) : 37-40.
- 後藤和夫, 2001c. 山口県下のシルビアシジミの生息状況. 蝶研フィールド, (175) : 13-15.
- 後藤和夫, 2001d. クロコノマチョウ追加報告. ちょうしゅう, (13) : 3-4.
- 後藤和夫, 2001e. 自宅の庭で見てきた蝶. ちょうしゅう, (13) : 6-9.
- 後藤和夫, 2001f. 正月三が日に確認した蝶 (2000年). 北九州の昆虫, 48(1) : 43-45.
- 後藤和夫, 2001g. クサネムを食するキチョウ. 北九州の昆虫, 48(1) : 45.
- 後藤和夫, 2001h. クロセセリの記録 (補足1). 北九州の昆虫, 48(1) : 48.
- 後藤和夫, 2002a. アカシジミの異常型を採集. 月刊むし, (381) : 43.
- 後藤和夫, 2002b. アカシジミ県内各地に生息. 山口のむし, (1) : 2-3.
- 後藤和夫, 2002c. ジョロウグモに捕獲されたモンキチョウ. 山口のむし, (1) : 12.
- 後藤和夫, 2002d. シルビアシジミの遅い記録. 山口のむし, (1) : 6-8.
- 後藤和夫, 2002e. 宇部市とその近郊で確認したシルビアシジミ. 山口のむし, (1) : 5-6.
- 後藤和夫, 2002f. 宇部市北部で確認したウラナミジャノメ. 山口県の自然, (62) : 40.
- 後藤和夫, 2002g. モンキチョウ左後翅白色異常型. 蝶研フィールド, (195) : 26.
- 後藤和夫, 2002h. シルビアシジミ異常型2例. 蝶研フィールド, (204) : 30-31.
- 後藤和夫, 2003a. アカシジミ宇部市と近郊の記録. 山口のむし, (2) : 20.
- 後藤和夫, 2003b. 宇部市のウラナミジャノメ分布状況. 山口県の自然, (63) : 41-44.
- 後藤和夫, 2003c. 宇部市のシルビアシジミ分布状況. 山口のむし, (2) : 13-17.
- 後藤和夫, 2004a. シルビアシジミ生息地10数例. 山口のむし, (3) : 7.
- 後藤和夫, 2004b. ウラナミジャノメ生息地10数例. 山口のむし, (3) : 9-11.
- 後藤和夫, 2004c. 10月に確認したコミスジは何化か. 山口のむし, (3) : 14.
- 後藤和夫, 2005a. ミヤマチャバネセセリの新たな記録. 山口のむし, (4) : 13.
- 後藤和夫, 2005b. ミカドアゲハを楠町で採集. 山口のむし, (4) : 17.
- 後藤和夫, 2005c. 宇部市迫条で追加した蝶. 山口のむし, (4) : 16.
- 後藤和夫, 2005d. ウラギンスジヒョウモン覚え書き. 山口県の自然, (65) : 41-44.
- 後藤和夫, 2006a. 宇部市霜降岳の蝶類. 山口のむし, (5) : 11-14.
- 後藤和夫, 2006b. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2005年). 山口のむし, (5) : 18-19.
- 後藤和夫, 2006c. シルビアシジミの新たな生息地 (2005年). 山口のむし, (5) : 19-20.
- 後藤和夫, 2007a. 宇部市荒滝山の蝶類. 山口のむし, (6) : 11-14.

- 後藤和夫, 2007b. 不燃物置き場内で羽化したジャコウアゲハ. 山口のむし, (6) : 20-21.
- 後藤和夫, 2008a. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2007) . 山口のむし, (7) : 14.
- 後藤和夫, 2008b. シルビアシジミの新たな生息地 (2007) . 山口のむし, (7) : 14.
- 後藤和夫, 2008c. 越冬種ヒオドシチョウ晩秋の観察例. 山口のむし, (7) : 16-17.
- 後藤和夫, 2008d. 暖冬により発生の早まった蝶3種. 山口のむし, (7) : 17.
- 後藤和夫, 2009a. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2008年) . 山口のむし, (8) : 20-21.
- 後藤和夫, 2009b. ツマグロキチョウの新たな確認地 (2008年) . 山口のむし, (8) : 22-23.
- 後藤和夫, 2010a. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2009年) . 山口のむし, (9) : 27-28.
- 後藤和夫, 2010b. シルビアシジミの新たな生息地 (2009年) . 山口のむし, (9) : 28-30.
- 後藤和夫, 2010c. ヒメウラナミジャノメの早い発生. 山口のむし, (9) : 34.
- 後藤和夫, 2021. クロマダラソテツシジミ2020年の発生と分布の拡大について. 山口のむし, (20) : 58-59.
- 後藤和夫, 2010d. 蝶類斑紋異常形態4例. 山口のむし, (9) : 32-33.
- 後藤和夫, 2012. シルビアシジミの新たな生息地 (2011年) . 山口のむし, (11) : 22-23.
- 後藤和夫, 2013a. 宇部市平原岳一帯の蝶類. 山口のむし, (12) : 15-24.
- 後藤和夫, 2013b. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2012年) . 山口のむし, (12) : 25.
- 後藤和夫, 2013c. シルビアシジミの新たな生息地 (2012年) . 山口のむし, (12) : 26.
- 後藤和夫, 2013d. ミカドアゲハの追加記録. 山口のむし, (12) : 28.
- 後藤和夫, 2013e. チョウ類の白化個体2例. 山口のむし, (12) : 31.
- 後藤和夫, 2013f. ジャコウアゲハ12月に終齢幼虫を確認. 山口のむし, (12) : 31.
- 後藤和夫, 2014a. 宇部市今富ダム湖周辺の蝶類. 山口のむし, (13) : 11-20.
- 後藤和夫, 2014b. ウラナミジャノメの新たな生息地 (2013年) . 山口のむし, (13) : 32.
- 後藤和夫, 2014c. シルビアシジミの新たな生息地 (2013年) . 山口のむし, (13) : 33-34.
- 後藤和夫, 2014d. 宇部・山陽小野田市のヒオドシチョウ. 山口のむし, (13) : 36.
- 後藤和夫, 2014e. 2013年に山口県で発生したクロマダラソテツシジミ. 山口のむし, (13) : 39-41.
- 後藤和夫, 2015a. シルビアシジミの新たな生息地 (2014年) . 山口のむし, (14) : 26-27.
- 後藤和夫, 2015b. ベニシジミの白化個体を採集. 山口のむし, (14) : 50.
- 後藤和夫, 2016a. シルビアシジミの新たな生息地と県内の分布 (2015) . 山口のむし, (15) : 60-62.
- 後藤和夫, 2016b. ツマグロキチョウの新たな確認地と分布の動向 (2015) . 山口のむし, (15) : 65-67.
- 後藤和夫, 2018a. シルビアシジミの新たな生息地 (2017) . 山口のむし, (17) : 59-60.
- 後藤和夫, 2018b. ルリシジミの早い発生例. 山口のむし, (17) : 72.
- 後藤和夫, 2019a. シルビアシジミの新たな生息地 (2018) . 山口のむし, (18) : 43.
- 後藤和夫, 2019b. クロマダラソテツシジミ2018年の発生状況について. 山口のむし, (18) : 55-56.
- 後藤和夫, 2020a. 正月三が日に見られる蝶4種. 山口のむし, (19) : 52.
- 後藤和夫, 2020b. クロマダラソテツシジミ2019年の発生と分布の拡大について. 山口のむし, (19) : 55-56.
- 後藤和夫, 2021a. 宇部市小野湖周辺の蝶類. 山口のむし, (20) : 7-15.
- 後藤和夫, 2021b. ヤクシマルリシジミ県内各地で確認. 山口のむし, (20) : 41-42.
- 後藤和夫, 2021c. シルビアシジミの新たな生息地と既知産地の動向 (2020) . 山口のむし, (20) : 43-44.
- 後藤和夫, 2021d. ルリシジミの斑紋異常型を採集. 山口のむし, (20) : 45.
- 後藤和夫, 2021e. アサマイチモンジを宇部市で採集. 山口のむし, (20) : 49.
- 後藤和夫, 2021f. クロマダラソテツシジミ2020年の発生と分布の拡大について. 山口のむし, (20) : 58-59.
- 後藤和夫, 2022a. 宇部市ときわ公園周辺の蝶類. 山口のむし, (21) : 15-24.
- 後藤和夫, 2022b. シルビアシジミの新たな生息地と既知産地の動向 (2021) . 山口のむし, (21) : 55.

- 後藤和夫, 2022c. ルリシジミとミズイロオナガシジミの異属種間交尾例. 山口のむし, (21) : 65.
- 後藤和夫, 2022d. シルビアシジミの斑紋異常型を採集. 山口のむし, (21) : 66.
- 後藤和夫, 2022e. 宇部市ときわ公園でリュウキュウムラサキを採集. 山口のむし, (21) : 76.
- 後藤和夫, 2022f. クロマダラソテツシジミ2021年の発生と分布の拡大について. 山口のむし, (21) : 83-84.
- 後藤和夫, 2023a. 宇部市東岐波日ノ山周辺の蝶類. 山口のむし, (22) : 11-18.
- 後藤和夫, 2023b. クロマダラソテツシジミ2022年の発生状況について. 山口のむし, (22) : 48.
- 後藤和夫・三時輝久, 2000. 山口県の偶産蝶類について. 山口県立山口博物館研究報告, (26) : 1-24.
- 後藤和夫・安富健児, 2003. 宇部市迫条地区の蝶類. 山口のむし, (2) : 7-8.
- 後藤和夫・安富大樹, 2004. 宇部市迫条地区の蝶類追加報告. 山口のむし, (3) : 15-17.
- 後藤和夫 (監), 五味 清・福田竹美 (編), 2021. 山口県の蝶. 339pp., 山口むしの会.
- 川元 裕, 2010. 2009年の山口県におけるクロマダラソテツシジミの発生状況. 山口のむし, (9) : 49-64.
- 葛谷 健, 1986. 山口県宇部市でクロセセリを目撃. 昆虫と自然, 21(14) : 10-11.
- 岡村元昭, 2007. 旧楠町と下関市で採集したミカドアゲハ. 山口のむし, (6) : 26.
- 岡村元昭, 2021. ツマキチョウの異常型を採集. 山口のむし, (20) : 52.
- 白水 隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 336pp., 学習研究社.
- 田中 馨, 2009. 初雪の夜, 灯火に飛来したクロコノマチョウ. 山口のむし, (8) : 27.

3. まとめ

代表的な種の生態写真及び目録を以降のページに掲載する。

トンボ目

図版1



図 4-1 オツネトンボ♂



図 4-2 コバネアオイトトンボ♂



図 4-3 アサヒナカワトンボ♂



図 4-4 ミヤマカワトンボ♂



図 4-5 グンバイトンボ♂



図 4-6 キイトンボ♂



図 4-7 ベニイトンボ♂



図 4-8 オオイトンボ♂



図 4-9 ムスジイトンボ♂



図 4-10 ヒノマイトンボ♂



図 4-11 ホソマイトンボ♂



図 4-12 アジアイトンボ♂



図 4-13 サラサヤンマ♂



図 4-14 コンボソヤンマ♂



図 4-15 ミルンヤンマ♂



図 4-16 アオヤンマ♂



図 4-17 ネアカヨシヤンマ♂



図 4-18 マルタンヤンマ♂



図 4-19 ルリボシヤンマ♂



図 4-20 ウチワヤンマ♂



図 4-21 オナガサナエ♂



図 4-22 アオサナエ♂



図 4-23 オジロサナエ♂



図 4-24 オグマサナエ♂



図 4-25 ホンサナエ♂



図 4-26 キイロサナエ♂



図 4-27 ムカシヤンマ♂



図 4-28 オニヤンマ♂



図 4-29 エゾトンボ♂



図 4-30 ハネビロエゾトンボ♂



図 4-31 キイロヤマトンボ♂



図 4-32 アキアカネ♂



図 4-33 ミヤマアカネ♂



図 4-34 アオビタイトンボ♂



図 4-35 ハッチョウトンボ♂



図 4-36 ベッコウトンボ♂



図 4-37 ナナフシモドキ



図 4-38 タイワントヒゼナナフシ



図 4-39 アオマツムシ



図 4-40 オンブバッタ



図 4-41 ヤマトマダラバッタ



図 4-42 トマサマバッタ



図 4-43 オオカマキリ



図 4-44 ムネアカハラビロカマキリ



図 4-45 ハルゼミ



図 4-46 ツマグロスケバ



図 4-47 スケバハゴロモ



図 4-48 エサキアメンボ



図 4-49 ヨコヅナサシガメ



図 4-50 オオトビサシガメ



図 4-51 トゲサシガメ



図 4-52 キベリユミアシサシガメ



図 4-53 ヒメゲヘリカメムシ



図 4-54 マツヘリカメムシ



図 4-55 ハマベツチカメムシ



図 4-56 ミツボシツチカメムシ



図 4-57 アカギカメムシ



図 4-58 オオキンカメムシ



図 4-59 アカスジキンカメムシ



図 4-60 ノコギリカメムシ



図 4-61 ヒメチャバネアオカメムシ



図 4-62 ヒラタガリカメムシ



図 4-63 ナガメ



図 4-64 セアカツノカメムシ



図 4-65 ミズスマシ



図 4-66 ヨドシロヘリハンミョウ



図 4-67 ムツボシコミズギワゴミムシ



図 4-68 ハマベゴミムシ



図 4-69 マルケシゲンゴロウ



図 4-70 コガムシ



図 4-71 ガムシ



図 4-72 オオズウミハネカクシ



図 4-73 キンボシマルズオオハネカクシ



図 4-74 ノコギリクワガタ



図 4-75 カブトムシ



図 4-76 アカマダラハナムグリ



図 4-77 ジュウクホシテントウ



図 4-78 クロイロヒゲハナノミ



図 4-79 キマダラカミキリ



図 4-80 ミヤマカミキリ



図 4-81 タカサゴシロカミキリ



図 4-82 キンイロネクイハムシ



図 4-83 ヨウロウヒラクチハバチ



図 4-84 セグロカブラバチ



図 4-85 キアシトコバチ



図 4-86 シリアゲコバチ



図 4-87 ウmanoオバチ



図 4-88 マダラヒメバチ



図 4-89 オオホシオナガバチ



図 4-90 キスジセアカカギバラバチ



図 4-91 ホシセダカヤセバチ



図 4-92 オオコンボウヤセバチ



図 4-93 オオセイボウ



図 4-94 フタホシアリバチ



図 4-95 ベッコウクモバチ



図 4-96 ツマアカクモバチ



図 4-97 キンケハラナガツチバチ



図 4-98 オオフトオビドロバチ



図 4-99 ミカドツクリバチ



図 4-100 カバオビドロバチ



図 4-101 ヤマトアシナガバチ



図 4-102 オオスズメバチ



図 4-103 クロスズメバチ



図 4-104 サトジガバチ



図 4-105 クロアナバチ



図 4-106 ニッポンハナダカバチ



図 4-107 リュウキュウコオロギバチ



図 4-108 オオムカシハナバチ



図 4-109 アオスジハナバチ



図 4-110 アカガネコハナバチ



図 4-111 ヤトガリハナバチ



図 4-112 オオハキリバチ



図 4-113 キムネクマバチ



図 4-114 ダイミョウキマダラハナバチ



図 4-115 ニホンミツバチ



図 4-116 オオマルハナバチ



図 4-117 ニッポンヒゲナガハナバチ



図 4-118 ナミルリモンハナバチ



図 4-119 コガタノミズアブ



図 4-120 セダカコガシラアブ



図 4-121 ビロードツリアブ



図 4-122 スズキハラボソツリアブ



図 4-123 アオメアブ



図 4-124 ナガヒラタアブ



図 4-125 クロヒラタアブ



図 4-126 ツماغロコシボソハナアブ

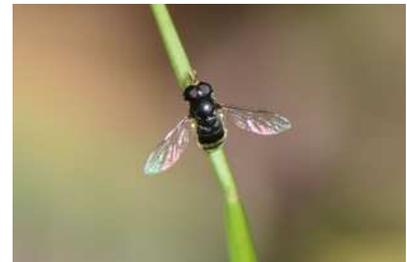


図 4-127 キアシマメヒラタアブ



図 4-128 ハチモドキハナアブ



図 4-129 ナミハナアブ



図 4-130 ルリハナアブ



図 4-131 フタガタハラブトハナアブ



図 4-132 ケンランアリノスアブ



図 4-133 ヒゲナガヤチバエ



図 4-134 ツماغロキンバエ



図 4-135 コンボウナガハリバエ



図 4-136 マルボシヒラタヤドリバエ



図 4-137 イラガ



図 4-138 ブドウスカシクロバ



図 4-139 オオギンスジハマキ



図 4-140 マドガ



図 4-141 マエグロツツリガ



図 4-142 ギンモンミズメイガ



図 4-143 マエベニノメイガ



図 4-144 クビシロノメイガ



図 4-145 モンシロルリノメイガ



図 4-146 オオフトカギバ



図 4-147 クロホシフタオ



図 4-148 ウスアオエダシャク



図 4-149 オオツバメエダシャク



図 4-150 フチグロトゲエダシャク



図 4-151 トビモンオオエダシャク



図 4-152 クロテンフユシャク



図 4-153 キマエアオシャク



図 4-154 コヨツメアオシャク



図 4-155 セスジナミシャク



図 4-156 タケカレハ



図 4-157 オオミズアオ



図 4-158 エゾヨツメ



図 4-159 クチバスズメ



図 4-160 ベニスズメ



図 4-161 ムラサキシヤチホコ



図 4-162 ヘリスジヤチホコ



図 4-163 ノヒラトビモンヤチホコ



図 4-164 スゲドクガ



図 4-165 モンシロドクガ



図 4-166 アカスジシロコケガ



図 4-167 ベニヘリコケガ



図 4-168 マエフタモンアツバ



図 4-169 マエキトガリアツバ



図 4-170 ソトハガタアツバ



図 4-171 オスグロトモエ



図 4-172 マツキリガ



図 4-173 アオバセセリ♀



図 4-174 クロセセリ♀



図 4-175 ヒメキマダラセセリ♀



図 4-176 キマダラセセリ♂



図 4-177 ミヤマチャバナセセリ♀



図 4-178 ジャコウアゲハ♀



図 4-179 キアゲハ♂



図 4-180 クロアゲハ♂



図 4-181 ナガサキアゲハ♀



図 4-182 モンキアゲハ♂



図 4-183 カラスアゲハ♀



図 4-184 ミヤマカラスアゲハ♂



図 4-185 ミカドアゲハ♂



図 4-186 ツマグロキチョウ♂



図 4-187 ツマキチョウ♀



図 4-188 スジグロシロチョウ♀



図 4-189 ムラサキツバメ♂



図 4-190 ミズイロオナガシジミ♀



図 4-191 アカシジミ♀



図 4-192 ウラナミアカシジミ♂



図 4-193 トラフシジミ♀



図 4-194 シルビアシジミ♀



図 4-195 ヤクシマルリシジミ♂



図 4-196 クロマダラソテツシジミ♂



図 4-197 アサギマダラ♀



図 4-198 ウラギンスジヒョウモン♀



図 4-199 オオウラギンスジヒョウモン♂



図 4-200 クモガタヒョウモン♂



図 4-201 ウラギンヒョウモン♂



図 4-202 アサマイチモンジ♀



図 4-203 ヒオドシチョウ♂



図 4-204 リュウキュウムラサキ♂



図 4-205 コムラサキ♂



図 4-206 ゴマダラチョウ♂



図 4-207 ウラナミジャノメ♂



図 4-208 クロコノマチョウ♀

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (1/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1	トンボ 11科87種	アオイトトンボ	オツネイトトンボ	<i>Sympecma paedisca</i>	NT 図-1
2			ホシミオツネイトトンボ	<i>Indolestes peregrinus</i>	
3			アオイトトンボ	<i>Lestes sponsa</i>	
4			オオアオイトトンボ	<i>L. temporalis</i>	
5			コハネアオイトトンボ	<i>L. japonicus</i>	EN 図-2
6		カワトンボ	ニホンカワトンボ	<i>Mnais costalis</i>	
7			アサヒカワトンボ	<i>M. pruinosa</i>	図-3
8			ミヤマカワトンボ	<i>Calopteryx cornelia</i>	図-4
9		モノサシトンボ	ハクロトンボ	<i>Atracalopteryx atrata</i>	
10			ゲンバイトトンボ	<i>Platycnemis foliacea sasakii</i>	図-5
11			モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i>	
12	イトトンボ	キイトトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i>	図-6	
13		ベニイトトンボ	<i>Ceragrion nipponicum</i>	図-7	
14		リュウキュウベニイトトンボ	<i>C. auranticum ryukyuanum</i>		
15		クロイトトンボ	<i>Paracercion calamorum calamorum</i>		
16		セシイトトンボ	<i>P. hieroglyphicum</i>		
17		オオイトトンボ	<i>P. sieboldii</i>	EN 図-8	
18		ムスイトトンボ	<i>P. melanotum</i>	図-9	
19		ヒスマイトトンボ	<i>Mortonagrion Hirosei</i>	CR 図-10	
20		ホシミイトトンボ	<i>Aciagrion migratum</i>	図-11	
21		アオモンイトトンボ	<i>A. migratum</i>		
22		アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>	NT 図-12	
23	ヤンマ	サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna prveri</i>	NT 図-13	
24		ゴシボヤンマ	<i>Boveria maclachlani</i>	図-14	
25		ミルヤンマ	<i>Planaeschna milnei</i>	図-15	
26		アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	NT 図-16	
27		ネアカヨシヤンマ	<i>A. anisoptera</i>	VU 図-17	
28		カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i>		
29		マルタンヤンマ	<i>Anaciaeschna martini</i>	図-18	
30		ヤブヤンマ	<i>Polycanthaevna melanictera</i>		
31		ルリボシヤンマ	<i>Aeshna iuncea iuncea</i>	NT 図-19	
32		キンヤンマ	<i>Anax parthenope iulius</i>		
33		クロシキンヤンマ	<i>A. nigrofasciatus nigrofasciatus</i>		
34	*オオキンヤンマ	<i>A. guttatus</i>			
35	サナエトンボ	ウチワヤンマ	<i>Sinictinogomphus clavatus</i>	図-20	
36		クワノウチワヤンマ	<i>Ictinogomphus pertinax</i>		
37		コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i>		
38		オナガサナエ	<i>Meligomphus viridicostus</i>	図-21	
39		アオサナエ	<i>Nihonogomphus viridis</i>	NT 図-22	
40		ヒメクロサナエ	<i>Lanthus fujiacus</i>		
41		ヒメサナエ	<i>Sinogomphus flavolimbatus</i>		
42		オンロサナエ	<i>Stylogomphus suzukii</i>	図-23	
43		タベサナエ	<i>Trigomphus citimus tabei</i>		
44		オグマサナエ	<i>T. ogumai</i>	EN 図-24	
45		ホシサナエ	<i>Shaogomphus postocularis</i>	VU 図-25	
46	キイロサナエ	<i>Asiagomphus prveri</i>	VU 図-26		
47	ヤマサナエ	<i>A. melanoops</i>			
48	ムカンヤンマ	<i>Tanypteryx prveri</i>	NT 図-27		
49	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	図-28		
50	エゾトンボ	トラフトンボ	<i>Epiheca marginata</i>		
51		タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i>		
52		エゾトンボ	<i>S. viridiaenea</i>	NT 図-29	
53		ハネヒロエゾトンボ	<i>S. clavata</i>	VU 図-30	
54	ヤマトトンボ	オオヤマトンボ	<i>Epopthalmia elegans elegans</i>		
55		キイロヤマトンボ	<i>Macromia daimoji</i>	EN 図-31	
56	トンボ	コヤマトンボ	<i>M. amphigena</i>		
57		チョウトンボ	<i>Rhvothemis fuliginosa</i>		
58		*スナアカネ	<i>Sympetrum fonscolombii</i>		
59		ナツアカネ	<i>S. darwinianum</i>		
60		リスアカネ	<i>S. risi risi</i>		
61		シメトンボ	<i>S. infuscatum</i>		
62		アキアカネ	<i>S. frequens</i>	VU 図-32	
63		*タイリクアキアカネ	<i>S. depressiusculum</i>		
64		タイリクアカネ	<i>S. striolatum imitoides</i>		
65		コシメトンボ	<i>S. matulinum</i>		
66		ヒメアカネ	<i>S. parvulum</i>		
67		マユタテアカネ	<i>S. eroticum eroticum</i>		
68		マイコアカネ	<i>S. kunckeli</i>		
69		ミヤマアカネ	<i>S. pedemontanum</i>	図-33	
70		*オナガアカネ	<i>S. cordulegaster</i>		
71		ネキトンボ	<i>S. speciosum speciosum</i>		
72		キトンボ	<i>S. croceolum</i>		
73		*ハネヒロトンボ	<i>Tramea virginia</i>		
74		アオヒタイトンボ	<i>Brachydiplax chalybea flavovittata</i>	図-34	
75		コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i>		
76		コフキトンボ	<i>Deileia phaon</i>		
77		*アメイロトンボ	<i>Tholvmis tillarga</i>		
78		ハツチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i>	VU 図-35	
79		ショウショウトンボ	<i>Crocothemis servilla mariannae</i>		
80		*ウスハキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>		
81		ヘニトンボ	<i>Trithemis aurora</i>		
82		ハラロトンボ	<i>Lvriothemis pachygastra</i>		
83	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>			
84	シオヤトンボ	<i>O. japonicum japonicum</i>			
85	オシオカラトンボ	<i>O. melania</i>			
86	ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>			
87	ヘッコウトンボ	<i>L. angelina</i>	CR 図-36		
88	カゲロウ 7科17種	カワカゲロウ	キイロカワカゲロウ	<i>Pothamanthus (Potamanthodes) formosus</i>	
89			モンカゲロウ	<i>Ephemera orientalis</i>	
90			モンカゲロウ	<i>E. strigata</i>	
91		シロイロカゲロウ	オシロカゲロウ	<i>Ephoron shigae</i>	
92			オオクママダラカゲロウ	<i>Cincticostella (Cincticostella) elongatula</i>	
93		マダラカゲロウ	ヨシノマダラカゲロウ	<i>Drunella ishivamana</i>	
94			シノナカマダラカゲロウ	<i>Ephacereella longicaudata</i>	
95			ウシケマダラカゲロウ	<i>E. setigera</i>	
96			エラマダラカゲロウ	<i>Torleva japonica</i>	
97			チノマダラカゲロウ	<i>Uracanthella chinoi</i>	
98			アカマダラカゲロウ	<i>U. punctisetae</i>	
99	コカゲロウ		<i>Baetiella japonica</i>		
100		シロハラコカゲロウ	<i>Baetis thermicas</i>		

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (2/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
101	カゲロウ	チラカゲロウ	チラカゲロウ	<i>Isonychia japonica</i>	
102		ヒラタカゲロウ	シロタニカワカゲロウ	<i>Ecdyonurus voshidae</i>	
103			エルモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus latifolium</i>	
104			ユミモンヒラタカゲロウ	<i>E. nipponicus</i>	
105	カワゲラ	アミカワゲラ	ヤマヒカワゲラ	<i>Stavsolus japonicus</i>	
106	ナナフシ	ナナフシモドキ	ナナフシモドキ	<i>Ramulus Mikado</i>	図-37
107	2科4種	トビナナフシ	トビナナフシ	<i>Neohirasea japonica</i>	
108			エダナナフシ	<i>Phraortes elongates</i>	
109			タイワントビナナフシ	<i>Sivloidea sivlovius</i>	図-38
110	ハツタ	コオロギ	エンマコオロギ	<i>Teleogryllus emma</i>	
111	8科14種	マツムシ	アオマツムシ	<i>Trilialia hibinonis</i>	図-39
112		ヒバリモドキ	ヤマトヒバリ	<i>Homoeoxipha obliterated</i>	
113		ケラ	ケラ	<i>Gryllotalpa orientalis</i>	
114		キリキリス	ニシキリキリス	<i>Tettigonia orientalis</i>	
115			クビキリキリス	<i>Fuconocephalus varius</i>	
116		ヒンハツタ	トゲヒンハツタ	<i>Criotettix japonicus</i>	
117			ハネナガヒンハツタ	<i>Euparattix insularis</i>	
118		オンフハツタ	オンフハツタ	<i>Atractomorpha lata</i>	図-40
119		ハツタ	ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i>	
120			シヨウリヨウハツタ	<i>Acrida cinerea</i>	
121			ヤマトマダラハツタ	<i>Epacromius japonicus</i>	NT 図-41
122			トノサマハツタ	<i>Locusta migratoria</i>	図-42
123			クルマハツタ	<i>Gastrimargus marmoratus</i>	
124	カマキリ	カマキリ	ハラビロカマキリ	<i>Hierodula patellifera</i>	
125	1科5種		コカマキリ	<i>Statilia maculata maculata</i>	
126			カマキリ	<i>Tenodera angustipennis</i>	
127			オオカマキリ	<i>Tenodera sinensis</i>	図-43
128			ムネアカハラビロカマキリ	<i>Hierodula sp.</i>	図-44
129	ゴキブリ	ゴキブリ	クロゴキブリ	<i>Periplaneta fuliginosa</i>	
130	2科3種	チャハネゴキブリ	キスシゴキブリ名義タイプ亜種	<i>Symloce striata striata</i>	
131			キリチャハネゴキブリ	<i>Blattella nipponica</i>	
132	カメムシ	ワタフキカイラムシ	オウランカイラムシ	<i>Drosicha corpulenta</i>	
133	54科400種	キンシラミ	クワキンシラミ	<i>Anomoneura mori</i>	
134			ヘニキンシラミ	<i>Cacopsylla coccinea</i>	
135			ヤツデキンシラミ	<i>C. fatsiae</i>	
136			キツタキンシラミ	<i>C. hederiae</i>	
137			チョウコクナキンシラミ	<i>C. iukvungi</i>	
138			センダンコクノキンシラミ	<i>Metapsylla uei</i>	
139			オオトカリキンシラミ	<i>Eoitrioza mizuhonica</i>	
140			ヒゲフトカリキンシラミ	<i>Stenopsylla nigricornis</i>	
141		セミ	ニイニセミ	<i>Platyleura kaempferi</i>	
142			クマセミ	<i>Crvototymoana facialis</i>	
143			アブラセミ	<i>Graptopsaltria nigrofusca</i>	
144			ヒメハルセミ	<i>Euterosia chibensis chibensis</i>	
145			ツクツクホウシ	<i>Meimuna opalifera</i>	
146			ヒケラン	<i>Tanna japonensis</i>	
147			ハルセミ	<i>Teronosia vacua</i>	
148			ミンミンセミ	<i>Hyalessa maculaticollis</i>	VU 図-45
149	ユガシラアワフキムシ	ユガシラアワフキ	ユガシラアワフキ	<i>Foscarta assimilis</i>	
150	アワフキムシ	マツアワフキ	マツアワフキ	<i>Aphrophora flavipes</i>	
151			シロオビアワフキ	<i>A. intermedia</i>	
152			イシダアワフキ	<i>A. ishidae</i>	
153			ハマヘアワフキ	<i>A. maritima</i>	
154			マエキアワフキ	<i>A. pectoralis</i>	
155			ヒメキンアワフキ	<i>A. rugosa</i>	
156			ホシアワフキ	<i>A. stictica</i>	
157			マルアワフキ	<i>Lepvronia coleoptrata</i>	
158			コムキアワフキ	<i>Peuceptus indentatus</i>	
159			ミヤマアワフキ	<i>P. nigroscutellatus</i>	
160	トゲアワフキムシ	ムネアカアワフキ	ムネアカアワフキ	<i>Hindoloides bipunctata</i>	
161	ツノセミ	トビイロツノセミ	トビイロツノセミ	<i>Machaerotymus sibiricus</i>	
162		モンツノセミ	モンツノセミ	<i>Tsunozemia paradoxa</i>	
163	ヨコバイ	ツダヨコバイ	ツダヨコバイ	<i>Japanagallia pteridis</i>	
164		ゴマフハトムネヨコバイ	ゴマフハトムネヨコバイ	<i>Macropsis irrorata</i>	
165		ヤノスキヨコバイ	ヤノスキヨコバイ	<i>Idioceus vanonis</i>	
166		ムナグロスヨコバイ	ムナグロスヨコバイ	<i>Metidiocerus rutilans</i>	
167		ズキンヨコバイ	ズキンヨコバイ	<i>Podulmorinus vitticollis</i>	
168		ミミスク	ミミスク	<i>Ledra auditura</i>	
169		コムミスク	コムミスク	<i>Ledropsis discolor</i>	
170		ホシコムミスク	ホシコムミスク	<i>L. wakabae</i>	
171		ツマクロオオヨコバイ	ツマクロオオヨコバイ	<i>Bothrogonia ferruginea</i>	
172		オオヨコバイ	オオヨコバイ	<i>Cicadella viridis</i>	
173		マエシオオヨコバイ	マエシオオヨコバイ	<i>Kolla atramentaria</i>	
174		キスシカンムリヨコバイ	キスシカンムリヨコバイ	<i>Evacanthus interruptus</i>	
175		フタテンオオヨコバイ	フタテンオオヨコバイ	<i>Epiacanthus stramineus</i>	
176		クワキヨコバイ	クワキヨコバイ	<i>Pagaronia guttigera</i>	
177		オオクワキヨコバイ	オオクワキヨコバイ	<i>P. grossa</i>	
178		ホソサシヨコバイ	ホソサシヨコバイ	<i>Nirvana pallida</i>	
179		クロシホソサシヨコバイ	クロシホソサシヨコバイ	<i>Sophonia orientalis</i>	
180		ヒメアオスキヨコバイ	ヒメアオスキヨコバイ	<i>Batracomorphus diminutus</i>	
181		アオスキヨコバイ	アオスキヨコバイ	<i>B. mundus</i>	
182		ホシアオスキヨコバイ	ホシアオスキヨコバイ	<i>B. stigmaticus</i>	
183		クワサシヨコバイ(シマサシヨコバイ)	クワサシヨコバイ(シマサシヨコバイ)	<i>Planaphrodes nigricans</i>	
184		クワサシヨコバイ	クワサシヨコバイ	<i>Exitianus indicus</i>	
185		ツマクロヨコバイ	ツマクロヨコバイ	<i>Nephotettix cincticeps</i>	
186		トバヨコバイ	トバヨコバイ	<i>Alobaldia tobae</i>	
187		イナスマヨコバイ	イナスマヨコバイ	<i>Maiestas dorsalis</i>	
188		ミドリカスリヨコバイ	ミドリカスリヨコバイ	<i>Balclutha incisa</i>	
189		アカカスリヨコバイ	アカカスリヨコバイ	<i>B. rubrinervis</i>	
190		ヨツテンウスバヨコバイ	ヨツテンウスバヨコバイ	<i>Macrosteles quadrimaculatus</i>	
191		ヒメフタテンウスバヨコバイ	ヒメフタテンウスバヨコバイ	<i>M. strifrons</i>	
192		ライヒンゲンヨコバイ	ライヒンゲンヨコバイ	<i>Hishimonus araii</i>	
193		ヒンゲンヨコバイ	ヒンゲンヨコバイ	<i>H. sellatus</i>	
194		クロヒラタヨコバイ	クロヒラタヨコバイ	<i>Penthimia nitida</i>	
195		フチキヨコバイ	フチキヨコバイ	<i>Drabescus nigrifemoratus</i>	
196		ホソサシヨコバイ	ホソサシヨコバイ	<i>Paraboloopona guttata</i>	
197		ストリヒヨコバイ	ストリヒヨコバイ	<i>Laburru similis</i>	
198		リンコマダラヨコバイ	リンコマダラヨコバイ	<i>Orientalis ishidae</i>	
199		ヒトツヨコバイ	ヒトツヨコバイ	<i>Phlogotettix cvcllops</i>	
200			シロセシヨコバイ	<i>Scaphoideus albovittatus</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (3/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
201	カメムシ	ヨコバイ	シラホシカシヨコバイ	<i>S. festivus</i>	
202			フタスジトカリヨコバイ	<i>Futasuiinus candidus</i>	
203			マダラヨコバイ	<i>Psammotettix striatus</i>	
204			ミスジトカリヨコバイ	<i>Japananus hvalinus</i>	
205			オオナカトカリヨコバイ	<i>Doratulina grandis</i>	
206			サンヨコバイ	<i>Hecalus prasinus</i>	
207			イグチホシヨコバイ	<i>Xestocephalus iguchii</i>	
208			ホシヨコバイ	<i>X. japonicus</i>	
209			セシヒメヨコバイ	<i>Motschulskvia (Togaritetix) serrata</i>	
210			カワリホシヒメヨコバイ	<i>Naratettix inornatus</i>	
211			アカシホシヒメヨコバイ	<i>N. rubrovittatus</i>	
212			オビヒメヨコバイ	<i>N. zonatus</i>	
213			ススキフタテヒメヨコバイ	<i>Arboridia (Arboridia) suzuki</i>	
214			ヤノフタテヒメヨコバイ	<i>A. vanonis</i>	
215			マダラヒメヨコバイ	<i>Diomma (Diomma) pulchra</i>	
216			ヨツモンコヒメヨコバイ	<i>Empoasca (Empoasca) limbata</i>	
217			ウスヒメヨコバイ	<i>Tautoneura japonica</i>	
218			チマダラヒメヨコバイ	<i>T. mori</i>	
219			イナズマヒメヨコバイ	<i>Zizacella hiravamella</i>	
220			ヤマシロヒメヨコバイ	<i>Zygina (Zygina) yamashiroensis</i>	
221			キウイヒメヨコバイ	<i>Alebrasca actinidiae M.Havashi et</i>	
222			ハチショウヒメヨコバイ	<i>A. hachionis</i>	
223			イトツバヒメヨコバイ	<i>Ishiharella polyphemus</i>	
224			アカヒメヨコバイ	<i>Alebroides rubicundus</i>	
225			カンキツヒメヨコバイ	<i>Apheliona ferruginea</i>	
226			ベニヒメヨコバイ	<i>Davus takagii</i>	
227			カシヒメヨコバイ	<i>Azuriana quercus</i>	
228			シロヒメヨコバイ	<i>A. triangularis</i>	
229			シロヒメヨコバイ	<i>Furhadina betularia</i>	
230			ホシヒメヨコバイ	<i>Limassolla multipunctata</i>	
231			アカシヒメヨコバイ	<i>Paracvba akashiensis</i>	
232			ホトヒメヨコバイ	<i>Warodia hoso</i>	
233		ピンウカ	ハスオビヒシウカ	<i>Betacixius obliquus</i>	
234			キカシラピンウカ	<i>Kuvera flaviceps</i>	
235			ヨモギピンウカ	<i>Oecleopsis artemisiae</i>	
236			オオピンウカ	<i>Oliarus subnubilus</i>	
237			ピンウカ	<i>Pentastiridius apicalis</i>	
238		ウカ	ハリマナウカ	<i>Stenocranus harimensis</i>	
239			タマカウカ	<i>S. tamagawanus</i>	
240			テラウチウカ(クロハネテラウチウカ)	<i>Terauchiana singularis</i>	
241			タケウカ	<i>Epeurysa nawaii</i>	
242			コフウカ	<i>Tropidocephala brunneipennis</i>	
243			クロコフウカ	<i>T. nigra</i>	
244			コマフウカ	<i>Cemus nigroclveatus</i>	
245			タテヤマウカ	<i>Chloriona tateyamana</i>	
246			クロスシオウカ	<i>Fuicides basilinea</i>	
247			ヒロウカ	<i>Hirozuunka japonica</i>	
248			ヒメヒウカ	<i>Laodelphax striatellus</i>	
249			トビイロウカ	<i>Nilaparvata lugens</i>	
250			ハコネホソウカ	<i>Sogata hakonensis</i>	
251			セシロウカ	<i>Sogatella furcifera</i>	
252		シマウカ	シマウカ	<i>Nisia nervosa</i>	
253		ハネナカウカ	アカハネナカウカ	<i>Diostribus politus</i>	
254			マエグロハネナカウカ	<i>Zoraida pterophoroides</i>	
255		コガシラウカ	ウスグロガシラウカ	<i>Akotropis fumata</i>	
256			アカフコガシラウカ	<i>Deferunda rubrostigma</i>	
257		テングステバ	ツマグロスケバ	<i>Orthopagus lunulifer</i>	図-46
258		ゲンバウカ	タテシゲンバウカ	<i>Catullia vittata</i>	
259			ストリクンバウカ	<i>Kallitaxilla sinica</i>	
260			ヒラタクンバウカ	<i>Ossoides lineatus</i>	
261		マルウカ	ウサビウカ	<i>Sarima amasiana</i>	
262			マルウカ	<i>Gergithus variabilis</i>	
263		アオハハコロモ	キカウハコロモ	<i>Atracis formosana</i>	
264			アオハハコロモ	<i>Geisha distinctissima</i>	
265			トビイロハコロモ	<i>Mimophantia maritima</i>	
266		ハコロモ	スケバハコロモ	<i>Euricania facialis</i>	図-47
267			ベッコウハコロモ	<i>Orosanga japonicus</i>	
268			アミカサハコロモ	<i>Pochazia albomaculata</i>	
269		クビナカメムシ	ヒメクビナカメムシ	<i>Hoplitoris (Pseudenicoccephalus) lewisi</i>	
270		タイコウチ	タイコウチ	<i>Lacotrophes japonensis</i>	
271			ミスカマキリ	<i>Ranatra chinensis</i>	
272			ヒメミスカマキリ	<i>R. unicolor</i>	
273		コオイムシ	コオイムシ	<i>Appasus japonicus</i>	
274		ミスムシ	ハイロチヒミスムシ	<i>Micronecta (Basileonecta) sahlbergii</i>	
275			チヒミスムシ	<i>M. (B.) sedula</i>	
276			コチヒミスムシ	<i>M. (Micronecta) guttata</i>	
277			ミナチミスムシ	<i>Cymatia apparens</i>	DD
278			エサキミスムシ	<i>Sigara (Pseudovermicorixa) septemlineata</i>	
279			オモナカミスムシ	<i>S. (Tropocorixa) bellula</i>	
280			アサヒナミスムシ	<i>S. (T.) maikoensis</i>	
281			ミスムシ	<i>S. (T.) substriata</i>	
282			ミヤケミスムシ	<i>Xenocorixa vittipennis</i>	
283		マツモムシ	マツモムシ	<i>Notonecta (paranecta) triguttata</i>	
284			コマツモムシ	<i>Anisops ogasawarenis</i>	
285		マルミスムシ	ヒマルミスムシ	<i>Paraplea indistinguenda</i>	
286			マルミスムシ	<i>P. Japonica</i>	
287		ミスカメムシ	ムモンミスカメムシ	<i>Mesovelvia mivamotoi</i>	
288		イトアメンボ	イトアメンボ	<i>Hydrometra albolineata</i>	VU
289			ヒメイトアメンボ	<i>H. procera</i>	
290		カタヒアメンボ	ケンカカタヒアメンボ	<i>Microvelia douglasi</i>	
291			マダラケンカカタヒアメンボ	<i>M. reticulata</i>	
292			ナカレカタヒアメンボ	<i>Pseudovelia tibialis tibialis</i>	
293		アメンボ	シマアメンボ	<i>Metrocoris histrio</i>	
294			トリアメンボ	<i>Rhagadotarsus (Rhagadotarsus) kraepelini</i>	
295			オアメンボ	<i>Aquarius elongatus</i>	
296			アメンボ	<i>A. paludum paludum</i>	
297			ハハアメンボ	<i>Gerris (Gerris) babai</i>	NT
298			ヒメアメンボ	<i>G. (G.) latibdominis</i>	
299			ハネナンアメンボ	<i>G. (G.) nepalensis</i>	
300			ヤスマツアメンボ	<i>G. (Macrogerris) insularis</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (4/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
301	カメムシ	アメンボ	エサキアメンボ	<i>Limnoporus esakii</i>	NT 図-48
302		ミスキワカメムシ	トケミスキワカメムシ	<i>Saldoida armata</i>	
303		カスカメムシ	タルマカメムシ	<i>Isometopus japonicus</i>	
304			ガマカスカメ	<i>Coridromius chinensis</i>	
305			カタグロミドリカスカメ	<i>Cyrtorhinus lividipennis</i>	
306			ネツタイヒイロカスカメ	<i>Pseudoloxops imperatorius</i>	
307			ウスキヒイロカスカメ	<i>P. mivamotoi</i>	DD
308			アカホシメダカカスカメ	<i>Zanchius tarasovi</i>	
309			イッカクカスカメ	<i>Acrorhynchium inexpectatum</i>	
310			モンキハシリカスカメ	<i>Halodapus centrimaculatus</i>	
311			ヨミドリヒトヒカスカメ	<i>Gamoviolomma livida</i>	
312			オオホシチビカスカメ	<i>Composidolon (Chamaeliops) elaeagnicola</i>	
313			マツビカスカメ	<i>Kasumiophvlus kvushuensis</i>	
314			コアヒケカスカメ	<i>Harnocera orientalis</i>	
315			キアノクロソカスカメ	<i>Phylus mivamotoi</i>	
316			クロヒカスカメ	<i>Psallus (Phylidea) castaneae</i>	
317			ウスキトビカスカメ	<i>P. (Psallus?) basionicus</i>	
318			ウスイロソカスカメ	<i>Europiella mivamotoi</i>	
319			ヒメヨキカスカメ	<i>Plagiognathus vomogi</i>	
320			ムナグロキイロカスカメ	<i>Tytthus chinensis</i>	
321			ホソヒョウタンカスカメ	<i>Pilophorus erraticus</i>	
322			マツヒョウタンカスカメ	<i>P. mivamotoi</i>	
323			オオクロヒョウタンカスカメ	<i>P. niger</i>	
324			ヒョウタンカスカメ	<i>P. setulosus</i>	
325			クロヒョウタンカスカメ	<i>P. tynicus</i>	
326			ヒメクロツヤチビカスカメ	<i>Seianus breviniger</i>	
327			スアカシタカスカメ	<i>Monalocoris filicis</i>	
328			マツルヒケボソカスカメ	<i>Alloeotomus similis</i>	
329			ウスハツヤカスカメ	<i>Deraeocoris castaneae</i>	
330			カワヤナキツヤカスカメ	<i>D. claspericapilatus</i>	
331			ケヤキツヤカスカメ	<i>D. ulmi</i>	
332			ハナダカスカメ	<i>Fingulus longicornis</i>	
333			クンバイカスカメ	<i>Stethoconus japonicus</i>	
334			ヒコサンテングカスカメ	<i>Termatophvlum hikosanum</i>	
335			アカシカスカメ	<i>Stenotus rubrovittatus</i>	
336			ウスモンカスカメ	<i>Adelphocoris demissus</i>	
337			ナカクロカスカメ	<i>A. suturalis</i>	
338			フチヒケクロカスカメ	<i>A. triannulatus</i>	
339			コアオカスカメ	<i>Apolveus lucorum</i>	
340			モモアカハキカスカメ	<i>A. roseofemoralis</i>	
341			ツマクロアオカスカメ	<i>A. spinolae</i>	
342			ツマクロハキカスカメ	<i>A. subboulchellus</i>	
343			ヒゲナカクロハカスカメ	<i>A. furvus</i>	
344			ツヤクロカスカメ	<i>Arbolveus glaber</i>	
345			ヨツボシカスカメ	<i>Bertsia lankana</i>	
346			ウスキカスカメ	<i>Castanopsides kerzhneri</i>	
347			カンソトビカスカメ	<i>Psallus (Hvlopsallus) tonnaichanus</i>	
348			ヒメヤタカスカメ	<i>Charagochilus angusticollis</i>	
349			ムカダカスカメ	<i>Eurystylus coelestialium</i>	
350			ハキメンガダカスカメ	<i>F. luteus</i>	
351			オオクロヤタカスカメ	<i>Probosciodocoris varicornis</i>	
352			ワタシカスカメ	<i>Stenotus binotatus</i>	
353			ウスモンミドリカスカメ	<i>Taylorilveus apicalis</i>	
354			ケフカスカメ	<i>Tingitum perlatum</i>	
355			フタケムキカスカメ(ムキメクラガメ)	<i>Stenodema (Brachystira) calcarata</i>	
356			ヒメホソミドリカスカメ	<i>Trigonotylus tenuis</i>	
357			クスベニヒラタカスカメ	<i>Mansoniella cinnamomi</i>	
358			クロハナカメムシ	<i>Anthocoris japonicus</i>	
359			キモンクロハナカメムシ	<i>A. mivamotoi</i>	
360			ヒメタルマハナカメムシ	<i>Bilia japonica</i>	
361			コヒメハナカメムシ	<i>Orius (Heterorius) minutus</i>	
362			ナシヒメハナカメムシ(ヒメハナカメムシ)	<i>O. (H.) sauteri</i>	
363			ヤサハナカメムシ	<i>Amphiareus obscuriceps</i>	
364			ケンハナカメムシ(クロスケンハナカメムシ)	<i>Cardiastethus exiguus</i>	
365			ウチワクンバイ	<i>Cantacader lethierryi</i>	
366			オオウチワクンバイ	<i>C. quinquecostatus</i>	
367			ブラタナクンバイ	<i>Corvthucha ciliata</i>	
368			アワダチウクンバイ	<i>C. marmorata</i>	
369			ヤフカラクンバイ	<i>Cvsteochila consueta</i>	
370			ベクツカスラクンバイ	<i>Dulinius conchatus</i>	
371			キククンバイ	<i>Galeatus affinis</i>	
372			ヤナキクンバイ	<i>Metasalis populi</i>	
373			タプクンバイ	<i>Stephanitis (Norba) aperta</i>	
374			ウスクンバイ	<i>S. (Stephanitis) fasciicarina</i>	
375			ナシクンバイ	<i>S. (S.) nashi</i>	
376			ツツクンバイ	<i>S. (S.) ovrioides</i>	
377			シキミクンバイ	<i>S. (S.) svensoni</i>	
378			マツムラクンバイ	<i>Tingis (Tropidocheila) matsumurai</i>	
379			ヒメクンバイ	<i>Uhlerrites debilis</i>	
380			ウチワクンバイ	<i>Xvnotingis hovtona</i>	
381			マキハサシガメ	<i>Prostemma hilgendorffii</i>	
382			ハネナガマキハサシガメ	<i>Nabis (Nabis) stenoferus</i>	
383			ビロウドサシガメ	<i>Ectrychotes andreae</i>	
384			クビクロアカサシガメ	<i>Haematoloecha delibuta</i>	
385			アカンサシガメ	<i>H. nigrorufa</i>	
386			セスンアンナガサシガメ	<i>Gardena brevicollis</i>	
387			コムシアンナガサシガメ	<i>Mviophanes tiupulina</i>	
388			アンナガサシガメ	<i>Schidium marcidum</i>	
389			マダラカモトキサシガメ	<i>Empicoris rubromaculatus</i>	
390			ヨコツナサシガメ	<i>Agriosphodrus dohrni</i>	図-49
391			アカサシガメ	<i>Cvdnocoris russatus</i>	
392			オオトビサシガメ	<i>Isvndus obscurus</i>	図-50
393			トケサシガメ	<i>Polididus armatissimus</i>	図-51
394			ヒゲナガサシガメ	<i>Serendiba staliana</i>	
395			シマサシガメ	<i>Sphedanolestes improssicollis</i>	
396			ヤニサシガメ	<i>Velinus nodiosus</i>	
397			クロサシガメ	<i>Peirates cinctiventris</i>	
398			クロモンサシガメ	<i>P. turpis</i>	
399			キイロサシガメ	<i>Sirthenea flavipes</i>	
400			キヘリユミアシサシガメ	<i>Polytoxus fuscovittatus</i>	図-52

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (5/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
401	カメムシ	サシガメ	トビイロサシガメ	<i>Oncocephalus assimilis</i>	
402			クロトビイロサシガメ	<i>O. breviscutum</i>	
403			モモトビイロサシガメ	<i>O. femoratus</i>	
404			シロスジトビイロサシガメ	<i>O. heissi Ishikawa</i>	
405			ホソサシガメ	<i>Pygolampis bidentata</i>	
406			ヒメトビサシガメ	<i>Staccia diluta</i>	
407		ヒラタカメムシ	ノコギリヒラタカメムシ	<i>Aradus orientalis</i>	
408			オオヒラタカメムシ	<i>Mezira scabrosa</i>	
409			イホヒラタカメムシ	<i>Ussingeria verrucigera</i>	
410		ヒゲナガカメムシ	ヒゲナガカメムシ	<i>Pachygrontha antennata</i>	
411			クロスジヒゲナガカメムシ	<i>P. similis</i>	
412		ヒョウタンナガカメムシ	ヤスマツチヒナガカメムシ	<i>Botocudo vasmatsui</i>	
413			ヒナナガカメムシ	<i>Iodinus ferrugineus</i>	
414			ヒゲブトナガカメムシ	<i>Appolonius oblongus</i>	
415			ヒラシマナガカメムシ	<i>Eremocoris planus</i>	
416			マツヒラタナガカメムシ	<i>Gastrodes grossipes</i>	
417			チャモンナガカメムシ	<i>Paradieuches dissimilis</i>	
418			オオチャイロナガカメムシ	<i>Neolethaeus assamensis</i>	
419			チャイロナガカメムシ	<i>N. dallasi</i>	
420			エサキナガカメムシ	<i>N. esakii</i>	
421			ルイスチャイロナガカメムシ	<i>N. lewisi</i>	
422			ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	<i>Gyndes pallicornis</i>	
423			サビヒョウタンナガカメムシ	<i>Horridipamera inconspicua</i>	
424			キヘリヒョウタンナガカメムシ	<i>H. lateralis</i>	
425			ヒラタヒョウタンナガカメムシ	<i>Pachybrachius luridus</i>	
426			スコットヒョウタンナガカメムシ	<i>Pamerana scotti</i>	
427			クロアシホソナガカメムシ	<i>Paromius ieunus</i>	
428			ミナミヒョウタンナガカメムシ	<i>Remaudiereana annulipes</i>	
429			ウスチャヒョウタンナガカメムシ	<i>R. flavipes</i>	
430			イチゴチヒナガカメムシ	<i>Stigmatonotum geniculatum</i>	
431			チヒナガカメムシ	<i>S. rufipes</i>	
432			コハネヒョウタンナガカメムシ	<i>Togo hemipterus</i>	
433			ヒョウタンナガカメムシ	<i>Caridops albomarginatus</i>	
434			キヘリナガカメムシ	<i>Dieuches uniformis</i>	
435			オオモンシロナガカメムシ	<i>Metochus abbreviatus</i>	
436			モンシロナガカメムシ	<i>Panaorus albomaculatus</i>	
437			シロヘリナガカメムシ	<i>P. japonicus</i>	
438			ハマヘナガカメムシ	<i>Peritrechus femoralis</i>	
439		オオメナガカメムシ	ヒメオオメナガカメムシ	<i>Geocoris (Geocoris) proteus</i>	
440			オオメナガカメムシ	<i>G. (G.) varius</i>	
441		コハネナガカメムシ	ニッポンコハネナガカメムシ	<i>Dimorphopterus japonicus</i>	
442			コハネナガカメムシ	<i>D. pallipes</i>	
443			ツノコハネナガカメムシ	<i>Iohicrates spinicaput</i>	
444			ホリコハネナガカメムシ	<i>Macropes obnubilus</i>	
445			フチヒラタナガカメムシ	<i>Kleidocercus nubilus</i>	
446			ムラサキナガカメムシ	<i>Pylorgerus colon</i>	
447			セシナガカメムシ	<i>Arocatus melanostoma</i>	
448			アカヘリナガカメムシ	<i>A. sericans</i>	
449			ヒメジュウシナガカメムシ	<i>Tropidothorax sinensis</i>	
450			ヒメナガカメムシ	<i>Nysius plebeius</i>	
451		ホソメタカナガカメムシ	ホソメタカナガカメムシ	<i>Ninomimus flavipes</i>	
452		メタカナガカメムシ	メタカナガカメムシ	<i>Chauliops fallax</i>	
453		イトカメムシ	ヒメイトカメムシ	<i>Metacanthus pulchellus</i>	
454			イトカメムシ	<i>Yemma exilis</i>	
455		オオホシカメムシ	オオホシカメムシ	<i>Physopelta gutta</i>	
456			ヒメホシカメムシ	<i>P. parviceps</i>	
457		ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ	<i>Pvrrhcoris sibiricus</i>	
458			クロホシカメムシ	<i>P. sinuaticollis</i>	
459		ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	<i>Leptocoris chinensis</i>	
460			ニセヒメクモヘリカメムシ	<i>Paraplesius vulearis</i>	
461			ホソヘリカメムシ	<i>Riptortus (Riptortus) pedestris</i>	
462		ヒメヘリカメムシ	スシヒメヘリカメムシ	<i>Liorhysus hvalinus</i>	
463			アカヒメヘリカメムシ	<i>Rhopalus (Aeschvnteles) maculatus</i>	
464			ケフカヒメヘリカメムシ	<i>R. (A.) sapporensis</i>	
465			フチヒメヘリカメムシ(フチヒゲヘリカメムシ)	<i>Stictopleurus punctatonevrosus</i>	
466		ヘリカメムシ	ヒメトケヘリカメムシ	<i>Gortomeris scabricornis</i>	図-53
467			ホオズキカメムシ	<i>Acanthocoris sordidus</i>	
468			マツヘリカメムシ	<i>Leptoglossus occidentalis</i>	図-54
469			オオツマキヘリカメムシ	<i>Hvgia (Colpura) lativentris</i>	
470			ツマキヘリカメムシ	<i>H. (Hvgia) opaca</i>	
471			ミナミツマキヘリカメムシ	<i>Paradasvnnus spinosus</i>	
472			ホソヘリカメムシ	<i>Cletus punctiger</i>	
473			ハリカメムシ	<i>C. schmidti</i>	
474			ヒメハリカメムシ	<i>C. trigonus</i>	
475			キハラヘリカメムシ	<i>Plinachtus bicoloripes</i>	
476			オオクモヘリカメムシ	<i>Homoeocerus (Anacanthocoris) striicornis</i>	
477			ホシハラヒロヘリカメムシ	<i>H. (Tliponius) unipunctatus</i>	
478			オオヘリカメムシ	<i>Molitorvix fuliginosa</i>	
479		クヌギカメムシ	クヌギカメムシ	<i>Urostylis westwoodii</i>	
480		マルカメムシ	ヒメマルカメムシ	<i>Coptosoma biguttulum</i>	
481			タテマルカメムシ	<i>C. parvipictum</i>	
482			クヌマルカメムシ	<i>C. semiflavum</i>	
483			マルカメムシ	<i>Megacopta punctatissima</i>	
484		ツチカメムシ	チャイロツチカメムシ	<i>Parachilocoris japonicus</i>	
485			ヨコツチカメムシ	<i>Adrisa magna</i>	
486			ハマヘツチカメムシ	<i>Byrsinus varians</i>	図-55
487			ヒメツチカメムシ	<i>Fromundus pygmaeus</i>	
488			ツチカメムシ	<i>Macroscytus japonensis</i>	
489			フタボシツチカメムシ	<i>Adomerus rotundus</i>	
490			ミツボシツチカメムシ	<i>A. triguttulus</i>	図-56
491		キンカメムシ	アカキカメムシ	<i>Cantao ocellatus</i>	図-57
492			オオキンカメムシ	<i>Eucorysses grandis</i>	図-58
493			アカスジキンカメムシ	<i>Poecilocoris lewisi</i>	図-59
494			チャイロカメムシ	<i>Furvgaster testudinaria</i>	
495		ノコギリカメムシ	ノコギリカメムシ	<i>Megymenum gracilicorne</i>	図-60
496		カメムシ	シロヘリクチフトカメムシ	<i>Andrallus spinidens</i>	
497			キュウシュウクチフトカメムシ	<i>Focanthecona kvushuensis</i>	
498			ルリクチフトカメムシ	<i>Zicrona caerulea</i>	
499			ウスラカメムシ	<i>Aelia fieberi</i>	
500			ヒメチャハネアオカメムシ	<i>Plautia solandens</i>	図-61

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (6/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
501	カメムシ	カメムシ	チャハネアオカメムシ	<i>P. stali</i>	
502			クサキカメムシ	<i>Halvonomorpha halvs</i>	
503			ヨツボシカメムシ	<i>Homallogonia obtusa</i>	
504			フチケカメムシ	<i>Dolycoris baccarum</i>	
505			ムラサキシラホシカメムシ	<i>Evsarcoris annamita</i>	
506			マルシラホシカメムシ	<i>F. guttiger</i>	
507			シラホシカメムシ	<i>F. ventralis</i>	
508			キマダラカメムシ	<i>Erthesina fullo</i>	
509			ウシカメムシ	<i>Alcimocoris japonensis</i>	
510			ナカホシカメムシ	<i>Menida musiva</i>	
511			フタテンカメムシ	<i>Laprius gastricus</i>	
512			ツヤアオカメムシ	<i>Glaucias subpunctatus</i>	
513			アオクサカメムシ	<i>Nezara antennata</i>	
514			ミミアオカメムシ	<i>N. viridula</i>	
515			イチモンジカメムシ	<i>Piezodorus hvbneri</i>	
516			ヒラ外ガリカメムシ	<i>Brachymna tenuis</i>	DD 図-62
517			イネカメムシ	<i>Niphe elongata</i>	
518			ヒメナカメ	<i>Eurvdema dominulus</i>	
519			ナガメ	<i>F. rugosa</i>	図-63
520			エドイロカメムシ	<i>Gonosis affinis</i>	
521			ハナタカカメムシ	<i>Dybrowskia reticulata</i>	
522			アカシカメムシ	<i>Graphosoma rubrolineatum</i>	
523			オオクワカメムシ	<i>Scotinophara horvathi</i>	
524			イネクワカメムシ	<i>S. lurida</i>	
525			ヒメクワカメムシ	<i>S. scottii</i>	
526		ツノカメムシ	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>	図-64
527			オオツノカメムシ	<i>A. firmatum</i>	
528			ハサミツノカメムシ	<i>A. labiduroides</i>	
529			アオモンツノカメムシ	<i>Flasmostethus nubilus</i>	
530			エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>	
531			モンキツノカメムシ	<i>S. scutellata</i>	
532	コウチュウ	ナガヒラタムシ	ナガヒラタムシ	<i>Tenomerga mucida</i>	
533	83科	ミスズムシ	ミスズムシ	<i>Gyrinus (Gyrinus) japonicus</i>	図-65
534	1550種	ハンミョウ	ゴトシロハリハンミョウ	<i>Callitron inspeculare inspeculare</i>	CR 図-66
535			アイヌハンミョウ	<i>Cicindela (Cicindela) gemmata aino</i>	NT
536			ニワハンミョウ	<i>C. (C.) ianana ianana</i>	
537			エリザハンミョウ 日本亜種	<i>Cylindera (Eugrapha) elisae novitia</i>	
538			ドウキョウヒメハンミョウ	<i>C. (Ifasina) kaleea vedoensis</i>	
539			コハンミョウ	<i>Mvriochila (Mvriochila) speculifera speculifera</i>	
540			ナミハンミョウ	<i>Sophiodela iaponica</i>	
541		オサムシ	フトキカワゴミムシ	<i>Leistus (Evanoleistus) crassus</i>	
542			カワチマルクビゴミムシ	<i>Nebria (Eunebria) lewisi</i>	
543			マルクビゴミムシ 基亜種	<i>N. (Orientonebria) chinensis chinensis</i>	
544			キヘリマルクビゴミムシ	<i>N. (Paranebria) livida angulata</i>	DD
545			クロチビマルクビゴミムシ	<i>Nippononebria (Nippononebria) kvushuensis</i>	
546			エソカダヒオサムシ	<i>Calosoma (Campalita) chinense chinense</i>	
547			マイマイカフリ 基亜種	<i>Carabus (Damaster) blaptoides blaptoides</i>	
548			キョウシウクワカオサムシ 山口県亜種	<i>C. (Leptocarabus) kvushuensis kawaharai</i>	
549			アキオサムシ 基亜種	<i>C. (Ohomopterus) chugokuensis chugokuensis</i>	
550			オオオサムシ 基亜種	<i>C. (O.) dehaanii dehaanii</i>	
551			ツヤヒメコウタンゴミムシ	<i>Clivina castanea</i>	
552			クロヒメコウタンゴミムシ	<i>C. lewisi</i>	
553			ヒメコウタンゴミムシ	<i>C. nipponensis</i>	
554			ゴヒメコウタンゴミムシ	<i>C. vulgivaga</i>	
555			ダニョウチビコウタンゴミムシ	<i>Dvyschirius (Dvyschiriodes) aeneus ovicollis</i>	
556			ゴチビコウタンゴミムシ	<i>D. (Eudvyschirius) hiogoensis</i>	
557			ホトコウタンゴミムシ	<i>Scarites (Parallelomorphus) acutidens</i>	
558			トコウタンゴミムシ	<i>S. (P.) aterrimus</i>	
559			ナガヒコウタンゴミムシ	<i>S. (P.) terricola pacificus</i>	
560			オサムシモトキ	<i>Craspedonotus tibialis</i>	
561			メダカチビカワゴミムシ	<i>Asaphidion semilucidum</i>	
562			キアシリミスキワゴミムシ	<i>Bembidion (?) traiectum</i>	
563			アオミスキワゴミムシ	<i>B. (Asiopervohus) chloreum</i>	
564			フタモンミスキワゴミムシ	<i>B. (opervohus) semilunium semilunium</i>	
565			ヒョウゴミスキワゴミムシ	<i>B. (Blepharoplataphus) hiogoense</i>	
566			ドウイロミスキワゴミムシ	<i>B. (Bracteon) stenoderum stenoderum</i>	
567			キハネキハナカミスキワゴミムシ	<i>B. (Desarmatocillenus) aestuarii</i>	DD
568			キハナカミスキワゴミムシ	<i>B. (D.) vokohamae</i>	DD
569			アトミスキワゴミムシ	<i>B. (Notaphocampa) niloticum batesi</i>	
570			ウスモンミスキワゴミムシ	<i>B. (Ocvdromus) cnemidotum</i>	
571			ヒヨサンミスキワゴミムシ	<i>B. (Pervohanes) hikosanum</i>	
572			ヨツボシミスキワゴミムシ	<i>B. (Pervohus) morawitzi</i>	
573			ヒメシミスキワゴミムシ	<i>B. (Plataphus) pliculatum</i>	
574			アトキミスキワゴミムシ	<i>B. (Terminophanes) consummatum</i>	
575			マルミスキワゴミムシ	<i>B. (Trichoplataphus) eurvgonum</i>	
576			オオアオミスキワゴミムシ	<i>B. (T.) lissotum</i>	
577			クロミスキワゴミムシ	<i>B. (T.) oxvelvma</i>	
578			キイロマルゴミスキワゴミムシ	<i>Elaphropus latissimus latissimus</i>	
579			セダカゴミスキワゴミムシ	<i>E. nipponicus</i>	
580			ヤノソコミスキワゴミムシ	<i>Lymnastis vanoii</i>	
581			チビミスキワゴミムシ	<i>Polyderis microscopicus</i>	
582			ヤマトチビミスキワゴミムシ	<i>P. naraensis</i>	
583			アトビゴミスキワゴミムシ	<i>Porotachys recurvicollis</i>	
584			クロオビゴミスキワゴミムシ 本土亜種	<i>Tachys (Paratichys) fasciatus fasciatus</i>	
585			カオロゴミスキワゴミムシ	<i>T. (P.) kaorutanakai</i>	DD 赤田・ハラタケ
586			ウスイロゴミスキワゴミムシ	<i>T. (P.) pallescens</i>	
587			ムツキノゴミスキワゴミムシ	<i>T. (P.) plagiatus shimosae</i>	VU 図-67
588			ウスオビゴミスキワゴミムシ	<i>T. (P.) sericans</i>	
589			クロチビカワゴミムシ	<i>Tachyta (Tachyta) nana nana</i>	
590			ヒラタゴミスキワゴミムシ	<i>Tachyura (Amaurotachys) exarata</i>	
591			クワイロミスキワゴミムシ	<i>T. (Sphaerotachys) fumicata</i>	
592			ウスモンゴミスキワゴミムシ	<i>T. (Tachyura) fuscicauda</i>	
593			ヨツキノミスキワゴミムシ	<i>T. (T.) laetifica</i>	
594			ハマゴミムシ	<i>Pogonus (Pogonus) japonicus</i>	DD 図-68
595			ホソチビゴミムシ	<i>Perileptus (Perileptus) japonicus</i>	
596			ウミホソチビゴミムシ	<i>P. (P.) morimotoi</i>	DD
597			フタホソチビゴミムシ	<i>Blemus discus discus</i>	
598			ハキチビゴミムシ	<i>Epaphiopsis (Pseudepaphius) punctatostriata</i>	
599			アトシチビゴミムシ	<i>Trechoblemus postilenuatus</i>	
600			ヒラタキイロチビゴミムシ	<i>Trechus (Epaphius) ephippiatus</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (7/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
601	コウチュウ	オサムシ	キアシレチゴミムシ	<i>Archioatrobros flavipes flavipes</i>	
602			カワチゴミムシ 本州以南亜種	<i>Diploous (Diploous) sibiricus caligatus</i>	
603			エグリゴミムシ	<i>Eustra japonica</i>	
604			ヒメホソクビゴミムシ	<i>Brachinus (?) incomptus</i>	
605			オオホソクビゴミムシ	<i>B. (?) scotomedes</i>	
606			コホソクビゴミムシ	<i>B. (?) stenoderus</i>	
607			ミイテラゴミムシ	<i>Pheropsophus (Stenantinus) iessoensis</i>	
608			ホソツヤナカゴミムシ	<i>Abacetus leucotelus</i>	
609			ヒラタマルゴミムシ	<i>Cosmodiscus platynotus</i>	DD
610			ヒトツマアオゴミムシ	<i>Callistoides deliciolus</i>	
611			ニセコガシラアオゴミムシ	<i>C. (Achlaenius) kurosawai</i>	
612			オオトホシアオゴミムシ	<i>C. (A.) micans</i>	
613			ムナヒロアオゴミムシ	<i>C. (A.) sericimicans</i>	
614			コガシラアオゴミムシ	<i>C. (A.) varicornis</i>	
615			ヒメキヘリアオゴミムシ	<i>C. (Chlaeniellus) inops inops</i>	
616			クビナガキヘリアオゴミムシ	<i>C. (C.) prostenus</i>	
617			コキヘリアオゴミムシ	<i>C. (Chlaeniostenus) circumdatus xanthooleurus</i>	
618			オオキヘリアオゴミムシ	<i>C. (Epomis) nigricans</i>	
619			スンアオゴミムシ	<i>C. (Haplochlaenius) costiger costiger</i>	
620			アトホシアオゴミムシ	<i>C. (Lissauchenius) naeviger</i>	
621			キホシアオゴミムシ	<i>C. (L.) posticalis</i>	
622			ムナヒロアトホシアオゴミムシ	<i>C. (L.) tetragonoderus</i>	
623			ノグチアオゴミムシ	<i>C. (Lithochlaenius) noguchii noguchii</i>	
624			アトモンアオゴミムシ	<i>C. (Ocvbatus) bioculatus</i>	
625			アカガネアオゴミムシ	<i>C. (Pachydnodes) abstersus</i>	
626			コアトワアオゴミムシ	<i>C. (P.) hamifer</i>	
627			アトワアオゴミムシ	<i>C. (P.) virgulifer</i>	
628			トケアトキリゴミムシ	<i>Aeophnidius adelioides</i>	
629			アオヘリホソゴミムシ	<i>Dryota (Dryota) japonica</i>	
630			クビホソゴミムシ	<i>Galerita orientalis</i>	
631			ムキンスジハネゴミムシ	<i>Planetes (Heteroglossa) formosanus</i>	
632			フタホスジハネゴミムシ	<i>P. (Planetes) puncticeps</i>	
633			ヨツモンエグリゴミムシ	<i>Amblystomus quadriguttatus</i>	
634			ヒメゴミムシ 基亜種	<i>Anisodactylus (Anisodactylus) tricuspidatus tricuspidatus</i>	
635			ホソホソゴミムシ	<i>A. (Pseudanisodactylus) punctatipennis</i>	
636			オオホソホソゴミムシ	<i>A. (P.) sadoensis</i>	
637			ゴミムシ	<i>A. (P.) signatus</i>	
638			タナカツヤハネゴミムシ	<i>Harpalomimetes fukiensis</i>	
639			ツヤアオゴミムシ	<i>Harpalus (Harpalus) bungii</i>	
640			マダラゴミムシ	<i>H. (H.) pallidipennis</i>	
641			ヒラタゴミムシ	<i>H. (Loboharpalus) platynotus</i>	
642			トケアソゴミムシ	<i>H. (Pseudoophonus) calceatus</i>	
643			オオゴミムシ	<i>H. (P.) capito</i>	
644			オオスクゴミムシ	<i>H. (P.) eous</i>	
645			ケウスゴミムシ	<i>H. (P.) griseus</i>	
646			ヒメケゴミムシ	<i>H. (P.) iureceki</i>	
647			クロゴミムシ	<i>H. (P.) pastor niigatanus</i>	
648			ケフカゴミムシ	<i>H. (P.) pseudophonoides</i>	
649			ミカケゴミムシ	<i>H. (P.) roninus</i>	
650			ニセクロゴミムシ	<i>H. (P.) simplicidens</i>	
651			ウスアカクロゴミムシ	<i>H. (P.) sinicus</i>	
652			ココゴミムシ	<i>H. (P.) tridens</i>	
653			アカアンマルカクゴミムシ 基亜種	<i>H. (Zangoharpalus) tinctulus tinctulus</i>	
654			クビナガゴミムシ	<i>Oxvcentrus (Oxvcentrus) argutoroides</i>	
655			カクカネゴミムシ	<i>Platymetopus flavilabris</i>	
656			チビツヤゴミムシ	<i>Trichotichnus (Pseudotrichotichnus) nanus</i>	
657			ヒメツヤゴミムシ	<i>T. (Trichotichnus) congruus</i>	
658			クビアカツヤゴミムシ	<i>T. (T.) loneitarsis loneitarsis</i>	
659			ハネグロツヤゴミムシ	<i>T. (T.) lucidus</i>	
660			オオイクビツヤゴミムシ	<i>T. (T.) nipponicus</i>	
661			イクビツヤゴミムシ	<i>T. (T.) orientalis</i>	
662			キョウシュウツヤゴミムシ	<i>T. (T.) vespertinus</i>	
663			キイロチビゴミムシ	<i>Acupalpus (Palcauapus) inornatus</i>	
664			ムネミソチビゴミムシ	<i>Anthraxus horni</i>	
665			アカクビヒメゴミムシ	<i>Bradycellus (Desbordesius) laeticolor</i>	
666			クロヒメゴミムシ	<i>B. (Tachycellus) anchomenoides</i>	
667			オオスヒメゴミムシ	<i>B. (T.) grandiceps</i>	
668			コクロヒメゴミムシ	<i>B. (T.) subditus</i>	
669			キヘリチビゴミムシ	<i>Dicheirotichus (Trichocellus) tenuimanus tenuimanus</i>	
670			キヘリゴミムシ	<i>Loxoncus circumcinctus</i>	
671			ツヤマメゴミムシ	<i>Stenolophus (?) iridicolor</i>	
672			マメゴミムシ	<i>S. (Astenolophus) fulvicornis</i>	
673			ミドリマメゴミムシ	<i>S. (Egadroma) difficilis</i>	
674			イツホシマメゴミムシ	<i>S. (E.) quinquepustulatus</i>	
675			セグロマメゴミムシ	<i>S. (Stenolophus) connotatus</i>	
676			クロサマメゴミムシ	<i>S. (S.) kurosai</i>	
677			ムネアカマメゴミムシ	<i>S. (S.) propinquus</i>	
678			キホシアトキリゴミムシ	<i>Anomotarus (Anomotarus) stigmula</i>	
679			キガシラアトキリゴミムシ	<i>Callioida (Callioida) lepida</i>	
680			コアアトキリゴミムシ	<i>Taiconia aurata</i>	
681			スジミスアトキリゴミムシ	<i>Aoristus grandis</i>	
682			イクビアトキリゴミムシ	<i>Dromius (Dromius) quadraticollis</i>	
683			ベーツアトキリゴミムシ	<i>D. (Klepterus) batesi</i>	
684			イマイチビアトキリゴミムシ	<i>Microlestes imaii</i>	
685			キイロアトキリゴミムシ	<i>Philorhizus optimus</i>	
686			ヤホシゴミムシ	<i>Lebidia octoguttata</i>	
687			キクビアアトキリゴミムシ	<i>Lachnolebia cribricollis</i>	
688			ハネヒロアトキリゴミムシ	<i>Lebia (Nipponolebia) duplex</i>	
689			フタホシアトキリゴミムシ	<i>L. (Poecilothais) bifenestrata</i>	
690			ホシハネヒロアトキリゴミムシ	<i>L. (Poecilothais) calycophora</i>	
691			アトクロナゴミムシ	<i>L. (P.) idae</i>	
692			ジュウアトキリゴミムシ	<i>L. (P.) retrofasciata</i>	
693			メダカアトキリゴミムシ	<i>Orionella lewisii</i>	
694			ヒラタアトキリゴミムシ	<i>Parena cavioennis</i>	
695			オオヒラタアトキリゴミムシ	<i>P. laesipennis</i>	
696			アオヘリアトキリゴミムシ	<i>P. latecincta</i>	
697			ヒトツマアトキリゴミムシ	<i>P. monostigma</i>	
698			クロヘリアトキリゴミムシ	<i>P. nigrolineata nipponensis</i>	
699			オオヨツアアトキリゴミムシ	<i>P. perforata</i>	
700			コキノゴミムシ	<i>Coptodera (Coptoderina) japonica</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (8/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
701	コウチュウ	オサムシ	ハキキノコミムシ	<i>C. (C.) subapicalis</i>	
702			コヨツボシアトキリゴミムシ	<i>Dolichoctis rotundata</i>	
703			ヤセアトキリゴミムシ	<i>Mochtherus luctuosus</i>	
704			オオスナハラゴミムシ	<i>Diplocheila (Isorembus) zeelandica</i>	
705			キヘリカタキハゴミムシ	<i>Badister (Baudia) marginellus</i>	
706			フタモンクヒナゴミムシ	<i>Archicolliuris bimaculata nipponica</i>	
707			ナカサキヒナゴミムシ	<i>Eucolliuris litura</i>	
708			フロンズクヒナゴミムシ	<i>Odacantha (Helioecasonia) metallica</i>	
709			オオヒラトツクリゴミムシ	<i>Brachvodes virens</i>	
710			トツクリゴミムシ	<i>Lachnocrepis prolixa</i>	
711			オオトツクリゴミムシ	<i>Oodes vicarius</i>	
712			ニッポンツボシゴミムシ	<i>Adischissus japonicus</i>	
713			タイワンツボシゴミムシ	<i>Craspedophorus formosanus</i>	
714			オオツボシゴミムシ	<i>Dischissus mirandus</i>	
715			ヨツボシゴミムシ	<i>Panagaeus (Panagaeus) japonicus</i>	
716			イグチケアゴミムシ	<i>Peronomerus auripilis</i>	
717			カドツゴミムシ	<i>Pentagonica angulosa</i>	
718			タノミウツゴミムシ	<i>P. daimiella</i>	
719			クロツゴミムシ	<i>P. subcordicollis</i>	
720			クロスホナシゴミムシ	<i>Perigona (Trechicus) nigriceps</i>	
721			セズヒラタゴミムシ	<i>Agonum (Agonum) daimio</i>	
722			ハラアカモリヒラタゴミムシ	<i>A. (Eucolpodes) japonicum japonicum</i>	
723			キンモリヒラタゴミムシ 基亜種	<i>A. (Glaucagonum) sylvohis sylvohis</i>	
724			クモリヒラタゴミムシ	<i>A. (Gyrochaetostylus) atricomus</i>	
725			コハラアカモリヒラタゴミムシ	<i>A. (Lissagonum) lampros</i>	
726			オグロヒラタゴミムシ	<i>A. (Lorostemmaoides) ogurae</i>	
727			イグチモリヒラタゴミムシ	<i>A. (Nymphagonum) modestior</i>	
728			アオクモリヒラタゴミムシ	<i>A. (Platynomicrus) chalcocomum</i>	
729			タンコヒラタゴミムシ	<i>Anchomenus (Anchomenus) leucopus</i>	
730			ルヒラタゴミムシ	<i>Dicranoncus femoralis</i>	
731			クビアカモリヒラタゴミムシ	<i>Loxocrepis rubriola</i>	
732			オオアオモリヒラタゴミムシ	<i>Metacolpodes buchannani</i>	
733			オオヒラタゴミムシ	<i>Platynus (Batenus) magnus</i>	
734			コヒラタゴミムシ	<i>P. (B.) protensus protensus</i>	
735			ムネツマルゴミムシ	<i>Gaelostomus picipes</i>	
736			オオゴミムシ	<i>Lesticus (Triplogenius) maenus</i>	
737			ムラサキオオゴミムシ	<i>Mvas (Trigonognatha) coreanus</i>	
738			キンナカゴミムシ	<i>Poecilus (Poecilus) versicolor</i>	
739			アシツナカゴミムシ	<i>Pterostichus (Aegutor) sulcitaris</i>	
740			ナカサキヒナカゴミムシ	<i>P. (Badistrinus) procephalus</i>	
741			オオクロナカゴミムシ	<i>P. (Fosteropus) japonicus</i>	
742			トツクリナカゴミムシ	<i>P. (Eurythoracana) haptoederoides iapanensis</i>	
743			コホソナカゴミムシ	<i>P. (Phonias) longinquus</i>	
744			ヒメソソナカゴミムシ	<i>P. (Pseudomaseus) rotundangulus</i>	
745			コガシナカゴミムシ	<i>P. (Rhagadus) microcephalus</i>	
746			マルコガシナカゴミムシ	<i>P. (R.) nimbatidius</i>	
747			ルイスオオゴミムシ	<i>Trigonotoma lewisi</i>	
748			セアガヒラタゴミムシ	<i>Dolichus halensis</i>	
749			フクチヒゲヒラタゴミムシ	<i>Parabroscus (Parabroscus) crassipalpis</i>	
750			マルガタツヤヒラタゴミムシ	<i>Synuchus (Synuchus) arcuaticollis</i>	
751			キアツヤヒラタゴミムシ 基亜種	<i>S. (S.) callitheres callitheres</i>	
752			クロツヤヒラタゴミムシ	<i>S. (S.) cycloclerus</i>	
753			ヒメツヤヒラタゴミムシ	<i>S. (S.) dulcigradus</i>	
754			ヒコサンツヤヒラタゴミムシ 基亜種	<i>S. (S.) hikosanus hikosanus</i>	
755			オオクロツヤヒラタゴミムシ	<i>S. (S.) nitidus nitidus</i>	
756			マルガタゴミムシ	<i>Amara (Amara) chalcites</i>	
757			ニセマルガタゴミムシ	<i>A. (A.) congrua</i>	
758			ツヤマルガタゴミムシ	<i>A. (A.) obscurines</i>	
759			キアマルガタゴミムシ	<i>A. (Bradvtus) ampliata</i>	
760			コマルガタゴミムシ	<i>A. (B.) simplicidens</i>	
761			ナカマルガタゴミムシ	<i>A. (Curtonotus) macronota</i>	
762			アオマルガタゴミムシ	<i>A. (Reductocelia) chalcophaea chalcophaea</i>	
763			ヒメツヤマルガタゴミムシ	<i>A. (R.) lucens</i>	
764	コガシラミス		クロホシコガシラミス	<i>Haliplus (Liaphlus) basinotatus latiusculus</i>	
765			キイロコガシラミス	<i>H. (L.) eximius</i>	
766			ヒメコガシラミス	<i>H. (L.) ovalis</i>	
767			マダラコガシラミス	<i>H. (L.) sharpi</i>	
768			コガシラミス	<i>Peltodytes intermedius</i>	
769	コツフゲンゴロウ		コツフゲンゴロウ	<i>Noterus japonicus</i>	
770			キボシヒコツフゲンゴロウ	<i>Neohydrocoptus bivittis</i>	
771			ムネンヒコツフゲンゴロウ	<i>N. sp.</i>	
772	ゲンゴロウ		クロスマケンゴロウ	<i>Agabus (Acatodes) conspicuus</i>	
773			マケンゴロウ	<i>A. (A.) japonicus</i>	
774			キヘリクビヒゲンゴロウ	<i>Ilybius apicalis</i>	
775			ヒメケンゴロウ	<i>Rhantus (Rhantus) suturalis</i>	
776			ホソヘシケンゴロウ	<i>Copelatus weymarni</i>	
777			コガタケンゴロウ	<i>Cybister (Cybister) tripunctatus lateralis</i>	NT
778			クロケンゴロウ	<i>C. (Melanectes) brevis</i>	NT
779			ハイロケンゴロウ	<i>Eretes griseus</i>	
780			シマケンゴロウ	<i>Hydaticus (Guignotites) bowringii</i>	
781			コシマケンゴロウ	<i>H. (G.) grammicus</i>	
782			ウスイロシマケンゴロウ	<i>H. (G.) rhantoides</i>	
783			ヒコケンゴロウ	<i>Hydroglyphus japonicus</i>	
784			マルヒコケンゴロウ	<i>Leiodytes frontalis</i>	
785			チャイロヒコケンゴロウ	<i>Liodessus megacephalus</i>	
786			コマルケシケンゴロウ	<i>Hydrovatus acuminatus</i>	
787			オオマルケシケンゴロウ	<i>H. bonvouloiri</i>	
788			マルケシケンゴロウ	<i>H. subtilis</i>	図-69
789			ヤキマルケシケンゴロウ	<i>H. varii</i>	
790			ケンケンゴロウ	<i>Hvohvdrus japonicus japonicus</i>	
791			ルイスツフケンゴロウ	<i>Laccophilus lewisius</i>	
792	ガムシ		チョウフホツガムシ	<i>Hydrochus chubu</i>	
793			トケハコマフガムシ	<i>Berosus (Enoplurus) lewisius</i>	
794			ママガムシ	<i>Regimbartia attenuata</i>	
795			タマガムシ	<i>Amphips mater mater</i>	
796			キイロヒラタガムシ	<i>Enochrus (Holcophilvdrus) simulans</i>	
797			キヘリヒラタガムシ	<i>E. (Methvdrus) japonicus</i>	
798			ルイスヒラタガムシ	<i>Helochares (Helochares) pallens</i>	
799			ズンヒラタガムシ	<i>H. (Hydrobaticus) nipponicus</i>	
800			コガムシ	<i>Hydrochara affinis</i>	図-70

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (9/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
801	コウチュウ	ガムシ	ガムシ	<i>Hydrophilus (Hydrophilus) acuminatus</i>	図-71
802			ヒメガムシ	<i>Sternolophus (Sternolophus) rufipes</i>	
803			ミユキシツミガムシ	<i>Laccobius (Laccobius) inopinus</i>	
804			ヒメツミガムシ	<i>L. (Microlaccobius) fragilis</i>	
805			ヒメマルガムシ	<i>Coelostoma (Coelostoma) orbiculare</i>	
806			セマルガムシ	<i>C. (Holocoelostoma) stultum</i>	
807			セマルマクツガムシ	<i>Megasternum japonicum</i>	
808			スグロセダカガムシ	<i>Pacrillum manchuricum</i>	
809		エンマムシ	ホリエンマムシ	<i>Niponius impressicollis</i>	
810			オオマルエンマムシ	<i>Gnathoncus nannetensis</i>	
811			ハマエンマムシ 基亜種	<i>Hypocaccus (Baeckmanniolus) varians varians</i>	
812			ニセハマエンマムシ	<i>H. (Hypocaccus) sinae</i>	
813			ウロチエンマムシ	<i>Garcinops pumilio</i>	
814			オオセシエンマムシ	<i>Onthophilus ostreatus</i>	
815			シノセシエンマムシ	<i>O. silvae</i>	
816			コツヤエンマムシ	<i>Atholus duodecimstriatus quatuordecimstriatus</i>	
817			ツヤマルエンマムシ	<i>A. pirithous</i>	
818			アラエンマムシ	<i>Hister salebrosus subsolanus</i>	DD
819			ヒメツヤエンマムシ	<i>H. simplicisternus</i>	
820			コエンマムシ	<i>Margarinotus (Grammostethus) niponicus</i>	
821			ニセヒメエンマムシ	<i>M. (Ptomister) agnatus</i>	
822			ヒメエンマムシ	<i>M. (P.) wevmarni</i>	
823			エンマムシ	<i>Merohister jekeli</i>	
824			ナカエンマムシ	<i>Platysoma (Cvlistor) lineicollis</i>	
825		ダルマガムシ	ミヤタケダルマガムシ	<i>Hydraena (Hydraenoopsis) mivatakei</i>	
826		ムクゲキノコムシ	ヤマトシリムクゲキノコムシ	<i>Mikado japonicus</i>	
827			ハマムクゲキノコムシ	<i>Actinoptervx parallela</i>	
828		タマキノコムシ	マルムネタマキノコムシ	<i>Agathidium (Agathidium) crassicorne</i>	
829			コケチャクシヒゲタマキノコムシ	<i>Anisotoma frontalis</i>	
830			セマルタマキノコムシ	<i>Cyrtoplastus seriepunctatus</i>	
831			チヨウセンオオタマキノコムシ	<i>Leiodes koreana</i>	
832			ミナミナカヒメタマキノコムシ	<i>Liocyrta onodai</i>	
833			ルナクヨウタマキノコムシ	<i>Colenis lunaris</i>	
834			サイカイトウラクヨウタマキノコムシ 基亜種	<i>C. saikaidoensis saikaidoensis</i>	
835			セシクサヒゲタマキノコムシ	<i>Pseudocolenis (Pseudocolenis) hilleri</i>	
836			ウロチヒゲチビシテムシ	<i>Catopodes fuscifrons</i>	
837			ヒョウカチビシテムシ	<i>Catops andoi</i>	
838			ヒレルチビシテムシ	<i>C. hilleri</i>	
839			セシチビシテムシ	<i>Nipponemadus torigaii</i>	
840		シテムシ	オオモモフシテムシ	<i>Necrodes littoralis</i>	
841			モモフシテムシ	<i>N. nigricornis</i>	
842			ベッコウヒラタシテムシ	<i>Necrophila (Calosilpha) brunneicollis</i>	
843			オオヒラタシテムシ	<i>N. (Eusilpha) japonica</i>	
844			ヒラタシテムシ	<i>Thanatophilus sinuatus</i>	
845			クロシテムシ	<i>Nicrophorus concolor</i>	
846			ヨツボシモンシテムシ	<i>N. quadripunctatus</i>	
847		ハネカクシ	フタモンヒメスキウツメハネカクシ	<i>Lesteva fenestrata</i>	
848			ネアヒヒメスキウツメハネカクシ	<i>L. plagiata</i>	
849			アロウハネナカヨツメハネカクシ	<i>Olophrum arrowi</i>	
850			キハネツヤヨツメハネカクシ	<i>Orochares debilis</i>	
851			ムネホツヨツメハネカクシ	<i>Boreaphilus japonicus</i>	
852			キイロハナムクリヨツメハネカクシ	<i>Eusphalerum parallelum</i>	
853			セシヨツメハネカクシ	<i>Omalium japonicum</i>	
854			セマルハハヒロハネカクシ	<i>Megarthritis convexus</i>	
855			ハハヒロハネカクシ	<i>M. japonicus</i>	
856			チビハハヒロハネカクシ	<i>Proteinus crassicornis</i>	
857			セシチビハネカクシ	<i>Micropeplus fulvus japonicus</i>	
858			エクリチイロアリツカムシ	<i>Batrissus nolitus</i>	
859			ツヤクサアリアリツカムシ	<i>Dendrolasiophilus concolor</i>	
860			コヤマトヒゲフトアリツカムシ 西日本亜種	<i>Diartiger fossulatus morimotoi</i>	
861			ホリヒメアリツカムシ	<i>Aphilia longicollis</i>	
862			ヤマトオヒゲアリツカムシ	<i>Brvaxis japonicus</i>	
863			ツヤクシヒゲアリツカムシ	<i>Poroderus medius</i>	
864			ヒゲカタアリツカムシ	<i>Tmesiphorus crassicornis</i>	
865			ヤマトオトケアリツカムシ	<i>Lasinus monticola</i>	
866			オトケアリツカムシ	<i>L. spinosus</i>	
867			ハネシノキノハネカクシ	<i>Carphacis striatus</i>	
868			ニホンキノハネカクシ	<i>Lordithon (Lordithon) japonicus</i>	
869			シャーフキノハネカクシ	<i>L. (L.) sharolanus</i>	
870			クロケヒメキノハネカクシ	<i>Sepedophilus armatus</i>	
871			ムナヒロフタモンヒメキノハネカクシ	<i>S. glabratus glabratus</i>	
872			ハネモンヒメキノハネカクシ	<i>S. pumilus</i>	
873			ヒメキノハネカクシ	<i>S. tibialis</i>	
874			クロヒメキノハネカクシ	<i>S. varicornis</i>	
875			クロスマルクヒハネカクシ	<i>Tachinus (Tachinoderus) nigriceps nigriceps</i>	
876			ヤマトマルクヒハネカクシ	<i>T. (Tachinus) japonicus</i>	
877			クロスシリホソハネカクシ	<i>Tachyporus (Tachyporus) celatus</i>	
878			ツヤクシシリホソハネカクシ	<i>T. (T.) suavis</i>	
879			コクロヒゲフトハネカクシ	<i>Aleochara (Aleochara) parens</i>	
880			ツヤクシヒゲフトハネカクシ	<i>A. (Emplenota) fucicola</i>	
881			ホソセシヒゲフトハネカクシ	<i>A. (Triochara) trisulcata</i>	
882			セナカヒゲフトハネカクシ	<i>A. (Xenochara) praesul</i>	
883			ミルツヤクシヒメハネカクシ	<i>Nehemitronia milu</i>	
884			ヒメヨウジヨウハネカクシ	<i>Thamiaraea (Thamiaraea) japonica</i>	
885			アカシハラハネカクシ	<i>Autalia rufula</i>	
886			クサアリセシヒメハネカクシ	<i>Falagrioma myrmecophila</i>	
887			キハネセシヒメハネカクシ	<i>Mvmecococephalus sapidus</i>	
888			シャーフカレハハネカクシ	<i>Goenonica sharpi</i>	
889			ハサニセヒゲフトハネカクシ	<i>Hoplandria spiniventris</i>	
890			オオスウミハネカクシ	<i>Liparocephalus tokunagai</i>	図-72
891			アカニセシノハネカクシ	<i>Drusilla (Drusilla) sparsa</i>	
892			クロツヤクサアリハネカクシ	<i>Pella comes</i>	
893			コクロツヤクサアリハネカクシ	<i>P. socia</i>	
894			コモンクオアリノスハネカクシ	<i>Zvras (Zvras) optatus</i>	
895			クピアカアリノスハネカクシ	<i>Z. (Z.) pictus</i>	
896			ヤマトトラアリヤトリ	<i>Homoeusa japonica</i>	
897			ツマキリチビハネカクシ	<i>Porocallus insignis</i>	
898			ホソクロハネカクシ	<i>Tachyusa (Tachyusa) coarctata</i>	
899			オサシテムシモドキ	<i>Apatetica princeps</i>	
900			コカメノコテオキノコムシ	<i>Cyvarium laevisternale</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (10/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
901	コウチュウ	ハネカクシ	カメノテオキノコムシ	<i>C. mikado</i>	
902			エグリテオキノコムシ	<i>Scaphidium emarginatum</i>	
903			ヤマトテオキノコムシ	<i>S. japonum</i>	
904			コクロテオキノコムシ	<i>S. ootabile</i>	
905			タケムラテオキノコムシ	<i>S. takemurai</i>	
906			ヒメセシテオキノコムシ	<i>Ascapidium apicale</i>	
907			ホソシテオキノコムシ	<i>A. tibiale</i>	
908			アカハテオキノコムシ	<i>Episcaphium semirufum</i>	
909			モンビラタハネカクシ	<i>Siagonium vittatum</i>	
910			ツノフツツハネカクシ	<i>Osorius taurus taurus</i>	
911			ナガモリツツハネカクシ	<i>Nacaeus longulus</i>	
912			キアシカワハネカクシ	<i>Bledius (Barvzus) pallipes</i>	
913			オオツツハネカクシ	<i>B. (Bledius) salsus</i>	DD
914			キヘリカワハネカクシ	<i>B. (Pucerus) curvicornis</i>	
915			ヒケナガカワハネカクシ	<i>B. (P.) orphanus</i>	
916			セシハネカクシ	<i>Anotylus cognatus</i>	
917			ヒラセシハネカクシ	<i>A. japonicus</i>	
918			ヒメクロセシハネカクシ	<i>A. laticornis</i>	
919			ルイスツヤセシハネカクシ	<i>A. lewisius</i>	
920			トビロセシハネカクシ	<i>A. vicinus</i>	
921			ニセヒメユミセシハネカクシ	<i>Carpelimus (Carpelimus) vagus</i>	
922			アカセシハネカクシ	<i>Oxytelus (Oxytelus) incisus</i>	
923			ヒメアカセシハネカクシ	<i>O. (O.) migrator</i>	
924			キハネセシハネカクシ	<i>O. (O.) nigeus</i>	
925			ヘリクロヒメカワハネカクシ	<i>Platystethus (Craetopvcrus) cornutus</i>	
926			ヤマトニセユミセシハネカクシ	<i>Thinodromus (Amisammus) japonicus</i>	
927			ユミセシハネカクシ	<i>T. (Thinodromus) sericatus</i>	
928			ホソフタホシメダカハネカクシ	<i>Stenus alienus</i>	
929			アシマダラメダカハネカクシ	<i>S. cindeloideus</i>	
930			ヒサクロナガメダカハネカクシ	<i>S. distans</i>	
931			ルイスナガメダカハネカクシ	<i>S. lewisius lewisius</i>	
932			ドウボツナガメダカハネカクシ	<i>S. macies</i>	
933			コクロメダカハネカクシ	<i>S. melanarius</i>	
934			トビイロオチハメダカハネカクシ	<i>S. rufescens</i>	
935			ナミフタホシメダカハネカクシ	<i>S. tenuipes</i>	
936			スツヤチハネカクシ	<i>Edaphus carinicornis</i>	
937			ヒメシリクハネカクシ	<i>Astenus (?) brevipes</i>	
938			ヤマトシリクハネカクシ	<i>A. (?) chloroticus</i>	
939			フタホシシリクハネカクシ	<i>A. (Astenognathus) maculipennis</i>	
940			オオシリクハネカクシ	<i>A. (Astenus) suffusus</i>	
941			アカハナガエハネカクシ	<i>Monocrova pectoralis</i>	
942			カワハナガエハネカクシ	<i>Ochtheophilum cuneatum</i>	
943			クロカワハナガエハネカクシ	<i>O. densipenne</i>	
944			ツマアカカワハナガエハネカクシ	<i>O. kurosai</i>	
945			マルスハネカクシ	<i>Domene (Macromene) crassicornis</i>	
946			ナガハネカクシ	<i>Lathrobium (Lathrobium) dignum</i>	
947			アカハチビナガハネカクシ	<i>L. (L.) kobense</i>	
948			オオコハネナガハネカクシ	<i>L. (L.) nomurai</i>	
949			コハネナガハネカクシ	<i>L. (L.) pollens</i>	
950			ツツナガハネカクシ	<i>Lobrathium (Lobrathium) nudum</i>	
951			サキアハツツナガハネカクシ	<i>L. (L.) partitum</i>	
952			スツナガハネカクシ	<i>Pseudolathra (Pseudolathra) lineata</i>	
953			ツマクロスツナガハネカクシ	<i>P. (P.) unicolor</i>	
954			キアシコシラナガハネカクシ	<i>Tetartopeus pallipes</i>	
955			ヒメカシラハネカクシ	<i>Hypomedon debilicornis</i>	
956			ニセトカシラハネカクシ	<i>Isocheilus staphylinoides</i>	
957			クロストカシラハネカクシ	<i>Lithocharis nigricens</i>	
958			ネアカトカシラハネカクシ	<i>Medon lewisius</i>	
959			ウミヘトカシラハネカクシ	<i>M. prolixus</i>	
960			ヨコモトカシラハネカクシ	<i>M. submaculatus</i>	
961			アオハアリカタハネカクシ	<i>Paederus (Heteropaederus) fuscipes</i>	
962			ヒメヒホソハネカクシ	<i>Scopaeus (Scopaeus) currax</i>	
963			チビヒメヒホソハネカクシ	<i>S. (S.) virilis</i>	
964			キハネヒホソハネカクシ	<i>Rugilus (Eurystilicus) cevlanensis</i>	
965			クビホソハネカクシ	<i>R. (E.) rufescens</i>	
966			タチケクビホソハネカクシ	<i>Sunesta setigera setigera</i>	
967			クロクビフトハネカクシ	<i>Pinophilus javanus</i>	
968			オオクビフトハネカクシ	<i>P. punctatissimus</i>	
969			アカハクビフトハネカクシ	<i>P. rufipennis</i>	
970			クロハネアリカタハネカクシ	<i>Oedichirus (Oedichirus) lewisius</i>	
971			アラハダトウナガハネカクシ	<i>Palaminus japonicus</i>	
972			クビナガハネカクシ	<i>Procirrus (Procirrus) lewisii</i>	
973			ウスアカハネハネカクシ	<i>Othius medius</i>	
974			ツヤケシフチヒケハネカクシ	<i>Anisolinus elegans</i>	
975			クロフチヒケハネカクシ	<i>A. havashii</i>	
976			カクツヤケシアハタハネカクシ	<i>Tympanophorus sauteri</i>	
977			チヤイロニセコカシラハネカクシ	<i>Bisnius germanus</i>	
978			フタイロコカシラハネカクシ	<i>B. kobensis</i>	
979			ヒメアハタウミハネカクシ	<i>Cafius (Pseudoremus) algarum</i>	
980			アカハアハタウミハネカクシ	<i>C. (P.) rufescens</i>	
981			オオアハタウミハネカクシ	<i>C. (P.) vestitus</i>	
982			ムネシツコカシラハネカクシ	<i>Eccoptolonthus rutiliventris</i>	
983			タチミツチビコカシラハネカクシ	<i>Gabronthus sulcifrons</i>	
984			スソアカヒメホソハネカクシ	<i>Neobisnius inornatus</i>	
985			アカハヒメホソハネカクシ	<i>N. pumilus</i>	
986			トウガネコカシラハネカクシ	<i>Philonthus (Cephalonthus) aeneipennis</i>	
987			ヒラタカクコカシラハネカクシ	<i>P. (C.) depressipennis</i>	
988			チビカクコカシラハネカクシ	<i>P. (C.) discoideus</i>	
989			オオトウガネコカシラハネカクシ	<i>P. (C.) lewisius</i>	
990			キアシチビコカシラハネカクシ	<i>P. (C.) numata</i>	
991			カクコカシラハネカクシ	<i>P. (C.) rectangulus</i>	
992			チヤハネコカシラハネカクシ	<i>P. (Philonthus) gastralis</i>	
993			クロオオコカシラハネカクシ	<i>P. (P.) japonicus</i>	
994			コケチャコカシラハネカクシ	<i>P. (P.) liopteris</i>	
995			ニジムネコカシラハネカクシ	<i>P. (P.) micanticollis</i>	
996			ツヤウミハコカシラハネカクシ	<i>P. (P.) nudus</i>	
997			ヒラタコカシラハネカクシ	<i>P. (P.) spadiceus</i>	
998			オオアカバコカシラハネカクシ	<i>P. (P.) spinipes</i>	
999			キヌコカシラハネカクシ	<i>P. (P.) sublucanus</i>	
1000			ヘリアカハコカシラハネカクシ	<i>P. (P.) tardus</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (12/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1101	コウチュウ	コガネムシ	アオハナムグリ 基亜種	<i>C. (E.) roelofsi roelofsi</i>	
1102			アオハナムグリ 基亜種	<i>Gametis forticula forticula</i>	
1103			コアハナムグリ	<i>G. iucunda</i>	
1104			クロハナムグリ	<i>Glycvphana (Glycvphana) fulvitemma</i>	
1105			ホソハナムグリ	<i>G. (G.) gracilis viridis</i>	
1106			シロハナムグリ 日本本土亜種	<i>Protaetia (Calopotosis) orientalis submarmorea</i>	
1107			シロハナムグリ 基亜種	<i>P. (Liocola) brevitarsis brevitarsis</i>	
1108			アカマダラハナムグリ	<i>Anthracophora rusticola</i>	DD 図-76
1109			カナブン	<i>Pseudotorvorrhina japonica</i>	
1110			ヒメハナムグリ	<i>Lasioletrichinus succinctus</i>	
1111			ジウシチホシハナムグリ	<i>Paratrichius septemdecimguttatus</i>	
1112			ヒラタハナムグリ	<i>Nipponovalgus angusticollis angusticollis</i>	
1113		マルハナミ	アカヤチビマルハナミ	<i>Herthania japonicola</i>	
1114			セダカマルハナミ	<i>Prionocvphon ovalis</i>	
1115			ヒキムネマルハナミ	<i>Sacodes minima</i>	
1116			コキムネマルハナミ	<i>S. nakanei</i>	
1117			キムネマルハナミ	<i>S. protecta</i>	
1118			トビイロマルハナミ	<i>Scirtes japonicus</i>	
1119			ヒマルハナミ	<i>S. sobrinus</i>	
1120		タマムシ	ウハタマムシ 基亜種	<i>Chalcoophora japonica japonica</i>	
1121			アオマダラタマムシ	<i>Nipponobuprestis (Nipponobuprestis) amabilis</i>	
1122			ヤマタマムシ 基亜種	<i>Chrysoschoa fulgidissima fulgidissima</i>	
1123			クロホシタマムシ	<i>Lamprodila (Palmar) virgata</i>	
1124			マスタウロホシタマムシ	<i>L. (P.) vivata</i>	
1125			ヒメヒラタタマムシ	<i>Anthaxia (Haolanthaxia) proteus</i>	
1126			クロタマムシ 本土亜種	<i>Buprestis (Ancylocheira) haemorrhoidalis japonensis</i>	
1127			ムツホシタマムシ	<i>Chrysobothris (Chrysobothris) succedanea</i>	
1128			ツメアカナカヒラタタマムシ	<i>Melanophila obscurata</i>	
1129			ミカンナカタマムシ	<i>Aerilus auriventris</i>	
1130			クロナカタマムシ	<i>A. cyaneoniger</i>	
1131			ピンモンナカタマムシ	<i>A. discalis</i>	
1132			ムネアカナカタマムシ	<i>A. imitans</i>	
1133			フトウナカタマムシ	<i>A. marginicollis</i>	
1134			アサキナカタマムシ	<i>A. moerens</i>	
1135			ホソアシナカタマムシ	<i>A. ribbei</i>	
1136			ネムキナカタマムシ	<i>A. subrobustus</i>	
1137			ウゲイナカタマムシ	<i>A. tempestivus</i>	
1138			ミツホシナカタマムシ	<i>A. trinotatus</i>	
1139			コクロナカタマムシ	<i>A. vamaakii</i>	
1140			キンイロエクリタマムシ	<i>Endelus (Endelus) collaris collaris</i>	NT
1141			シロオビナカホシタマムシ	<i>Coraeus quadriundulatus</i>	
1142			ムネアカチビナカホシタマムシ	<i>Nalanda rutilicollis rutilicollis</i>	
1143			クワタマムシ 基亜種	<i>Toxoscelus auriceps auriceps</i>	
1144			ハイロヒラタチビタマムシ	<i>Habroloma (Parahabroloma) griseonigrum</i>	
1145			ルイスヒラタチビタマムシ	<i>H. (P.) lewisii</i>	
1146			ヒラタチビタマムシ	<i>H. (P.) subbicorne</i>	
1147			ウスノチビタマムシ	<i>Trachys auricollis</i>	
1148			マルカチビタマムシ	<i>T. inedita</i>	
1149			ヤナキチビタマムシ	<i>T. minuta salicis</i>	
1150			マメチビタマムシ	<i>T. reitteri</i>	
1151			ズミチビタマムシ	<i>T. toringoi</i>	
1152			アカカネチビタマムシ	<i>T. tsushimae</i>	
1153			タンタラチビタマムシ	<i>T. variolaris</i>	
1154		マルケムシ	シラフチマルケムシ	<i>Simplocaria (Simplocaria) hispidula</i>	
1155			ミナミケムシマルケムシ	<i>Microchaetes sp.</i>	
1156		ヒメトロムシ	キヘリナガアシトロムシ	<i>Grouvellinus marginatus</i>	
1157			ツヤナガアシトロムシ	<i>G. nitidus</i>	
1158			キスシミトロムシ	<i>Ordo brevica foveicollis</i>	
1159			ヨコミツトロムシ	<i>Leptelmis gracilis gracilis</i>	
1160			イフシナガトロムシ	<i>Stenelmis nipponica</i>	
1161			アシナガミツトロムシ	<i>S. vulgaris</i>	
1162			アウツヤトロムシ	<i>Zaitzevia awana</i>	
1163			ツヤトロムシ	<i>Z. nitida</i>	
1164			ヒメツヤトロムシ	<i>Zaitzeviaria brevis</i>	
1165			ホソヒメツヤトロムシ	<i>Zaitzeviar. gotoi</i>	
1166			サンインヒメツヤトロムシ	<i>Z. sotai</i>	
1167		トロムシ	ムナヒトツヤトロムシ	<i>Elmormorphus brevicornis</i>	
1168		チビトロムシ	チビトロムシ	<i>Linnichus lewisi</i>	
1169			リュウキュウダエンチビトロムシ	<i>Pelochares ryukyuensis</i>	
1170		ナガトロムシ	ナガトロムシ	<i>Heterocerus fenestratus</i>	
1171		ヒラトロムシ	チビヒゲナガハナミ 基亜種	<i>Ectopria opaca opaca</i>	
1172			チビマルヒゲナガハナミ	<i>Macroebria lewisi</i>	
1173			マルヒラトロムシ	<i>Eubrianax ramicornis</i>	
1174			マスタチビヒラトロムシ	<i>Malaconsephenoides japonicus</i>	
1175			ヒラトロムシ	<i>Mataeocephus japonicus</i>	
1176		ナガハナミ	エダヒゲナガハナミ 基亜種	<i>Epilichas flavellatus flavellatus</i>	
1177			コヒゲナガハナミ	<i>Ptilodactyla chuioi</i>	
1178			オオモコヒゲナガハナミ	<i>P. ramea</i>	
1179		コメツキタマシ	オオコメツキタマシ	<i>Hvlochares harmandi</i>	
1180			ウスコメツキタマシ	<i>Poecilochrus japonicus</i>	
1181			クロコメツキタマシ	<i>Eurvtvchus vicinus</i>	
1182			コチヤイロコメツキタマシ	<i>Fornax nipponicus</i>	
1183		ヒゲブトコメツキ	チヤイロヒゲブトコメツキ	<i>Triaxus turgidus</i>	
1184		コメツキムシ	オオクシヒゲコメツキ	<i>Tetrigus lewisi</i>	
1185			シロオビチビサヒキコリ	<i>Adelocera difficilis</i>	
1186			イチハシチビサヒキコリ	<i>A. ichihashii</i>	
1187			サヒキコリ	<i>Agrvonus binodulus binodulus</i>	
1188			ホソサヒキコリ	<i>A. fuliginosus</i>	
1189			コカチビメサヒキコリ	<i>A. hvonicola</i>	
1190			ヒメサヒキコリ	<i>A. scrofa</i>	
1191			ハマヘオオヒメサヒキコリ	<i>A. tsukamotoi</i>	
1192			ツシマヒメサヒキコリ	<i>A. tsushimensis tsushimensis</i>	
1193			オオサヒコメツキ 基亜種	<i>Lacon maeklinii maeklinii</i>	
1194			スナサヒキコリ	<i>Meristhus (Sulcimerus) nipponensis</i>	
1195			ウハタマコメツキ	<i>Crvotalaus berus</i>	
1196			オオフタモンウハタマコメツキ	<i>C. larvatus pini</i>	
1197			マダラチビコメツキ	<i>Drasterius agnatus</i>	
1198			ヒゲコメツキ 基亜種	<i>Pectocera hige hige</i>	
1199			クロカネコメツキ	<i>Gambrius atricolor</i>	
1200			タテスジカネコメツキ	<i>G. vittatus</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (13/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1201	コウチュウ	コメツキムシ	ムラサキヒメコメツキ	<i>Limonia eximia</i>	
1202			ミヤマヘニコメツキ	<i>Denticollis miniatus</i>	
1203			ニホンヘニコメツキ 基亜種	<i>D. nipponensis nipponensis</i>	
1204			クロツヤハダコメツキ 基亜種	<i>Hemicrepidius (Hemicrepidius) secessus secessus</i>	
1205			コクロツヤハダコメツキ 基亜種	<i>H. (H.) sinuatus sinuatus</i>	
1206			メダカツヤハダコメツキ 基亜種	<i>Medakathous lactatus lactatus</i>	
1207			ルリツヤハダコメツキ	<i>Miwacrepidius subcvaeneus</i>	
1208			ヒラタサコメツキ	<i>Ascoliocerus saxatilis saxatilis</i>	
1209			ヘリアカシメフリコメツキ 基亜種	<i>Actenicerus (Acnitecerus) aerosus aerosus</i>	
1210			シメフリコメツキ	<i>A. (A.) pruinosus</i>	
1211			ドウガネホリトラコメツキ	<i>Corvmbitodes gratus</i>	
1212			アカヒゲヒラコメツキ	<i>Neopristiophus serrifer</i>	
1213			オオヒラコメツキ 基亜種	<i>Paraphotistus (Paraphotistus) notabilis notabilis</i>	
1214			シラヒラコメツキ	<i>Selatosomus (Selatosomus) puerilis</i>	
1215			ミスキワコメツキ 基亜種	<i>Fleutiauxellus (Migiwa) curatus curatus</i>	
1216			ウロミスキワコメツキ	<i>F. (M.) insulsus</i>	
1217			トコミスキワコメツキ	<i>F. (M.) modestus</i>	
1218			ヨツボシミスキワコメツキ	<i>F. (M.) votsuboshi</i>	
1219			ヨツボシミスキワコメツキ	<i>F. (Neomigiwa) quadrillum</i>	
1220			クロツヤミスキワコメツキ	<i>Oedostethus telluris</i>	
1221			カタモンチヒコメツキ	<i>Zorochros (Pronegastrius) humeralis humeralis</i>	
1222			オオサウラケチヒコメツキ	<i>Zorochros (Yamatostris) osawai</i>	
1223			ニホンチヒマコメツキ	<i>Quasimus (Quasimus) japonicus</i>	
1224			キョウトチヒマコメツキ	<i>Q. (Q.) kvotoensis</i>	
1225			マルマコメツキ	<i>Q. (Q.) ovalis</i>	
1226			ニセニホンチヒマコメツキ	<i>Q. (Q.) ranzanus</i>	
1227			オクラハイドコメツキ 本州九州亜種	<i>Agriotes (Agriotes) subvittatus ogurae</i>	
1228			クロムナホコメツキ	<i>Ectinus hieonius</i>	
1229			ハハムナホコメツキ	<i>Sadoganus babai</i>	
1230			アカハラコメツキ 基亜種	<i>Ampedus (Ampedus) hypogastricus hypogastricus</i>	
1231			ケフカコメツキ 基亜種	<i>A. (A.) vestitus vestitus</i>	
1232			チャイロコメツキ 基亜種	<i>Haterumelater bicarinatus bicarinatus</i>	
1233			ヒメコメツキ	<i>Ampedus (Miwaelater) carbunculus</i>	
1234			ミヤコアラハダチャイロコメツキ	<i>Reitterelater mivako</i>	
1235			キハネホコメツキ	<i>Dolerosomus gracilis</i>	
1236			オオクノカコメツキ	<i>Elater nipponensis</i>	
1237			ヒゲナカコメツキ 基亜種	<i>Mulsanteus iunior iunior</i>	
1238			オオナカコメツキ 基亜種	<i>Orthostethus sieboldi sieboldi</i>	
1239			コトナカコメツキ	<i>Ectamenogonus plebeius</i>	
1240			クロツヤクシコメツキ	<i>Melanotus (Melanotus) annosus</i>	
1241			マルヒコクシコメツキ	<i>M. (M.) caudex</i>	
1242			ヒラタクシコメツキ	<i>M. (M.) correctus correctus</i>	
1243			ヒメクシコメツキ	<i>M. (M.) legatoides</i>	
1244			クシコメツキ 基亜種	<i>M. (M.) legatus legatus</i>	
1245			ルイスクシコメツキ 基亜種	<i>M. (M.) lewisi lewisi</i>	
1246			ハネナカクシコメツキ	<i>M. (M.) matsumurai</i>	
1247			チャハネクシコメツキ	<i>M. (M.) seniculus</i>	
1248			クロクシコメツキ 基亜種	<i>M. (M.) senilis senilis</i>	
1249			アカアシオオクシコメツキ 基亜種	<i>M. (Spheniscosomus) cete cete</i>	
1250			オオクシコメツキ	<i>M. (S.) cribricollis</i>	
1251			ハネナカオオクシコメツキ	<i>M. (S.) japonicus</i>	
1252			ヒラタクシコメツキ	<i>M. (S.) koikei</i>	
1253			クイロアシフトコメツキ 基亜種	<i>Podeonius aquilis aquilis</i>	
1254			キハネクシコメツキ 基亜種	<i>Glyphonvx (Glyphonvx) bicolor bicolor</i>	
1255			クロシクチホコメツキ	<i>G. (G.) dalooioides</i>	
1256			ニセクチフトコメツキ	<i>Lanecarus palustris</i>	
1257			ホリハナコメツキ	<i>Cardiophorus (Cardiophorus) niponicus</i>	
1258			ルイスコハナコメツキ	<i>Paracardiophorus lewisi</i>	
1259			ヤクコハナコメツキ 本土亜種	<i>P. nakanei hondoensis</i>	
1260			クロコハナコメツキ	<i>P. opacus</i>	
1261			コハナコメツキ 基亜種	<i>P. pullatus pullatus</i>	
1262			アカアシコハナコメツキ 基亜種	<i>P. sequens sequens</i>	
1263			アカアシコハナコメツキ 基亜種	<i>Platynvchus (Displatynvchus) adiutor adiutor</i>	
1264			オオハナコメツキ	<i>P. (Platynvchus) nothus</i>	
1265		ヘニホタル	コクロナホタル	<i>Libnetis granicollis</i>	
1266			ミスジシヘニホタル	<i>Benibotarus (Benibotarus) sojincoxis</i>	
1267			ネアカシヘニホタル	<i>Dictyoptera speciosa</i>	
1268			アカミスジシヘニホタル	<i>Lateralis (Lateralis) oculus</i>	
1269			メダカシヘニホタル	<i>Punicealis medvedevi</i>	
1270			ホリヘニホタル	<i>Mesolycus atrorufus</i>	
1271			ムネアカテングヘニホタル	<i>Konoplatvcis otome</i>	
1272			ヘニホタル	<i>Lvcostomus (Lvcostomus) modestus</i>	
1273			ヒメヘニホタル	<i>Lvponia (Lvponia) delicatula</i>	
1274			カクムネヘニホタル	<i>Ponvalis quadricollis</i>	
1275			クシヒゲヘニホタル	<i>Macrolvcus (Cerceros) flabellatus</i>	
1276			ヒメクシヒゲヘニホタル 中国地方亜種	<i>M. (Cerceros) similis chugokuensis</i>	
1277			トサカクシヒゲヘニホタル	<i>M. (Cerceros) submontanus</i>	
1278			ミダレクロヘニホタル	<i>Cautires geometricus</i>	
1279			カクムネクロヘニホタル	<i>C. nakanei nakanei</i>	
1280			ユアサクロヘニホタル	<i>Matsudanoeus vuasai</i>	
1281			クロナホタル	<i>Plateros coracinus coracinus</i>	
1282			チョウゼンハナホタル	<i>P. planatus planatus</i>	
1283		ホタル	ムネクリイロホタル	<i>Cyphonocerus ruficollis</i>	
1284			オオマトホタル	<i>Pvrocoelia discicollis</i>	
1285			オハホタル	<i>Lucidina biplagiata</i>	
1286			ヒメホタル	<i>Luciola (Hotaria) parvula</i>	
1287			ケンシホタル	<i>L. (Luciola) cruciata cruciata</i>	
1288			ヘイケホタル	<i>L. (L.) lateralis</i>	
1289		ジョウカイホソ	クロヒゲナカジョウカイ	<i>Habronvchus providus</i>	
1290			クロジョウカイ	<i>Lvcocerus attristatus</i>	
1291			ウスチャジョウカイ 西日本亜種	<i>L. insulsus lewisi</i>	
1292			ヒメジョウカイ	<i>L. japonicus</i>	
1293			ニセヒメジョウカイ	<i>L. lineatipennis</i>	
1294			ジョウカイホソ 西日本亜種	<i>L. suturellus luteipennis</i>	
1295			セホシジョウカイ	<i>L. vitellinus</i>	
1296			マルムネジョウカイ	<i>Prothemus ciusianus</i>	
1297			クイロジョウカイ	<i>Stenothemus badius</i>	
1298			キンイロジョウカイ 本州・四国亜種	<i>Themus (Themus) episcopalis purpureoaeeneus</i>	
1299			ヒメキンイロジョウカイ	<i>T. (T.) midas</i>	
1300			クロヒメホソジョウカイ 基亜種	<i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) malthinoides malthinoides</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (14/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1301	コウチュウ	シヨウカイボン	ウエタビボツシヨウカイ	<i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) uedai</i>	
1302			ヤマクチニフシヨウカイ	<i>A. (Imasakapodabrus) yamaguchiensis</i>	
1303			クドボツシヨウカイ	<i>Hatchiana hevdeni</i>	
1304			クシゲシヨウカイ	<i>Laemosylvotus pectinatus</i>	
1305			キアツマキシヨウカイ	<i>Malthinus (Malthinus) humeralis</i>	
1306			クロツマキシヨウカイ	<i>M. (M.) japonicus</i>	
1307			クロスツマキシヨウカイ	<i>M. (M.) mucoreus</i>	
1308			ムネミソクロチシヨウカイ	<i>Malthodes (Malthodes) sulcicollis</i>	
1309			カタモンミナホタル	<i>Drilaster axillaris</i>	
1310		ヒトゲムシ	クロヒトゲムシ	<i>Nosodendron (Dendrodipnis) coenosum</i>	
1311		カツオブシムシ	トビカツオブシムシ	<i>Dermestes (Dermestes) ater</i>	
1312			カドマルカツオブシムシ	<i>D. (D.) haemorrhoidalis</i>	
1313			フイカツオブシムシ	<i>D. (Dermestinus) frischeri</i>	
1314			チビカツオブシムシ	<i>Trinodes rufescens</i>	
1315			ヒメカツオブシムシ	<i>Attagenus (Attagenus) unicolor</i>	
1316			シロオヒマルカツオブシムシ	<i>Anthrenus (Anthrenus) nipponensis</i>	
1317			ヒメマルカツオブシムシ	<i>A. (Nathrenus) verbasci</i>	
1318			クロヒケフトカツオブシムシ	<i>Thaumaglossa hilleri</i>	
1319			カマキリタマコカツオブシムシ	<i>T. rufocapillata</i>	
1320			ヒメタラカツオブシムシ	<i>Trogoderma inclusum</i>	
1321			アカマタラカツオブシムシ	<i>T. varium</i>	
1322		ナガシクイムシ	オオナガシクイ	<i>Heterobostrychus hamatipennis</i>	
1323			セマダラナガシクイ	<i>Lichenophanes carinipennis</i>	
1324			カキノタケナガシクイ	<i>Sinoxylon japonicum</i>	
1325			ニホシクイナガシクイ	<i>Dinoderus (Dinoderastes) japonicus</i>	
1326			ヒラタキクイムシ	<i>Lyctus (Xylotrogus) brunneus</i>	
1327			ケフトヒラタキクイムシ	<i>Minthea rugicollis</i>	
1328		ヒョウホンムシ	ナガヒョウホンムシ	<i>Ptinus (Cvphoderes) japonicus</i>	
1329			ヒメヒョウホンムシ	<i>P. (Ptinus) latro</i>	
1330			コカタマツシバムシ	<i>Emobius curticollis</i>	
1331			マツザインバムシ	<i>E. mollis mollis</i>	
1332			ケフカンバムシ	<i>Nicobium castaneum</i>	
1333			アカチヤホツシバムシ	<i>Oligomerus japonicus</i>	
1334			タバコシバムシ	<i>Lasioderma serricorne</i>	
1335		キシイモトキ	キシイモトキ	<i>Byturus affinis</i>	
1336			スグロキシイモトキ	<i>B. atricollis</i>	
1337			ツノフトホタルイモトキ	<i>Xerasia variegata</i>	
1338		ムクゲキシイ	アカムクゲキシイ	<i>Biphyllus lewisi</i>	
1339			ハスモンムクゲキシイ	<i>B. rufonictus</i>	
1340			クワイロムクゲキシイ	<i>B. throscooides</i>	
1341		コクヌスト	オコクヌスト	<i>Temnoscheila japonica</i>	
1342		シヨウカイイモトキ	ホリヒメシヨウカイイモトキ	<i>Attalus (Attalus) elongatulus</i>	
1343			ヒロオビシヨウカイイモトキ	<i>Intybia histrio</i>	
1344			クロキオビシヨウカイイモトキ	<i>I. nipponicus</i>	
1345			キアソビシヨウカイイモトキ	<i>I. pellegrini pellegrini</i>	
1346			ルリキオビシヨウカイイモトキ	<i>I. takaraensis</i>	
1347			ウキヌキヒメシヨウカイイモトキ	<i>Kuatunia oblongulus</i>	
1348			ツマキアソビシヨウカイイモトキ	<i>Malachius (Malachius) prolongatus</i>	
1349			ヒメシヨウカイイモトキ	<i>Nepachys japonicus</i>	
1350			クロアオケシヨウカイイモトキ	<i>Dasvtes (Mesodasvtes) japonicus</i>	
1351			ケシヨウカイイモトキ	<i>D. (M.) vulgaris</i>	
1352		サビカッコウムシ	タイワンチビカッコウムシ	<i>Isoclerus disinlei</i>	
1353		カッコウムシ	ネアカヒメカッコウムシ	<i>Tilloidea notata</i>	
1354			ヤマトヒメタカカッコウムシ	<i>Neophydus hozumii</i>	DD
1355			ダンタラカッコウムシ	<i>Stigmatium pilosellum</i>	
1356			アリイモトキカッコウムシ	<i>Thanasimus substriatus</i>	
1357			アカヒホシカムシ	<i>Necrobia ruficollis</i>	
1358			アカアソビホシカムシ	<i>N. rufipes</i>	
1359			ツマクロツツカッコウムシ	<i>Tenerus hilleri</i>	
1360		オオキシイムシ	ヨツボシオオキシイ	<i>Helota gemmata</i>	
1361		オオキノコムシ	ヒラタコメツキイモトキ	<i>Gathartocryptus hiranoi</i>	
1362			キムネヒメコメツキイモトキ	<i>Anadastus atriceps</i>	
1363			ツマクロヒメコメツキイモトキ	<i>A. praeustus</i>	
1364			アカアソビヒメコメツキイモトキ	<i>A. ruficeps</i>	
1365			ニホシホホヒメコメツキイモトキ	<i>Doubledava bucculenta</i>	
1366			ルイスコメツキイモトキ	<i>L. aneurimorpha lewisi</i>	
1367			クワイシコメツキイモトキ	<i>L. nigritarsis</i>	
1368			ケシコメツキイモトキ 基亜種	<i>Microlanguria iansonii iansonii</i>	
1369			ケナカマルキシイ	<i>Toramus glisonothoides</i>	
1370			ニホシホソオオキノ	<i>Dacne (Dacne) japonica</i>	
1371			セモンホソオオキノ	<i>D. (D.) picta</i>	
1372			カタモンオオキノ	<i>Aulacochilus japonicus</i>	
1373			ルリオオキノ	<i>A. sibiricus bedeli</i>	
1374			ヒメオビオオキノ	<i>Eniscanpha (Eniscanpha) fortunei fortunei</i>	
1375			カタボシエクリオオキノ	<i>Megalodacne bellula</i>	
1376			アカハバドオオキノ	<i>Neotriplax lewisii</i>	
1377			ホソチビオオキノ	<i>Triplax japonica</i>	
1378			シヘリアチビオオキノ	<i>T. sibirica connectens</i>	
1379			ハラアカチビオオキノ	<i>Tritoma (Rotitma) pallidiventris</i>	
1380			クロチビオオキノ	<i>Trit. (Tritoma) nipponensis</i>	
1381		ネスイムシ	コハケテオネスイ	<i>Mimemodes japonus</i>	
1382			トビイロテオネスイ	<i>Monotoma picines</i>	
1383		キシイムシ	ヨツモンキシイ	<i>Cryptophaeus callosipennis</i>	
1384			ウスハキシイ	<i>C. cellaris</i>	
1385			ニホシヒケフトキシイ	<i>C. japonicus</i>	
1386			ルイスキシイ	<i>C. lewisi</i>	
1387			クワイロムネキシイ	<i>Henoticus sinensis</i>	
1388			ケナカセマルキシイ	<i>Atomaria (Anchicera) horridula</i>	
1389			キイロセマルキシイ	<i>A. (A.) lewisi</i>	
1390			マルガタキシイ	<i>Curelius japonicus</i>	
1391		ホリヒラタムシ	ミツモンセマルヒラタムシ	<i>Psammoeceus trimaculatus</i>	
1392			ノキリホリヒラタムシ	<i>Oryzaephilus surinamensis</i>	
1393			マルムネホリヒラタムシ	<i>Silvanolomus inermis</i>	
1394			ホルムネホリヒラタムシ	<i>Silvanoporus angusticollis</i>	
1395			ミツカドホリヒラタムシ	<i>S. scuticollis</i>	
1396			フタケホリヒラタムシ	<i>Silvanus bidentatus</i>	
1397			ヒメフタケホリヒラタムシ	<i>Silvanu. lewisi</i>	
1398			カクムネホリヒラタムシ	<i>Silvanu. recticollis</i>	
1399		ヒメハナムシ	キイロアシナカヒメハナムシ	<i>Augasmus nipponicus</i>	
1400			トビイロヒメハナムシ	<i>Olibrus consanguineus</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (15/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1401	コウチュウ	ヒメハナムシ	アカホシチビメハナムシ	<i>Stilbus (Stilbus) bipustulatus</i>	
1402		チビヒラタムシ	オオキハチビヒラタムシ	<i>Nipponophloeus dorcoides</i>	
1403			モンチビヒラタムシ	<i>Notolaemus cribratus</i>	
1404			ルイスチビヒラタムシ	<i>N. lewisi</i>	
1405			ヒレルチビヒラタムシ	<i>Placonotus hilleri</i>	
1406			カドムネチビヒラタムシ	<i>P. testaceus</i>	
1407			セマルチビヒラタムシ	<i>Xvolestes laevior</i>	
1408		ヒゲホソケシキスイ	キイロチビハナケシキスイ	<i>Heterhelus scutellaris</i>	
1409		ケシキスイ	ナミヒラタケシキスイ	<i>Eouraea (Eouraea) biguttata</i>	
1410			ヒメヒラタケシキスイ	<i>E. (E.) domina</i>	
1411			ホソキヒラタケシキスイ	<i>E. (E.) oblonga</i>	
1412			セコフヒラタケシキスイ	<i>E. (E.) terminalis</i>	
1413			マルヒラタケシキスイ	<i>E. (Haptoncurina) paulula</i>	
1414			モンチビヒラタケシキスイ	<i>E. (Haptoncus) ocularis</i>	
1415			カクアシヒラタケシキスイ	<i>E. (Micruria) bergeri</i>	
1416			アシマカヒラタケシキスイ	<i>E. (M.) curvipes</i>	
1417			ハハヒロヒラタケシキスイ	<i>E. (M.) dura</i>	
1418			クロハナケシキスイ	<i>Carpophilus (Carpophilus) chalybeus</i>	
1419			クイロテオキスイ	<i>C. (C.) marginellus</i>	
1420			コケチャセマルケシキスイ	<i>Amphicrassus japonicus</i>	
1421			ナカコケチャケシキスイ	<i>A. lewisi</i>	
1422			キベリチビケシキスイ	<i>Meligethes (Meligethes) violaceus</i>	
1423			キムネチビケシキスイ	<i>M. (Odonthogethes) denticulatus</i>	
1424			ネアカマルケシキスイ	<i>Neopalodes inermis</i>	
1425			ツヤマルケシキスイ	<i>N. vicinus</i>	
1426			ケモンケシキスイ	<i>Atarphia fasciculata</i>	
1427			ヨツモンヒラタケシキスイ	<i>A. quadripunctata</i>	
1428			マルカタクケシキスイ	<i>Habascullinus japonus</i>	
1429			クロヒラタケシキスイ 基亜種	<i>Ipidia (Ipidia) variolosa variolosa</i>	
1430			アカマダラケシキスイ	<i>Lasiodites picta</i>	
1431			ハリグロヒラタケシキスイ	<i>Omosita discoidea</i>	
1432			ウスオビカクケシキスイ	<i>Pocadites dilatimanus</i>	
1433			セシカクケシキスイ	<i>P. oviformis</i>	
1434			クロモンカクケシキスイ	<i>P. nobilis</i>	
1435			キマダラケシキスイ	<i>Soronia grisea</i>	
1436			クロキマダラケシキスイ	<i>S. lewisi</i>	
1437			マルキマダラケシキスイ	<i>Stelidota multiguttata</i>	
1438			アミモンヒラタケシキスイ	<i>Ussuriphia hilleri</i>	
1439			チビコオニケシキスイ	<i>Cryptarcha kafereri</i>	
1440			ナミモンコケシキスイ	<i>C. strigata</i>	
1441			ヨツモンケシキスイ	<i>Glischrochilus (Librodor) japonicus</i>	
1442		カクホソカタムシ	ムネヒロカクホソカタムシ	<i>Cautomus hystericulus</i>	
1443		ミジンムシタマシ	クロミジンムシタマシ	<i>Aphanocephalus hemisphericus</i>	
1444		テントウムシタマシ	エグリツヤヒメタマシ	<i>Holoparamesus (Calvotobium) contractus</i>	
1445			ルリテントウダマシ	<i>Endomychus gorhami</i>	
1446			キイロアシホソテントウダマシ	<i>Chondria lutea</i>	
1447			ドウヨウダナエテントウダマシ	<i>Danae orientalis</i>	
1448			カタヘニケフテントウダマシ	<i>Ectomychus basalis</i>	
1449			キイロテントウダマシ	<i>Saula japonica</i>	
1450			チャハネムクテントウダマシ	<i>Stenotarsus chrysomelinus</i>	
1451			ヨツモンテントウダマシ	<i>Ancylolus pictus asiaticus</i>	
1452			セグロツヤテントウダマシ	<i>Lycoperdina mandarinae</i>	
1453			イカリモンテントウダマシ	<i>Mycetina ancoriger</i>	
1454		テントウムシ	クロツヤテントウ	<i>Serangium japonicum</i>	
1455			フタキンクテントウ	<i>Cryptogonus orbiculus</i>	
1456			ミスジキイロテントウ	<i>Brumoides ohtai</i>	
1457			ヒメアカホシテントウ	<i>Chilocorus renipustulatus</i>	
1458			アカホシテントウ	<i>C. rubidus</i>	
1459			カメノコテントウ	<i>Aiolocaria hexaspilota</i>	
1460			ジュウクホシテントウ	<i>Anisosticta kobensis</i>	VU 図-77
1461			ハラクロオオテントウ	<i>Callicaria superba</i>	
1462			ムーンシロホシテントウ	<i>Calvia muiri</i>	
1463			シロシウシホシテントウ	<i>C. quatuordecimguttata</i>	
1464			ナナホシテントウ	<i>Coccinella (Coccinella) septempunctata</i>	
1465			ナミテントウ	<i>Harmonia axyridis</i>	
1466			クリサキテントウ	<i>H. vedoensis</i>	
1467			ジュウサンホシテントウ	<i>Hippodamia (Hemisphaerica) tredecimpunctata</i>	
1468			ダンダラテントウ	<i>Menochilus sexmaculata</i>	
1469			ジュウロクホシテントウ	<i>Mvzia oblongoguttata nipponica</i>	
1470			ムツキホシテントウ	<i>Oenopia scalaris</i>	
1471			ヒメカメノコテントウ	<i>Proovlea japonica</i>	
1472			ツヤマダラテントウ	<i>Afissa chinensis</i>	
1473			ヤマアザミテントウ	<i>Henosepilachna niponica</i>	
1474			オオニジュウヤホシテントウ	<i>H. vigintioctomaculata</i>	
1475			ニジュウヤホシテントウ	<i>H. vigintioctopunctata</i>	
1476			キイロテントウ	<i>Kiuro koebelei koebelei</i>	
1477			クモカタテントウ	<i>Psvillobora (Psvillobora) vigintimaculata</i>	
1478			シロホシテントウ	<i>Vibidia duodecimguttata</i>	
1479			フタホシテントウ	<i>Hypersaspis sinensis</i>	
1480			ベタリアテントウ	<i>Rodolia cardinalis</i>	
1481			アカイロテントウ	<i>R. rufocincta</i>	
1482			ベニヘリテントウ	<i>R. limbata</i>	
1483			アカヘリテントウ	<i>R. rufocincta</i>	
1484			ヨツホシテントウ	<i>Phymatosternus lewisii</i>	
1485			モンクチヒルテントウ	<i>P. maculosus</i>	
1486			シヨクフタホシヒメテントウ	<i>Nephus (Geminosiho) shikokensis</i>	
1487			アトホシヒメテントウ	<i>N. (Nephus) phosphorus</i>	
1488			ハレヤヒメテントウ	<i>Pseudoscymnus hareia</i>	
1489			ナカサキヒメテントウ	<i>P. nagasakiensis</i>	
1490			クビアカヒメテントウ	<i>P. sylvaticus</i>	
1491			ハハヒメテントウ	<i>Scymnus (Neopullus) babai</i>	
1492			カハイロヒメテントウ	<i>S. (N.) fuscatus</i>	
1493			クロヘリヒメテントウ	<i>S. (N.) hoffmanni</i>	
1494			ヤマトヒメテントウ	<i>S. (N.) vamoto</i>	
1495			チョウショウヒメテントウ	<i>S. (Pullus) chuioi</i>	
1496			オニヒメテントウ	<i>S. (P.) giganteus</i>	
1497			カワムラヒメテントウ	<i>S. (P.) kawamurai</i>	
1498			コクロヒメテントウ	<i>S. (P.) posticalis</i>	
1499			オオタツマアカヒメテントウ	<i>S. (P.) rectus</i>	
1500			ナカヒメテントウ	<i>S. (P.) ruficeps</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (16/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1501	コウチュウ	テントウムシ	キイロヒメテントウ	<i>S. (P.) svoiti</i>	
1502			トビロヒメテントウ	<i>S. (Scymnus) paganus</i>	
1503			クロテントウ	<i>Telsimia nigra</i>	
1504		ミジウムシ	ナカクロミジウムシ	<i>Arthrolia lewisii</i>	
1505			マエキミジウムシ	<i>A. oblonga</i>	
1506			ベニキンツヤミジウムシ	<i>Chvoastraea polita</i>	
1507		ヒメマキムシ	ヒメマキムシ	<i>Stephostethus chinensis</i>	
1508			トスシヒメマキムシ	<i>S. pandellei</i>	
1509			ウスキケシマキムシ	<i>Corticaria japonica</i>	
1510			クロオビケシマキムシ	<i>C. ornata</i>	
1511			ウスチャケシマキムシ	<i>C. gibbosa</i>	
1512			トアシケシマキムシ	<i>Migneauxia lederi</i>	
1513		コキノコムシ	アカハヒゲホソキノコムシ	<i>Eulagius reitteri</i>	
1514			フタオビヒメキノコムシ	<i>Litargus (Alitargus) balteatus</i>	
1515			コキンヒメキノコムシ	<i>L. (Litargosomus) japonicus</i>	
1516			トレルコキノコムシ	<i>Mycetophagus (Mycetophagoides) hillerianus</i>	
1517			コマダラコキノコムシ	<i>M. (Ulolendus) pustulosus</i>	
1518			チャイロコキノコムシ	<i>Tvphaea stercorea</i>	
1519		ツツキノコムシ	コマツツキノコムシ	<i>Hadraule hieroglyphicus</i>	
1520			フタツツツキノコムシ	<i>Neoenearthron bicarinatum</i>	
1521			ツヤツツキノコムシ	<i>Octotemnus laminifrons</i>	
1522			ツヤクロホソツツキノコムシ	<i>Orthocis nigrosplendidus</i>	
1523			ケナガツツキノコムシ	<i>Rhopalodontus perforatus</i>	
1524		キノコムシダマシ	マダラキノコムシダマシ	<i>Tetratoma (Abstrulia) japonica</i>	
1525			カツオガタナカクチキ	<i>Synstrophus macrophthalmus</i>	
1526			アヤモンヒメナカクチキ	<i>Holostrophus (Paraholostrophus) orientalis</i>	
1527		ナカクチキムシ	フタモンヒメナカクチキ	<i>Microtonus dimidiatus</i>	
1528			ヒロウトホソナカクチキ	<i>Phloiotrva (Phloiotrva) obscura</i>	
1529			クロホソナカクチキ	<i>P. (P.) rusicollis</i>	
1530			キイロホソナカクチキ	<i>Serropalpus barbatus</i>	
1531		ハナミ	クリイロヒゲハナミ	<i>Macrotomia castanea</i>	DD 図-78
1532			チャオビヒメハナミ	<i>Mordellina brunneotincta</i>	
1533			フタオビヒメハナミ	<i>M. signatella</i>	
1534		オオハナミ	ムモンオオハナミ	<i>Macrosiagon nasutum</i>	
1535		アトコフコムシダマシ	ヒサコホソカタムシ	<i>Glyphocryptus brevicollis</i>	
1536			ツヤケシヒメホソカタムシ	<i>Microprius opacus</i>	
1537			ダルマチヒソソカタムシ	<i>Pseudotarphius</i>	
1538			ツヤナガヒラタホソカタムシ	<i>Pycnomerus vilis</i>	
1539		ゴミムシダマシ	ホンドチビサコゴミムシダマシ	<i>Laena rotundicollis</i>	
1540			オオメキハネハムシダマシ	<i>Lagria (Lagria) rufipennis</i>	
1541			フシナガハムシダマシ	<i>Macrolagria rufobrunnea</i>	
1542			アラカヒゲフトコムシダマシ	<i>Luprops cribrifrons</i>	
1543			ヒゲフトコムシダマシ	<i>L. orientalis</i>	
1544			ヒメホソハマベコムシダマシ	<i>Micropedinus pallidipennis</i>	
1545			ホソハマベコムシダマシ	<i>M. pullulus</i>	
1546			ハマベコウタンコムシダマシ	<i>Idisia ornata</i>	
1547			ニセハマベコウタンコムシダマシ	<i>I. vestita</i>	
1548			ガイマイコムシダマシ	<i>Alphitobius diaperinus</i>	
1549			コマルキマワリ	<i>Amarvemus (Amarvemus) curvus</i>	
1550			ニホンキマワリ 基亜種	<i>Plesiophthalmus nigrocyaneus nigrocyaneus</i>	
1551			クロツヤキマワリ	<i>P. spectabilis</i>	
1552			カフトコムシダマシ	<i>Parabolitophagus felix</i>	
1553			コマルムネコムシダマシ 基亜種	<i>Nalassus (Nalassus) brunnea brunnea</i>	
1554			スジコガシコムシダマシ	<i>Heterotarsus carinula</i>	
1555			オオマルサコムシダマシ	<i>Caedius maderi</i>	
1556			ヤマトスナコムシダマシ	<i>Gonocephalum (Gonocephalum) coenosum</i>	
1557			コスナコムシダマシ	<i>G. (G.) coriaceum</i>	
1558			ヒメスナコムシダマシ	<i>G. (G.) persimile</i>	
1559			オオスナコムシダマシ	<i>G. (G.) pubens</i>	
1560			ヒメカクスナコムシダマシ	<i>G. (G.) terminale</i>	
1561			オオマルスナコムシダマシ	<i>Phelopatrum scaphoides</i>	
1562			コキクムシダマシ	<i>Blindus strigosus</i>	
1563			クロコムシダマシ	<i>Neatus picipes</i>	
1564			コメノコムシダマシ	<i>Tenebrio obscurus</i>	
1565			ミツノコムシダマシ	<i>Toxicum tricorutum</i>	
1566			コクヌストキ	<i>Tribolium castaneum</i>	
1567			ヒラタクヌストキ	<i>T. confusum Jacquelin</i>	
1568			ヘリアコムシダマシ	<i>Cenoscelis lateralis</i>	
1569			モトツヨフエクリコムシダマシ	<i>Uloma (Uloma) bonzica</i>	
1570			コルベツヨフエクリコムシダマシ	<i>U. (U.) latimanus</i>	
1571			ヤマトエクリコムシダマシ	<i>U. (U.) lewisi</i>	
1572			マルセルエクリコムシダマシ 基亜種	<i>U. (U.) marseuli marseuli</i>	
1573			ホソクロクチキムシ	<i>Allecula (Allecula) noctivaga</i>	
1574			ホンドホソアカクチキムシ	<i>A. (A.) tenuis</i>	
1575			ナミウスイロクチキムシ	<i>Borboresthes bilamellata</i>	
1576			ホンドトビイロクチキムシ	<i>B. cruralis</i>	
1577			アカツヤハネクチキムシ	<i>Hymenalia (Hymenalia) rufipennis</i>	
1578			クロツヤハネクチキムシ	<i>H. (H.) unicolor</i>	
1579			ホンドクロオクチキムシ	<i>Upinella fuliginosa</i>	
1580			ナミクチキムシ	<i>U. melanaria</i>	
1581			フナカクチキムシ	<i>Isomira (Paraisomira) oculata</i>	
1582			フタオツヤコムシダマシ	<i>Alphitophagus bifasciatus</i>	
1583			ヒメナカニシコムシダマシ	<i>Ceropria induta induta</i>	
1584			フトナカニシコムシダマシ	<i>C. laticollis</i>	
1585			ホソナカニシコムシダマシ	<i>C. striata</i>	
1586			モンキコムシダマシ 基亜種	<i>Diaperis lewisi lewisi</i>	
1587			ヒコキノコムシダマシ	<i>Platydema higonium</i>	
1588			マルツヤキノコムシダマシ	<i>P. kurama</i>	
1589			アオツヤキノコムシダマシ	<i>P. marseuli</i>	
1590			クロツヤキノコムシダマシ	<i>P. nigroaeneum</i>	
1591			ヒメオビキノコムシダマシ	<i>P. nigropicta</i>	
1592			ベニモンキノコムシダマシ 基亜種	<i>P. subfascia subfascia</i>	
1593			チビキノコムシダマシ	<i>P. sylvestre</i>	
1594			ヒラタクノコムシダマシ	<i>Yamatotakeru loripes</i>	
1595			アメイロノコムシダマシ	<i>Corticeus (Tylophloeus) gentilis</i>	
1596			クロテントウコムシダマシ	<i>Ades convexus</i>	
1597			ホソクロホソテントウコムシダマシ	<i>Derispia maculipennis</i>	
1598			フタモンツヤコムシダマシ	<i>Scaphidema ornatella</i>	
1599			ルリコムシダマシ	<i>Derosphaerus subviolaceus</i>	
1600			オオニシコムシダマシ	<i>Euhemicera pulchra</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (17/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1601	コウチュウ	ゴミムシ	ニシビロキワリトキ	<i>Gnesis haagi</i>	
1602			オオツヤホソゴミムシ	<i>Menophilus arciscelis</i>	
1603			コツヤホソゴミムシ	<i>M. lucens</i>	
1604			サトコミアシゴミムシ 基亜種	<i>Promethis valgipes valgipes</i>	
1605			ルリツヤヒキマワリトキ	<i>Simalura coerulea</i>	
1606			ホソヒキマワリ	<i>Stenophanes mesostena</i>	
1607			ホソトシゴミムシ	<i>Tetraphyllus pavkullii</i>	
1608			ホソトシゴミムシ 基亜種	<i>Stenochinus bacillus bacillus</i>	
1609			ヒメナガキマワリ	<i>Stronvium imoierum</i>	
1610			ハネナシヤシナガキマワリ	<i>S. marseuli</i>	
1611		ケビナガムシ	ケビナガムシ	<i>Cephaloon pallens</i>	
1612		カミキリトキ	スグロカミキリトキ	<i>Fobia (Fobia) chinensis ambusta</i>	
1613			ハイロカミキリトキ 基亜種	<i>E. (E.) cinereipennis cinereipennis</i>	
1614			ハラゴロカミキリトキ	<i>E. (Pareobia) florilega</i>	
1615			ツマクロカミキリトキ	<i>Nacerdes (Nacerdes) melanura</i>	
1616			キイロカミキリトキ 基亜種	<i>N. (Xanthochroa) hilleri hilleri</i>	
1617			キハネカミキリトキ	<i>N. (X.) luteipennis</i>	
1618			アオカミキリトキ	<i>N. (X.) waterhousei</i>	
1619			キモフトカミキリトキ	<i>Oedemera (Oedemera) lucidicollis lucidicollis</i>	
1620			アライカミキリトキ 基亜種	<i>O. (O.) sexualis sexualis</i>	
1621		ツチハンミョウ	マハンミョウ	<i>Epicauta (Epicauta) gorhami</i>	
1622			マルクビツチハンミョウ	<i>Meloe (Eurvmeloe) corvinus</i>	
1623			ヒメツチハンミョウ	<i>M. (Meloe) coarctatus</i>	
1624			ツマクロキケンセイ	<i>Zonitoscema cothurnata</i>	
1625			キイロケンセイ	<i>Z. japonica</i>	
1626		アカハネムシ	ムナビロアカハネムシ	<i>Pseudopvrochroa laticollis</i>	
1627		チビキワムシ	モンシロハネカクシムシ	<i>Inopeplus quadrinotatus</i>	
1628			ツヤチビキワムシ	<i>Chilopeltis laevipennis</i>	
1629		アリトキ	アカヒホソムシ	<i>Macratris serialis</i>	
1630			ホソヒアリトキ 本土亜種	<i>Anthelephila bramina coiffaiti</i>	
1631			ケオビアリトキ	<i>A. imperatrix</i>	
1632			モモキアリトキ	<i>Anthicomorphus cruralis</i>	
1633			クロチビアリトキ 基亜種	<i>Anthi. niponicus niponicus</i>	
1634			ヒケフトホソアリトキ	<i>Anthicus monstrosicornis</i>	
1635			ヒラタホソアリトキ	<i>Anthicu. perileptoides</i>	
1636			コクロホソアリトキ	<i>Anthicu. pilosus</i>	
1637			アカホソアリトキ	<i>Clavicollis fugiens</i>	
1638			ツヤチビホソアリトキ	<i>C. laevipennis</i>	
1639			クロホソアリトキ	<i>Cordicollis baicalicus</i>	
1640			ミツヒタアリトキ	<i>Nitorus trigibber</i>	
1641			ウスモンホソアリトキ	<i>Omonadus confucii</i>	
1642			アトクホソアリトキ	<i>O. floralis</i>	
1643			ムナグロホソアリトキ	<i>Sapintus (Sapintus) cohaeres</i>	
1644			アカモンホソアリトキ	<i>S. (S.) marseuli</i>	
1645			ヨツボシホソアリトキ	<i>Stricticollis valgipes</i>	
1646			チビツカク 基亜種	<i>Mecynotarsus minimus minimus</i>	
1647		ニセクビホソムシ	オビモンニセクビホソムシ	<i>Syzeton quadrimaculatus</i>	
1648			クビゲニセクビホソムシ	<i>Picemelinus flabellicornis</i>	
1649			アシマカリニセクビホソムシ	<i>Pseudolotelus distortus</i>	
1650			ヤマトニセクビホソムシ	<i>P. japonicus</i>	
1651			マダラニセクビホソムシ 本土亜種	<i>Phytobaenus amabilis scapularis</i>	
1652		ホソカミキリムシ	ホソカミキリ 基亜種	<i>Distenia gracilis gracilis</i>	
1653		カミキリムシ	ノキリカミキリ 基亜種	<i>Prionus insularis insularis</i>	
1654			ニセノキリカミキリ	<i>P. seiunctus</i>	
1655			ツヤシハナカミキリ	<i>Anastrangalia scotodes scotodes</i>	
1656			ムネアカクロハナカミキリ	<i>Leptura dimorpha</i>	
1657			ヤツボシハナカミキリ 本州以南亜種	<i>L. mimica modicenotata</i>	
1658			オオヨツシハナカミキリ	<i>Macroleptura regalis</i>	
1659			クロソソホソハナカミキリ	<i>Mimostrangalia kurosonensis</i>	DD
1660			ヘニハハナカミキリ	<i>Paranaspia anaspoides</i>	
1661			アカハナカミキリ	<i>Stictoleptura (Aredolpona) succedanea</i>	
1662			ヒナリハナカミキリ	<i>Dinoptera minuta</i>	
1663			キハネニセハムシハナカミキリ	<i>Lemula decipiens</i>	
1664			サビカミキリ	<i>Arhopalus coreanus</i>	
1665			ツツムナクホカミキリ 基亜種	<i>Cephalallus unicolor unicolor</i>	
1666			クロカミキリ	<i>Spondylis buprestoides</i>	
1667			ミドリカミキリ	<i>Chloridolum (Leontium) viride</i>	
1668			ヒメスキカミキリ	<i>Callidiellum rufipenne</i>	
1669			ソロオビチビヒラタカミキリ	<i>Poecilium albicinctum</i>	
1670			アカネカミキリ	<i>P. maaki viarius</i>	
1671			スギカミキリ	<i>Semanotus japonicus</i>	
1672			ヨコヤマヒメカミキリ	<i>Ceresium holophaeum</i>	
1673			アメイロカミキリ 基亜種	<i>Stenodryas clavigera clavigera</i>	
1674			ヨツボシカミキリ	<i>Stenverinum quadrinotatum</i>	EN
1675			キマダラカミキリ 基亜種	<i>Aeolesthes (Pseudaolesthes) chrvsotrix chrvsotrix</i>	図-79
1676			ミヤマカミキリ	<i>Neocerambix raddei</i>	図-80
1677			ホタルカミキリ	<i>Dere thoracica</i>	
1678			タケトラカミキリ	<i>Chlorophorus annularis</i>	
1679			エクリトラカミキリ	<i>C. japonicus</i>	
1680			フタオビミドリトラカミキリ	<i>C. mucosus</i>	
1681			ヨツシトラカミキリ	<i>C. quinauefasciatus</i>	
1682			ツラケトラカミキリ	<i>Clvtus melaenus</i>	
1683			キヌトラカミキリ 基亜種	<i>Cyrtoclytus caproides caproides</i>	
1684			トケヒケトラカミキリ	<i>Demonax transilis</i>	
1685			キイロトラカミキリ	<i>Grammoglyphus notabilis notabilis</i>	
1686			ヒメクロトラカミキリ 基亜種	<i>Rhaphuma diminuta diminuta</i>	
1687			ムネマダラトラカミキリ 基亜種	<i>Xylotrechus (Xylotrechus) gravii gravii</i>	
1688			フトウトラカミキリ	<i>X. (X.) pvrhoderus pvrhoderus</i>	
1689			クビアカトラカミキリ	<i>X. (X.) rufillus rufillus</i>	
1690			マルクビケマダラカミキリ	<i>Trichoferus campestris</i>	
1691			オダヒケナカコハネカミキリ	<i>Glaphyra (Glaphyra) gracilis</i>	
1692			コジマドケナカコハネカミキリ	<i>G. (G.) koimai</i>	
1693			カウコウメダカカミキリ	<i>Stenhomalus (Stenhomalus) cleroides</i>	
1694			トビロカミキリ	<i>Allotraeus (Allotraeus) sphaerioninus</i>	
1695			トケヒケトビロカミキリ	<i>Nysina rufescens</i>	
1696			クスベニカミキリ	<i>Pvrestes niponicus</i>	
1697			ヘニカミキリ	<i>Purpuricenus (Sternoplistes) temminckii</i>	
1698			アオシカミキリ	<i>Xystrocera globosa</i>	
1699			ヒゲナガキモフトカミキリ	<i>Acanthocinus orientalis</i>	
1700			ナカハヤシキモフトカミキリ	<i>Leipopus guttatus</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (18/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1701	コウチュウ	カミキリムシ	ケシカミキリ	<i>Sciades (Miaenia) tonsus</i>	
1702			タシマカミキリ	<i>Aulaconotus pachyvezoides</i>	
1703			シロシトウボウカミキリ 基亜種	<i>Pothvine annulata annulata</i>	
1704			イワサキケフカミキリ	<i>Eupogoniosis granulatus</i>	
1705			トイカミキリ 基亜種	<i>Mimectatina divaricata divaricata</i>	
1706			セミスシコフヒケカミキリ 基亜種	<i>Rhodopina lewisii lewisii</i>	
1707			トホビアラケカミキリ	<i>Rhopaloscelis unifasciatus</i>	
1708			イホタサヒカミキリ	<i>Sophrionica obrioides</i>	
1709			カノサヒカミキリ 基亜種	<i>Apomecyna (Apomecyna) naevia naevia</i>	
1710			キクスイキキカミキリ	<i>Asaperda rufipes</i>	
1711			コブスシサヒカミキリ	<i>Atimura japonica</i>	
1712			キボシチビカミキリ	<i>Svbra (Svbra) flavomaculata</i>	
1713			ルリカミキリ	<i>Bacchisa (Bacchisa) fortunei japonica</i>	
1714			クワカミキリ	<i>Apriona (Apriona) japonica</i>	
1715			シロシカミキリ	<i>Batocera lineolata</i>	
1716			ハラアコフカミキリ	<i>Moechotrypa diphsis</i>	
1717			タカザシロカミキリ	<i>Olenecamptus formosanus</i>	図-81
1718			ホシヘニカミキリ	<i>Eupromus ruber</i>	
1719			ナガゴマフカミキリ	<i>Mesosa (Aplocnemina) longipennis</i>	
1720			ゴマフカミキリ	<i>M. (Mesosa) japonica</i>	
1721			カシロマフカミキリ 基亜種	<i>M. (Perimesosa) hirsuta hirsuta</i>	
1722			ビロウトカミキリ 基亜種	<i>Acalolepta fraudatrix fraudatrix</i>	
1723			チャイロビロウトカミキリ	<i>A. kusamai</i>	
1724			センノカミキリ 基亜種	<i>A. luxuriosa luxuriosa</i>	
1725			ニセビロウトカミキリ 基亜種	<i>A. seiuncta seiuncta</i>	
1726			ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i>	
1727			イタヤカミキリ	<i>Mecynippus pubicornis</i>	
1728			マツノマダラカミキリ	<i>Monochamus (Monochamus) alternatus endai</i>	
1729			ヒメヒケナカカミキリ 基亜種	<i>M. (M.) subfasciatus subfasciatus</i>	
1730			キボシカミキリ 基亜種	<i>Psacotha hilaris hilaris</i>	
1731			ヤハスカミキリ	<i>Uraecha bimaculata bimaculata</i>	
1732			チャボトケナカカミキリ	<i>Xenicotela pardalina</i>	
1733			ヨツキボシカミキリ	<i>Epiglenea comes comes</i>	
1734			ヘリケロリンコカミキリ	<i>Nupserha marginella marginella</i>	
1735			ヒメリンコカミキリ	<i>Oberea (Oberea) hebescens</i>	
1736			ホソキリンコカミキリ	<i>O. (O.) infranigrescens</i>	
1737			リンコカミキリ	<i>O. (O.) japonica</i>	
1738			キクスイカミキリ	<i>Phytoecia (Phytoecia) rufiventris</i>	
1739			クモカダケシカミキリ	<i>Exocentrus fasciolatus</i>	
1740			カローケンカミキリ	<i>E. galloisi</i>	
1741			アトモンマルケシカミキリ	<i>E. lineatus</i>	
1742			クワサヒカミキリ	<i>Mesosella simiola</i>	
1743			ハイロヤハスカミキリ	<i>Niphona (Niphona) furcata</i>	
1744			ナカンロサヒカミキリ 基亜種	<i>Pterolophia (Ale) iugosa iugosa</i>	
1745			ワモンサヒカミキリ	<i>P. (Hylobrotus) annulata</i>	
1746			マルモンサヒカミキリ	<i>P. (Pterolophia) angusta</i>	
1747			トカリソオビサヒカミキリ 基亜種	<i>P. (P.) caudata caudata</i>	
1748			アトモンサヒカミキリ	<i>P. (P.) granulata</i>	
1749			エゾサヒカミキリ	<i>P. (P.) tsurugiana</i>	
1750			アトソサヒカミキリ	<i>P. (P.) zonata</i>	
1751			ヤツムカミキリ	<i>Eutetrappa ocelota</i>	
1752			シラホシカミキリ 基亜種	<i>Glenea (Glenea) relicta relicta</i>	
1753			ラミカミキリ	<i>Paraglenea fortunei</i>	
1754			ムネモンヤツボシカミキリ	<i>Saperda tetrastigma</i>	
1755			チャハラムシ	<i>Borowiecius ademptus</i>	
1756			アスキマシウムシ	<i>Callosobruchus chinensis</i>	
1757			エントウシウムシ	<i>Bruchus pisorum</i>	
1758			ガカフタネクイハムシ	<i>Donacia (Cynhogaaster) lenzi</i>	
1759			イネネクイハムシ	<i>D. (C.) provostii</i>	VU
1760			キンイロネクイハムシ	<i>D. (Donaciomima) iapana</i>	NT 図-82
1761			カツラネクイハムシ	<i>D. (D.) katsurai</i>	
1762			ユリクヒナカハムシ	<i>Lilioceris (Lilioceris) meridigera</i>	
1763			ホソクヒナカハムシ	<i>L. (L.) parvicollis</i>	
1764			キイロクヒナカハムシ	<i>L. (L.) rugata</i>	
1765			アカクヒナカハムシ	<i>L. (L.) subpolita</i>	
1766			キハラルクヒナカハムシ	<i>Lema (Lema) concinnipennis</i>	
1767			トゲアシクヒナカハムシ	<i>L. (L.) coronata</i>	
1768			トホシクヒナカハムシ	<i>L. (L.) decempunctata</i>	
1769			キオビクヒナカハムシ	<i>L. (L.) delicatula</i>	
1770			アカクヒナカハムシ	<i>L. (L.) diversa</i>	
1771			セアカクヒナカハムシ	<i>L. (L.) scutellaris</i>	
1772			キハラルクヒナカハムシ	<i>L. (Petauristes) adamsii</i>	
1773			ヤマキハムシ	<i>L. (P.) honorata</i>	
1774			セシクヒナカハムシ	<i>Oulema (Oulema) atrosuturalis</i>	
1775			ジンガサハムシ	<i>Aspidimorpha (Aspidimorpha) indica</i>	
1776			ヨツモンカメノコハムシ	<i>Lacchoptera (Lacchopteroidea) nepalensis</i>	
1777			ヒメジンガサハムシ	<i>Cassida fusciorufa</i>	
1778			ナミカメノコハムシ	<i>C. nebulosa</i>	
1779			ヒメカメノコハムシ	<i>C. piperata</i>	
1780			セモンジンガサハムシ	<i>C. versicolor</i>	
1781			イチモンジカメノコハムシ	<i>Thlaspida cribrata</i>	
1782			タケトケハムシ	<i>Dactylispa (Platvoriella) issikii</i>	
1783			カタビロトケハムシ	<i>D. (P.) subquadrata subquadrata</i>	
1784			ヒメキハリトケハムシ	<i>D. (Triplispa) angulosa</i>	
1785			ヨモギハムシ	<i>Chrysolina (Anopachys) aurichalcea</i>	
1786			ハツカハムシ	<i>C. (Lithopteroides) exanthematica exanthematica</i>	
1787			ヤナキハムシ	<i>Chrysomela vigintipunctata vigintipunctata</i>	
1788			クルミハムシ	<i>Gastrolina depressa</i>	
1789			コカクハムシ	<i>Gastrophysa (Gastrophysa) mannerheimi</i>	
1790			アジハムシ	<i>Gonioctena (Brachyphytodecta) rubripennis</i>	
1791			ヤツボシハムシ	<i>G. (Sinomela) nigroplagiata</i>	
1792			ダイコンハムシ	<i>Phaedon (Phaedon) brassicae</i>	
1793			ヤナキハムシ	<i>Plagioderia versicolora</i>	
1794			スゲロキハムシ	<i>Plagiosterna japonica</i>	
1795			カミナリハムシ	<i>Altica aenea</i>	
1796			ヒメカミナリハムシ	<i>A. caerulescens</i>	
1797			アサミカミナリハムシ	<i>A. cirsiicola</i>	
1798			コカミナリハムシ	<i>A. viridicvanea</i>	
1799			キイロツツミハムシ	<i>Aphthona abdominalis</i>	
1800			ツツミハムシ	<i>A. perminuta</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (19/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1801	コウチュウ	ハムシ	サハタツツノミハムシ	<i>A. strigosa</i>	
1802			ホソリトビハムシ	<i>Aphthonaltica angustata</i>	
1803			テントウノミハムシ	<i>Argopistes biolagiatus</i>	
1804			ハリクロテントウノミハムシ	<i>A. coccinelliformis</i>	
1805			ヒメテントウノミハムシ	<i>A. tsekooni</i>	
1806			オオアカマルノミハムシ	<i>Argopus clvpeatus</i>	
1807			アカイロマルノミハムシ	<i>Argopus punctipennis punctipennis</i>	
1808			コハンマドビハムシ	<i>Bikasha nipponica</i>	
1809			ヒトウカネトビハムシ	<i>Chaetocnema (Chaetocnema) concinnicollis</i>	
1810			フタイロヒサゴトビハムシ	<i>C. (Tlanoma) bicolorata</i>	
1811			クサイチゴトビハムシ	<i>C. (T.) granulosa</i>	
1812			オオヒサゴトビハムシ	<i>C. (T.) maior</i>	
1813			キハネマルノミハムシ	<i>Hemipovxis flavipennis</i>	
1814			ヒゲナガリマルノミハムシ	<i>H. plagioderoides</i>	
1815			ルリチビカミナリハムシ	<i>Lesaealtica berberii</i>	
1816			サンゲトビハムシ	<i>Lipromima minuta</i>	
1817			クロホシトビハムシ	<i>Longitarsus (Longitarsus) bimaculatus</i>	
1818			ムラサキナカトビハムシ	<i>L. (L.) boraginicola</i>	
1819			アカアシナカトビハムシ	<i>L. (L.) cervinus</i>	
1820			イヌノクワトビハムシ	<i>L. (L.) holsaticus</i>	
1821			コシヤアシナカトビハムシ	<i>L. (L.) komivai</i>	
1822			オオアシナカトビハムシ	<i>L. (L.) nitidus</i>	
1823			クビアカトビハムシ	<i>Luperomorpha prveri</i>	
1824			スイハトビハムシ	<i>Mantura (Mantura) clavareau</i>	
1825			セマルトビハムシ	<i>Minota (Minota) nigronicea</i>	
1826			カクムネトビハムシ	<i>Neocrepidodera laevicollis</i>	
1827			ルリマルノミハムシ	<i>Nonarthra cvanea</i>	
1828			チャハネツヤハムシ	<i>Phveasia fulvipennis</i>	
1829			キスシノミハムシ	<i>Phyllotreta striolata</i>	
1830			ナトビハムシ	<i>Psylliodes (Psylliodes) punctifrons</i>	
1831			イチゴハムシ	<i>Galerucella (Galerucella) griseascens</i>	
1832			ジュンサイハムシ	<i>G. (G.) nipponensis</i>	
1833			フタクサハムシ	<i>Onhraella communa</i>	
1834			エクリハケフカハムシ	<i>Pvrrhalta esakii</i>	
1835			サンゴジュハムシ	<i>P. humeralis</i>	
1836			エノキハムシ	<i>P. tibialis</i>	
1837			アカタテハムシ	<i>Tricholochmaea semifulva</i>	
1838			ニレハムシ	<i>Xanthogaleruca maculicollis</i>	
1839			キクヒアオハムシ	<i>Agelasa nigriceps</i>	
1840			ムナクワツヤハムシ	<i>Arthrotus niger</i>	
1841			イタドリハムシ	<i>Gallerucida bifasciata</i>	
1842			イチモンシハムシ	<i>Morphosphaera japonica</i>	
1843			ウリハムシモドキ	<i>Atrachva menetriesi</i>	
1844			ウリハムシ	<i>Aulacophora indica</i>	
1845			クロウリハムシ 基亜種	<i>A. nigripennis nigripennis</i>	
1846			クワハムシ	<i>Fleutiauxia armata</i>	
1847			ケフカクワナカハムシ	<i>Hesperomorpha hirsuta</i>	
1848			クロウスハハムシ	<i>Luperus moorii</i>	
1849			フタスジヒメハムシ	<i>Medvthia nigrobilineata</i>	
1850			ルリハネナカハムシ	<i>Liroetis coeruleipennis</i>	
1851			ホタルハムシ	<i>Monolepta dichroa</i>	
1852			アトホシハムシ	<i>Paridea (Paridea) angulicollis</i>	
1853			ヨツボシハムシ	<i>P. (P.) oculata</i>	
1854			キハラヒメハムシ	<i>Taphinellina flaviventris</i>	
1855			ドウガネツヤハムシ	<i>Qomorphoides cupreatus</i>	
1856			アオクワツヤハムシ	<i>O. nigrocaeruleus</i>	
1857			ヒメツヤハムシ	<i>Qomorphus (Qomorphus) japanus</i>	
1858			クワオビツツハムシ	<i>Phvsosmaraedina nigrifrons</i>	
1859			キイロナカツツハムシ	<i>Smaragdina nipponensis</i>	
1860			ウスクロスツツハムシ	<i>Cryptocephalus (Burlinius) fulvus fuscolineatus</i>	
1861			キアシリツツハムシ	<i>C. (Cryptocephalus) hvacinthinus</i>	
1862			クワオビツツハムシ	<i>C. (C.) luridipennis pallescens</i>	
1863			ヨツモンクワツツハムシ	<i>C. (C.) nobilis</i>	
1864			キホシツツハムシ 基亜種	<i>C. (C.) perelegans perelegans</i>	
1865			カンワツツハムシ	<i>C. (C.) scitulus</i>	
1866			ツマキクワツツハムシ	<i>C. (Disopus) oini difformis</i>	
1867			タマツツハムシ	<i>Adiscus lewisii</i>	
1868			クワヒメツツハムシ	<i>Coenobius piceus</i>	
1869			ツバキコフハムシ	<i>Chlamisus lewisii</i>	
1870			ムシクワハムシ	<i>C. spilotus</i>	
1871			アカカネサルハムシ 基亜種	<i>Acrothinium gaschkevitchii gaschkevitchii</i>	
1872			チビカサハラハムシ	<i>Demotina decorata</i>	
1873			クワオビカサハラハムシ	<i>D. fasciata</i>	
1874			マダラアサゲサルハムシ	<i>D. fasciculata</i>	
1875			カサハラハムシ	<i>D. modesta</i>	
1876			ドウガネサルハムシ	<i>Heteraspis lewisii</i>	
1877			セアカケアサルハムシ	<i>Fidia fulva</i>	
1878			ケフカサルハムシ	<i>F. lewisi</i>	
1879			キカサハラハムシ	<i>Xanthonia olacida</i>	
1880			イモサルハムシ	<i>Colasposoma dauricum</i>	
1881			アオハネサルハムシ	<i>Basilepta fulvipes</i>	
1882			ウスイロサルハムシ	<i>B. pallidula</i>	
1883			サクラサルハムシ	<i>Cleoporus lateralis</i>	
1884			アオカネヒメサルハムシ	<i>Nodina chalcosoma</i>	
1885			ムネアカキハネサルハムシ	<i>Pagria consimilis</i>	
1886			チビキハネサルハムシ	<i>P. ingibbosa</i>	
1887			マルキハネサルハムシ	<i>P. ussuriensis</i>	
1888		ヒゲナガソウムシ	イホタロウヒゲナガソウムシ	<i>Anthrribus niveovariegatus</i>	
1889			キコヒゲナガソウムシ 基亜種	<i>Euparius oculatus oculatus</i>	
1890			スネアガヒゲナガソウムシ	<i>Autotropis distinguenda</i>	
1891			ウスモンツツヒゲナガソウムシ	<i>Ozotomerus japonicus japonicus</i>	
1892			フタモンツツヒゲナガソウムシ	<i>O. nigromaculatus</i>	
1893			キスシヒゲナガソウムシ	<i>Aphaulimia debilis</i>	
1894			セマルヒゲナガソウムシ	<i>Phloeobius gibbosus</i>	
1895			ササセマルヒゲナガソウムシ	<i>P. stenus</i>	
1896			シロヒゲナガソウムシ 基亜種	<i>Platystomos sellatus sellatus</i>	
1897			マダラヒゲナガソウムシ	<i>Opanthribus tessellatus</i>	
1898			キマダラヒゲナガソウムシ	<i>Tropideres naevulus</i>	
1899			クワヒゲナガソウムシ	<i>T. roelofsi roelofsi</i>	
1900			アカヒゲナガソウムシ	<i>T. securus</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (20/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
1901	コウチュウ	ヒゲナガゾウムシ	ヒゲナガゾウムシ	<i>Xylinda striatifrons</i>	
1902			エロヒゲナガゾウムシ	<i>Exechesops leucopis</i>	
1903			ヨモヒヒゲナガゾウムシ	<i>Rhaphitropis guttifer guttifer</i>	
1904			ウスグロヒヒゲナガゾウムシ	<i>Uncifer truncatus</i>	
1905			アカシヒゲナガゾウムシ	<i>Araecerus tarsalis</i>	
1906		オトシフミ	アシナガオトシフミ	<i>Phialodes (Phialodes) rufipennis</i>	
1907			カシリオトシフミ	<i>Euops (Parasvnaoptosis) splendidus</i>	
1908			ルリオトシフミ	<i>E. (Riedelions) punctatostriatus</i>	
1909			オトシフミ	<i>Apoderus iekeli</i>	
1910			ヒメクロオトシフミ	<i>Comsapoderus (Comsapoderus) erythrogaster</i>	
1911			エゴツルカビオトシフミ	<i>Cycnotrachelodus roelofsi</i>	
1912			コマダラオトシフミ	<i>Agomadaranus pardalis</i>	
1913			スルデケツツチョッキリ	<i>Auletobius (Auletobius) fumigatus</i>	
1914			クロケツツチョッキリ	<i>Pseudomesauletes (Pseudomesauletes) uniformis</i>	
1915			フトウハマキチョッキリ	<i>Aspidobvctiscus (Aspidobvctiscus) lacunipennis</i>	
1916			ファウストハマキチョッキリ	<i>Bvctiscus fausti</i>	
1917			コナライクビチョッキリ	<i>Deporaus (Roelofsdeporaus) unicolor</i>	
1918			ホリチョッキリ	<i>Eugnamptobius (Eugnamptobius) aurifrons</i>	
1919			ハイロチョッキリ	<i>Cyllorhynchites (Cyllorhynchites) ursulus ursulus</i>	
1920			ヒメケフカチョッキリ	<i>Involvulus (Parinvolvulus) pilosus</i>	
1921			ケミチョッキリ	<i>I. (P.) placidus</i>	
1922			クチフトチョッキリ	<i>Lasiorrhynchites (Nelasiorrhynchites) brevisrostris</i>	
1923			クチナカチョッキリ	<i>Mecorhis (Thompsonirrhinus) plumbea</i>	
1924			カシリチョッキリ	<i>Neocoenorrhinus (Neocoenorrhinidius) assimilis</i>	
1925			モモチョッキリ	<i>Rhynchites (Epirhynchites) heros</i>	
1926		ミツギリゾウムシ	ケフカホリクツゾウムシ	<i>Sergiola (Sergiola) griseopubescentis</i>	
1927			アサミホリクツゾウムシ	<i>Piezotrachelus (Piezotrachelus) japonicus</i>	
1928			ヒゲナガホリクツゾウムシ	<i>Pseudopiezotrachelus placidus</i>	
1929			ハナコフチゾウムシ	<i>Alonsiellus pubescens</i>	
1930			ピンチゾウムシ	<i>Nanophyes japonicus</i>	
1931			ホリウスイロチゾウムシ	<i>N. mihokoae</i>	
1932			モンチゾウムシ	<i>N. pallipes</i>	
1933		オサゾウムシ	キクイサビゾウムシ	<i>Dryophthorus sculpturatus</i>	
1934			オオゾウムシ	<i>Sipalinus gigas gigas</i>	
1935			ササコゾウムシ	<i>Dicalandra sasa</i>	
1936			コクゾウムシ	<i>Sitophilus zeamais</i>	
1937			トホシオサゾウムシ	<i>Aplotes roelofsi</i>	
1938			シハオサゾウムシ	<i>Sphenophorus venatus vestitus</i>	
1939			ニセキクイサビゾウムシ	<i>Dryophthoroides sulcatus</i>	
1940		イホゾウムシ	イネゾウムシ	<i>Echinocnemus squameus</i>	
1941			イネミスゾウムシ	<i>Lissorhoptus (Lissorhoptus) orvzophilus</i>	
1942			ウキカサミスゾウムシ	<i>Tanvsphyrus brevipennis</i>	
1943			オオミスゾウムシ	<i>T. maior</i>	
1944		ゾウムシ	オビテオゾウムシ	<i>Orsophagus trifasciatus</i>	
1945			イチヨハナゾウムシ	<i>Anthonomus (Anthonomus) bisignifer</i>	
1946			オビモンハナゾウムシ	<i>A. (Furcicus) rectirostris</i>	
1947			クロナカハナゾウムシ	<i>Bradvbatus (Bradvbatus) sharni</i>	
1948			クロタマゾウムシ	<i>Cionus helleri</i>	
1949			ハイロタマゾウムシ	<i>Stereonychus japonicus</i>	
1950			ジュウジチビシキゾウムシ	<i>Archarius (Archarius) pictus</i>	
1951			レロフチビシキゾウムシ	<i>A. (Toptaria) roelofsi</i>	
1952			ツハキシキゾウムシ	<i>Curculio (Curculio) camelliae</i>	
1953			セダカシキゾウムシ	<i>C. (C.) convexus</i>	
1954			コナランキゾウムシ	<i>C. (C.) dentipes</i>	
1955			アキクミシキゾウムシ	<i>C. (C.) flavoscutellatus</i>	
1956			チャハネセダカシキゾウムシ	<i>C. (C.) fulvipennis</i>	
1957			イヌビワシキゾウムシ	<i>C. (C.) funebris</i>	
1958			シイシキゾウムシ	<i>C. (C.) hillebrandi</i>	
1959			ミヤマシキゾウムシ	<i>C. (C.) koreanus</i>	
1960			アカサビシキゾウムシ	<i>C. (C.) lateritius</i>	DD
1961			クヌキシキゾウムシ	<i>C. (C.) robustus</i>	
1962			クリシキゾウムシ	<i>C. (C.) sikkimensis</i>	
1963			エゴシキゾウムシ	<i>C. (C.) stracis</i>	
1964			ヤノシキゾウムシ	<i>C. (C.) vanoii</i>	
1965			モンイネゾウムシ	<i>Dorvtomus (Dorvtomus) maculipennis</i>	
1966			ムクサコハナゾウムシ	<i>Gymnaetron mivoshii</i>	
1967			モンアシフトゾウムシ	<i>Ochvromera japonica</i>	
1968			サビノキリゾウムシ	<i>Ixalma helleri</i>	
1969			カローノゾウムシ	<i>Orchestes (Alvctus) galloisi</i>	
1970			カンワノゾウムシ	<i>O. (Amurorchestes) koltzei</i>	
1971			ヒラセノゾウムシ	<i>O. (Granulorchestes) dorsoplanatus</i>	
1972			ムネシノゾウムシ	<i>O. (Orchestes) amurensis</i>	
1973			エノキノゾウムシ	<i>O. (O.) horii</i>	
1974			ウスモンノゾウムシ	<i>O. (O.) variegatus</i>	
1975			アカシノケツツフゾウムシ	<i>Smicronvx (Smicronvx) rubicatus</i>	
1976			タバケササノゾウムシ	<i>Demimaea fascicularis</i>	
1977			マダラヒメゾウムシ	<i>Baris scolopacea</i>	
1978			ツヤハダヒメゾウムシ	<i>Phrissoderes rufitarsis</i>	
1979			チャイロヒメゾウムシ	<i>Dendrobaris maculata</i>	
1980			クワヒメゾウムシ	<i>Moreobaris deplanata</i>	
1981			サメハダヒメゾウムシ	<i>Nespilobaris nipponica</i>	
1982			スケヒメゾウムシ	<i>Limnobaris albosparsa</i>	
1983			ダイトノサルゾウムシ	<i>Ceutorhynchus albosuturalis</i>	
1984			アオハネサルゾウムシ	<i>C. ibukianus</i>	
1985			オビアカサルゾウムシ	<i>Coeliodes nakanoensis</i>	
1986			ツツジトケムネサルゾウムシ	<i>Coeliodes fulvus</i>	
1987			アカアシクチフトサルゾウムシ	<i>Rhinoncus cribricollis</i>	
1988			キンシクチフトサルゾウムシ	<i>R. jakovlevi</i>	
1989			ダテノクチフトサルゾウムシ	<i>R. sibiricus</i>	
1990			クロクチフトサルゾウムシ	<i>Rhinoncomimus (Rhinoncomimus) niger</i>	
1991			コウノクモゾウムシ	<i>Eurvommatus konoi</i>	
1992			ツノクモゾウムシ	<i>Phylaitis maculiventris</i>	
1993			アカオヒタマクモゾウムシ	<i>Egiona konoi</i>	
1994			チャハネキクイゾウムシ	<i>Koimazo lewisii</i>	
1995			ワシバノヒメクイゾウムシ	<i>Phloeophagosoma (Phloeophagosoma) curvirostre</i>	
1996			マダカケフカキクイゾウムシ	<i>Pholidoforus squamosus</i>	
1997			ハマヘキクイゾウムシ	<i>Drvtotribus mimeticus</i>	
1998			マツオキクイゾウムシ	<i>Macrorhyncholus crassiusculus</i>	
1999			フビクチカクゾウムシ	<i>Deiradocranus setosus</i>	
2000			アラムネクチカクゾウムシ	<i>Monaulax rugicollis</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (21/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
2001	コウチュウ	ゾウムシ	アカカクチカクゾウムシ	<i>Rhadinomerus annulipes</i>	
2002			マエハラナカクチカクゾウムシ	<i>R. maebarai</i>	
2003			ホソクチカクゾウムシ	<i>Campotorhinus notabilis</i>	
2004			アタマクチカクゾウムシ	<i>Caenocryptorrhynchus frontalis</i>	
2005			ツツクチカクゾウムシ	<i>Cecharia eremita</i>	
2006			マダラクチカクゾウムシ	<i>Crvtorrhynchus (Crvtorrhynchus) electus</i>	
2007			マツアラハダクチカクゾウムシ	<i>Rhadinopus confinis</i>	
2008			アラハダクチカクゾウムシ	<i>R. sulcatostriatus</i>	
2009			モンクチカクゾウムシ	<i>Sclerolius maculicollis</i>	
2010			マツシラホシゾウムシ	<i>Shirahoshizo insidiosus</i>	
2011			コマツシラホシゾウムシ	<i>S. pini</i>	
2012			ニセマツシラホシゾウムシ	<i>S. rufescens</i>	
2013			アラハダシラホシゾウムシ	<i>S. rusipennis</i>	
2014			フナクチカクゾウムシ	<i>Sternochetus navicularis</i>	
2015			ウエルヒョウタンクチカクゾウムシ	<i>Hvotanzo uenoi</i>	
2016			ヒサコクチカクゾウムシ	<i>Simulatacalles simulator</i>	
2017			アシナガオニゾウムシ	<i>Gasterocercus longioes</i>	
2018			ヤサイゾウムシ	<i>Listroderes costirostris</i>	
2019			ミドリクチフトゾウムシ	<i>Cyphicerus (Cyphicerus) viridulus</i>	
2020			メナクチフトゾウムシ	<i>Calomvcterus setarius</i>	
2021			サビクチフトゾウムシ	<i>Canoixus japonicus</i>	
2022			チビョウタンゾウムシ	<i>Mvosides seriehispidus</i>	
2023			ヒゲフトクチフトゾウムシ	<i>Amvlocerus abnormalis</i>	
2024			ケフカクチフトゾウムシ	<i>Lepidepistomodes fumosus</i>	
2025			コガシクチフトゾウムシ	<i>L. griseoides</i>	
2026			クロホシクチフトゾウムシ	<i>L. nigromaculatus</i>	
2027			ウスアオクチフトゾウムシ	<i>Lepidepistomus elegantulus</i>	
2028			カシクチフトゾウムシ	<i>Nothomvlocerus griseus</i>	
2029			オオクチフトゾウムシ	<i>Phyllolytus variabilis</i>	
2030			ヒレクチフトゾウムシ	<i>Pseudoedophrus hilleri</i>	
2031			ヒゲシロゾウムシ	<i>Dermatoxenus caesicollis</i>	
2032			シロゾウムシ	<i>Episomus turritus turritus</i>	
2033			キョウシュウヒゲホソゾウムシ	<i>Phyllobius (Otophyllobius) rotundicollis</i>	
2034			ヒラスネヒゲホソゾウムシ	<i>P. (Phyllobius) intrusus</i>	
2035			マツヒゾウムシ	<i>Pachyrhinus (Pachyrhinus) scutellaris</i>	
2036			コフキゾウムシ	<i>Eugnathus distinctus</i>	
2037			ケチコフキゾウムシ	<i>Sitona hispidulus</i>	
2038			チビコフキゾウムシ	<i>S. japonicus</i>	
2039			ウモンヒョウタンゾウムシ 基亜種	<i>Sympiezomias lewisi lewisi</i>	
2040			トビロヒョウタンゾウムシ	<i>Scepticus griseus</i>	
2041			サビヒョウタンゾウムシ	<i>S. insularis</i>	
2042			ハリゲスクリゾウムシ	<i>Pseudocneorhinus adamsi</i>	
2043			スクリゾウムシ	<i>P. bifasciatus</i>	
2044			カキゾウムシ	<i>P. obesus</i>	
2045			オオタコゾウムシ	<i>Brachyopera (Antidonus) zoilus</i>	
2046			ハコヘタコゾウムシ	<i>Hvopera (Boreohvopera) basalis</i>	
2047			アルファルファタコゾウムシ	<i>H. (Hvopera) postica</i>	
2048			ミスズマルゾウムシ	<i>Phaeopholus ornatus</i>	
2049			ハスシゾウムシ 基亜種	<i>Cleonis japonica japonica</i>	
2050			シラクモコホソゾウムシ	<i>Larinus (Phyllonomeus) griseopilosus</i>	
2051			ゴホソゾウムシ	<i>L. (P.) latissimus</i>	
2052			カツオゾウムシ	<i>Lixus (Dilixellus) impressiventris</i>	
2053			ハスシカツオゾウムシ	<i>L. (Eulixus) acutipennis</i>	
2054			ツツゾウムシ	<i>Garcilia strigicollis</i>	
2055			コゲチャツツゾウムシ	<i>C. tenuistriata</i>	
2056			タキサツツキクイゾウムシ	<i>Magdalis (Magdalis) phlegmatica</i>	
2057			クロコゾウムシ	<i>Niphades (Scaphostethus) variegatus</i>	
2058			クロクチカクゾウムシ	<i>Cataematus japonicus</i>	
2059			マツアナキゾウムシ	<i>Hvlobius (Callirus) haroldi</i>	
2060			アコフコゾウムシ	<i>Kobuzo rectirostris</i>	
2061			コクアアナキゾウムシ	<i>Pimelocerus cribratus</i>	
2062			ホリアアナキゾウムシ	<i>P. elongatus</i>	
2063			クリアアナキゾウムシ	<i>P. exsculptus</i>	
2064			フトアナキゾウムシ	<i>P. gigas</i>	
2065			クスアナキゾウムシ	<i>P. hvlobioides</i>	
2066			ウキトケトケゾウムシ	<i>Colobodes ornatus</i>	
2067			マダラアシゾウムシ	<i>Ectatorhinus adamsii</i>	
2068			クロアシナガゾウムシ	<i>Cylindralcides (Cylindralcides) takahashii</i>	
2069			キスシアシナガゾウムシ	<i>Merus (Merus) flavosignatus</i>	
2070			カンアシナガゾウムシ	<i>M. (M.) piceus</i>	
2071			オンロアシナガゾウムシ	<i>Sternuchopsis (Mesalcidodes) trifida</i>	
2072			マツキホシゾウムシ	<i>Pissodes nitidus</i>	
2073			クロキホシゾウムシ	<i>P. obscurus</i>	
2074			クロノコフゾウムシ	<i>Stvanax kuwanoi</i>	
2075			ウスモンカレキゾウムシ	<i>Acicnemis palliata</i>	
2076			ナカシカレキゾウムシ	<i>A. suturalis</i>	
2077			キイロキクイムシ	<i>Cryphalus fulvus</i>	
2078			マツノホソシキクイムシ	<i>Hylurgops interstitialis</i>	
2079			マツノキクイムシ	<i>Tomicus piniperda</i>	
2080			ニレカワキクイムシ	<i>Scolytus frontalis</i>	
2081			ヨシフエナキクイムシ	<i>Dinoplatypus calamus</i>	
2082	ラクダムシ	ラクダムシ	ラクダムシ	<i>Inocellia japonica</i>	
2083	ヘビトンボ	ヘビトンボ	タリククロスジヘビトンボ	<i>Parachauliodes continentalis</i>	
2084	アミカゲロウ	カマキリモドキ	ヒカマキリモドキ	<i>Mantispa japonica McLachlan</i>	
2085	3科4種	ツトンボ	ツトンボ	<i>Ascalohvbris subiacens</i>	
2086		ウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ	<i>Baliga micans</i>	
2087		コカスリウスバカゲロウ	コカスリウスバカゲロウ	<i>Distoleon contubernalis</i>	
2088	ハチ	ヒラタハハチ	サクヒラタハハチ	<i>Neurotoma iridescens</i>	
2089	25科223種	ミンソハハチ	ウモンチュウレンジ	<i>Arge ionasi</i>	
2090			アカシチュウレンジ	<i>A. nigronodosa</i>	
2091			ニホソチュウレンジ	<i>A. nipponensis</i>	
2092			チュウレンジハハチ	<i>A. pagana</i>	
2093			カタアカチュウレンジ	<i>A. reiecta</i>	
2094			ルリチュウレンジ	<i>A. similis</i>	
2095			クワカタハハチ	<i>Sterictiphora nipponica</i>	
2096		コンボウハハチ	アケビコンボウハハチ	<i>Abia akebiae</i>	
2097			ヨウロウヒラクチハハチ	<i>Leptocimbex vorofui</i>	図-83
2098			ナンアシフトハハチ	<i>Palaeocimbex carinulata</i>	
2099		マツハハチ	マツノミドリハハチ	<i>Nesodiorion japonicus</i>	
2100		ハハチ	ナカスキナハハチ	<i>Dolerus gessneri</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (22/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
2101	ハチ	ハバチ	フタホシハチ	<i>D. yokohamensis</i>	
2102			カタアカスキナハバチ	<i>Loderus genucinctus insulicola</i>	
2103			ナカウラビハバチ	<i>Strongylogaster multifasciata</i>	
2104			ムモンネアカハバチ	<i>Eutomostethus hvalinus</i>	DD
2105			キイロハチ	<i>Monophadnus nigriceps</i>	
2106			ルイスアカマルハバチ	<i>Nesotomostethus lewisii</i>	
2107			ヒゲナカクワハバチ	<i>Phymatocera nipponica</i>	
2108			ハクワハバチ	<i>Allantus luctifer luctifer</i>	
2109			ウツキハバチ	<i>Asiemphtus deutziae</i>	
2110			セグロカブラハバチ	<i>Athalia infumata</i>	図-84
2111			ニホンカブラハバチ	<i>A. japonica</i>	
2112			イヌノフクリハバチ	<i>A. kashmirensis</i>	
2113			カブラハバチ	<i>A. rosae ruficornis</i>	
2114			チキイロハバチ	<i>Nesotaxonus fulvus</i>	
2115			タケウチクワハバチ	<i>Taxonus agrorum</i>	
2116			ゴシロハバチ	<i>Corymbas aperta</i>	
2117			フトコシロハバチ	<i>C. nipponica</i>	
2118			クロムネハバチ	<i>Ligidina irritans</i>	
2119			ヒゲナカハバチ	<i>L. platycerus</i>	
2120			クワハバチ	<i>Macrophya coxalis</i>	
2121			オオクワハバチ	<i>M. carbonaria</i>	
2122			ムスクロキモンハバチ	<i>Pachyprotasis albicoxis</i>	
2123			コキモンハバチ	<i>P. erratica</i>	
2124			ルリハラハバチ	<i>Tenthredo abdominalis</i>	
2125			コシアキハバチ	<i>Tenthredo gifui</i>	
2126			キヨシボソハバチ	<i>T. mortivaga</i>	
2127			クロムネアオハバチ	<i>T. nigropicta</i>	
2128			オオツマクワハバチ	<i>T. providens</i>	
2129			トカリハチカダハバチ	<i>T. smithii</i>	
2130		キハチ	ヒゲシロキハチ	<i>Urocerus antennatus</i>	
2131		アシフトコハチ	キアシフトコハチ	<i>Brachymeria lasus</i>	図-85
2132		シリアゲコハチ	シリアゲコハチ	<i>Leucospis (Leucospis) japonica</i>	図-86
2133		コマコハチ	ヒメウマノオハチ	<i>Euurobracon breviterebrae</i>	
2134			ウマノオハチ	<i>E. yokohamae</i>	図-87
2135			キイロウラコマコハチ	<i>Phanerotoma (Phanerotoma) flava</i>	
2136		ヒメハチ	コンボウアメハチ	<i>Habronyx insidiator</i>	
2137			イヨビメハチ	<i>Amblyioppa proteus satanas</i>	
2138			マダラヒメハチ	<i>Ichneumon vumvum</i>	図-88
2139			クワハラヒメハチ	<i>Quandrus nepsoides</i>	
2140			クワモンアメハチ	<i>Dicamptus nigropictus</i>	
2141			アカクモヒメハチ	<i>Eriostethus rufa</i>	
2142			チビキアシヒラタヒメハチ	<i>Pimola nipponica</i>	
2143			ミノオキイロヒラタヒメハチ	<i>Xanthopimola clavata</i>	
2144			オオホシオナカハチ	<i>Megarhyssa praececellens</i>	図-89
2145			ヨトウアメハチモドキ	<i>Netelia (Netelia) ocellaris</i>	
2146			クワマルスオナカヒメハチ	<i>Xorides (Moerophora) investigator</i>	
2147		カキバラハチ	キスシセアカカキバラハチ	<i>Taeniozonalos fasciata</i>	図-90
2148		セタカヤセハチ	ホシセタカヤセハチ	<i>Pristaulacus intermedius</i>	図-91
2149		ゴシボウヤセハチ	オオゴシボウヤセハチ	<i>Gasteruption iaculator</i>	図-92
2150		セイボウウ科	クワバネセイボウ	<i>Chrysis angolensis</i>	
2151			ナミハネセイボウ	<i>C. japonica</i>	
2152			ツマムラサキセイボウ	<i>C. splendidula</i>	
2153			オオセイボウ	<i>Stilbum cyanurum</i>	図-93
2154		アリハチ	フタホシアリハチ	<i>Neotrogaspidia pustulata</i>	図-94
2155			トケムネアリハチ	<i>Bischoffilla ardescens</i>	DD
2156		アリハチモドキ	ヤマトアリハチモドキ	<i>Taimyrmosa nigrofasciata</i>	
2157		クモハチ	ナミヒメクモハチ	<i>Auopopus carbonarius</i>	
2158			オオヒメクモハチ	<i>A. ovealis</i>	
2159			ベッコウクモハチ	<i>Cvphononvx fulvoanathus</i>	図-95
2160			ホリケアシクモハチ	<i>Priocnemis (Leptopriocnemis) cvphonota</i>	
2161			トケアシオオクモハチ	<i>P. (Umbripenis) irritabilis</i>	
2162			アケボノクモハチ	<i>Anoplius (Anoplius) eous</i>	DD
2163			アコシクモハチ	<i>A. (Arachnophroctonus) reflexus</i>	
2164			オオモンクモハチ	<i>A. (Lophopompilus) samariensis</i>	
2165			ヤマモトクモハチ	<i>A. carbonicolor</i>	
2166			キオドクモハチ	<i>Batozonellus annulatus</i>	
2167			オシロフクモハチ	<i>Episyron arrogans</i>	
2168			アオシクモハチ	<i>Paracvphononvx alienus</i>	
2169			ツマアカクモハチ	<i>Tachypompilus analis</i>	図-96
2170		コツチハチ	オオコツチハチ	<i>Tiphia (Tiphia) latistriata</i>	
2171			クワコカネコツチハチ	<i>T. (T.) phyllophagae</i>	
2172		ツチハチ	ヒメハラナカツチハチ	<i>Campsomeriella annulata</i>	
2173			キンケハラナカツチハチ	<i>Megacampsomeris prismatica</i>	図-97
2174			シロオビハラナカツチハチ	<i>M. schulthessi</i>	DD
2175			アカシツチハチ	<i>Scolia (Carinoscolia) fascinata</i>	
2176			コモンツチハチ	<i>S. (Discolia) decorata</i>	DD
2177			キオビツチハチ	<i>S. (D.) oculata</i>	
2178			オオモンツチハチ	<i>S. (Scolia) histrionica</i>	
2179		アリ	オオハリアリ	<i>Brachyponera chinensis</i>	
2180			クワニセハリアリ	<i>Hypoconera nubatama</i>	
2181			ハリフトシリアゲアリ	<i>Crematogaster (Crematogaster) matsumurai</i>	
2182			クワヒメアリ	<i>Monomorium chinense</i>	
2183			ヒメアリ	<i>M. intrudens</i>	
2184			インドオオスアリ	<i>Pheidole indica</i>	
2185			オオスアリ	<i>P. noda</i>	
2186			アミアリ	<i>Pristomyrmex punctatus</i>	
2187			ウロアリ	<i>Strumigenys lewisi</i>	
2188			オオシウアリ	<i>Tetramorium bicarinatum</i>	
2189			トビイロシウアリ	<i>T. tsushimae</i>	
2190			アルゼンチンアリ	<i>Linepithema humile</i>	
2191			ケフカアメイロアリ	<i>Nvlanderia amia</i>	
2192			サクラアリ	<i>Paratrechina sakurae</i>	
2193			クワオオアリ	<i>Camponotus (Camponotus) japonicus</i>	
2194			ウメマツオオアリ	<i>C. (Mvrmamblys) vitiosus</i>	
2195			ミカドオオアリ	<i>C. (Paramvrmamblys) kiusiuensis</i>	
2196		スズメハチ	ケフカスズメハチ	<i>Ancistrocerus densepilosellus</i>	
2197			シフヤスズメハチ	<i>A. trifasciatus</i>	
2198			オオフタオビトハチ	<i>Anterhynchium flavomarginatum</i>	図-98
2199			ハクワフタオビトハチ	<i>A. melanopterus</i>	
2200			キホシツクリハチ	<i>Eumenes fraterculus</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (23/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
2201	ハチ	スズメバチ	ミカドツクリバチ	<i>E. micado</i>	図-99
2202			ムモンツクリバチ	<i>E. rubronotatus</i>	
2203			カハオビドロバチ	<i>Fuodvnerus dantici</i>	図-100
2204			ミカドロボバチ	<i>E. niponicus</i>	
2205			エントツロボバチ	<i>Orancistrocerus drewseni</i>	
2206			スズメバチ	<i>Oreumenes decoratus</i>	
2207			ナシカハフトロボバチ	<i>Pararrhynchium ornatum</i>	
2208			カクロヒドロバチ	<i>Stenodynerus chinensis</i>	
2209			フカキチドロバチ	<i>S. clvpeopictus</i>	
2210			キオビチドロバチ	<i>S. frauenfeldi</i>	
2211			ムナグロヒドロバチ	<i>S. tokvanus</i>	
2212			サイショウハムシドロバチ	<i>Symmorohus apiciornatus</i>	
2213			ウチビロハムシドロバチ	<i>S. decens</i>	
2214			ムモンソリアシナガハチ	<i>Parapolybia indica</i>	
2215			フタモンアシナガハチ	<i>Polistes chinensis</i>	
2216			ヤマトアシナガハチ	<i>P. japonicus</i>	DD 図-101
2217			セグロアシナガハチ	<i>P. iokahamae</i>	
2218			キホシアシナガハチ	<i>P. nipponensis</i>	DD
2219			キアシナガハチ	<i>P. rothnevi</i>	
2220			コアシナガハチ	<i>P. snelleni</i>	
2221			コカラスメバチ	<i>Vespa analis</i>	
2222			ヒメスズメバチ	<i>V. ducalis</i>	
2223			オオスズメバチ	<i>V. mandarina</i>	NT 図-102
2224			キイロスズメバチ	<i>V. simillima</i>	
2225			クロスズメバチ	<i>Vesoula flaviceps</i>	図-103
2226			ツヤクロスズメバチ	<i>V. rufa</i>	
2227			シダクロスズメバチ	<i>V. shidai</i>	DD
2228		セナガアナハチ	サトセナガアナハチ	<i>Ampulex dissector</i>	NT
2229		アナハチ	ヤマンカハチ	<i>Ammophila infesta</i>	
2230			サトシカハチ	<i>A. sabulosa</i>	図-104
2231			ミカドシカハチ	<i>Hoplamoophila aemulans</i>	
2232			ヤマトリシカハチ	<i>Chalybion (Chalybion) japonicum</i>	
2233			モンキシカハチ	<i>Sceliphron (Hensenia) deforme</i>	
2234			アメリカシカハチ	<i>S. (Sceliphron) caementarium</i>	
2235			キョウシカハチ	<i>S. (S.) madraspatanum</i>	
2236			クロアナハチ	<i>Spheg argentatus</i>	図-105
2237			アルマンアナハチ	<i>Isodontia harmandi</i>	
2238			コクロアナハチ	<i>I. nigella</i>	
2239			キンモウアナハチ	<i>Spheg diabolicus</i>	DD
2240		キングチハチ	ニッポンハナダカハチ	<i>Bembix niponica</i>	図-106
2241			オトケアワフキハチ	<i>Argogorvtes mvstaceus</i>	
2242			コイケアワフキハチ	<i>Eogorvtes fulvohirtus</i>	
2243			ミスジアワフキハチ	<i>Gorvtes tricinctus</i>	
2244			ヤマトスナキハチ	<i>Bembecinus hungaricus</i>	
2245			キアシハナダカハチモトキ	<i>Stizus pulcherrimus</i>	DD
2246			イワタキングチ	<i>Ectemnius (Hypocrabro) schlettereri</i>	
2247			シロシキングチ	<i>E. (Metacrabro) iridifrons</i>	
2248			アカアシハヤハチ	<i>Tachytes modestus</i>	
2249			オオハヤハチ	<i>T. sinensis</i>	
2250			アカオビケラトリバチ	<i>Larra (Larra) amolipennis</i>	
2251			リウキュウコオロキハチ	<i>Liris deplanatus</i>	図-107
2252			ヒメコオロキハチ	<i>L. festinans japonicus</i>	
2253			ナミコオロキハチ	<i>L. subtessellatus</i>	
2254			オオシカハチモトキ	<i>Trypoxylon (Trypoxylon) malaisei</i>	
2255			ナシシカハチモトキ	<i>T. (T.) petiolatum</i>	
2256			マルモンツチスカリ	<i>Cerceris japonica</i>	
2257		ミツハチ	オオムカシハナハチ	<i>Colletes (Colletes) collaris</i>	DD 図-108
2258			アンフトムカシハナハチ	<i>C. (C.) patellatus</i>	
2259			ニッポンムカシハナハチ	<i>Hylaeus (Nesoprosonis) nippon</i>	
2260			アブラヒメハナハチ	<i>Andrena (Andrena) aburana</i>	
2261			ウツキヒメハナハチ	<i>A. (Calomelissa) prostomias</i>	
2262			コカクツキヒメハナハチ	<i>A. (C.) tsukubana</i>	
2263			ヤヨヒメハナハチ	<i>A. (Euandrena) hebes</i>	
2264			ムネアカハラビロヒメハナハチ	<i>A. (Melandrena) parathoracica</i>	
2265			ミツクリアンタカヒメハナハチ	<i>A. (Plastandrena) iaponica</i>	
2266			ヤマトヒメハナハチ	<i>A. (Simandrena) Yamato</i>	
2267			アオシジハナハチ	<i>Nomia (Hoplonomia) punctulata</i>	図-109
2268			アカカネコハナハチ	<i>Halictus (Seladonia) aerarius</i>	図-110
2269			スマルコハナハチ	<i>LasioGLOSSUM (Ervlaeus) affine</i>	
2270			ハラナカツヤコハナハチ	<i>L. (LasioGLOSSUM) laeviventre</i>	
2271			サビイロカタコハナハチ	<i>L. (L.) mutilum</i>	
2272			シロシカタコハナハチ	<i>L. (L.) occidens</i>	DD
2273			フタモンカタコハナハチ	<i>L. (L.) scitulum</i>	
2274			ミスホヤドリコハナハチ	<i>Sphecodes japonicus</i>	
2275			ヒロバトカリハナハチ	<i>Coelioxys (Boreocoelioxys) hiroba</i>	
2276			ホリバトカリハナハチ	<i>C. (B.) hosoba</i>	
2277			ヤノカリハナハチ	<i>C. (B.) vanonis</i>	図-111
2278			オトカリハナハチ	<i>C. (Torradais) fenestrata</i>	
2279			ハラアヤドリハナハチ	<i>Euaspis basalis</i>	
2280			オオハキリハチ	<i>Megachile (Callomegachile) sculturalis</i>	図-112
2281			ムナカタハキリハチ	<i>M. willughbiella munakatai</i>	
2282			ミスハキリハチ	<i>M. humilis</i>	
2283			ハラハキリハチ	<i>M. nipponica</i>	
2284			クスハキリハチ	<i>M. pseudomonticola</i>	
2285			サカガミハキリハチ	<i>M. remota</i>	
2286			ツルカハキリハチ	<i>M. tsurugensis</i>	
2287			キハラハキリハチ	<i>M. xanthothrix</i>	
2288			キヌケハキリハチ	<i>M. (Eutricharaea) kobensis</i>	
2289			イマイツハナハチ	<i>Osmia (Helicosmia) iacoti</i>	
2290			キオビツヤハナハチ	<i>Ceratina (Ceratinidia) flavipes</i>	
2291			キムネクマハチ	<i>Xylocopa (Alloxycopa) appendiculata circumvolans</i>	図-113
2292			ヤマトムカシハナハチヤドリ	<i>Epeolus (Epeolus) japonicus</i>	DD
2293			ヒメキマダラハナハチ	<i>Nomada flavoguttata</i>	
2294			ハリマキマダラハナハチ	<i>N. harimensis</i>	
2295			ダイミウキマダラハナハチ	<i>N. japonica</i>	図-114
2296			ニッポンキマダラハナハチ	<i>N. nipponica</i>	
2297			コキマダラハナハチ	<i>N. okubira</i>	
2298			シロシヤドリハナハチ	<i>Doeringiella ventralis</i>	
2299			スシボソトハナハチ	<i>Amegilla (Glossamegilla) florea</i>	DD
2300			ケフカソソトハナハチ	<i>Anthophora (Anthophora) plumipes</i>	DD

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (24/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考		
2301	ハチ	ミツバチ	ニホンミツバチ	<i>Apis cerana</i>	図-115		
2302			セイウミツバチ	<i>A. mellifera</i>			
2303			オオマルハナハチ	<i>Bombus (Bombus) hypocrita</i>	図-116		
2304			クマルハナハチ	<i>B. (B.) ignitus</i>	DD		
2305			コマルハナハチ	<i>B. (Pvrobombus) ardens</i>	DD		
2306			シロシビケナカハナハチ	<i>Eucera (Eucera) spurcatoripes</i>			
2307			ニッポンシビケナカハナハチ	<i>E. (Synhalonia) nipponensis</i>	DD 図-117		
2308			ミツクリヒケナカハナハチ	<i>Tetraloniella mitsukurii</i>			
2309			ウスルリモンハナハチ	<i>Thyreus centrismacula</i>	EX		
2310			ナミルリモンハナハチ	<i>T. decorus</i>	図-118		
2311	シリアゲムシ	シリアゲムシ	ヤマトシリアゲ	<i>Panorpa japonica</i>			
2312	ハエ	ケハエ	ハゲロケハエ	<i>Bibio tenebrosus</i>			
2313	22科144種	ミスアブ	アムカミスアブ	<i>Hermestia illucens</i>			
2314			ハラキミスアブ	<i>Microchrysa flaviventris</i>	DD		
2315			キイロウカアブ	<i>Ptecticus aurifer</i>			
2316			ヒメルリスアブ	<i>P. matsumurae</i>			
2317			ヒメキイロウカアブ	<i>P. sinchangensis</i>			
2318			キアシルリスアブ	<i>Sargus metallinus</i>			
2319			ルリスアブ	<i>S. nipponensis</i>			
2320			コガタミスアブ	<i>Odontomyia garatas</i>	図-119		
2321			キアブモドキ	アブ	ヒゲナカキアブモドキ	<i>Xylomyia longicornis</i>	
2322					キンメアブ	<i>Chrysops suavis</i>	
2323					オキナウキイロアブ	<i>Atylotus angusticornis</i>	DD
2324					ニセアカウシアブ	<i>Tabanus chrysurus</i>	
2325					アカウシアブ	<i>T. chrysurus</i>	DD
2326					シロスアブ	<i>T. mivalima</i>	
2327	ウシアブ	<i>T. trigonus</i>					
2328	ツリアブ	ツリアブ	セダカツリアブ	<i>Oligoneura nigroaenea</i>	図-120		
2329			コウヤツリアブ	<i>Anthrax avgula</i>			
2330			ヒロウトツリアブ	<i>Bombvilius maior</i>	図-121		
2331			シバカワツリアブ	<i>B. shibakawae</i>			
2332			クロハネツリアブ	<i>Ligra tantalus</i>			
2333			スキハツリアブ	<i>Villa limbata</i>			
2334			ススキハラホツツリアブ	<i>Systroplus suzukii</i>	図-122		
2335			ツルギアブ	ツルギアブ	<i>Acrosathe tashimai</i>		
2336			ムシヒキアブ	ムシヒキアブ	<i>Choerades japonicus</i>		
2337			コムライアブ	<i>C. komurai</i>			
2338	オオイアブ	<i>Laphria mitsukurii</i>					
2339	ハマヘコムシヒキ	<i>Stichopogon infuscatus</i>					
2340	カワムラビヒケホソムシヒキ	<i>Ceraturgus kawamurai</i>					
2341	アイリヒケホソムシヒキ	<i>Grvooctonus aino</i>					
2342	ハタケヤマヒケホソムシヒキ	<i>G. hatakevamae</i>					
2343	アオメアブ	<i>Cophinopoda chinensis</i>	図-123				
2344	ソオヤアブ	<i>Promachus vesonicus</i>					
2345	トラフムシヒキ	<i>Astochia virgatipes</i>	DD				
2346	チャイロムシヒキ	<i>Eutolmus brevistylus</i>					
2347	サキクロムシヒキ	<i>Machimus scutellaris</i>					
2348	ナミカカリケムシヒキ	<i>Neotamus angusticornis</i>					
2349	シロスヒメムシヒキ	<i>Philonicus albiceps</i>					
2350	アシナカハエ	アシナカハエ	オオムシイノアシナカハエ	<i>Acvmatopus maior</i>	DD		
2351			ヒメムシイノアシナカハエ	<i>A. minor</i>			
2352	ハナアブ	ハナアブ	オオヒラタアブ	<i>Allograpta iavana</i>			
2353			ナガヒラタアブ	<i>Asarkina porcina</i>	図-124		
2354			クロヒラタアブ	<i>Betasvrophus serarius</i>	図-125		
2355			フタスジヒラタアブ	<i>Dasvsvrophus bilineatus</i>			
2356			ハリヒラタアブ	<i>Didea alneti</i>			
2357			ヨコシマオオヒラタアブ	<i>Dideoides latus</i>			
2358			アイノオヒラタアブ	<i>Epistrophe (Epistrophe) aino</i>			
2359			ホソヒラタアブ	<i>Episvrophus (Episvrophus) balteatus</i>			
2360			ナミホソヒラタアブ	<i>Eupeodes (Eupeodes) bucculatus</i>			
2361			フタホソヒラタアブ	<i>E. (Metasvrophus) corollae</i>			
2362			タイワンオオヒラタアブ	<i>E. (Macrosvrophus) confrater</i>			
2363			オオフタホソヒラタアブ	<i>Svrophus ribesii</i>	図-126		
2364			ケヒラタアブ	<i>S. torvus</i>			
2365			ツマクロシホソハナアブ	<i>Allobaccha apicalis</i>	NT		
2366			ホソツヤヒラタアブ	<i>Melanostoma mellinum</i>			
2367			シママヒラタアブ	<i>Paragus (Paragus) fasciatus</i>	DD		
2368			ヒラマヒラタアブ	<i>P. (P.) quadrifasciatus</i>			
2369			キアツマヒラタアブ	<i>P. (Pandasvrophthalmus) haemorrhous</i>	DD 図-127		
2370			ジョウザンマヒラタアブ	<i>P. (P.) iozanus</i>			
2371			ニセエゾヒラタハナアブ	<i>Pipiza abdominalis</i>			
2372			マツムラコヒラタハナアブ	<i>P. inornata</i>			
2373			ナミクロハナアブ	<i>Cheilosia fuscipennis</i>			
2374			ニッポンクロハナアブ	<i>C. japonica</i>			
2375			キスネクロハナアブ	<i>C. ochripes</i>			
2376			ススキフタモンハナアブ	<i>Ferdinandea cuprea</i>			
2377			ヘッコウハナアブ	<i>Volucella ieddona</i>			
2378			クロヘッコウハナアブ	<i>V. nigricans</i>			
2379			シロシベッコウハナアブ	<i>V. pellucens tabanooides</i>			
2380			オカサキタマヒラタアブ	<i>Chrysogaster okazaki</i>			
2381			モンキモフトハナアブ	<i>Pseudovolucella decipiens</i>			
2382			オホシマハナアブ	<i>Sericomyia sachalinica</i>			
2383			マトヒラタアブ	<i>Eumerus japonicus</i>			
2384			ヒサマツハチモトキハナアブ	<i>Ceriana japonica</i>			
2385			ハチモトキハナアブ	<i>Monoceromyia pleuralis</i>	図-128		
2386			タテジマクロハナアブ	<i>Eristalinus (Eristalinus) sepulchralis</i>			
2387			トウカネホシメハナアブ	<i>E. (Lathvrophthalmus) aeneus</i>			
2388	キョシハナアブ	<i>E. (L.) quinquestriatus</i>					
2389	ホシメハナアブ	<i>E. (L.) tarsalis</i>					
2390	シマハナアブ	<i>Eristalis (Eoseristalis) cerealis</i>					
2391	キョウコシマハナアブ	<i>E. (E.) kvokoae</i>					
2392	ナミハナアブ	<i>E. (Eristalis) tenax</i>	図-129				
2393	ルリハナアブ	<i>Kertesziomyia viridis</i>	図-130				
2394	オオハナアブ	<i>Phytomyia zonata</i>					
2395	アシフトハナアブ	<i>Helophilus (Helophilus) eristaloideus</i>	DD				
2396	カクモンハラフトハナアブ	<i>Mallota abdominalis</i>					
2397	フタカハラフトハナアブ	<i>M. dimorpha</i>	図-131				
2398	アカアシモフトハナアブ	<i>M. rubripes</i>					
2399	タカサゴハラフトハナアブ	<i>M. takasagensis</i>					
2400	シマアシフトハナアブ	<i>Mesembrius peregrinus</i>					

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (25/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考		
2401	ハエ	ハナアブ	シロスジナガハナアブ	<i>Milesia undulata</i>			
2402			ハナナカモモフトハナアブ	<i>Rhinotropidia rostrata</i>			
2403			スズキナガハナアブ	<i>Soilomyia suzukii</i>			
2404			キアンハラナカハナアブ	<i>Brachyvalgooides simplex</i>			
2405			ハラアカハラナカハナアブ	<i>Chalcosyrphus (Xylotomima) frontalis</i>			
2406			クロハラナカハナアブ	<i>C. (X.) longus</i>			
2407			ナミドリイロハラナカハナアブ	<i>Xylota amamiensis</i>			
2408			ケンランアリノスアブ	<i>Microdon (Chymophila) katurai</i>	図-132		
2409			キンアリノスアブ	<i>M. (Microdon) auricomus</i>			
2410			アリノスアブ	<i>M. (M.) japonicus</i>			
2411			トゲアリノスアブ	<i>M. (M.) oitanus</i>			
2412	メバエ		オオスクロメバエ	<i>Archiconops nipponensis</i>			
2413			ムネグロメバエ	<i>Conops (Asiconops) opimus</i>			
2414			マダラメバエ	<i>Myopa buccata</i>			
2415	ミバエ		キイロケブカミバエ	<i>Xyphosia punctigera</i>			
2416			フトハチモドキバエ	<i>Eupvrgota (Eupvrgota) fusca</i>			
2417	テガシラバエ		オオハチモドキバエ	<i>E. (E.) luteola</i>			
2418			ハマバエ	<i>Coelopa (Fucomyia) frigida</i>			
2419	ベッコウバエ		ベッコウバエ	<i>Drvomvza formosa</i>			
2420			ヤチバエ	<i>Sepedon aenescens</i>	DD 図-133		
2421	ミキワバエ		マダラエグホミキワバエ	<i>Discomvza maculipennis</i>			
2422			マサゴミキワバエ	<i>Cerobothrium lituscolum</i>			
2423			ホリハマダラミキワバエ	<i>Scatella stagnalis</i>	CR		
2424			ヒメフンバエ	<i>Scathophaga stercoraria</i>	DD		
2425	イエバエ		キモグロオオイバエ	<i>Muscina angustifrons</i>			
2426			ウスイロイエバエ	<i>Musca (Bvomva) conducens</i>			
2427			ミドリイエバエ	<i>Neomvia timorensis</i>			
2428			ウミヘヒカケイエバエ	<i>Hebecnema mariola</i>			
2429			ウミヘカトリバエ	<i>Lispe aquamarina</i>			
2430			トウヨウカトリバエ	<i>L. orientalis</i>			
2431			クロバエ		ケブカクロバエ	<i>Aldrichina erahami</i>	
2432					ゴチビクロバエ	<i>Onesia nartshukae</i>	
2433	キンバエ	<i>Lucilia (Lucilia) caesar</i>					
2434	ホホクロオビキンバエ	<i>Chrysomya pinguis</i>					
2435	ツマクロキンバエ	<i>Stomorphina obsoleta</i>			図-134		
2436	ニクバエ		ハネボシスナニクバエ	<i>Phylloteles formosana</i>			
2437			シロオビキンカクヤトリニクバエ	<i>Sphenometopa matsumurai</i>			
2438			ホンショウホソニクバエ	<i>Goniophyto honshuensis</i>			
2439			ホリホソニクバエ	<i>G. horii</i>			
2440			カキヌマホソニクバエ	<i>G. kakinumai</i>			
2441			ウヘホソニクバエ	<i>G. ubeensis</i>			
2442			スエナガヤチニクバエ	<i>Kurahashiodes suenagai</i>			
2443			センチニクバエ	<i>Boettcherisca peregrina</i>			
2444			クロセンチニクバエ	<i>B. septentrionalis</i>			
2445			シリクロニクバエ	<i>Helicophagella melanura</i>			
2446			ユニクバエ	<i>Mvorhina (Asiopierretia) ugamskii</i>			
2447			ジョセフニクバエ	<i>M. (Bellieriomima) iosephi</i>			
2448			カガニクバエ	<i>M. (B.) kagaensis</i>			
2449			トリオニクバエ	<i>M. (Pseudothysocnema) crinitula</i>			
2450			イソニクバエ	<i>Parasarcophaga (Liosarcophaga) brevicornis</i>			
2451			モトミセラニクバエ	<i>P. (L.) dux</i>			
2452			ツシマニクバエ	<i>P. (L.) tsushimae</i>			
2453	ケンロクニクバエ	<i>P. (Parasarcophaga) albiceps</i>					
2454	ヤドリバエ		コンボウナガハリバエ	<i>Torocca munda</i>	図-135		
2455			マルボシハラヤドリバエ	<i>Gymnosoma rotundatum</i>	図-136		
2456	トビケラ	7科9種	ナガレトビケラ	<i>Rhvacophila brevicephala</i>			
2457			ヒメアタマナガレトビケラ	<i>Stenopsysche marmorata</i>			
2458			ヒゲナガカワトビケラ	<i>Cheumatonsyche brevilineata</i>			
2459			シマトビケラ	<i>Macrostemum radiatum</i>			
2460			エグリトビケラ	<i>Nothopsysche ruficollis</i>			
2461			ニンキョウトビケラ	<i>Goera curvispina</i>			
2462			ニンキョウトビケラ	<i>G. japonica</i>			
2463			ホリハトビケラ	<i>Molanna moesta</i>			
2464			アシエダトビケラ	<i>Anisocentropus kawamurai</i>			
2465			チョウ(蛾)	37科636種	コウモリカ	<i>Endocrita excrescens</i>	
2466					キマダラコウモリ	<i>E. sinensis</i>	
2467	ヒゲナガカ	<i>Nemophora trimetrella</i>					
2468	ヒロスコカ	<i>Opogona nipponica</i>					
2469	クエリマンコカ	<i>Pelecystola strigosa</i>					
2470	クシヒケキヒロスコカ	<i>Eumeta minuscula</i>					
2471	ミカ	<i>Thecobathra anas</i>					
2472	マルキンハネスカ	<i>Lepidotarphius perornatellus</i>					
2473	ソリハマキモドキカ	<i>Glyphipterix nigromarginata</i>					
2474	ヘリグロソリハマキモドキ	<i>Deltonlastis anostatis</i>					
2475	オビカクハネヒゲナガキハカ	<i>Pvroderces sarcoevosa</i>					
2476	タテシトカリソリカ	<i>Agnippe albidorsella</i>					
2477	ハキノシロオビキハカ	<i>Thiotricha venustalis</i>					
2478	ツマモンキンチキハカ	<i>Helicystogramma fuscomarginatum</i>					
2479	ヘリグロタテシマキハカ	<i>Dichomeris oceanis</i>					
2480	フンサキハカ	<i>D. acuminata</i>					
2481	コフサキハカ	<i>Tituacia deviella</i>					
2482	ホルトミモクリキハカ	<i>Scopelodes contracta</i>					
2483	イラカ	<i>Monema flavescens</i>	図-137				
2484	イラカ	<i>Microleon decolatus</i>					
2485	キマダラテングイラカ	<i>Phrixolepia sericea</i>					
2486	アカイラカ	<i>Austrapoda dentata</i>					
2487	ムラサキイラカ	<i>Parasa lepida</i>					
2488	ヒロヘリアオイラカ	<i>Natada takemurai</i>					
2489	クロシイラカ	<i>Illiberis rotundata</i>					
2490	マダラカ		ウメスカシクロハ	<i>Hedina tenuis</i>	図-138		
2491			フトウスカシクロハ	<i>Pidorus atratus</i>			
2492			ホタルカ	<i>Prveria sinica</i>			
2493			ミノウスハ	<i>Melittia sangaica</i>			
2494	スカシバカ		オオモモフトスカシバ	<i>Nokona pernix</i>			
2495			ヒメアトスカシバ	<i>Cossus cossus</i>			
2496	ホクウトウカ		オオホクウトウ	<i>C. jezoensis</i>			
2497			ホクウトウカ	<i>Zeuzera multistrigata</i>			
2498			ゴマフホクウトウ	<i>Acleris umbrana</i>			
2499	ハマキカ		ヒカゲハマキ	<i>Eupoecilia ambiguella</i>			
2500			フトウホソハマキ	<i>Gnorismoneura mesotoma</i>			

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (26/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
2501	チョウ(蛾)	ハマキガ*	クロシオハマキ	<i>Archios peratrata</i>	
2502			リンゴオオハマキ	<i>Choristoneura adumbratana</i>	
2503			アトシハマキ	<i>C. longicellana</i>	
2504			チャハマキ	<i>Homona magnanima</i>	
2505			スキハマキ	<i>H. issikii</i>	
2506			オオキンスジハマキ	<i>Ptycholoma lecheana</i>	図-139
2507			ハイビスシハマキ	<i>Syndemis musculana</i>	
2508			トビモンコハマキ	<i>Diplocalyptis congruentana</i>	
2509			チャノコクモンハマキ	<i>Adoxophyes honmai</i>	
2510			ビロードハマキ	<i>Cerace xanthocosma</i>	
2511			ヘリオビトメハマキ	<i>Crotospasma marginifasciata</i>	
2512			クロサンカクモンヒメハマキ	<i>C. trigonana</i>	
2513			サッポロヒメハマキ	<i>Ukamenia sapporensis</i>	
2514			トロハクロヒメハマキ	<i>Proschistis marmaropa</i>	
2515			コシロアシヒメハマキ	<i>Hystrichoscelus spathanthum</i>	
2516			クローハヒメハマキ	<i>Olethreutes doubledavana</i>	
2517			ホリハヒメハマキ	<i>Lobesia aeolopa</i>	
2518			マエモンマダラカキヒメハマキ	<i>Ancylis amolimacla</i>	
2519			センタンヒメハマキ	<i>Loboschiza koenigiana</i>	
2520			キカキヒメハマキ	<i>Rhopalovalva pulchra</i>	
2521			ヨモギネムシカ	<i>Epiblema foenella</i>	
2522			サンカクモンヒメハマキ	<i>Cydia glandicolana</i>	
2523		ニジュウシトリハ*	マダラニジュウシトリハ*	<i>Alucita spilodesma</i>	
2524		トリハガ*	エゾキトリハ	<i>Platvotilia farfarella</i>	
2525			トキンソウトリハ	<i>Stenoptilodes taprobanes</i>	
2526			ヨモギトリハ	<i>Hellinsia lienigianus</i>	
2527		マトガ*	マトガ	<i>Thvris usitata</i>	図-140
2528			ウスマダラマトガ*	<i>Rhodoneura pallida</i>	
2529			マダラマトガ	<i>R. vittula</i>	
2530			ヒメマダラマトガ*	<i>R. hvohaema</i>	
2531			スキタニマトガ	<i>R. sueitanii</i>	
2532		メイガ*	マエグロツツリガ	<i>Catoprosopus monstrosus</i>	図-141
2533			トビイロフタスジシメメイガ*	<i>Stemmatopohora valida</i>	
2534			ツマクロシメメイガ	<i>Ariopara indicator</i>	
2535			ウスベニトガリメイガ	<i>Endotricha olivacealis</i>	
2536			ツマクロトメイガ	<i>Noctuides melanophia</i>	
2537			ナカムラサキフトメイガ*	<i>Lista ficki</i>	
2538			クロハネフトメイガ	<i>Lepidogma angusta</i>	
2539			コネアフトメイガ	<i>L. melanobasis</i>	
2540			アカオヒフトメイガ	<i>L. tripartita</i>	
2541			オオフトメイガ	<i>Salma amica</i>	
2542			ナカアフトメイガ*	<i>S. elegans</i>	
2543			クロモンフトメイガ*	<i>Orthaga euadrusalis</i>	
2544			トサガフトメイガ	<i>Locastra muscosalis</i>	
2545			トビマダラメイガ*	<i>Kaurava ardentella</i>	
2546			ウスオビクロマダラメイガ*	<i>Glyptoteles leucacrinella</i>	
2547			マツアカマダラメイガ	<i>Diorctria prveri</i>	
2548			ナカアガスシマダラメイガ*	<i>Stenopterix bicolorella</i>	
2549			アカマダラメイガ	<i>Oncocera semirubella</i>	
2550			フタシロテンホソマダラメイガ*	<i>Assara korbi</i>	
2551		ツツガ*	ホリスツツガ	<i>Pseudargyria interruptella</i>	
2552			シロツツガ	<i>Calamotropha paludella</i>	
2553			ナカモンツツガ	<i>Chrysoteuchia porcelanella</i>	
2554			ツツガ	<i>Ancylolomia japonica</i>	
2555			マダラミスメイガ*	<i>Elophila interruptalis</i>	
2556			シナミスメイガ	<i>E. sinicalis</i>	
2557			ヒメマダラミスメイガ*	<i>E. turbata</i>	
2558			キンモンミスメイガ*	<i>Nymphula corculina</i>	図-142
2559			クロテンシロミスメイガ*	<i>Parapovnx diminutalis</i>	
2560			キオビミスメイガ	<i>Potamomusa midas</i>	
2561			アトモンミスメイガ	<i>Nymphicula saigusai</i>	
2562			モトシロアトモンミスメイガ*	<i>N. albibasalis</i>	
2563			フタオヒモンメイガ	<i>Trichophvsetis cretacea</i>	
2564			ナカアカクルマメイガ*	<i>Clupeosoma prveri</i>	
2565			キホソメイガ	<i>Circobotvs heterogenalis</i>	
2566			キベリハネホソノメイガ*	<i>C. aurealis</i>	
2567			タテシノメイガ	<i>Sclerocona acutella</i>	
2568			マエベニメイガ*	<i>Paliga minnehaha</i>	図-143
2569			マエウスモンキノメイガ*	<i>P. ochrealis</i>	
2570			フチクロノメイガ	<i>Paratalanta ussuriensis</i>	
2571			ウスオビキノメイガ*	<i>P. iessica</i>	
2572			ヒトモンノメイガ*	<i>P. unipunctata</i>	
2573			トモンノメイガ	<i>P. limbata</i>	
2574			シロモンクノメイガ*	<i>Anania funebris</i>	
2575			モンキノノメイガ*	<i>Cirrhochrista brizoalis</i>	
2576			シロテンノメイガ	<i>Diathrausta brevifascialis</i>	
2577			マエシロモンノメイガ*	<i>Diathraustodes amoenialis</i>	
2578			クビシロノメイガ	<i>Piletocera aegimiusalis</i>	図-144
2579			コガタシロモンノメイガ*	<i>P. sodalis</i>	
2580			シロシエクリノメイガ	<i>Sufetula sunidesalis</i>	
2581			ミツテンノメイガ	<i>Mabra charonialis</i>	
2582			クロオビノメイガ*	<i>Pycnarmon pantherata</i>	
2583			シロオビノメイガ	<i>Spoladea recurvalis</i>	
2584			*フタシロオビノメイガ*	<i>Hymenia perspectalis</i>	
2585			アヤナミノメイガ	<i>Furrrhparodes accessalis</i>	
2586			クロウスムラサキノメイガ*	<i>Agrotera posticalis</i>	
2587			コブノメイガ	<i>Cnaphalocrocis medinalis</i>	
2588			シロモンノメイガ*	<i>Bocchoris inspersalis</i>	
2589			オオンノモンノメイガ*	<i>Chabula telohusalis</i>	
2590			シロトモンノメイガ	<i>Analthes semitritalis</i>	
2591			キホソノメイガ	<i>A. insignis</i>	
2592			ホリハツククノメイガ*	<i>A. sp. of Sasaki & Yamanaka, 2013</i>	
2593			シロテンキノメイガ	<i>Nacoleia commixta</i>	
2594			サツマキノメイガ	<i>N. satsumalis</i>	
2595			クロスノメイガ	<i>Goniorhynchus exemplaris</i>	
2596			クロヘリキノメイガ*	<i>G. butyrosus</i>	
2597			オオキノメイガ	<i>Botvodes principalis</i>	
2598			コヨツノメイガ	<i>Pleuroptva inferior</i>	
2599			オオキハラノメイガ*	<i>P. harutai</i>	
2600			ホリスシノメイガ	<i>P. chlorophanta</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (27/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
2601	チョウ(蛾)	ツカ	モモコマダラノメイカ	<i>Conogethes punctiferalis</i>	
2602			オオツチイロノメイカ	<i>Syllepte fuscoinvalidalis</i>	
2603			ホリオビツチイロノメイカ	<i>S. pallidinotalis</i>	
2604			マエアカスカシノメイカ	<i>Palaeta nigropunctalis</i>	
2605			ヒメシロノメイカ	<i>P. inusitata</i>	
2606			ツゲノメイカ	<i>Cydalima perspectalis</i>	
2607			クワノメイカ	<i>Glyphodes pyloalis</i>	
2608			シロマダラノメイカ	<i>G. onychinalis</i>	
2609			ツマクシロノメイカ	<i>Polvthliota liquidalis</i>	
2610			マメノメイカ	<i>Maruca vitrata</i>	
2611			ウモンノメイカ	<i>Nomophila noctuella</i>	
2612			モンキクノメイカ	<i>Herpetogramma luctuosale</i>	
2613			シロヤヒメノメイカ	<i>Diasemia reticularis</i>	
2614			キアヤヒメノメイカ	<i>D. accalis</i>	
2615			モンシロリノメイカ	<i>Uresiphita tricolor</i>	図-145
2616			クロモンキノメイカ	<i>Udea testacea</i>	
2617		カギハカ	ヒメハイロカキハ	<i>Pseudalbara parvula</i>	
2618			ヤマトカキハ	<i>Nordstromia japonica</i>	
2619			ヒメウコンカキハ	<i>Tridrepana unispina</i>	
2620			ギンモンカキハ	<i>Callidrepana patrana</i>	
2621			ホシベッコウカキハ	<i>Deroca inconclusa</i>	
2622			ウスキヌカキハ	<i>Macrocilix mvsticata</i>	
2623			スカシカキハ	<i>Macrauzata maxima</i>	
2624			アシベニカキハ	<i>Oreta pulchripes</i>	
2625			オオフトカキハ	<i>O. fuscoopurea</i>	図-146
2626			アカウラカキハ	<i>Hypsomadius insignis</i>	
2627			モンカカリハ	<i>Thyatira batis</i>	
2628			アヤトカリハ	<i>Fabrosyne pvritoides</i>	
2629			オオアヤトカリハ	<i>H. fraterna</i>	
2630			ホトカリハ	<i>Tethea octogesima</i>	
2631			オオマエベニトカリハ	<i>T. consimilis</i>	
2632		アゲハモドキ	アゲハモドキ	<i>Epicopeia hainesii</i>	
2633		ツバメカ	ハカタフタオ	<i>Dysaethria flavistriga</i>	
2634			クロホシフタオ	<i>D. moza</i>	図-147
2635			クロホシロフタオ	<i>Oroplema plagifera</i>	
2636			ギンツバメ	<i>Acropteris iohiata</i>	
2637		シヤクカ	サザナミオビエダシヤク	<i>Heterostegane hvriaria</i>	
2638			ウチムラサキヒメエダシヤク	<i>Ninodes splendens</i>	
2639			ナミスシシロエダシヤク	<i>Orthocabera tinasmaria</i>	
2640			フタホシシロエダシヤク	<i>Lomographa bimaculata</i>	
2641			オオフタホシシロエダシヤク	<i>L. claripennis</i>	
2642			ウスアオエダシヤク	<i>Parabaota clarissa</i>	図-148
2643			マエキオエダシヤク	<i>Plesiomorpha flaviceps</i>	
2644			クロハクルマエダシヤク	<i>Synegia esther</i>	
2645			ツマキエダシヤク	<i>Platycerota incertaria</i>	
2646			フタテンオエダシヤク	<i>Chiasmia defixaria</i>	
2647			ウスオエダシヤク	<i>C. hebesata</i>	
2648			スカシエダシヤク	<i>Krananda semihvalina</i>	
2649			ツマシロエダシヤク	<i>K. latimarginaria</i>	
2650			ヒロオビトシロエダシヤク	<i>Cystidia truncangulata</i>	
2651			ウメエダシヤク	<i>C. couaggaria</i>	
2652			シロシマエダシヤク	<i>Eurybeidia languidata</i>	
2653			コマダラシロエダシヤク	<i>Antipercnia albinigrata</i>	
2654			オオコマダラエダシヤク	<i>Parapercnia giraffata</i>	
2655			クロフオシロエダシヤク	<i>Pogonopveia nigralbata</i>	
2656			クロフシロエダシヤク	<i>Diloophodes elegans</i>	
2657			キンタエダシヤク	<i>Arichanna melanaria</i>	
2658			ヒョウモンエダシヤク	<i>A. gaschkevitchii</i>	
2659			ナカウスエダシヤク	<i>Alcis angulifera</i>	
2660			フタヤマエダシヤク	<i>Rikiosatoa grisea</i>	
2661			クロクモエダシヤク	<i>Apocleora rimosa</i>	
2662			シロフンエダシヤク	<i>Cleora leucophaea</i>	
2663			ヤクシマフツシエダシヤク	<i>C. minutaria</i>	
2664			ヨモギエダシヤク	<i>Ascotis selenaria</i>	
2665			セフトエダシヤク	<i>Cusiala stipitaria</i>	
2666			ハミスシエダシヤク	<i>Hypomecis roboraria</i>	
2667			オオハナミカエダシヤク	<i>H. lunifera</i>	
2668			フトオビエダシヤク	<i>H. crassestrigata</i>	
2669			ヒロハウスアオエダシヤク	<i>Paradarisa chloauges</i>	
2670			ホシミスシエダシヤク	<i>Racotis boarmiaria</i>	
2671			トカリスシクロエダシヤク	<i>Heterarmia dissimilis</i>	
2672			ハラケエダシヤク	<i>Diplurodes vestita</i>	
2673			ハラケチビエダシヤク	<i>Satoblephara parvularia</i>	
2674			ヨツメエダシヤク	<i>Onthalthitis alhosienaria</i>	
2675			リンゴツノエダシヤク	<i>Phthonosema tendinosaria</i>	
2676			オオツバメエダシヤク	<i>Amblychia angeronaria</i>	図-149
2677			キマダラツバメエダシヤク	<i>Thinoopteryx crocoptera</i>	
2678			ミヤマツバメエダシヤク	<i>T. delectans</i>	
2679			フチクロトケエダシヤク	<i>Nyssiodes lefuarius</i>	VU 図-150
2680			オカモトケエダシヤク	<i>Anochima iuglansaria</i>	
2681			チャエダシヤク	<i>Megabiston plumosaria</i>	
2682			トビモンオオエダシヤク	<i>Biston robustum</i>	図-151
2683			ウスイロオオエダシヤク	<i>Amraica superans</i>	
2684			アミオオエダシヤク	<i>Mesastrape fulguraria</i>	
2685			ハスオビエダシヤク	<i>Descoreba simplex</i>	
2686			ニトエダシヤク	<i>Wilemania nitobei</i>	
2687			アトシロエダシヤク	<i>Pachyligia dolosa</i>	
2688			ヒロハトカリエダシヤク	<i>Planociampa antipala</i>	
2689			ツマトヒキエダシヤク	<i>Bizia aexaria</i>	
2690			ウスクモエダシヤク	<i>Menophra senilis</i>	
2691			クワエダシヤク	<i>Phthonandria atrilineata</i>	
2692			マエキトビエダシヤク	<i>Nothomiza formosa</i>	
2693			オオマエキトビエダシヤク	<i>N. oxvgoniodes</i>	
2694			ヨスジエダシヤク	<i>Cotta incongruaria</i>	
2695			エクリツマエダシヤク	<i>Odontopera arida</i>	
2696			オオノコエダシヤク	<i>Acrodontis fumosa</i>	
2697			エクリエダシヤク	<i>Fascellina chromataria</i>	
2698			ツマキリウスエダシヤク	<i>Pareclipsis gracilis</i>	
2699			ナカキエダシヤク	<i>Plagodis dolabraria</i>	
2700			ウラベニエダシヤク	<i>Heterolocha aristonaria</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (28/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
2701	チョウ(蛾)	シヤクカ*	アカネエダシヤク	<i>H. cocinea</i>	
2702			ツマトビシロエダシヤク	<i>Spilopera debilis</i>	
2703			ウスキツバメエダシヤク	<i>Qurapteryx nivea</i>	
2704			シロツバメエダシヤク	<i>O. maculicaudaria</i>	
2705			クロテンフエシヤク	<i>Inurois membranaria</i>	図-152
2706			エクリトカリシヤク	<i>Ozola iaponica</i>	
2707			ホシシヤク	<i>Naxa seriaria</i>	
2708			コアヤシヤク	<i>Pingasa pseudoternaria</i>	
2709			ウスアオヤシヤク	<i>P. aigneri</i>	
2710			アシフトチスモンアオシヤク	<i>Agathia visenda</i>	
2711			ノコバアオシヤク	<i>Timandromorpha enervata</i>	
2712			カギハアオシヤク	<i>Tanaorhinus recircrocata</i>	
2713			クロシニアオシヤク	<i>Geometra valida</i>	
2714			キマエアオシヤク	<i>Neohipparchus vallata</i>	図-153
2715			ヒメシロフアオシヤク	<i>Eucyclodes infracta</i>	
2716			シロフアオシヤク	<i>E. diffracta</i>	
2717			ヒロハツバメアオシヤク	<i>Maxates illiturlata</i>	
2718			ヒメツバメアオシヤク	<i>M. protrusa</i>	
2719			ハラアカヒメアオシヤク	<i>Hemitheia stictochila</i>	
2720			ホリハハラアカアオシヤク	<i>Chlorissa anadema</i>	
2721			ナミスシコアオシヤク	<i>Idiochlora ussuriaria</i>	
2722			ヨツモンマエシロアオシヤク	<i>Comibaena procumbaria</i>	
2723			キンシニアオシヤク	<i>C. argentataria</i>	
2724			クロモンアオシヤク	<i>C. nigromaculata</i>	
2725			コンロスシニアオシヤク	<i>Hemistola veneta</i>	
2726			コヨツメアオシヤク	<i>Comostola subtilaria</i>	図-154
2727			アカホシヒメアオシヤク	<i>C. rubripunctata</i>	
2728			アタナミトヒメシヤク	<i>Pylargosceles steganioides</i>	
2729			フトヘニシヒメシヤク	<i>Timandra apicirosea</i>	
2730			フタツメオオシロヒメシヤク	<i>Problepsis albidior</i>	
2731			ウンモンオオシロヒメシヤク	<i>Somatina indicataria</i>	
2732			マエキヒメシヤク	<i>Scopula nigropunctata</i>	
2733			ヨスジキヒメシヤク	<i>Idaea auricruda</i>	
2734			ホリスジキヒメシヤク	<i>I. remissa</i>	
2735			シタコハネナミシヤク	<i>Trichopteryx hemana</i>	
2736			ウスアカモンナミシヤク	<i>Trichopterygia consobrinaria</i>	
2737			ホシスジトカリナミシヤク	<i>Carige crucioplaga</i>	
2738			ホリハナミシヤク	<i>Tyloptera bella</i>	
2739			ウスミドリナミシヤク	<i>Eoisteira nigrilinearia</i>	
2740			フシマナミシヤク	<i>Xanthorhoe saturata</i>	
2741			フタトビシナミシヤク	<i>X. hortensiaria</i>	
2742			フタモンクロナミシヤク	<i>Catarhoe obscura</i>	
2743			フタシロスジナミシヤク	<i>Epirrhoe supergressa</i>	
2744			モンキキナミシヤク	<i>Idiotheopria amelia</i>	
2745			クモオヒナミシヤク	<i>Triphosa umbraria</i>	
2746			ナミカタシロナミシヤク	<i>Callabraxas compositata</i>	
2747			ウストビモンナミシヤク	<i>Eulithis ledereri</i>	
2748			セシナミシヤク	<i>Evecliptopera illitata</i>	図-155
2749			オオハカタナミシヤク	<i>Ecliptopera umbrosaria</i>	
2750			トビシトカリナミシヤク	<i>Zola terranea</i>	
2751			ムスシロナミシヤク	<i>Asthena nymphaeata</i>	
2752			アカモンコナミシヤク	<i>Palpoptenia phoenicosoma</i>	
2753			クロシニアオナミシヤク	<i>Chloroclystis v-ata</i>	
2754			ハラアカウスアオナミシヤク	<i>Pasiphila obscura</i>	
2755		カレハカ*	カレハカ	<i>Gastropacha orientalis</i>	
2756			タケカレハ	<i>Euthrix albomaculata</i>	図-156
2757			リンコカレハ	<i>Odonestis pruni</i>	
2758			マツカレハ	<i>Dendrolimus spectabilis</i>	
2759			クヌキカレハ	<i>Kunugia undans</i>	
2760			ヤマダカレハ	<i>K. vamadai</i>	
2761			オヒカレハ	<i>Malacosoma neustrium</i>	
2762		オヒカ	オヒカ	<i>Apha aequalis</i>	
2763		カイコカ	クワコ	<i>Bombvx mandarina</i>	
2764		ヤママユカ*	クスサン	<i>Saturnia iaponica</i>	
2765			オオミスアオ	<i>Actias aliena</i>	図-157
2766			オナガミスアオ	<i>A. noma</i>	
2767			エゾヨツメ	<i>Agla iaponica</i>	図-158
2768		イホタカ	イホタカ	<i>Brahmaea iaponica</i>	
2769		スズメカ	エビカラススズメ	<i>Agerius convolvuli</i>	
2770			クロメンカタルスズメ	<i>A. convolvuli</i>	
2771			シモフリスズメ	<i>Psilogramma increta</i>	
2772			コエビカラススズメ	<i>Sphinx constricta</i>	
2773			クロスズメ	<i>S. caliginea</i>	
2774			ホリハスズメ	<i>Ambulyx ochracea</i>	
2775			トビイロスズメ	<i>Clanis bilineata</i>	
2776			キモスズメ	<i>Marumba gaschkewitschii</i>	
2777			クチハスズメ	<i>M. sperchius</i>	図-159
2778			オオシモフリスズメ	<i>Langia zenzeroides</i>	
2779			ウンモンスズメ	<i>Callambulyx tatarinovii</i>	
2780			エゾスズメ	<i>Phyllosphingia dissimilis</i>	
2781			キョウチクトウスズメ	<i>Daphnis nerii</i>	
2782			クルマスズメ	<i>Ampelophaga rubiginosa</i>	
2783			ハネナカフトウスズメ	<i>Acosmervx naga</i>	
2784			フトウスズメ	<i>A. castanea</i>	
2785			ホシヒメホウシヤク	<i>Neogurelca himachala</i>	
2786			フリツエホウシヤク	<i>Macroglossum fritzei</i>	
2787			ホシホウシヤク	<i>M. pyrrhosticta</i>	
2788			クロホウシヤク	<i>M. saga</i>	
2789			ヘニスズメ	<i>Deilephila elpenor</i>	図-160
2790			サツマスズメ	<i>Theretra clotho</i>	
2791			キイロスズメ	<i>T. nessus</i>	
2792			セシニスズメ	<i>T. oldenlandiae</i>	
2793			コスズメ	<i>T. iaponica</i>	
2794			ビロートスズメ	<i>Rhaegastis mongoliana</i>	
2795			ミスジビロートスズメ	<i>R. trilineata</i>	
2796		シヤチホコカ	セクシヤチホコ	<i>Clostera anastomosis</i>	
2797			ナカクロモクメシヤチホコ	<i>Furcula furcula</i>	
2798			キンシヤチホコ	<i>Harporia umbrosa</i>	
2799			オオトビモンシヤチホコ	<i>Phalerodonta manlevi</i>	
2800			ウスイロキンモンシヤチホコ	<i>Spatalia doerriesi</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (29/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
2801	チョウ(蛾)	シヤチホコカ	ムラサキシヤチホコ	<i>P. ssimilis</i>	図-162
2802			シロシヤチホコ	<i>Cnethodonta japonica</i>	
2803			シヤチホコカ	<i>S. fagi</i>	
2804			ヒメシヤチホコ	<i>Stauropus basalis</i>	
2805			タカサゴツマキシヤチホコ	<i>Phalera takasagoensis</i>	
2806			ツマキシヤチホコ	<i>P. assimilis</i>	
2807			クロツマキシヤチホコ	<i>P. minor</i>	
2808			モンクロシヤチホコ	<i>P. flavescens</i>	
2809			ホソバネグロシヤチホコ	<i>Disoparia diluta</i>	
2810			クロシヤチホコ	<i>Mesophalera sigmata</i>	
2811			ホソバシヤチホコ	<i>Fentonia ocvpete</i>	
2812			ヘリスシヤチホコ	<i>Neopheosia fasciata</i>	図-161
2813			モンクロキンシヤチホコ	<i>Wilemanus bidentatus</i>	
2814			ウスシヤチホコ	<i>Mimopydna pallida</i>	
2815			キシヤチホコ	<i>Cutuza straminea</i>	
2816			ヒラトヒモンシヤチホコ	<i>Drvmonia basalis</i>	図-163
2817			ツマシロシヤチホコ	<i>Hexafrenum leucodera</i>	
2818			タカオシヤチホコ	<i>Hiradonta takaonis</i>	
2819			ススキシヤチホコ	<i>Pheosiopsis cinerea</i>	
2820			ヤスシヤチホコ	<i>Foodonta lineata</i>	
2821			クビウシヤチホコ	<i>Shaka atrovittatus</i>	
2822			オオエクリシヤチホコ	<i>Pterostoma gigantinum</i>	
2823			ナカキシヤチホコ	<i>P. gigantea</i>	
2824			ニトヘシヤチホコ	<i>Peridea aliena</i>	
2825			セダカシヤチホコ	<i>Euhamponia cristata</i>	
2826			オオアノシヤチホコ	<i>Syntvovistis cvanea</i>	
2827			トビキンホシシヤチホコ	<i>Rosama ornata</i>	
2828		ドクカ	スキトクカ	<i>Calliteara argentata</i>	
2829			リンコトクカ	<i>C. pseudabietis</i>	
2830			アカヒゲトクカ	<i>C. lunulata</i>	
2831			マメトクカ	<i>Cifuna locuples</i>	
2832			ヒメシロキントクカ	<i>Orgyia thvellina</i>	
2833			スゲトクカ	<i>Laelia coenosa</i>	DD 図-164
2834			スカシトクカ	<i>Arctornis kumatai</i>	
2835			ニワトドクカ	<i>Topomesoides ionasii</i>	
2836			キアトクカ	<i>Ivela auripes</i>	
2837			ウチシロマイマイ	<i>Parocneria furva</i>	
2838			マイマイカ	<i>Lvmantria dispar</i>	
2839			マエウロマイマイ	<i>L. xvlna</i>	
2840			トクカ	<i>Artaxa subflava</i>	
2841			モンシロトクカ	<i>Sohrageidus similis</i>	図-165
2842			ゴマフドクカ	<i>Somena pulverea</i>	
2843		ヒトリカ	クロスシホソバ	<i>Pelosia noctis</i>	
2844			キンタホソバ	<i>Filema vetusta</i>	
2845			ムシホソバ	<i>F. deplana</i>	
2846			キマエホソバ	<i>F. japonica</i>	
2847			シロホソバ	<i>F. degenerella</i>	
2848			ヒメツマキホソバ	<i>F. minor</i>	
2849			ヒメキホソバ	<i>Dolgoma cribrata</i>	
2850			クビウウスクホソバ	<i>Macrobroschis staudingeri</i>	
2851			キマエクホソバ	<i>Ghoria collitoides</i>	
2852			ヨツホシホソバ	<i>Lithosia quadra</i>	
2853			マエウロホソバ	<i>Conilepia nigricosta</i>	
2854			アカシシロコケカ	<i>Cvana hamata</i>	図-166
2855			ウスクロコケカ	<i>Siccia obscura</i>	
2856			シロオビクロコケカ	<i>S. minuta</i>	
2857			クシヒケホシオビコケカ	<i>Aemene altaica</i>	
2858			クロテンハイロコケカ	<i>Fueoa erisea</i>	
2859			スカシコケカ	<i>Nudaria ranruna</i>	
2860			ウスバフタホシコケカ	<i>Schistophleps bipuncta</i>	
2861			ゴマダラキコケカ	<i>Stigmatophora leacrita</i>	
2862			モンクロヘニコケカ	<i>S. rhodophila</i>	
2863			フタホシキコケカ	<i>Nudina artaxidia</i>	
2864			スシヘニコケカ	<i>Barsine striata</i>	
2865			ハカダヘニコケカ	<i>B. aberrans</i>	
2866			ベニヘリコケカ	<i>Mitochrista miniata</i>	図-167
2867			ヒメホシキコケカ	<i>Lyclene dharna</i>	
2868			モンシロトキ	<i>Nyctemera adversata</i>	
2869			シロヒトリ	<i>Chionarctia nivea</i>	
2870			キハラクマタラヒトリ	<i>Spilosoma lubricipedum</i>	
2871			スシモンヒトリ	<i>Spilarctia seriato punctata</i>	
2872			フトスシモンヒトリ	<i>S. obliquizonata</i>	
2873			オドヒトリ	<i>S. ubcarnea</i>	
2874			クロフシロヒトリ	<i>Fosnilarctia lewisii</i>	
2875			アカヒトリ	<i>Lemvra flammeola</i>	
2876			クワコマタラヒトリ	<i>L. imparilis</i>	
2877		ヒトリモトキカ	*イチシクヒトリモトキ	<i>Asota ficus</i>	
2878		アツハモトキカ	ウスオビアツハモトキ	<i>Mimachrostia fasciata</i>	
2879		コフカ	クロスシコフカ	<i>Nola taeniata</i>	
2880			シロフチコフカ	<i>Manoba microphasma</i>	
2881			クロスシコフカ	<i>Meganola fumosa</i>	
2882			イナズマコフカ	<i>M. triangulalis</i>	
2883			リンココフカ	<i>Evonima mandschuriana</i>	
2884			ストリリンカ	<i>Clethrophora distincta</i>	
2885			ツクンアオリンカ	<i>Hvlophilodes tsukusensis</i>	
2886			ネズシキカワカ	<i>Garella ruficirra</i>	
2887			マエシロモンキカワカ	<i>Nyctea costalis</i>	
2888			クロオヒリンカ	<i>Gelastocera kotschubeii</i>	
2889			トビイロリンカ	<i>Siglophora ferreilutea</i>	
2890			キンホシリンカ	<i>Ariolica argentea</i>	
2891			マエキリンカ	<i>Iragodes nobilis</i>	
2892			キカワカ	<i>Blenina senex</i>	
2893			リュウキュウキカワカ	<i>Risoba prominens</i>	
2894			ナンキンキカワカ	<i>Gadirtha imoingens</i>	
2895			ネジロキカワカ	<i>Negritothripa hamponi</i>	
2896			*シシユキカワカ	<i>Eligma narcissus</i>	*偶産種
2897		ヤカ	テンクローアツハ	<i>Rivula sericealis</i>	
2898			タケアツハ	<i>R. aequalis</i>	
2899			ヨツモンムラサキアツハ	<i>Diomea discisigna</i>	
2900			マエシロアツハ	<i>Hypostryotia cinerea</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (30/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
2901	チョウ(蛾)	ヤガ	ヒメヒイロアツハ	<i>Maguda suffusa</i>	
2902			オトウアツハ	<i>Panilla petrina</i>	
2903			ナンキンマアツハ	<i>Hepatica nakatanii</i>	
2904			ヒロハチビカリアツハ	<i>Hyphenomorpha calamina</i>	
2905			マエフタキンアツハ	<i>Prolophota trigonifera</i>	図-168
2906			クロテンカハアツハ	<i>Anachrostitis nigripunctalis</i>	
2907			フタテンチビアツハ	<i>Neachrostitis bipuncta</i>	
2908			クロスシヒメアツハ	<i>Schrankia costaestrigalis</i>	
2909			シマフコヤカ	<i>Gorgatha nitens</i>	
2910			シロスシマコヤカ	<i>C. dictaria</i>	
2911			ヘニシマコヤカ	<i>C. pygmaea</i>	
2912			ヨツテンシマコヤカ	<i>C. fusciceps</i>	
2913			モモイロツマキリコヤカ	<i>Lophorhiza pulcherrima</i>	
2914			ヒメクルマコヤカ	<i>Oruza divisa</i>	
2915			モンシロクルマコヤカ	<i>O. glaucotorna</i>	
2916			ウスキコヤカ	<i>O. brunnea</i>	
2917			マエキトカリアツハ	<i>Anoratha costalis</i>	図-169
2918			ナカシロアツハ	<i>Harita belinda</i>	
2919			キンタアツハ	<i>Hypona claripennis</i>	
2920			クロキンタアツハ	<i>H. amica</i>	
2921			タイワンキンタアツハ	<i>H. trigonalis</i>	
2922			オトヒモンアツハ	<i>H. occata</i>	
2923			トビモンアツハ	<i>H. indicatalis</i>	
2924			アオアツハ	<i>H. subcvanea</i>	
2925			ヤマカダアツハ	<i>Bomolocha stveiana</i>	
2926			ウスベニコヤカ	<i>Sophia subrosea</i>	
2927			テンモンシマコヤカ	<i>S. ruficeps</i>	
2928			カサリツマキリアツハ	<i>Tamba leniflua</i>	
2929			ウスベニツマキリアツハ	<i>T. gansanalis</i>	
2930			ソトハカダアツハ	<i>Olulis puncticinctalis</i>	図-170
2931			ウスモモイロアツハ	<i>O. avumiae</i>	
2932			ソトウスベニアツハ	<i>Sarcopteron fasciatum</i>	
2933			フタスジエグリアツハ	<i>Goneoatica opalina</i>	
2934			ヘニトカリアツハ	<i>Naganoella timandra</i>	
2935			キボシアツハ	<i>Paragabara flavomaculata</i>	
2936			ウスグロセニシモンアツハ	<i>Paragona inchoata</i>	
2937			シロテンツマキリアツハ	<i>Amphitroglia amphidecta</i>	
2938			ニセミカドアツハ	<i>Lophomilia takao</i>	
2939			キツマアツハ	<i>Scedopla regalis</i>	
2940			トビフタスシアツハ	<i>Leiostola mollis</i>	
2941			ウンモンツマキリアツハ	<i>Pangraopta perturbans</i>	
2942			ミツボシツマキリアツハ	<i>P. vasava</i>	
2943			マエモンツマキリアツハ	<i>P. costinotata</i>	
2944			キマエアツハ	<i>Adraosa ablualis</i>	
2945			フジロアツハ	<i>A. notigera</i>	
2946			ニセフジロアツハ	<i>A. subnotigera</i>	
2947			シラナミクアツハ	<i>A. simplex</i>	
2948			マルシラホシアツハ	<i>Edessena gentiusalis</i>	
2949			オオシラホシアツハ	<i>E. hamada</i>	
2950			ソトウスアツハ	<i>Hadennia obliqua</i>	
2951			ヒメハナマカリアツハ	<i>H. nakatanii</i>	
2952			ハナオイアツハ	<i>Cidariplura gladiata</i>	
2953			ホリナミアツハ	<i>Paracolax fentoni</i>	
2954			ソトウスグロアツハ	<i>Hydrillodes lentalis</i>	
2955			フタスジアツハ	<i>Bertula bistrigata</i>	
2956			ヒケフトクアツハ	<i>Nodaria tristis</i>	
2957			オオアカマアツハ	<i>Simplicia nippona</i>	
2958			ウスグロアツハ	<i>Traudingees fumosa</i>	
2959			ヒメコフヒケアツハ	<i>Treitschkendia tarsipennalis</i>	
2960			ウラシロアツハ	<i>Hypetrocon violacealis</i>	
2961			ウスキミスシアツハ	<i>Herminia arenosa</i>	
2962			シラナミアツハ	<i>H. innocens</i>	
2963			ヒメクアツハ	<i>Sinarella rotundipennis</i>	
2964			シモンアツハ	<i>S. c-album</i>	
2965			オスグロトキエ	<i>Spirama retorta</i>	図-171
2966			ハケルマトキエ	<i>S. helicina</i>	
2967			オオトキエ	<i>Erebus ephesperis</i>	
2968			カキハトキエ	<i>Hypopvra vespertilio</i>	
2969			アカテングチハ	<i>Erygia apicalis</i>	
2970			オオエグリハ	<i>Calyptra gruesa</i>	
2971			ヒメエグリハ	<i>Oraesia emarginata</i>	
2972			アカエグリハ	<i>O. excavata</i>	
2973			マダラエグリハ	<i>Plusiodonta casta</i>	
2974			*ヒメアケビコノハ	<i>Eudocima phalonia</i>	
2975			アケビコノハ	<i>E. tyrannu</i>	
2976			*キマエコノハ	<i>E. salaminia</i>	
2977			タイワンキンタクチハ	<i>Hypocala subsatura</i>	
2978			ニシオビヘニアツハ	<i>Homodes vivida</i>	
2979			アカキリハ	<i>Gonitis mesogona</i>	
2980			ムラサキオオアカキリハ	<i>Rusicada leucolopha</i>	
2981			カハフキンタハ	<i>Catocala mirifica</i>	
2982			ウスイロキンタハ	<i>C. intacta</i>	
2983			コガタキンタハ	<i>C. praegna</i>	
2984			クビクロクチハ	<i>Lygeophila maxima</i>	
2985			ヒメクビクロクチハ	<i>L. recta</i>	
2986			ナニクビクロクチハ	<i>L. lilacina</i>	
2987			モンムラサキクチハ	<i>Ercheia umbrosa</i>	
2988			モンシロムラサキクチハ	<i>E. niveostriata</i>	
2989			クロモンシタハ	<i>Ophiura tirhaca</i>	
2990			ヒロオビクロモンシタハ	<i>O. disiungens</i>	
2991			シラホシアフトクチハ	<i>Achaea ianata</i>	
2992			アシフトクチハ	<i>Parallelia stuposa</i>	
2993			ホソオビアシフトクチハ	<i>P. arctotaenia</i>	
2994			ムラサキアシフトクチハ	<i>Bastilla maturata</i>	
2995			ナカクロクチハ	<i>Grammodes geometrica</i>	
2996			オオウンモンクチハ	<i>Mocis undata</i>	
2997			ニセウンモンクチハ	<i>M. ancilla</i>	
2998			ムクケコノハ	<i>Thyas iuno</i>	
2999			ツキウクチハ	<i>Artena dotata</i>	
3000			コウンモンクチハ	<i>Blasticorhinus ussuriensis</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (31/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
3001	チョウ(蛾)	ヤガ	ムラサキヒメクチハ	<i>Mecodina subviolacea</i>	
3002			カハフヒメクチハ	<i>M. cineracea</i>	
3003			シャウトウクチハ	<i>M. nubiferalis</i>	
3004			オオンロテンクチハ	<i>Hypersyonoides submarginata</i>	
3005			ハカタクチハ	<i>Daddala lucilla</i>	
3006			オトウウスグロクチハ	<i>Avitta fasciosa</i>	
3007			ウスムラサキクチハ	<i>Ericeia pertendens</i>	
3008			ホシロフクチハ	<i>Serrodus campana</i>	
3009			シロモンフサヤガ	<i>Phalga clarirena</i>	
3010			コフサヤガ	<i>Eutelia adulatricoides</i>	
3011			キクキンウハ	<i>Thysanoplusia intermixta</i>	
3012			エゾキクキンウハ	<i>Ctenoplusia albostrata</i>	
3013			ニシキンウハ	<i>C. ichinosei</i>	
3014			ミツキンウハ	<i>C. agnata</i>	
3015			ウリキンウハ	<i>Anadevidia peponis</i>	
3016			キンシキンウハ	<i>Erythroplusia rutilifrons</i>	
3017			キンモンシロウハ	<i>Macdunnoughia purissima</i>	
3018			ヒメネシロコヤガ	<i>Maliattha signifera</i>	
3019			ネシロコヤガ	<i>M. chalcogramma</i>	
3020			ソムラサキコヤガ	<i>M. bella</i>	
3021			シロヒシモンコヤガ	<i>Micardia argentata</i>	
3022			シロコヤガ	<i>Protodeltote pvearga</i>	
3023			ウスシロコヤガ	<i>Sugia stvegia</i>	
3024			ウチシロコヤガ	<i>Chorsia albicincta</i>	
3025			スシモンコヤガ	<i>Microxyla confusa</i>	
3026			ウスアオモンコヤガ	<i>Bryophilina mollicula</i>	
3027			モンキコヤガ	<i>Hyperstrotia flavipuncta</i>	
3028			ヨモギコヤガ	<i>Phyllophila oblitterata</i>	
3029			フタオヒコヤガ	<i>Naranga aenescens</i>	
3030			コマルモンシロカ	<i>Sphragifera biplaga</i>	
3031			ナカンロシタハ	<i>Aedia leucomelas</i>	
3032			ホリハネグロトウ	<i>Chytonix subalbbonotata</i>	
3033			アラスメ	<i>Arcte coerulea</i>	
3034			ホリシヤキンタケンモン	<i>Trisuloides sericea</i>	
3035			コウスベリケンモン	<i>Anacronicta caliginea</i>	
3036			コマケンモン	<i>Moma alojium</i>	
3037			オオケンモン	<i>Acronicta maior</i>	
3038			サクラケンモン	<i>A. adauca</i>	
3039			チンケンモン	<i>A. rumicis</i>	
3040			クビクロケンモン	<i>A. digna</i>	
3041			シマケンモン	<i>Cranioophora fasciata</i>	
3042			アミケンモン	<i>Lophonycta confusa</i>	
3043			ヒメトラカ	<i>Asteropetes noctuina</i>	
3044			ホリハセダカモクメ	<i>Cucullia pustulata</i>	
3045			キクセダカモクメ	<i>C. kurilullia</i>	
3046			ナンカイカラスヨトウ	<i>Amphipovra horiei</i>	
3047			カラスヨトウ	<i>A. livida</i>	
3048			ホリハハカクヨトウ	<i>Meganephria funesta</i>	
3049			ケンモンミドリキリカ	<i>Daseochaeta viridis</i>	
3050			マエホシヨトウ	<i>Pvrrhidivalva sordida</i>	
3051			ヒトテンヨトウ	<i>Chalconyx vpsilon</i>	
3052			モンオビヒメヨトウ	<i>Dysmilichia gemella</i>	
3053			フタテンヒメヨトウ	<i>Acosmetia biguttula</i>	
3054			ムラサキツマキリヨトウ	<i>Callopietria iuventina</i>	
3055			マダラツマキリヨトウ	<i>C. reoleta</i>	
3056			ウンモンキノコヨトウ	<i>Stenoloba manlevi</i>	
3057			ハスモンヨトウ	<i>S. litura</i>	
3058			シロトヨトウ	<i>Spodoptera mauritia</i>	
3059			スジキリヨトウ	<i>S. depravata</i>	
3060			クロテンヨトウ	<i>Athetis cinerascens</i>	
3061			シロテンウスグロヨトウ	<i>A. albisenata</i>	
3062			ヒメサビシヨトウ	<i>A. stellata</i>	
3063			ウスアオヨトウ	<i>Polypaenis subviridis</i>	
3064			シロスジアオヨトウ	<i>Trachea atrilicis</i>	
3065			オオンロテンアオヨトウ	<i>T. punkikonis</i>	
3066			コクモクメヨトウ	<i>Dipterygia japonica</i>	
3067			コモクメヨトウ	<i>Actinotia intermedia</i>	
3068			アカカネヨトウ	<i>Euplexia lucipara</i>	
3069			ハンマヨトウ	<i>Bambusiphila vulgaris</i>	
3070			キハラキクメキリカ	<i>Xylota formosa</i>	
3071			チヤマダラキリカ	<i>Rhynchaglaea scitula</i>	
3072			ミヤマオビキリカ	<i>Conistra grisea</i>	
3073			ウスキトカリキリカ	<i>Telorta acuminata</i>	
3074			ノコトカリキリカ	<i>T. divergens</i>	
3075			ヘーネアオハカクヨトウ	<i>Nyctycia hoenei</i>	
3076			ケンモンキリカ	<i>Egira saxea</i>	
3077			マツキリカ	<i>Panolis japonica</i>	図-172
3078			クロテンキリカ	<i>Orthosia fausta</i>	
3079			カシキリカ	<i>O. gothica</i>	
3080			キシキヨトウ	<i>Dictyestra dissecta</i>	
3081			フタスジヨトウ	<i>Protomiselia bilinea</i>	
3082			フタオビキヨトウ	<i>Mythimna turca</i>	
3083			ナガフタオビキヨトウ	<i>M. divergens</i>	
3084			クロシタキヨトウ	<i>M. placida</i>	
3085			スジシロキヨトウ	<i>M. striata</i>	
3086			マメチャイロキヨトウ	<i>M. stollida</i>	
3087			アウヨトウ	<i>M. separata</i>	
3088			クサンロキヨトウ	<i>M. lorevi</i>	
3089			タマナヤガ	<i>Agrotis ipsilon</i>	
3090			カハラヤガ	<i>A. segetum</i>	
3091			モクメヤガ	<i>Axylia putris</i>	
3092			クロクモヤガ	<i>Hermonassa cecilia</i>	
3093			ウスイロカハシヤガ	<i>Sineugraphe bipartita</i>	
3094			オオカハシヤガ	<i>S. oceanica</i>	
3095			オオハコヤガ	<i>Diarsia canescens</i>	
3096			アカフヤガ	<i>D. pacifica</i>	
3097			マエキヤガ	<i>Xestia stupenda</i>	
3098			ウスチャヤガ	<i>X. dilatata</i>	
3099			キンタミドリヤガ	<i>X. efflorescens</i>	
3100			ハイイロキンシタヤガ	<i>X. semiherbida</i>	

表4-3 宇部市の昆虫目録(2022) (32/32)

NO.	目	科	和名	学名	備考
3101	チョウ(蝶)	セセリチョウ	アオハセセリ	<i>Choaspes beniaminii</i>	図-173
3102	5科81種		ダイミョウセセリ	<i>Daimio tethys</i>	
3103			ミヤマセセリ	<i>Ervnnis montana</i>	
3104			ホリハセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus</i>	
3105			コチャハネセセリ	<i>Thoressa varia</i>	
3106			クロセセリ	<i>Notocryota curvifascia</i>	図-174
3107			ヒメキマダラセセリ	<i>Ochlodes ochraceus</i>	図-175
3108			キマダラセセリ	<i>Potanthus flavus</i>	図-176
3109			オオチャハネセセリ	<i>Polvtremis pellucida</i>	
3110			チャハネセセリ	<i>Pelopidas mathias</i>	
3111			ミヤマチャハネセセリ	<i>P. iansonis</i>	EN 図-177
3112			イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata</i>	
3113			*ホソオチョウ	<i>Sericinus montela</i>	
3114			ジャコウアゲハ	<i>Atrophaneura alcinous</i>	図-178
3115		キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>	図-179	
3116		ナミアゲハ	<i>P. xuthus</i>		
3117		クロアゲハ	<i>P. protenor</i>	図-180	
3118		ナカサキアゲハ	<i>P. memnon</i>	図-181	
3119		モンキアゲハ	<i>P. helenus</i>	図-182	
3120		カラアゲハ	<i>P. dehaanii</i>	図-183	
3121		ミヤマカラアゲハ	<i>P. maackii</i>	図-184	
3122		アオスジアゲハ	<i>Graohium sarpedon</i>		
3123		ミカドアゲハ	<i>G. doson</i>	図-185	
3124		キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>		
3125		ツマクロキチョウ	<i>E. laeta</i>	VU 図-186	
3126		モンキチョウ	<i>Colias erate</i>		
3127		ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>	図-187	
3128		モンシロチョウ	<i>Pieris rapae</i>		
3129		スングロシロチョウ	<i>P. melete</i>	図-188	
3130		コイシジミ	<i>Taraka hamada</i>		
3131		ウラキシジミ	<i>Curetis acuta</i>		
3132		ムラサキツバメ	<i>Arhopala bazalus</i>	図-189	
3133		ムラサキシジミ	<i>Narathura iaponica</i>		
3134		ミスイロオナカシジミ	<i>Antigius attilia</i>	図-190	
3135		アカシジミ	<i>Japonica lutea</i>	図-191	
3136		ウラナミアカシジミ	<i>J. saepestriata</i>	図-192	
3137		トラフシジミ	<i>Rapala arata</i>	図-193	
3138		コツバメ	<i>Callophrys ferrea</i>		
3139		ヘニシジミ	<i>Lycaena phlaeas</i>		
3140		ウラナミシジミ	<i>Lampides boeticus</i>		
3141		ヤマシジミ	<i>Zizeeria maha</i>		
3142		シルビアシジミ	<i>Zizina emelina</i>	NT 図-194	
3143		ツバメシジミ	<i>Everes argiades</i>		
3144		ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus</i>		
3145		ヤクシマルリシジミ	<i>Acytolepis puspa</i>	図-195	
3146		サツマジシジミ	<i>Udara albocaerulea</i>		
3147		*クロマダラソテツシジミ	<i>Chilades pandava</i>	図-196	
3148		テンクチョウ	<i>Libythea lepita</i>		
3149		アサキマダラ	<i>Parantica sita</i>	図-197	
3150		ウラキンスシヒョウモン	<i>Arzronome laodice</i>	EN 図-198	
3151		オオウラキンスシヒョウモン	<i>A. ruslana</i>	NT 図-199	
3152		ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>		
3153		メスクロヒョウモン	<i>Damora sagana</i>		
3154		クモカダヒョウモン	<i>Nephargynnis anadvomene</i>	VU 図-200	
3155		ウラキヒョウモン	<i>Fabriciana adiope</i>	NT 図-201	
3156		ツマクロヒョウモン	<i>Arzvreus hyperbius</i>		
3157		イチモンジチョウ	<i>Ladoga camilla</i>		
3158		アサマイチモンジ	<i>Limenitis elorifica</i>	図-202	
3159		コミスジ	<i>Neptis sappho</i>		
3160		イシカケチョウ	<i>Cyrestis thvodamas</i>		
3161		スミナカシ	<i>Dichorragia nesimachus</i>		
3162		サカハチチョウ	<i>Araschnia bureiana</i>		
3163		キタテハ	<i>Polygona c-aureum</i>		
3164		ヒオトシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas</i>	図-203	
3165		ルリタテハ	<i>Kaniska canace</i>		
3166		アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>		
3167		ヒメアカタテハ	<i>V. cardui</i>		
3168		*ミスアカムラサキ	<i>Hypolimnas misippus</i>		
3169		*リュウキュウムラサキ	<i>H. bolina</i>	図-204	
3170		コムラサキ	<i>Apatura metis</i>	図-205	
3171		コマダラチョウ	<i>Hestina persimilis</i>	図-206	
3172		ヒメウラナミジャノメ	<i>Yothima argus</i>		
3173		ウラナミジャノメ	<i>Y. multistriata</i>	NT 図-207	
3174		ジャノメチョウ	<i>Minois drvas</i>		
3175		ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>		
3176		クロヒカゲ	<i>L. diana</i>		
3177		サトキマダラヒカゲ	<i>Neope goschkevitschii</i>		
3178		ヒメジャノメ	<i>Mvcalesis gotama</i>		
3179		コンヤノメ	<i>M. francisca</i>		
3180		*ウスイロノマチョウ	<i>Melanitis leda</i>		
3181		クロノマチョウ	<i>M. phedima</i>	図-208	

*偶産種

絶滅:EX、絶滅危惧 I A類:CR、絶滅危惧 I B類:EN、絶滅危惧 II類:VU、準絶滅危惧:NT、情報不足:DD

第5章 魚類

1. 調査概況

(1) 調査対象地域

調査は、図 5-1 に示す厚東川、大田川、雑佐川、甲山川、大坪川、善和川、真締川、塩田川、有帆川、今富川、小河内川、山根川、沢波川、江頭川、浜田川及び五反田川の 16 河川、合計 30 地点で実施した。河川ごとの概況は以下のとおりである。

厚東川は、中国山地の桂木山（720m）を源流とし、その流域延長が 59.9 km、流域面積が 399 km²と山口県で 3 番目に大きな河川である。当流域は宇部市のほぼ中央を縦断する形で周防灘へ注いでおり、上流域には秋吉台や秋芳洞を代表とする石灰岩台地を有し、水中のカルシウム濃度が高いことでも知られている。河口から約 16 km 上流には、総貯留量は 238 m³の堤体高 38.8m の多目的用途の厚東川ダム（小野湖）がある。また、厚東川ダム湖流入点（下小野地区）には、雑佐川と当河川の最大の支川である大田川が流入しており、宇部市はその一部が流域内にある。厚東川ダム下流には、甲山川、大坪川、善和川といった流域長が数キロから 10 km 程度の小河川が点在し、河口付近には改変が進んではいないものの、広大な砂～泥干潟が広がっている。

真締川は、宇部市で 2 番目に大きな 2 級河川であり、その流域延長が 8.3 km、流域面積が 18.8 km²である。源流は、宇部市内北方（男山）の霜降山（250m）とし、真締川ダム（未来湖）から宇部市街地（南小串付近）を経て周防灘へ流れている。河口は、小規模ながら砂～泥干潟が広がっている。

塩田川は、東梶返付近を源流とし、琴芝付近から真締川へと流入する 3 面コンクリート張りの典型的な都市河川の様相を呈している。

有帆川は、奥万倉付近を源流とし、流域長 31.8 km、流域面積 71.9km²の 2 級河川である。宇部市内の万倉、船木を南流して周防灘へ注ぐ。支川は、山根川、小河内川を含めていくつか点在しており、今富川上流には堤体高さ 35.3m の今富ダム（今富湖）が存在する。

沢波川は、流域長 4.9 km、流域面積 6.0km²であり、上請川を源流とし、西岐波地区を南流して床波から周防灘へと注ぐ 2 級河川である。大規模な河川改修が行われ生物相も貧弱であったが、近年では改修前の状況に戻りつつある。

江頭川は、流域長 2.3 km、流域面積 0.6km²であり、床波から周防灘へと注ぐ 2 級河川である。

浜田川は、宇部市管轄の準用河川であり、西岐波の佐名河内溜池より南流して白土海岸から周防灘へと注ぐ、流路延長 5.0 km と小規模な河川である。

五反田川は、宇部市管轄の準用河川であり、東岐波から周防灘へと注ぐ小規模な河川である。

(2) 調査期間

令和 2 年（2020 年）4 月～令和 4 年（2022 年）12 月

(3) 調査方法

魚種の確認は、直接捕獲（手網による徒手採取及び投網、刺し網）及び目視観察により行った。なお、河口域はアナジャコなどの巣穴を利用するハゼ類を確認するため、スコップまたはシャベルを使い、底泥（砂）を掘り返すことで在・不在を確認した。捕獲した魚は種の判別などを行ったのちに放流した。

また、捕獲、目視調査での見過ごし防止のため、河川水中に浮遊する魚の排泄物や粘液から抽出した DNA（環境 DNA：手法は Miya ら（2015）を参考とした）によるメタバーコーディング解析を今回の新たな試みとして行った。

(4) 保全すべきものの選定基準

対象種は、環境省レッドリスト（2020）及び山口県レッドリスト 2018・レッドデータブックやまぐち 2019 に従った。

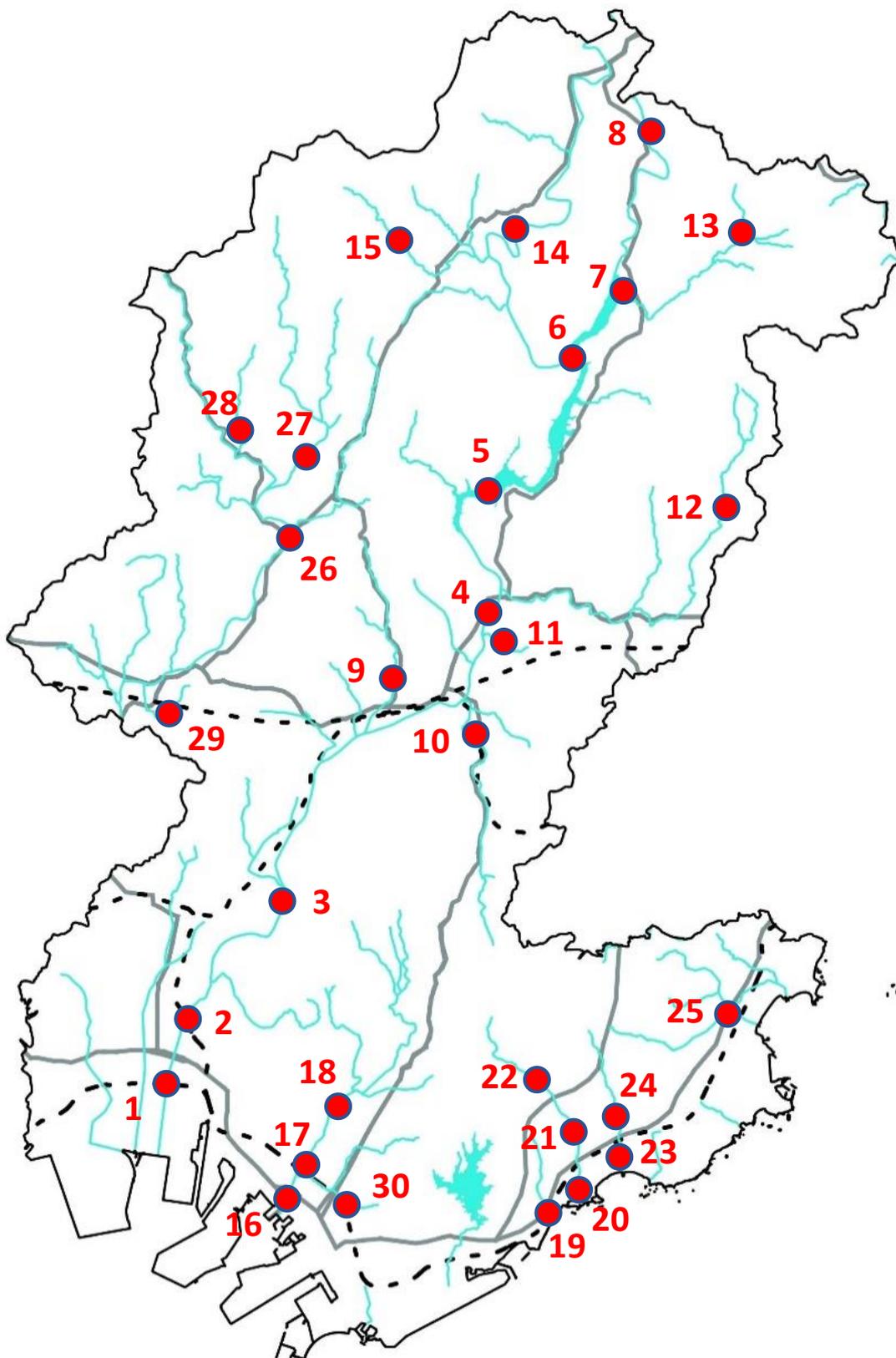


図 5-1 宇部市内の調査地点

厚東川水系：1～15、真締川：16～18、塩田川：29 有帆川水系：26～29、江頭川：19、
 沢波川：20～22、浜田川：23～24 及び五反田川：25

2. 魚類の概況

(1) 宇部市内の概況

主な出現種のうち、コイ科ではオイカワ、カワムツ、カマツカ、ハゼ科では、トウヨシノボリ、オオヨシノボリ、カワヨシノボリ、ゴクラクハゼなど主に河川の中流域に生息する種やダム湖、流入河川ではヌマチチブやワカサギなど止水域を好む種、下流域では、コイ、フナ類（オオキンブナもしくはギンブナ）、といった大型コイ科を中心に確認され、河口域では、マハゼ、ボラ、クロダイ、スズキであった。大局的には今までの調査結果とおおむね同じ傾向にあり、優占度の高い種については大きな変化はみられないようである。また、今回新たな確認手法として採用した環境 DNA 解析の結果、カジカ（大卵型か中卵型かは不明）、イシドジョウ、タイリクスズキの 3 種が新たに確認された。これまで捕獲、目視で見落とされていた種が宇部市内にも生息をしている可能性があることが明らかとなっている。

河川と海を回遊する両側回遊種は、アユやウナギ（ニホンウナギ）が各調査河川で確認されている。河口域では海域と主に河川感潮域を回遊するスズキやクロダイ、シマイサキ（幼魚）が確認され、さらに厚東川河口域の干潟には、トビハゼ、キセルハゼ、マサゴハゼ、タビラクチ及びチワラスボが確認された。真締川、沢波川、浜田川では、河口域でトビハゼが確認された。また、これらの河川では今回は発見に至らなかったが、アナジャコの巣穴も確認できたことから、厚東川で出現した汽水性のハゼ類が生息している可能性も考えられる。

外来種は、過去に確認されている種のうちでハクレン、コクレン及びソウギョは今回確認されなかった。本種らは中国大陸より厚東川ダム湖（小野湖）への放流実績があるものの、繁殖記録はないようである。これには国内で自然繁殖が確認されている利根川水系と比べるとはるかに流域が小さいこともあって、本水系では繁殖までには至っていない可能性が大きい。放流された個体群は半世紀以上が経過していることや新たな放流記録もない。補足的に行った環境 DNA による厚東川ダム湖内の調査でも、本種らを確認するまでには至らなかったことから、すでに個体群は消滅している可能性が大きいことが考えられる。小型のコイ科のうちで、ヤリタナゴやハス、ビワヒガイの 3 種も今回の調査では確認には至らなかった。生息地の荒廃などが理由と考えられるが、その詳細は不明である。

国内外来種は、これまでの記録上、主に厚東川ダム湖及びその周辺に偏在しており、今回の調査では、琵琶湖から移入されたワタカ、ゲンゴロウブナ及びワカサギが確認された。

環境省が指定する特定指定外来種は、オオクチバス（ブラックバス）、ブルーギル、カダヤシの 3 種、要生態系被害防止外来種は、カラドジョウ、タイリクスズキの 2 種確認されるに至った。タイリクスズキは、厚東川河口において環境 DNA より確認された種である。

以上のことから、宇部市内の概況として、河川、湖沼及び海域（汽水域）といった魚類にとって多様な生息環境を有していることもあり、魚類相も豊かであることも大きな特徴であった一方で、明らかに減少が目立つ種もあるため、今後を注視する必要があるだろう。

(2) 地域ごとの状況

(ア) 北部

北部は、主に厚東川ダム湖を中心に止水域、流水域に生息する種が多く生息していた。

厚東川ダム湖を挟んだ上流側では、オイカワ、カワムツ、ウグイを中心に流水域に生息する種が多く確認され、ダム湖内では、オオクチバス、ブルーギル、ワタカ、コイ、フナ類（オオキンブナまたはギンブナ）を中心とした止水域を主な生息場とする種で占められていた。流入河川である厚東川、大田川でウグイやワカサギの遡上が確認され、スナヤツメやオヤニラミ、ウナギも確認された。環境 DNA によって、カジカ、イシドジョウが新たに確認された。

有帆川上流では、カワムツ、カワヨシノボリ、タカハヤを中心とした種構成であった。

(イ) 南部

南部は、河川中流部から下流部及び汽水域（特に干潟を生息域とする）に出現する種が多く確認され

た。厚東川は、厚東川ダム湖下流（地点 4）にカワムツ、オイカワ、ヌマチチブ、トウヨシノボリ、コイを中心とした魚類相であった。その他、ニゴイ類（ニゴイもしくはコウライニゴイ）、ズナガニゴイ、アカザ（Clade2）、オヤニラミやナマズも確認された。季節的には、アユやウナギが確認され、アユは群れでの遡上が確認された。

厚東川河口に広がる干潟（地点 1、2）では、キセルハゼやトビハゼ、マサゴハゼ、タビラクチ、チワラズボの 5 種が確認された。

真締川（地点 20）では、カワムツやコイ、フナ類（種不明）が確認され、ミナミメダカ（放流情報があるため自然分布かは不明）が確認された。当河川河口域（地点 19）では、満潮時にボラ、マハゼ、クロダイといった種が確認され、干潮時はトビハゼ、チチブが確認された。

西岐波あたりは、中小河川が点在しており、沢波川、浜田川の中、上流域ではカワムツ、トウヨシノボリ、カワヨシノボリを中心に、河口付近では近隣の江頭川、浜田川も含めてトビハゼ、ミミズハゼ、チチブ、ボラといった種が確認された。五反田川（河口域の調査はなし）は、ウナギ、ヤマトシマドジョウ、メダカ（ミナミメダカ）が確認された。

表 5-1 厚東川水系の出現魚類

目	科	種名	地点番号																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
ヤツメウナギ*	ヤツメウナギ*	スナヤツメ				○													
ウナギ*	ウナギ*	ニホンウナギ			●	●		●		●								□	
コイ	コイ	コイ			□					□	□								
		ゲンゴロウブナ			●														
		フナ属の一種			●			●	●				□						
		アブラボテ										○							
		ワタカ				●		□	□										
		オイカワ			□	□	□	□	□	□	□							□	
		カワムツ					●			□		□	□	□	□	□	□	□	
		ウグイ					●			□	□							●	
		タカハヤ													□	□	□	□	
		ムギツク										○						□	
		ズナガニゴイ					□											□	
		コウライニゴイ					●											●	
		イトモロコ					□											□	
		カマツカ					□			□	□	□	□					□	
	ドジョウ	ドジョウ										○				○		○	
		カラドジョウ					●												
		イシドジョウ																●	
		ヤマトシマドジョウ					○											○	
ナマズ	ナマズ	ナマズ				○												○	
	ギギ	ギギ										○						○	
	アカザ	アカザ (Clade2)				□						●						○	
サケ	キュウリウオ	ワカサギ					●	●	○	●				○				○	
	アユ	アユ				□													
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ																	
ダツ	メダカ	メダカ (ミナミメダカ)					○												
		カダヤシ			○														
	サヨリ	クルマサヨリ	○																
ボラ	ボラ	ボラ	□	○															
スズキ	ケツギョ	オヤニラミ				○						○							
	スズキ	スズキ	○	○															
		タイリクスズキ	●	○															
		オヤニラミ				□													
	サンフィッシュ	オオクチバス					●	□											
		ブルーギル					●	●					○						
	タイ	クロダイ	□																
	シマイサキ	コトヒキ	○																
		シマイサキ	□																
	ドンコ	ドンコ		□	□	□						○					□	□	
	ハゼ	マハゼ	□																
		アシシロハゼ	○	○															
		マサゴハゼ		○															
		ビリンゴ		○															
		キセルハゼ	○																
		ウロハゼ	○																
		ゴクラクハゼ				□													
		カワヨシノボリ				○				□	□						□	□	
		シマヨシノボリ				○													
		オオヨシノボリ																○	
		トウヨシノボリ				○													
		ヨシノボリ属の一種				□					□	□	□					□	
		チワラスボ	○																
		チチブ	□	□															
		ヌマチチブ			○	□				□	□							□	
		ウキゴリ				○													
		トビバゼ	○	○															
		タビラクチ		○															
	カジカ	カジカ (種群)																●	
			14	11	7	25	8	8	8	8	14	6	3	3	3	3	4	18	6

凡例：○捕獲調査、●環境 DNA、□捕獲、環境 DNA 両方で確認

表 5-2 真締川、江頭川、沢波川、浜田川及び五反田川の出現魚類

目	科	種名	地点番号										
			16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ		●	●		●	●				●	○
コイ	コイ	コイ			□							□	□
		フナ属の一種			○								
		オイカワ											□
		カワムツ			□			□	□				□
		ムギツク								□			
	ドジョウ	ヤマトシマドジョウ										□	
	アユ	アユ			□								
ダツ	メダカ	メダカ (ミナミメダカ)											□
ボラ	ボラ	ボラ				□	□				□		
スズキ	タイワンドジョウ	カムルチー											●
	サンフィッシュ	ブルーギル			□							●	
	タイ	クロダイ	●	●		□							
		ドンコ			□		□	□					
		ハゼ	マハゼ	○	●								
			カワヨシノボリ		□	□				□			
			トウヨシノボリ							○			
			ヨシノボリ属の一種						□	□			
			チチブ	□	□						□		
			ヌマチチブ			○							□
			ウキゴリ		○								
			ミミズハゼ	○	○						○		
			シロウオ		○								
		トビバゼ	○	□		○	○				○		
フグ	フグ	クサフグ	○										
			6	9	9	3	4	4	5	4	3	8	

凡例：○捕獲調査、●環境 DNA、□捕獲、環境 DNA 両方で確認

表 5-3 有帆川水系の出現魚類

目	科	種名	地点番号					
			26	27	28	29	30	
ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	●		●	●		
コイ	コイ	コイ	□				□	
		オイカワ	□					
		カワムツ	□	□	□	□		
		タカハヤ		□				
		ムギツク				□		
		イトモロコ	□					
		カマツカ	□					
			ドジョウ	ドジョウ			□	○
				カラドジョウ	○			
				ヤマトシマドジョウ				○
ナマズ	ナマズ	ナマズ			□	○		
	アカザ	アカザ (Clade2)		□				
ダツ	メダカ	メダカ (ミナミメダカ)		○				
	サンフィッシュ	ブルーギル	●	●		○		
		ドンコ	□	□		□		
	ハゼ	ゴクラクハゼ				○		
		カワヨシノボリ	○					
		シマヨシノボリ	○					
		トウヨシノボリ	○					
		ヨシノボリ属の一種	□					
		ヌマチチブ	□					
			14	6	4	8	2	

凡例：○捕獲調査、●環境 DNA、□捕獲、環境 DNA 両方で確認

(3) 保全すべき対象種及び地域の一覧

今回の調査結果から、表 5-4 に示す保全すべき対象種をとりまとめた。図 5-2～3 に保全対象種が多く生息する地域を重点保全地域としてゾーニングを行った。

対象種は、環境省及び山口県のレッドリストを参考に 25 種選定した。保全するべき理由としては生息地の荒廃や個体数の減少が主な理由である。また、対象種が生息している厚東川ダムとその周辺域、厚東川、真締川河口干潟及び江頭川、沢波川、浜田川河口を重要地域として記載している。

保全すべき対象種うちで、ウナギは環境 DNA 調査を踏まえると、広域に生息する可能性が高い。イシドジョウやカジカ（型不明）は環境 DNA による確認であるため、捕獲確認が必要であるものの、個体数は多くないことが想定される。また、ワタカは、国内外来種ではあるものの、全国的にみても生息数を減らしており、数少ない生息地のひとつである厚東川ダムでも 1990 年代よりも明らかに個体数が少ない。在来種では、ドジョウ類（ヤマトシマドジョウ、ドジョウ）やズナガニゴイ、イトモロコ、ムギツクの入網数が 1990 年度と比べて少ない。減少した理由は不明であるが、近年ではその姿をみるのが難しくなっていることは間違いない。厚東川や真締川河口は、規模は小さいながら湿地や干潟が良く残されている。ハゼ類（キセルハゼ、マサゴハゼ及びタビラクチなど）は、干潟を生活場として利用することから、その維持には継続的な保全が必要である。

表 5-4 保全すべき対象種

No.	種名	RDB 区分		保全するべき理由
		国	県	
1	スナヤツメ	VU	CR	元々の生息数が少ない。
2	ウナギ(ニホンウナギ)	EN	VU	捕獲圧や生息地の荒廃による。
3	ゲンゴロウブナ	EN		生息地の荒廃が影響する可能性。
4	アブラボテ	NT	VU	繁殖に必要な二枚貝が著しく減少。
5	ワタカ	CR		全国的に減少傾向にある。
6	ズナガニゴイ		CR	生息密度が小さくなっている。
7	イトモロコ		NT	生息密度が小さくなっている。
8	ゼゼラ	VU		生息密度が小さくなっている。
9	ドジョウ	NT	EN	生息地の荒廃や外来ドジョウとの交雑。
10	シマドジョウ種群			生息密度が小さくなっている。
11	イシドジョウ*	EN		生息地の荒廃。*環境 DNA による確認種
12	ナマズ		EN	生息地の荒廃。
13	アカザ (Clade2)	VU	EN	生息地の荒廃やマニアによる採集圧。
14	ワカサギ		DD	生息地の荒廃。
15	クルメサヨリ	NT		生息地の荒廃。
16	オヤニラミ	EN	EN	生息地の荒廃やマニアによる採集圧。
17	マサゴハゼ	VU		生息地が限定。改変による影響の恐れ。
18	ビリンゴ		DD	生息地の荒廃。
19	キセルハゼ	EN		生息地が限定。改変による影響の恐れ。
20	オオヨシノボリ		NT	生息地の荒廃。
21	ウキゴリ		DD	生息地の荒廃。
22	シロウオ	VU	NT	生息地の荒廃。
23	チワラスボ	EN		生息地限定。改変による影響の恐れ。
24	タビラクチ	EN		生息地限定。改変による影響の恐れ。
25	カジカ*	EN		生息数は少ないと想定。*環境 DNA による確認

厚東川ダム湖・小野湖（東吉部：地点14）



厚東川ダム湖・小野湖（小野：地点6）



小河内川（奥万倉：地点6）



厚東川（瓜生野：地点4）

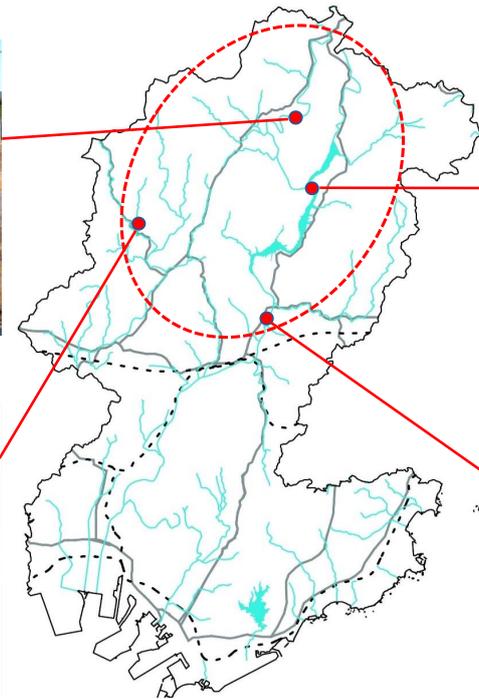


図 5-2 保全すべき地域のゾーニングマップ（宇部市北部）

厚東川川河口（沖の旦付近：地点2）



浜田川河口（白土：地点23）



厚東川川河口（厚東川大橋付近：地点1）



真締川河口（南小串：地点19）

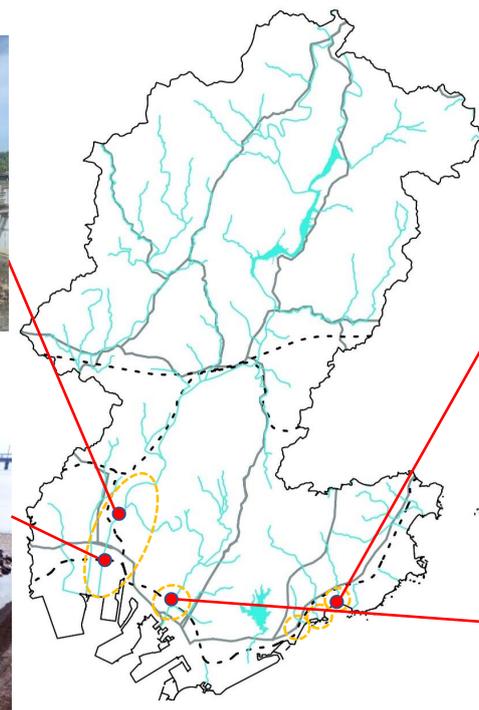


図 5-3 保全すべき地域のゾーニングマップ（宇部市南部・主には河口干潟域）

(4) 宇部市内での生息の可能性が小さい種

今回の調査結果や過去の状況を踏まえて、宇部市内には生息している可能性が小さい種を表 5-5 に示した。放流記録から相当年数が経過していること、聞き取り情報や環境 DNA 調査からも生息痕跡が発見できなかったことを選定理由とした。

表 5-5 生息の可能性が小さい種

No.	種名	理由
1	ハクレン・コクレン	放流記録から相当年数が経過。 環境 DNA による調査でも未確認。
2	ソウギョ	放流記録から相当年数が経過。 環境 DNA による調査でも未確認。
3	タナゴ類（アブラボテ、タイリクバラタナゴを除く）	かつての生息地に繁殖に必要な二枚貝が確認されないことや生息地の荒廃。

(5) 宇部市内で確認される外来種（国内外来種を含む）

今回の調査結果や過去の実績を踏まえて、生息している（過去も含む）外来 19 種を表 5-6 に示した。主たる生息場は、厚東川ダム湖及び厚東川水系であり、そのほとんどは琵琶湖から種苗放流の際に混在していたものが由来となっている。今回の調査では、琵琶湖から移入されたワタカ、ゲンゴロウブナが確認された一方で、ホンモロコ、ゼゼラは今回の調査では確認できなかった（環境 DNA でも未確認）。ホンモロコ、ゼゼラは、1990 年代後半まで厚東川ダム湖沿岸（上小野付近）、ダム流入河川の雑佐川及び大田川で釣りや目視、捕獲調査でもよく確認できた。ワタカも多産種の一つであったが、入網数が少なく数を減らしているようである。また、ビワヒガイやハスは厚東川ダム湖とダム下流などに生息していたようであるが、今回は発見に至らなかった（環境 DNA でも未確認）。

表 5-6 宇部市で確認された外来種一覧

No.	種名	種の概要
1	オオクチバス	特定外来生物
2	ブルーギル	特定外来生物
3	カダヤシ*	特定外来生物 *環境 DNA による確認
4	カムルチー	中国大陸から移入
5	カラドジョウ	生態系被害防止外来種
6	タイリクスズキ	生態系被害防止外来種
8	ワタカ	琵琶湖からの移入
7	ハス	琵琶湖からの移入
8	アブラハヤ	琵琶湖からの移入
9	ビワヒガイ	琵琶湖からの移入
10	ホンモロコ	琵琶湖からの移入
11	ゼゼラ	記録上は琵琶湖より移入とされる
12	スゴモロコ	琵琶湖からの移入
13	オオガタスジシマドジョウ	琵琶湖からの移入
11	ハクレン	中国大陸から移入
12	コクレン	中国大陸から移入
13	ソウギョ	中国大陸から移入
14	カネヒラ	琵琶湖からの移入

15	タイリクバラタナゴ	琵琶湖からの移入
16	イチモンジタナゴ	琵琶湖からの移入
17	ゲンゴロウブナ	琵琶湖からの移入
18	コイ	中国大陸から移入
19	ワカサギ	琵琶湖からの移入

3. まとめ

今回の調査結果から、元々生息数が多い種については大局的にみても大きな変化はみられないものと考えられ、スナヤツメやアカザ、ウナギ、オヤニラミといった他県では希少となった種類が宇部市内で確認されたこと、環境 DNA による結果ではあるがカジカ（大卵型か中卵型かは不明）、イシドジョウが新たに確認されたことは特筆に値するであろう。今回、新たに試みた環境 DNA 分析は、水中に漂う魚から排出された糞や粘液由来の DNA から魚種の判別を行う手法であり、これまで捕獲や目視だよりの調査で見落とされていた種の発見に対して、非常に有用なツールとなりえるため、今後も積極的に運用をするべきである。

一方で、かつて多くの個体が確認されていたズナガニゴイやイトモロコ、ムギツクといった小型のコイ科魚類の捕獲数が少なくなっているほか、ドジョウ類は 1990 年代と比べると明らかに個体数が減っているようである。厚東川ダム湖では、かつて、ホンモロコやゼゼラ、ワタカなどが群れをなして接岸する姿が見られたが、今回の調査ではほとんど魚影をみることができなくなり、こちらも数が減っているものと推察される。

また、タナゴ類はアブラボテ除いて確認することができなかった。かつては繁殖に必要な二枚貝（イシガイ類）の確認できたにも関わらず、今回調査を行った河川のほとんどで確認ができなかった。減少に至った原因は不明であるが、今後の留意点として記録に残しておきたいと考えている。

これまでの調査では河口干潟の情報が少なかったが、厚東川河口は、工業地帯に面していることもあって改変が随分進んではいるものの、ヨシ原湿地や干潟が比較的良好に残されており、トビハゼやキセルハゼ、マサゴハゼ、タビラクチなどが今回当地で確認されるに至ったことは自然がまだまだ残されている証拠といえる。また、真締川や江頭川、沢波川、浜田川では、小規模ながら干潟が存在しており、こちらでもトビハゼが確認されることや、アナジャコなどの巣穴が無数に存在することから、共生関係にあるハゼ類が今後発見されるかもしれない。

参考文献

- 青柳兵司, 1957. 日本列島淡水魚総説, 272pp. 大修館. 東京.
- 荒井克俊, 魚類の染色体異変とその遺伝資源としての利用, 水産育種 (24) : 3-20.
- 道津喜衛, ミミズハゼ類の生息史覚書. 淡水魚 (5), 8 : 80-84.
- 藤岡豊, 1969. 厚東川の魚類. 山口大学教育学部研究論叢, 10 : 97-107.
- 藤岡豊, 1977. 山口県におけるシマドジョウ属の分布. 山口大学教育学部研究論叢, 26 : 213-216.
- 藤岡豊, 1978. 山口県におけるシマドジョウ属について, 淡水魚, 4 : 110-114
- 藤岡豊, 1991. 山口のさかな. 153pp. 藤岡豊教授退官記念事業会, 山口.
- 藤岡豊, 片山正夫, 1977. 山口県の淡水魚類および瀬戸内海産魚類の追補, 山口大学教育学部図書委員会 編 (26), 203-211.
- 後藤晃, 塚本勝巳, 前川光司 (編), 1994. 川と海を回遊する淡水魚-生活史と進化-. 279pp. 自然環境研究センター, 東京.
- 畑間俊弘, 2006. 山口県におけるオオクチバス生息状況 (4), 129-134.
- 畑間俊弘, 大橋裕. 2009. 山口県の内水面における魚類及び十脚甲殻類の分布 (1), 山口県水産研究センター研究報告 (7), 19-61.
- 星野和夫, 松尾敏夫, 細谷和海, 1996. 九州におけるアカザの分布. 魚類学雑誌, 43 : 105-108.

- 環境省, 2020, レッドリスト, 汽水淡水魚類.
- 片山正夫, 藤岡豊, 1971. 山口県の淡水魚類, 山口大学教育学部論叢, 21 : 73-97.
- Kitagawa, T., M. Watanabe, T. Kobayashi, M. Yoshioka, M. Kashiwagi and T. Okazaki, 2001. Two genetically divergent group in the Japanese spind loach *Gobitis takatsuensis* and their phylogenetic relationships among Japanese *Gobitis* inferred from mitochondrial DNA analysis. *Zoo, Sci.*, 18 : 249-259.
- 児玉伊知郎, 友田郁夫, 荻山友貴, 寺田弘信, 安田沙織, 金子亜由美, 木村由紀代, 三木洋美, 猶比呂子, 猶朋美, 1999a. 山口県内のメダカ (*Olyzias latipes*) とカダヤシ (*Gumbusia affinis*) の分布状況. *山口生物*, 26 : 39-44.
- Nakagawa, H., S. Seki, T. Ishikawa and K. Watanabe. 2015. Genetic population structure of the Japanese torrent catfish *Liobagrus reinii* (Amblycipitidae) inferred from mitochondrial cytochrome b variations. *Ichthyol. Res.* 63. 333-346.
- M. Miya, Y.Sato, T.Fukunaga, T.Sado, J. Y. Poulsen, K.Sato, T. Minamoto, S. Yamamoto, H.Yamanaka, H.Araki, M. Kondoh, and W. Iwasak, 2015. MiFish, a set of universalPCR primers for metabarcoding environmental DNA from fishes: detection of morethan 230 subtropicalmarine species. <https://doi.org/10.1098/rsos.150088>.
- 本村浩之, 2020. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 560pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Tsukagoshi H., Sakai K., Yamamoto K. and Goto A, 2013. Non-indigenous amphidromous sculpin *Cottus pollux* small-egg type (Teleostei: Cottidae) detected in rivers entering the Sea of Japan off Honshu Island, Japan. *Ichthyol. Res.*, 60:93-97.
- 酒井治己, 横山智哉, 酒井康司, 松本聡司, 久保田善二郎, 1989. 山口県蓋の井川産イシドジョウの生活史特性. *日本生物地理学会会報*, 44: 39-47.
- 酒井治己, 伊藤大樹, 渡辺智久, 出射邦明, 伊藤行政, 松原創, 高木基裕, 池田至, 1999. 山口県における淡水産ハゼ科魚類の分布. *水産大学校研究報告*, 48 : 49-56.
- 山口県, 2018. レッドリスト, 淡水魚類.
- 山口県, 2016. 山口県外来種リスト.
- 吉郷英範, 2010. 広島県におけるカジカ種群(硬骨魚類綱スズキ目カジカ科)の形態と分布. *比和科学博物館研究報告* 第 51 号.



カマツカ 体長45mm 厚東川



カワムツ 体長122mm 大田川



オオクチバス 体長162mm 厚東川ダム



ドジョウ 体長46mm 真締川



キセルハゼ 体長31mm 厚東川河口



ヒモハゼ 体長42mm 厚東川河口



チチブ 体長58mm 浜田川河口



トビハゼ 体長約50mm 真締川河口

写真 5-1 主な確認種

第6章 鳥類

1. 調査概況

(1) 調査対象地域

宇部市全域を対象に鳥類について分布状況を調査した。

現地調査においては2020年には旧宇部市域の北部、中部、東部の3地域を、2021年には旧楠町北部、西部、南部の3地域を対象に、それぞれ1年間で調査した。

(2) 調査期間

現地調査： 2020年4月から2021年3月

現地調査の実施時期は繁殖期、秋の渡り期、越冬期を考慮して5月、6月、9月、10月、12月及び翌年の1月の各月1回調査を行うことを原則とした。調査地点及びコースを図6-1に示す。

既存資料調査：2022年4月から10月

1996年からの宇部市内の調査記録や観察記録を整理し、宇部市の鳥類目録としてまとめた(表6-3参照)。

(3) 調査方法

宇部市内の地域ごとに観察コースを設定し、10倍の双眼鏡と30倍のフィールドスコープを使用し、ラインセンサス法により目視及び鳴き声により観察された鳥類を記録した。また、地域によっては観察定点を設定した上、ポイントセンサス法及び標識調査も併用した。

ラインセンサス法

全長2kmの調査定線(以下調査コースという)を設け、この調査コース上を時速1.5~2kmの速さで歩き、調査コースの左右それぞれ50m以内の区域で確認した鳥類(姿の確認、鳴き声のみの確認も含む)の種類を出現順に種名、個体数、繁殖の可能性や植生その他観察時の行動を調査野帳に記録する。

ポイントセンサス法

調査区域内の見通しのよい場所に観察地点を設け、30分間の定点調査を行い、目視または鳴き声によって観察された鳥類(姿の確認、鳴き声のみの確認も含む)の種類を出現順に種名、個体数、繁殖の可能性や植生その他観察時の行動を調査野帳に記録する。

標識調査

有資格者が網や罟を用いて野鳥を捕獲(捕獲後は足輪を付け放鳥)

(4) 希少種の選定基準

宇部市で記録されている種の中から、次の選定要件に該当するものとした。

- ① 国、県、市町村指定の天然記念物
- ② 「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック鳥類」(2022 環境省)掲載種
- ③ 「レッドデータやまぐち—山口県の絶滅のおそれのある野生生物」(2018年山口県)の掲載種



図 6-1 調査地点の一覧 ●ポイントセンサス法 —ラインセンサス法 ●B 標識調査

2. 鳥類の概況

(1) 宇部市における鳥類の概況

本州の最西端山口県の南西部に位置する宇部市は、瀬戸内海の周防灘に面し宇部岬という地名があるように一部が海に張り出している。そのため、本州と九州や四国を往来する野鳥や、海岸沿いを移動する野鳥が多く通過していると考えられ、これまでに 262 種類（宇部自然環境調査報告書 宇部市 2004 年）の野鳥が記録されている。

南北に細長い宇部市は、2004 年（平成 16 年）に厚狭郡楠町と合併し、北部の荒滝山（標高 459 m）が最高峰となり、400m前後の山地が広がる北西部と北東部の平原岳（標高 395.1m）に続くため、北部には豊かな照葉樹林が広がる山地が大きく占めている。

宇部市を流れる主な河川は、北部の美祢市秋吉台から流れ出て、市のほぼ中心を流れる 2 級河川の厚東川、美祢市伊佐町奥万倉から流れ出て、万倉地区、舟木地区を南流する 2 級河川の有帆川、霜降山山系男山から流れ出る 2 級河川の真締川がある。厚東川と真締川は宇部市の丘陵地帯から平地を流れ周防灘に注ぐが、河口部のほとんどが埋め立てられ人工護岸に代わり工場地帯や空港エリアとなっているが、南東部の一部には貴重な自然海岸と海岸林が僅かに残っている。

今回の調査では南西部の厚東川河口から西沖の山での調査は行わなかった。かつては干拓地が広がり、ヨシ原や草地を代表とする植生が豊かで、広大なヨシ原は多くの野鳥が生息し、採餌、休息、繁殖や埒などに利用され、数多くの野鳥が記録され、貴重な鳥類の繁殖記録もあったが、このような場所は開発圧力が強く、十数年で環境が大きく変わり、立ち入り禁止区などにより調査が困難となった。しかし、厚東川河口には干潟が広がり、干拓地のヨシ原は断片的に残り、大きく環境が変化する中でも鳥たちにとって宇部市の南西部、山陽小野田市、下関市は本州から九州に渡る移動ルートの一の要所となっているため、厚東川河口周辺、西沖の山の自然環境は貴重である。

(2) 地域ごとの状況

2020 年度～2021 年度に行った現地調査の結果、現地調査全体で確認された鳥類は 15 目 44 科 130 種であった(表 6-1)。以降のページに宇部市を自然環境の特徴から大きく北部、中部、南部に分け、各地域の特徴と現地調査の結果を記す。

表 6-1 (1/2) 鳥類確認状況の一覧

No	目	科	種名	調査地	小野湖L	品地P	穂小野P	浅地L	今小野L	今小野P	男山P	真綿川ダムP	柏原L	坂波L	黒五郎L	小河内L	霜降山L	白土L	銭ヶ原L	日の山L	小野標識	合計
1	キジ	キジ	ヤマドリ													2						2
2			キジ						5		9	1	1		5		1	5			3	30
3	カモ	カモ	ツクシガモ											8								8
4			オンドリ		298	291		29	161	41			43			71	7					941
5			オカヨシガモ						69			38					7					114
6			ヨシガモ			23			21			21										65
7			ヒドリガモ			24			11			29		47				41				152
8			マガモ		249			2	27			15	1	62				38				394
9			カルガモ		159	16	11		7	1		25	2	5	2	2		6		2		238
10			オナガガモ											5				3				8
11			トモエガモ			6			335	60												401
12			コガモ			11	18							13								42
13			ホシハジロ		43	36			40				1									120
14			キンクロハジロ		33	5			7			10						8				63
15			ウミアイサ											7				3				10
16	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ		25	16	8	1	12	7		30	1						1			101
17			カンムリカイツブリ		1													2				3
18	ハト	ハト	キジバト		24	8	15	4	14	3	8	5	13	2	30	20	11	5	4	16		182
19			アオバト		31	27	2		6				5		4	6	1		12			94
20	カツオドリ	ウ	カワウ		46	4			4			2	1	15		6		1	4	7		90
21	ベリカン	サギ	ゴイサギ																		2	2
22			アマサギ											1				1				2
23			アオサギ		8	2	4		7	1		4	3	36	1	2		29	4	1		102
24			ダイサギ		14	4	6	2	2			1	3	29	3	2		8	10	11		95
25			チュウサギ											2				1				3
26			コサギ		2									4				12				18
27			カラシラサギ											1								1
28		トキ	クロツラヘラサギ											1								1
29	ツル	クイナ	クイナ										2									2
30			ヒクイナ						1						1							2
31			オオバン			8			6			85										99
32	カッコウ	カッコウ	ホトトギス		5	2	2	5	1	1	2	1	1	1	1	1	1		4	2		30
33			ツツドリ													1						1
34	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ																		1	1
35	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ														2					2
36	チドリ	チドリ	ダイゼン															4				4
37			コチドリ											1				3				4
38			シロチドリ											75				20				95
39			メダイチドリ															1				1
40		ミヤコドリ	ミヤコドリ															1				1
41		シギ	アオシギ				1															1
42			チュウシャクシギ											31				6				37
43			アオアシシギ											10								10
44			キアシシギ															2				2
45			イソシギ		1																	1
46			キョウジョシギ															6				6
47			オバシギ											5								5
48			トウネン											45								45
49			ハマシギ											392				326				718
50		カモメ	ユリカモメ															252				252
51			ウミネコ											72				533				605
52			セグロカモメ											18				68				86
53			オオセグロカモメ															6				6
54	タカ	ミサゴ	ミサゴ		4									8	2		4	3	2	3		26
55		タカ	ハチクマ								1				1							2
56			トビ		15		1		1		2	2	3	12		1		7	3	5		52
57			ハイタカ								1			1			1					3
58			オオタカ			1		1			1											3
59			サンバ			1									1							2
60			ノスリ		1	1	1	1	3	1	4		1				1		2			16
61			コノハズク																		2	2
62			フクロウ														1					1
63	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン				1															1
64			カワセミ		11	2	1	1	1			2	1	1		1			3	2		26
65		ブッポウソウ	ブッポウソウ																1		5	6

表 6-1 (2/2) 鳥類確認状況の一覧

No	目	科	種名	調査地	小野湖L	品地P	稔小野P	浅地L	今小野L	今小野P	男山P	真綿川ダムP	柏原L	坂波L	黒五郎L	小河内L	霜降山L	白土L	銭ヶ原L	日の山L	小野標識	合計
66	キツツキ	キツツキ	コゲラ		32	4	5	9	4	2	7	5	7	1	20	15	35		5	14		165
67			アオガラ		11	3	1			2	8	3	3		9	1	6		1	1		49
68	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		10	8	3		9	3	1	3	2	1	12	11	18			17		98
69		カササギヒタキ	サンコウチョウ						3	1			1				2					7
70		モズ	モズ		3	1	1	6	4			4	8	1	3	3		1	5	4		44
71		カラス	カケス				1			1					12	2					1	17
72			ハシボソガラス		2	1		1	8			12	12	122	6	9	1	37	18	10		239
73			ハシブトガラス		41	14	6	9	42	6	8	12	25	45	13	23	23	13	13	24		317
74		キクイタダキ	キクイタダキ		1										3	4	1			3		12
75		シジュウカラ	ヤマガラ		65	9	8	14	11	10	13	4	28		33	39	37		19	29		319
76			シジュウカラ		16	1	2	5	5	5	3	4	9	2	32	49	27		4	21		185
77		ヒバリ	ヒバリ						2				1	1				3		2		9
78		ツバメ	ショウドウツバメ					1			2									8		11
79			ツバメ		14	7	4	16	15	2		8	40	9	32	11	1	2	4	16		181
80			コシアカツバメ		5						2						10			3		44
81			イワツバメ														2					2
82		ヒヨドリ	ヒヨドリ		114	27	48	57	100	32	310	34	135	17	164	142	171	15	101	101		1568
83		ウグイス	ウグイス		49	8	13	9	24	5	2	10	36	9	61	42	75	5	9	38		395
84			ヤブサメ		1								3		6	3	2		2			17
85		エナガ	エナガ		37		8	13	19	5	31	5	10		28	36	75		17	3		287
86		ムシクイ	ムジセッカ																	1		1
87			オオムシクイ												1		1					2
88			メボソムシクイ																		4	4
89			エゾムシクイ																		1	1
90			センダイムシクイ					1		1			2		4	5						13
91	メジロ	メジロ	メジロ		99	9	13	40	15	6	47	11	43	21	51	63	319	9	62	230	1	1039
92	コヨシキリ	コヨシキリ	コヨシキリ																		1	1
93	セッカ	セッカ	セッカ										1									1
94	ミソサザイ	ミソサザイ	ミソサザイ								1										5	6
95	ムクドリ	ムクドリ	ムクドリ											5				57		3		65
96	ヒタキ	クロツグミ	クロツグミ														8				3	11
97		マミチャジナイ	マミチャジナイ													3						3
98		シロハラ	シロハラ		8	2	1	4	3	1	6	4	4		12	22	33		14	11		125
99		ツグミ	ツグミ								3	8	3	2	1		7	1		5		30
100		ノゴマ	ノゴマ																		58	58
101		ルリビタキ	ルリビタキ					3			2					4	13		6	5	10	43
102		ジョウビタキ	ジョウビタキ		10	1	3	4	7		3	4	6	2	3	8	1	3	4	14		73
103		ノビタキ	ノビタキ					1	3				1								1	6
104		インビヨドリ	インビヨドリ											2				2				4
105		エゾビタキ	エゾビタキ																4			4
106		サメビタキ	サメビタキ														1			1		2
107		コサメビタキ	コサメビタキ			1					1				2		4		3	1	1	13
108		キビタキ	キビタキ		22	3	2	4	3	1	1	1	8		11	9	12		2	6		85
109		オオルリ	オオルリ		1				1				1			2	4					9
110	スズメ	スズメ	スズメ		2		1	21	103		58	20	25	13	6	8	2	51	40	58		408
111	セキレイ	セキレイ	セキレイ			1	4	3	7				3		3	6			2		2	31
112		ハクセキレイ	ハクセキレイ				1	1			1	1		4	2	2		9	2	2		25
113		セグロセキレイ	セグロセキレイ		6	1	2		11			2	7	1	1	1		16	3	5		56
114		ビンズイ	ビンズイ														1			1		2
115	アトリ	アトリ	アトリ			400		85				15			13	40	12			15	6	586
116		カワラヒワ	カワラヒワ		17	21	9	7	51	17	7	26	51	7	34	45	13	5	12	32		354
117		マヒワ	マヒワ				2	30			101	5				8	10					156
118		ベニマシコ	ベニマシコ		1								2		5							14
119		シメ	シメ								1									2		3
120		イカル	イカル		1		4	3	1	1												10
121	ホオジロ	ホオジロ	ホオジロ		2	4	5	16	39	3	11	12	38	4	76	43	29	2	14	35		333
122		カシラダカ	カシラダカ				2		1											1	77	81
123		ミヤマホオジロ	ミヤマホオジロ		1			9	2		7			3	10	15	4			5		56
124		ノゾコ	ノゾコ																		1	1
125		アオジ	アオジ		52	1	3	8	7		5		14	2	12	21	5		11	7		148
126		クロジ	クロジ		19								2			1						22
129	スズメ	チメドリ	ガビチョウ (外来種)													1						1
128	ハト	ハト	カワラバト (外来種)											6			8			2		16
127	キジ	キジ	コジュケイ (外来種)		3				1	2	3	5			6	2	2		3	1		28
130	ソウシチョウ	ソウシチョウ	ソウシチョウ (外来種)		35				1	1			18				22		8		1	86

(ア) 北部地域

荒滝山、平原岳、小野湖、今富ダムなどがあり、深い山々を豊かな照葉樹林が覆い、厚東川ダム、今富ダム、有帆川上流域や数多くのため池が存在し、森と水がつくる豊かな自然環境が見られる。小野周辺はコバノミツバツツジ・アカマツ群落を主体に、スギ・ヒノキ・サワラ植林、シイ・カシ萌芽林、一部竹林からなり豊かな樹林をつくり、ダム湖の湿地を含め野鳥をはじめ多くの生き物の生息に適した環境を残している。春から夏にかけてはヤマガラやメジロ、ウグイスなどの留鳥や、サンコウチョウ、オオルリ、キビタキなどの夏鳥が繁殖し、秋から冬にかけて小野湖に越冬のため飛来する約 1500 羽のオシドリを初め、近年、3000 羽～4000 羽のトモエガモの飛来もあり自然の豊かさを示している。山間の林や農耕地にはカシラダカ、ミヤマホオジロなど多くの冬鳥が飛来するが、不耕作地も増加することで鳥類の生息状況にも変化が見られるが、豊かな森と山間の湖沼が作り出す自然度の高い環境が北部の特徴と言える。

2020 年から 2022 年にかけて、ラインセンサス 7 カ所、ポイントセンサス 3 カ所を設定し調査を行った。2020 年度には小野湖周辺にて鳥類標識調査も随時行った。以下にその結果を記す。

① L-2 小野湖上流域西岸（下小野橋～渡瀬橋）

27 科 50 種を記録した。

主な観察種はヒヨドリ、メジロ、ヤマガラ、オシドリ、マガモであった。

希少種としてはオシドリ、カイツブリ、ミサゴ、ノスリ、サンショウクイ、オオルリ、クロジが観察された。

繁殖に関する情報はコシアカツバメ、ヤマガラの 2 種 2 例の観察記録が得られた。

囀りなどから繁殖の可能性のある種は、キジバト、アオバト、アオゲラ、ホトトギス、ウグイス、ヤブサメ、メジロ、シジュウカラ、ヤマガラ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイなどである。

② P-3（小野 品地 溜池）

22 科 42 種を記録した。

主な観察種はヒヨドリ、カワラヒワ、オシドリ、アトリ、アオバトであった。

希少種としては、トモエガモ、オシドリ、ヨシガモ、カイツブリ、オオバン、ミサゴ、サシバ、サンショウクイが観察された。

繁殖に関する情報はカイツブリ 3 例の観察記録が得られた。

囀りなどから繁殖の可能性のある種は、キジバト、ホトトギス、アオゲラ、ヤマガラ、ウグイス、メジロ、キビタキ、カワラヒワ、ホオジロなどである。

③ P-2（小野 榎小野 溜池）

23 科 39 種を記録した。

主な観察種はヒヨドリ、キジバト、ウグイス、メジロ、コガモであった。

希少種としてはアカショウビン、カイツブリ、サンショウクイが観察された。

繁殖に関する観察情報は得られなかったが、囀りなどから繁殖の可能性のある種は、カイツブリ、キジバト、アオゲラ、ホトトギス、ウグイス、メジロ、ヤマガラ、キビタキ、カワラヒワ、ホオジロなどである。

④ L-4（藤ヶ瀬～黒五郎コース）

9 目 25 科 45 種を記録した。

主に林縁沿いを歩くコースで標高 210m～300m である。コース上には照葉樹林や針葉樹林、棚田や草地など多様な環境が存在する。

最も多く観察されたのはヒヨドリで、次いでホオジロ、ウグイスの順であった。

希少種としてはヒクイナ、ミサゴ、ハチクマ、サシバ、サンショウクイ、センダイムシクイ、コサメビタキが観察された。春季にはウグイスの巣材運び、キビタキの求愛給餌、コゲラとアオゲラのドラミングが観察され、繁殖の可能性が高いと思われる。年間通して亜種リュウキュウサンショウクイが観察されたが、秋季には渡り途中と思われる基亜種サンショウクイも観察された。また、外来種であるコジュケイが観察された。

⑤ L-1 (今小野地区)

29科 52種を記録した。

主な観察種はトモエガモ、オシドリ、スズメ、ヒヨドリ、オカヨシガモであった。

希少種としてはオシドリ、ヨシガモ、トモエガモ、カイツブリ、ヒクイナ、オオバン、ノスリ、サンショウクイ、サンコウチョウ、ヒバリ、オオルリが観察された。

繁殖に関する情報はホオジロ、カイツブリ 2例、セグロセキレイの3種4例の観察記録が得られた。また、過去の調査で確認されたコシアカツバメの営巣地の利用は今回の調査では確認できなかった。

囀りなどから繁殖の可能性のある種は、

キジ、キジバト、ヒクイナ、ホトトギス、サンコウチョウ、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ウグイス、メジロ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイ であった。

⑥ P-1 (今小野溜池)

22科 29種を記録した。

主な観察種はトモエガモ、オシドリ、ヒヨドリ、カワラヒワ、ヤマガラであった。

希少種としてはオシドリ、トモエガモ、カイツブリ、ノスリ、サンショウクイ、サンコウチョウ、センダイムシクイが観察された。

繁殖に関する情報はカイツブリ 2例の観察記録が得られた。

囀りなどから繁殖の可能性のある種は、キジバト、ホトトギス、サンコウチョウ、ヤマガラ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、カワラヒワ、ホオジロであった。

⑦ L-3 (黒川～柏原)

30科 49種を記録した。

主な観察種はヒヨドリ、カワラヒワ、オシドリ、メジロ、ツバメであった。

希少種としては、オシドリ、カイツブリ、ノスリ、サンショウクイ、サンコウチョウ、ヒバリ、センダイムシクイ、オオルリ、クロジが観察された。

繁殖に関する情報はスズメの観察記録が得られた。

囀りなどから繁殖の可能性のある種は、キジ、キジバト、ホトトギス、サンコウチョウ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、セッカ、キビタキ、オオルリ、カワラヒワ、ホオジロであった。

⑧ L-7 (銭ヶ原～奥畑)

26科 40種を記録した。

主な観察種はヒヨドリ、メジロ、スズメ、ヤマガラ、ハシボソガラスであった。

希少種としては、オシドリ、オオタカ、センダイムシクイが観察された。

繁殖に関する情報はスズメ 3例、ホオジロ 1例の観察記録が得られた。

スズメ：5月13日 電柱の横木に営巣、出入りする様子が観察された。

ホオジロ：5月13日 餌運びをする成鳥を観察。

スズメ：6月13日田んぼで巣立ち雛に給餌をする様子が観察された。

スズメ：電柱の横木に営巣、出入りする様子が観察された。

囀りなどから繁殖の可能性のある種は、ウグイス、ホオジロ、シジュウカラ、センダイムシクイ、ヒヨドリ、キジバト、キビタキ、ホトトギス、ソウシチョウ、メジロ、コジュケイであった。

⑨ L-6(奥畑～浅地)

24科37種を記録した。

主な観察種はアトリ、ヒヨドリ、メジロ、マヒワ、オシドリであった。

希少種としては、オシドリ、オオタカ、センダイムシクイが観察された。

繁殖に関する情報はスズメの観察記録が得られた。

スズメ：5月13日 電柱の横木に営巣、出入りする様子が観察された。

囀りなどから繁殖の可能性のある種は、キジ、シジュウカラ、ウグイス、ヒヨドリ、ホオジロ、キビタキ、ウグイス、カワラヒワ、ホトトギス、ヤマガラ、キセキレイであった。

⑩ L-5(小河内～柏ノ木)

26科47種を記録した。

小河内川沿いに歩くコースで標高約70m～150mである。コース上には主に照葉樹林が広がり、田んぼや休耕田が点在するほか、中間付近に砂防ダムがある。

最も多く観察されたのはヒヨドリで、次いでオシドリ、メジロの順であった。

注目すべき鳥類はオシドリ、サンショウクイ、センダイムシクイ、オオルリ、クロジがあげられる。街灯の錆びた穴に餌を持って入るシジュウカラ、餌運びをするホオジロが見られ、繁殖していると思われる。冬季には砂防ダム湖面でオシドリが数十羽の群れで観察されたほか、アトリ科やホオジロ科等の越冬個体が観察された。また、外来種であるコジュケイ、ガビチョウの囀りが観察された。地元住民の話では春から夏にかけてオオタカが時々見られるとのことであったが、今回の調査では確認することが出来なかった。

⑪ 標識調査(図中Bの地点)

小鳥類の秋の渡りを把握するために渡瀬地区に網場を設け、8月～12月に随時標識調査を実施した。調査地は小野湖上流部西岸ラインセンサスコースの終点付近の山間で、わずかに農耕地がある場所の林縁で行った。鳥類の秋の渡りは北から南に移動するため、北部から移動する鳥たちが小野湖沿いに南下する可能性があると考えられた。

調査の結果、4目11科20種が記録された。カシラダカが最も多く77羽、次いでノゴマの58羽、ルリビタキの10羽などであった。夜行性のゴイサギ、コノハズク、フクロウ、ヨタカなど目視では観察の難しい種も記録することが出来た。

(イ) 中部地域

霜降山(標高246m)を中心とする中部は、霜降山、男山、観音岳の山麓に広がる丘陵地で西側を厚東川が流れる。植生は元々コバノミツバツツジ・アカマツ群落で、霜降山にはアカマツの大木が林立しマツタケも採取出来ていたが、1970年代からの松食い虫被害により松が枯れ、代わってタブヤコナラなどの広葉樹と、シイやカシの照葉樹が成長し森を作っている。霜降山一帯には小さな灌漑用の溜池が多くあるが、2009年に2級河川の真締川上流部に治水用の真締川ダムが完成し、灌水面積1.2haの水域が加わり、水鳥の利用が多く見られるようになった。また、霜降山一帯は宇部市の中でも渡り鳥の重要な中継地となっており、ハチクマやヒヨドリをはじめ春と秋には多くの鳥たちが通過していく。市街地に近く二次林が成長過程にある霜降山を中心とした里山の環境が中部の特徴と言える。

2020 年度にラインセンサス 1 カ所、ポイントセンサス 2 カ所を設定し調査を行った。以下にその結果を記す。

① P-5 (真締川ダム)

25 科 42 種を記録した。

主な観察種はヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、オオバン、オカヨシガモ、カイツブリであった。

希少種としては、ヨシガモ、カイツブリ、オオバン、サンショウクイが観察された。

繁殖に関する情報はカイツブリの観察記録が得られた。

囀りなどから繁殖の可能性のある種は、キジ、カイツブリ、キジバト、アオゲラ、ホトトギス、ウグイス、メジロ、キビタキ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイなどである。

② L-8 (霜降山)

25 科 48 種を記録した。

男山展望台に向かう登山道に沿って歩くコースで標高約 60m~220m である。コース上には主に照葉樹林が広がり、針葉樹林や草地等も点在する。

最も多く観察されたのはメジロで、次いでヒヨドリ、ウグイスとエナガの順であった。

希少種としてはオシドリ、アマツバメ、ミサゴ、ハイタカ、フクロウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、コサメビタキ、オオルリが観察された。特にミサゴはコース途中にある鉄塔で営巣していたが台風で落巢、アオゲラは道路に面した桜の木で造巣していたが途中放棄したようであった。他、囀りや家族群がみられる等繁殖の可能性のある種は、キジバト、ホトトギス、フクロウ、コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、メジロ、キビタキ、オオルリ、ホオジロであった。秋季にはツバメ科やヒタキ科等、渡り鳥が多く観察された。また、外来種であるソウシチョウの群れ、コジュケイが観察された。

本調査地は主に、春季・秋季は渡りの中継地、夏季は留鳥や夏鳥の繁殖地、冬季は冬鳥の越冬地として利用されていると思われる。

③ P-4 (霜降山山麓：男山)

19 科 37 種を記録した。

霜降山山麓の里山環境として男山集落にて定点調査を行った。

最も多く記録されたのはヒヨドリで、次いでマヒワ、スズメ、メジロであった。注目すべき鳥類はハチクマ、ハイタカ、オオタカ、ミソサザイである。ヒヨドリは秋の渡りで多く観察され、ハチクマも調査日では少なかったが、男山山頂で観察会が行われるなど、霜降山一帯が渡りコースであることが分かる。

(ウ) 南部地域

市街地や工場地帯を中心とするが、東部には宇部市の海岸線の中で唯一砂浜と渚のある貴重な海岸線が残っている。岐波海岸においては干潮時には約 100 ha の砂質または砂泥質の干潟が広がり、シギ・チドリ類やカモメ類が多く見られ、干潟で生活する鳥たちにとって貴重な場所となっている。岐波海岸から独立峰のようにそびえる日ノ山は標高 146.1m と決して高くないが、海岸線に隣接し山口湾を挟み東に秋穂半島が位置しているため、海岸線を移動する野鳥にとって中継地や指標となるが、植生が貧弱であり湿地や沢などの水場がないために、渡り時期以外では鳥相も薄い。秋に見られる秋穂半島岩屋の鼻から海上を渡り宇部市の東岐波海岸、日ノ山周辺に渡るヒヨドリ群は多く、ハヤブサに襲われながらも必死に渡る光景は、秋の風物詩となっている。日ノ山から丸尾海岸を経て西には白土海岸があり床波漁港へと続く。白土海岸は礫を含む岐波海岸に比べ粗い砂質の干潟が特徴で、甲殻類の中でもカニを餌とするシギ・チドリ類が多く見られる。また、漁港が近い

めかカモメ類が多く、カモ類、サギ類も比較的多い。東部一帯は宅地化が進み耕作地が激減したため、干潟や海岸線に残されたわずかな樹林が野鳥にとって貴重な場所となっており、干潟と海岸植生が特徴といえる。また、岐波海岸、白土海岸は夏期には海水浴場として賑わう場所でもある。

今回の調査では、常盤湖周辺と西沖の山での調査を行わなかったため、南東部にあたる東岐波、西岐波においてラインセンサス 1カ所、ポイントセンサス 2カ所での調査を行った。以下にその結果を記す。

① L-9(日ノ山)

28科 49種を記録した。

古尾稲荷神社から山頂を通り日ノ山自治会館に抜ける登山道に沿って歩くコースで標高約 5m～140m である。コース上には主にマツ林や照葉樹林が広がり、ふもとは耕作地と住宅地の他、竹林やため池など多様な環境が存在する。

最も多く観察されたのはメジロで、次いでヒヨドリ、スズメの順であった。希少種としてはミサゴ、サンショウクイ、ヒバリ、コサメビタキが観察された。囀りや古巣がみられる等繁殖の可能性のある種は、キジ、キジバト、ホトトギス、コゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、キビタキ、ホオジロ、コジュケイであった。秋季には渡り途中と思われる基亜種サンショウクイ、冬季には亜種リュウキュウサンショウクイが観察された。

本調査地は主に、春季・秋季は渡りの中継地、夏季は留鳥の繁殖地として利用されていると思われる。

② P-6(岐波海岸)

28科 54種を記録した。

調査地点はキラビーチで標高約 5m、月崎から丸尾崎までの特徴的な砂地の干潟が広く望め、背後には住宅地が広がる。

最も多く観察されたのはハマシギで、次いでハシボソガラス、マガモの順であった。希少種としてはツクシガモ、チュウサギ、カラシラサギ、クロツラヘラサギ、シロチドリ、ハマシギ、ウミネコ、ミサゴ、ハイタカ、サンショウクイ、ヒバリが観察された。海辺の廃屋でコロニーを形成するコシアカツバメ、コシアカツバメの古巣を利用して繁殖するスズメが観察された。他、囀りや幼鳥がみられる等繁殖の可能性のある種は、キジバト、シロチドリ、ウグイス、メジロ、ホオジロであった。春季には渡り途中のシギ類が多く観察され、冬季には干潟でハマシギとシロチドリ、浅瀬でカモ類が採餌するのが観察された。

本調査地は主に、春季・秋季は渡りの中継地、冬季は越冬地として利用されていると思われる。

③ P-7(白土海岸)

25科 49種を記録した。

調査地点は白土海水浴場で標高約 5m、浜田川河口域や磯、砂干潟などが望め、背後には住宅地とわずかな農耕地が広がる。

最も多く観察されたのはウミネコで、次いでハマシギ、ユリカモメの順であった。希少種としてはチュウサギ、シロチドリ、ミヤコドリ、ハマシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ミサゴ、ヒバリが観察された。囀り等繁殖の可能性のある種は、ヒバリ、ウグイス、スズメ、ホオジロであった。春季には渡り途中のシギ類が多く観察され、冬季には干潟でハマシギ、浅瀬や河口付近でカモ類が採餌するのが観察された。また、秋季から冬季にかけてカモメ類が多数干潟上に集まり休息するのが観察された。

本調査地は主に、春季・秋季は渡りの中継地、冬季は越冬地として利用されていると思われる。

(3) 希少種の一覧

現地調査の結果、国及び県により希少種に指定されている種は、12目22科35種であった。

表 6-2 現地調査で確認した希少種の一覧

No	目	科	種名	調査地	環境省 R L 2020	山口県 R L 2018	小野湖 L	品地 P	総小野 P	今小野 L	今小野 P	黒五郎 L	柏原 L	小河内 L	小野標識	浅地 L	銭ヶ原 L	男山 P	真綿川ダム P	霜降山 L	岐波 L	白土 L	日の山 L	
1	カモ	カモ	ツクシガモ		VU	VU																8		
2			オンドリ		DD	NT	298	291		161	41		43	71		29				7				
3			ヨシガモ			NT		23		21									21					
4			トモエガモ		VU	VU		6		335	60													
5			チュウサギ		NT	VU															2	1		
6			カラシラサギ		NT	VU															1			
7	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ			NT	25	16	8	12	7		1			1	1		30					
8	ベリカン	トキ	クロツラヘラサギ		EN	VU															1			
9	ツル	クイナ	ヒクイナ		NT	NT				1		1												
10			オオバン			NT		8		6										85				
11	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ		NT	NT									1									
12	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ			NT														2				
13	チドリ	チドリ	シロチドリ		VU	VU																75	20	
14		ミヤコドリ	ミヤコドリ		NT	NT																	1	
15		シギ	ハマシギ		NT																	392	326	
16	カモメ	カモメ	ウミネコ			NT																72	533	
17			オオセグロカモメ		NT																		6	
18	タカ	ミサゴ	ミサゴ		NT	NT	4					2					2			4	8	3	3	
19		タカ	ハククマ		NT	VU						1						1						
20			ハイタカ		NT	NT													1		1	1		
21			オオタカ		NT	VU		1								1		1						
22			サシバ		VU	VU		1				1												
23	フクロウ	フクロウ	コノハズク			NT									2									
24			フクロウ			NT															1			
25	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン			VU			1															
26		ブッポウソウ	ブッポウソウ		EN	CR									5		1							
27	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ		VU	NT	10	8	3	9	3	12	2	11				1	3	18	1		17	
28		カササギヒタキ	サンコウチョウ			NT				3	1		1							2				
29		ヒバリ	ヒバリ			NT				2			1									1	3	2
30		ムシクイ	センダイムシクイ			NT				1		4	2	5		1								
31		ミソサザイ	ミソサザイ			NT									5			1						
32		ヒタキ	コサメヒタキ			NT		1				2			1		3	1		4			1	
33			オオルリ			NT	1			1			1	2							4			
34		ホオジロ	ノジロ		NT										1									
35			クロジ			NT	19						2	1										

3. まとめ

過去の調査では 262 種類の野鳥が記録されている。今回の現地調査及び既存資料調査では、これらに加え、新たに 10 種の鳥類が確認された。これらは、キバラガラ、カラアカハラなど稀に確認される鳥類がほとんどであり、当地の鳥類に関する調査・観察記録の蓄積が進んだものと捉えることができる。ただし、今回の調査で新たに確認された種には、特定外来生物に指定されるガビチョウ及びソウチチョウの 2 種も含まれている。これらの種は全国的に分布域を拡大していると言われていたが、これらの推移に今後も注視することが望ましい。

表 6-3(1/3) 宇部市鳥類目録 2022

No	目	科	和名(種)	学名(種)	現地調査	旧編現地調査	現地調査	現地調査	構議調査 記録	既存資料 調査	鳥獣保護センター 保護鳥記録	調査外 記録
					2021年~2022年	2006年~2008年	1999年~2002年	1996年~1997年				
1	キジ	キジ	ウズラ	<i>Coturnix japonica</i>					○		○	
2			ヤマドリ	<i>Syrnaticus soemmerringi</i>	○	○	○			○	○	○
3			キジ	<i>Phasianus versicolor</i>	○	○	○		○	○	○	○
4	カモ	カモ	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>						○		○
5			マガン	<i>Anser albifrons</i>								○
6			コクガン	<i>Branta bernicla</i>			○					○
7			コハクチョウ	<i>Cygnus bewickii</i>						○		
8			オホハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>						○		
9			ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>	○		○			○		○
10			アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i>			○					
11			オンドリ	<i>Aix galericulata</i>	○	○	○	○		○	○	○
12			オカヨシガモ	<i>Anas strepera</i>	○	○	○			○		○
13			ヨシガモ	<i>Anas falcata</i>	○	○						○
14			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○	○	○	○		○	○	○
15			アメリカヒドリ	<i>Anas americana</i>			○			○		○
16			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	○	○	○	○		○	○	○
17			カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
18			ハシビロガモ	<i>Anas clypeata</i>			○			○		○
19			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○	○	○	○		○	○	○
20			シマアジ	<i>Anas guerguedula</i>			○			○		○
21			トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	○	○	○	○		○		○
22			コガモ	<i>Anas crecca</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
23			オオホシハジロ	<i>Aythya valisineria</i>			○			○		○
24			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>	○	○	○			○		○
25			アカハジロ			○						○
26			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>	○	○	○			○	○	○
27			スズガモ	<i>Aythya marila</i>			○			○		○
28			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>			○					
29			ミコアイサ	<i>Mergus albellus</i>						○	○	○
30			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>	○		○	○		○	○	○
31	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
32			アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>			○				○	
33			カンムリカイツブリ	<i>Podiceps cristatus</i>	○		○					○
34			ミミカイツブリ	<i>Podiceps auritus</i>						○		
35			ハジロカイツブリ	<i>Podiceps nigricollis</i>			○					○
36	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
37			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	○	○	○	○		○	○	○
38	アビ	アビ	オオハム	<i>Gavia arctica</i>							○	○
39	ミズナギドリ	ミズナギドリ	シロハラミズナギドリ	<i>Pterodroma hypoleuca</i>							○	
40			オオミズナギドリ	<i>Calonectris leucomelas</i>							○	
41			ハシボツミズナギドリ	<i>Puffinus tenuirostris</i>							○	
42			コミズナギドリ	<i>Puffinus nativitatis</i>							○	
43	カツオドリ	ウ	カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	○	○	○	○		○		○
44	コウノトリ	サギ	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis</i>						○	○	○
45			ミソゴイ	<i>Nycticorax goisagi</i>							○	
46			ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○	○	○	○		○	○	○
47			ササゴイ	<i>Ardeola striata</i>		○	○			○	○	○
48			アマサギ	<i>Egretta ibis</i>	○	○	○			○	○	○
49			アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
50			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
51			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○		○			○	○	○
52			ムラサキサギ	<i>Ardea purpurea</i>			○			○	○	○
53			コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
54			クロサギ	<i>Egretta sacra</i>								○
55			カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i>	○							
56		トキ	ヘラサギ	<i>Platalea leucorodia</i>						○		○
57			クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	○							○
58	ツル	ツル	マナヅル	<i>Grus vipio</i>						○	○	
59			ナベヅル	<i>Grus monacha</i>								○
60		クイナ	クイナ	<i>Rallus aquaticus</i>	○					○		○
61			ヒメクイナ	<i>Porzana pusilla</i>		○				○		○
62			ヒクイナ	<i>Porzana fusca</i>	○					○	○	○
63			バン	<i>Gallinula chloropus</i>			○			○	○	○
64			オオバン	<i>Fulica atra</i>	○		○			○	○	○
65	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	<i>Cuculus fugax</i>					○	○		○
66			ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	○	○	○	○		○	○	○
67			ツツドリ	<i>Cuculus saturatus</i>	○	○	○			○	○	○
68			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>						○	○	○
69	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	○		○			○	○	○
70	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacuta</i>			○			○		○
71			アマツバメ	<i>Apus apus</i>	○	○	○			○		○
72			ヒメアマツバメ	<i>Apus affinis</i>						○		○
73	チドリ	チドリ	タゲリ	<i>Vanellus vanellus</i>			○		○	○		○
74			ムナグロ	<i>Pluvialis dominica</i>			○			○		○
75			ダイゼン	<i>Pluvialis squatarola</i>	○		○	○		○		○
76			イカルチドリ	<i>Charadrius placidus</i>			○			○	○	○
77			コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○		○	○		○	○	○
78			シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○		○	○		○	○	○
79			メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	○		○	○		○	○	○
80			オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>						○		○
81		ミヤコドリ	ミヤコドリ	<i>Haematopus ostralegus</i>	○					○		○
82		セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>						○		○
83		シギ	ソリハシセイタカシギ	<i>Recurvirostra avosetta</i>						○		○
84			ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>			○	○			○	○
85			アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>	○					○		○
86			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>					○		○	○
87			チュウジシギ	<i>Gallinago megala</i>							○	○
88			タシギ	<i>Gallinago gallinago</i>			○			○	○	○
89			オオハシシギ	<i>Limnodromus scolopaceus</i>						○		○
90			シベリアジュリン	<i>Emberiza pallasi</i>						○		○

表 6-3(2/3) 宇部市鳥類目録 2022

No	目	科	和名(種)	学名(種)	現地調査	旧編現地調査	現地調査	現地調査	標識調査 記録	既存資料 調査	鳥獣保護センター 保護鳥記録	調査外 記録
					2021年~2022年	2006年~2008年	1999年~2002年	1996年~1997年				
91			オグロンギ	<i>Limosa limosa</i>						○		○
92			オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica</i>					○			○
93			チュウシヤクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	○				○	○	○	○
94			ダイシヤクシギ	<i>Numenius arquata</i>						○		○
95			ホウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>			○			○	○	○
96			ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>					○	○		○
97			アカアシシギ	<i>Tringa totanus</i>						○		○
98			コアアシシギ	<i>Tringa stagnatilis</i>						○		○
99			アオアシシギ	<i>Tringa nubelaria</i>	○		○		○	○		○
100			カラフトアオアシシギ	<i>Tringa guttifer</i>						○		○
101			クサシギ	<i>Tringa ochropus</i>		○			○	○	○	○
102			タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>			○			○		○
103			キアシシギ	<i>Heteroscelus brevipes</i>	○				○	○		○
104			ソリハシシギ	<i>Xenus cinereus</i>			○		○	○		○
105			イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○				○	○		○
106			キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	○		○		○	○		○
107			オバシギ	<i>Calidris tenuirostris</i>	○				○	○		○
108			コオバシギ	<i>Calidris canutus</i>						○		○
109			ミュビシギ	<i>Calidris alba</i>			○					○
110			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	○				○	○		○
111			オジロトウネン	<i>Calidris temminckii</i>						○		○
112			ウスラシギ	<i>Calidris acuminata</i>					○	○		○
113			サルハマシギ	<i>Calidris ferruginea</i>						○		○
114			ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	○		○		○	○	○	○
115			ヘラシギ	<i>Eurynorhynchus pygmaeus</i>						○		○
116			キリアイ	<i>Limicola falcinellus</i>						○		○
117			エリマキシギ	<i>Philomachus pugnax</i>					○	○		○
118			アカエリヒレアシシギ	<i>Phalaropus lobatus</i>							○	○
119		レンカク	レンカク	<i>Hydrophasianus chirurgus</i>						○		○
120		タマシギ	タマシギ	<i>Rostratula benghalensis</i>						○		○
121			ミツユビカモメ	<i>Rissa tridactyla</i>						○		○
122		カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	○		○		○	○	○	○
123			ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>						○		○
124			ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○		○		○	○	○	○
125			カモメ	<i>Larus canus</i>								○
126			セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	○		○		○	○	○	○
127			オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	○		○		○	○		○
128			コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>			○			○		○
129			セグロアジサシ	<i>Sterna fuscata</i>							○	○
130			アジサシ	<i>Sterna hirundo</i>								○
131			クロハラアジサシ	<i>Chlidonias leucoptera</i>						○		○
132			ハシグロクロハラアジサシ	<i>Chlidonias niger</i>						○		○
133			ウミスズメ	<i>Synthboramphus antiquus</i>							○	○
134	タカ		ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○	○	○	○		○		○
135	タカ		ハチクマ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	○	○	○	○		○		○
136			トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	○	○		○	○	○
137			ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>			○			○		○
138			オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>						○		○
139			チュウヒ	<i>Circus spilonotus</i>			○		○	○		○
140			ハイロチュウヒ	<i>Circus cyaneus</i>						○		○
141			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>		○	○	○	○	○	○	○
142			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
143			オオタカ	<i>Accipiter nisus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
144			サシバ	<i>Butastur indicus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
145			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
146			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>		○						○
147			オオコノハズク	<i>Otus bakkamoena</i>					○		○	○
148			コノハズク	<i>Otus sunia</i>	○				○	○	○	○
149			フクロウ	<i>Strix uralensis</i>	○		○		○	○	○	○
150			アオバズク	<i>Ninox scutulata</i>						○	○	○
151	フクロウ	フクロウ	トラフズク	<i>Asio otus</i>						○	○	○
152			コミミズク	<i>Asio flammeus</i>					○		○	○
153	サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ	<i>Upupa epops</i>						○		○
154	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン	<i>Halcyon coromanda</i>	○					○	○	○
155			カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	○	○	○	○	○	○		○
156			ヤマセミ	<i>Ceryle lugubris</i>		○	○		○		○	○
157		ブッポウソウ	ブッポウソウ	<i>Eurystomus orientalis</i>	○				○			○
158	キツツキ	キツツキ	アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>			○		○	○	○	○
159			コグラー	<i>Picooides kizuki</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
160			アカゲラ	<i>Picooides major</i>						○		○
161			アオゲラ	<i>Picus awokera</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
162	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>						○		○
163			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>						○		○
164			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>		○	○			○		○
165			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>						○	○	○
166	スズメ	キイロチョウ	キイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>						○		○
167		サンショウクイ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	○	○	○	○	○	○		○
168		カササギヒタキ	サンコウチョウ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	○	○	○	○	○	○		○
169		モズ	チゴモズ	<i>Lanius tigrinus</i>						○		○
170			モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
171			アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>					○			○
172	カラス		カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	○	○	○	○	○	○		○
173			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	○	○	○	○		○
174			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○	○	○		○
175		キクイタダキ	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	○	○	○	○	○	○		○
176		ツリスガラ	ツリスガラ	<i>Remiz pendulinus</i>			○		○	○		○
177		シジュウカラ	ヤマガラ	<i>Parus varius</i>	○	○	○	○	○	○		○
178			ヒガラ	<i>Parus ater</i>						○		○
179			キバラガラ	<i>Poecile venustus</i>								○
180			シジュウカラ	<i>Parus major</i>	○	○	○	○	○	○	○	○

表 6-3(3/3) 宇部市鳥類目録 2022

No	目	科	和名(種)	学名(種)	現地調査	旧編現地調査	現地調査	現地調査	標識調査	既存資料	鳥獣保護センター	調査外
					2021年~2022年	2006年~2008年	1999年~2002年	1996年~1997年				
181	スズメ	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○		○	○	○	○	○	○
182			ハマヒバリ	<i>Eremophila alpestris</i>			○					
183		ツバメ	ショウドウツバメ	<i>Riparia riparia</i>	○	○	○		○	○		○
184			ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○	○	○	○	○	○	○	○
185			コシアカツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	○	○	○		○	○	○	○
186			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○	○				○		○
187		ヒヨドリ	シロガシラ	<i>Pycnonotus sinensis</i>						○		
188			ヒヨドリ	<i>Hyppipetes amaurotis</i>	○	○	○	○			○	○
189		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○	○	○		○	○	○
190			ヤブサメ	<i>Cettia squameiceps</i>	○	○	○	○		○	○	○
191		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	○	○	○	○		○	○	○
192		ムシクイ	ムジセッカ	<i>Pluvialis dominika</i>	○							
193			オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	○							
194			コメボソムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodyas</i>			○			○		○
195			メボソムシクイ	<i>Phylloscopus borealis</i>	○		○		○	○	○	○
196			エゾムシクイ	<i>Phylloscopus tenellipes</i>	○		○		○			
197			センドイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	○		○			○	○	○
198		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	○	○		○		○	○	○
199		センニュウ	マキノセンニュウ	<i>Locustella lanceolata</i>			○					○
200			シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>			○			○	○	○
201			エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>			○					○
202		コヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>			○			○		○
203			コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	○	○	○		○			○
204		セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	○		○			○		○
205		レンジャク	キレンジャク	<i>Bombycilla garrulus</i>						○	○	○
206			ヒレンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>						○	○	○
207		ミツサザイ	ミツサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	○	○	○	○		○	○	○
208		ムクドリ	ムクドリ	<i>Sturnes cineraceus</i>	○		○	○		○	○	○
209			コムクドリ	<i>Sturnes philippensis</i>			○			○		○
210		ヒタキ	マミジロ	<i>Zoothera sibiricus</i>						○		○
211			トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>		○	○	○		○	○	○
212			カラアカハラ	<i>Turdus hortulorum</i>								○
213			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>	○		○			○	○	○
214			マミチヤジナイ	<i>Turdus obscurus</i>	○	○				○		○
215			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>	○	○		○		○	○	○
216			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>			○			○		○
217			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	○	○	○	○		○	○	○
218			コマドリ	<i>Erethacus akahige</i>				○		○		○
219			オガワコマドリ	<i>Erethacus svecicus</i>				○		○		○
220			ノゴマ	<i>Erethacus calliope</i>			○			○		○
221			ホルリ	<i>Erethacus cyane</i>				○		○	○	○
222			シマゴマ	<i>Erethacus sibilans</i>				○				○
223			ルリビタキ	<i>Erethacus cyanurus</i>	○	○		○		○		○
224			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	○	○	○	○			○	○
225			ノビタキ	<i>Saxicola torquata</i>	○	○	○	○		○		○
226			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○		○	○		○	○	○
227			エゾビタキ	<i>Muscicapa griseisticta</i>	○	○	○	○		○	○	○
228			サメビタキ	<i>Muscicapa sibirica</i>	○	○	○	○		○		○
229			コサメビタキ	<i>Muscicapa latirostris</i>	○	○		○		○	○	○
230			マミジロキビタキ	<i>Ficedula zanthopygia</i>								○
231			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	○	○	○	○				○
232			ムギマキ	<i>Ficedula mugimaki</i>								○
233			オジロビタキ	<i>Ficedula parva</i>								○
234			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	○	○	○	○		○	○	○
235		イワヒバリ	カヤクグリ	<i>Prunella rubra</i>			○			○		○
236		スズメ	キュウナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>						○		○
237			スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○	○		○	○	○
238		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	○	○	○	○		○		○
239			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	○	○		○	○	○
240			セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○	○	○	○			○	○
241			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	○	○	○	○		○		○
242			セジロタバヒバリ	<i>Anthus gustavi</i>								○
243			タバヒバリ	<i>Anthus spinoletta</i>								○
244		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	○	○		○		○	○	○
245			カワラセウ	<i>Carduelis sinica</i>	○	○	○	○			○	○
246			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	○	○	○	○		○		○
247			ベニマシロ	<i>Uragus sibiricus</i>	○	○	○	○		○		○
248			オオマシロ	<i>Carpodacus roseus</i>								○
249			イスカ	<i>Loxia curvirostra</i>								○
250			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>		○	○	○		○	○	○
251			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○	○	○		○	○	○
252			コイカル	<i>Coccothraustes migaratorius</i>						○	○	○
253			イカル	<i>Coccothraustes personatus</i>	○	○	○	○		○	○	○
254		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	○		○	○	○
255			シロハラホオジロ	<i>Emberiza tristrami</i>						○		○
256			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>		○	○			○		○
257			コホオアカ	<i>Emberiza pusilla</i>						○		○
258			キマユホオジロ	<i>Emberiza chrysophrys</i>						○		○
259			カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i>	○	○	○	○		○		○
260			ミヤマホオジロ	<i>Emberiza elegans</i>	○	○	○	○		○		○
261			ノジロ	<i>Emberiza sulphurata</i>	○					○		○
262			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	○	○	○	○		○	○	○
263			クロジ	<i>Emberiza variabilis</i>	○	○	○	○		○		○
264			コジュリン	<i>Emberiza yessoensis</i>						○		○
265			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>						○		○
266	キジ	キジ	コジュケイ(外来種)	<i>Bambusicola thoracica</i>	○	○				○	○	○
267	ハト	ハト	カワラハト(外来種)	<i>Columba livia</i>	○		○			○		○
268	インコ	インコ	セキセイインコ(外来種)	<i>Melopsittacus undulatus</i>						○		○
269	スズメ		ガビチョウ(外来種)	<i>Garrulus canorus</i>	○							○
270			ソウシチョウ(外来種)	<i>Leiothrix lutea</i>	○							○
271	スズメ	カエデチョウ	ベニスズメ(外来種)	<i>Amundava amundava</i>						○		○
272			キンバラ(外来種)	<i>Lonchura atricapilla</i>						○		○
	20	59	272		54	42	61	35	80	65	36	71

主な確認種の写真

	
飛翔するオシドリ	湖岸にとまるオオタカ
	
広葉樹にとまるエナガ	屋根にとまるカシラダカ
	
霜降山のヤマドリ	特定外来生物ガビチョウ
	
海岸にとまるハマシギ	浜辺を歩くシロチドリ

参考文献

- 宇部野鳥保護の会.1976～2022.アボセット通信第1号～106号.
- 原田量介.1981～2022.宇部市における鳥類標識記録.
- 藤田勉.1983～1990.宇部市における鳥類標識記録.
- 宇部野鳥保護の会.1988.宇部野鳥保護の会 10周年記念誌.
- 宇部野鳥保護の会.1998.宇部野鳥保護の会 20周年記念誌.
- 宇部自然環境調査研究会.1998.宇部市の保全すべき自然環境調査報告書.
- 宇部自然環境調査研究会.2004.宇部自然環境調査報告書.
- 宇部自然環境調査研究会.2009.宇部市自然環境調査報告書(楠木地域).
- 山口県立博物館.1989.山口県の野鳥ガイド
- 岡本久人・市田則孝.1990.野鳥調査マニュアル.
- 日本野鳥の会山口県支部.1990.山口県版鳥類繁殖地図調査報告書.
- 下関市自然環境調査会.1991.下関市の保全すべき自然環境.
- 日本野鳥の会山口県支部.1993.山口県の水鳥生息状況調査報告書ガン・カモ・ハクチョウ類編
- 日本野鳥の会山口県支部.1994.山口県版鳥類繁殖調査報告書シギ・チドリ類編.
- 山口県.1995.山口県の貴重な野生生物.
- (社)大日本猟友会.1995.鳥獣保護および狩猟に関する法令集.
- 土井庄一郎.1997.滅びゆく日本の動物 50種.
- 日本野鳥の会山口県支部.1999.山口野鳥第32号.
- 日本鳥学会(編).2012.日本鳥類目録改訂第7版. 文一総合出版, 東京.
- 平凡社.2014.日本の野鳥 650.
- 文一総合出版.2000.日本の鳥 550 水辺の鳥・山野の鳥.
- 山口県.2019.レッドデータブックやまぐち 2019.
- 野鳥法学会.2002.鳥獣保護法・種の保存法.
- 環境省.2002.改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 2 鳥類
- 講談社.2003.日本の天然記念物.
- 山口県.山口県東部鳥獣保護センター宇部市における保護鳥一覧

第7章 哺乳類・爬虫類・両生類

1. 調査概況

(1) 調査対象地域

陸棲の哺乳類は、主に森林に生息しているが、河川や草原、人里の農耕地や家屋の内外などさまざまな環境に進出し、この多様な環境を行き来しながら採食や繁殖をおこなっている。また、爬虫類や両生類は、森林に単一的に点在する石垣や、それに続く草原・水辺に生息している。

宇部市の調査域は、北限の荒滝山・日ノ岳の稜線と、それに連なる東方の平原岳などの北部山岳地帯から、徐々に標高を下げながら水源や支流の水を集め厚東川・真締川など大小の河川に注ぎ南限の瀬戸内海に流れ込むんでいる多様性に富んだ地形を成しており豊かな動物相を形成している。

調査域の全域を掌握するため、10区域に分け現地調査を行った。

(ア) 小野湖周辺

厚東川の標高43mから50m付近までの約3.0kmに位置する小野湖（厚東川ダム湖）は、左岸中央に市民の憩いの場所であるアクトビレッジおのを有し、右岸は自然林に接した自然度の高い景観をしている。しかし、主に冬季に水量が減ることがあり、その際には露出した砂地に多数の足跡等が見られる。

(イ) 厚東川中流

小野湖の下流域から国道2号線を超えて広がる水田地帯は、自然度の高い里山が形成されている。厚東川の右岸には二俣瀬木田の厚東川河川敷公園（通称桜つつみ公園）があり、左岸には里山ビオトープ二俣瀬が地域住民等によって設けられている。

(ウ) 平原岳周辺

標高395mの平原岳を最高地点とし、その稜線から山麓を下り、厚東川ダムの左岸の住宅地までを調査域とした。ヒノキやスギの植林地もあるが山城のほとんどが陰樹林であり、野生動物にとって最適な環境と言える。その生産性の高い森林は大型獣の繁殖に適しているが、過度な個体数の増加は獣害被害を招くため、田畑は防護柵で囲まれている。

(エ) 荒滝山・日ノ岳周辺

標高459mの荒滝山は、宇部市の最高峰として最北端に位置しており、夏緑樹林が優占する森林には豊かな水源がみられる。稜線で続く日ノ岳はやや低い標高458.6mであり、この2峰で北部の美祢市との市境を成している。山麓には水田が広がり、獣害防止柵も設けられている。

(オ) 吉部地域

吉部の大岩郷から今富ダム・小河内ダムの上流域を経て赤間硯の産地である岩滝までの地域は、山陽小野田市との市境を西端に持ち、標高200m前後の稜線から有帆川に続く山麓とそれに接する田畑からなる中山間域である。今富川は有帆川と合流し、小野田港に流れ込んでいる。

(カ) 霜降山周辺

標高249.9mの霜降岳は、厚東川の東側に広がる森林や溜池・田畑を有する。そのなだらかな山麓は約9.0km²の丘陵地帯を形成しており、山頂までの車道やハイキング道の他に、巡礼の散策路も整備された自然公園である。自然度も高いため市民の憩いの場として利用されている。

(キ) 厚東川河口

厚東川の河口付近は、市街地の南端に位置するため、左岸の工場地帯と右岸の住宅地帯の残存

植生がみられる。特に右岸には、竹の小島を起点に妻崎開作・新開作が残っており、その耕作放棄地は淡水性の池沼として、かつて生息していたと考えられる残存種がみられる。

(ク) ときわ公園～片倉

市街地に位置する常磐公園の外周は、森林植生が散策道として整備され、北東側に広がる約3.0kmもの緑地帯は、真河内溜池などからなる片倉地区までつながっている。市街地であるため住宅地や工業団地・自動車道もあるが、沢波川などの湿地や丘陵地の自然度は高い。

(ケ) 真締川地域

霜降山南陵の湧水を集めた真締川ダムは、市街地の中心を南下して宇部港に流入している。湿生植生の地域が水源であるため、真締川河川敷にはこれに適した動物相が形成されているが、都市部による隔離現象が起きており、陸生哺乳類の個体数は少ない。

(コ) 東部海岸～日の山

標高146.0mの日の山から東側に広がった山麓は、急激に標高を下げ、キワ・ラ・ビーチに没している。標高30m付近には、海岸線に沿って車道があり丸尾崎までのびているが、その周辺には民家と大小の溜池が点在し、その水を集めた植松川・五反田川が蛇行している。

(2) 調査期間

令和2年(2020年)4月～令和4年(2022年)12月

(3) 調査方法

3類で共通するのは調査域の定期的な踏査観察(写真7-1)である。日中の捕獲調査では一部の爬虫類や両生類を目視・捕獲(たも網、トラップ; 写真7-2)できるが、多くの野生動物は夜行性であるため夜間に実施することが多かった。また、哺乳類は自動撮影装置による調査(写真7-3)とトラップ調査(墜落缶、シャーメントラップ)、生活痕調査(糞、トレース、巣箱; 写真7-4)を行った。

2. 哺乳類・爬虫類・両生類の概況

(1) 宇部市内の概況

宇部市全域において、両生類15種・爬虫類12種・哺乳類28種の生息を確認した(表7-1)。162ページ以降に地域ごと、種ごとの確認状況を述べる。

表 7-1 調査地域 10ヶ所に生息する両生類・爬虫類・哺乳類

種名	調査地域	小野湖 周辺	厚東川 中流	平原岳 周辺	荒滝山・ 日ノ岳周辺	吉部地域	霜降山 周辺	厚東川 河口	ときわ公園 ～片倉	真締川	東部海岸 ～日の山
両生 類 15 種	チュウゴクブチサンショウウオ				○						
	ヤマグチサンショウウオ		○		○		○		○		
	アカハライモリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ニホンヒキガエル					○	○				
	ニホンアマガエル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	タゴガエル			○	○						
	ニホンアカガエル	○	○				○		○		○
	ヤマアカガエル		○	○	○	○	○				
	ウシガエル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ツチガエル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トノサマガエル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ヌマガエル	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	シュレーゲルアオガエル	○	○			○					
	モリアオガエル		○	○							
	カジカガエル			○	○						
爬 虫 類 12 種	クサガメ	○	○			○	○	○	○	○	○
	ニホンイシガメ	○	○		○	○					
	ミシシippiaアカミミガメ	○	○				○	○	○	○	○
	ニホンスッポン	○	○			○	○		○		
	タワヤモリ										△ (未確認)
	ニホンヤモリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ニホントカゲ	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	ニホンカナヘビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アオダイショウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	シマヘビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ヤマカガシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ニホンマムシ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
哺 乳 類 28 種	ジネズミ								○		
	ヒミズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	コウベモグラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	キクガシラコウモリ	○	○	○	○	○	○				
	アブラコウモリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ユビナガコウモリ	○	○	○	○	○	○				
	ニホンザル	○	○	○		○					
	ノウサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ムササビ	○		○	○		○				
	アカネズミ	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	ヒメネズミ			○	○	○					
	カヤネズミ	○	○	○	○	○					
	ハツカネズミ						○	○	○	○	○
	クマネズミ						○	○	○	○	○
	ドブネズミ						○	○	○	○	○
	ヌートリア	○							○		
	タヌキ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アライグマ	○									
	キツネ	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	テン	○	○	○	○	○	○				
	ニホンイタチ	○	○	○	○	○	○				○
	シベリアイタチ						○	○	○	○	○
	アナグマ	○		○	○	○			○		
	ハクビシン	○									
	ノネコ	○					○				
	イノシシ	○		○	○	○			○		
	ホンシュウジカ	○		○		○			○		
	スナメリ										○

(2) 地域ごとの状況

(ア) 小野湖周辺地域

湖畔に森林が隣接しているため水辺と森林を巡回するイノシシ（写真 7-5）の生息密度は高いが、ホンシュウジカは少ない。両生類のウシガエル、爬虫類のクサガメ・ミシシッピアカミミガメ、哺乳類のヌートリアが多いが、いずれも新旧の外来種である。冬季は水位が下がるため露出した湖底には哺乳類の生活痕が残されている。足形やトレースから 5 種（イノシシ・ホンシュウジカ・タヌキ・アナグマ・ヌートリア）の哺乳類が推定できた（写真 7-6）。ニホンスッポンや周辺の溜池などにはニホンイシガメが残存しているが、アライグマによる食害が危惧される。

(イ) 厚東川中流地域

整備された河川敷と発達したヨシ原は、中型哺乳類であるノウサギ（写真 7-7）・タヌキ・キツネ・テン・ニホンイタチ等の採餌場として利用度が高いが、繁殖地としての利用度は低い。ヤマアカガエル・ヤマグチサンショウウオなどの希少種も生息している（写真 7-8）。両岸には水田地帯が広がっているが、その外縁には自然林と溜池等の湿地帯があり両生類・爬虫類の生息地となっている。車地には地域住民の管理するビオトープがあり、里山としての価値が高い。

(ウ) 平原岳周辺地域

獣害被害防止柵に囲まれた農道は、ニホンザル（ソリトリー）が闊歩するが、中腹から山頂の稜線地帯は、10 頭前後のニホンザル（家族群）がおおよそ 3 群生息する（写真 7-9）。自動撮影装置にはノウサギ、テン（写真 7-10）等 7 種の中型獣やヒメネズミ等の小型獣が確認できた。また、山裾の溜池にはクサガメ等の爬虫類や両生類が生息しており、多様性に富んだ生物相が形成されている。

(エ) 荒滝山・日の岳周辺地域

ヤマグチサンショウウオやチュウゴクブチサンショウウオの繁殖が確認された（写真 7-11；写真 7-12）。また、山腹の倒木の下からはタゴガエルの鳴き声が出た。両生類が多く生息していればマムシ等の爬虫類相と、ノウサギ・イノシシ等の哺乳類相も豊かである。自動撮影装置には野生動物と多くの登山客も写っており、ヒトを含めた利用度の高い山域と言える。

(オ) 吉部地域

ホンシュウジカ（写真 7-13）とイノシシが優占する、タヌキ・アナグマ・アカネズミ等の哺乳類相が豊かな里山である。北部の「吉部の大岩郷」付近の田畑には獣害防止柵はみられないが、珍しいキツネの繁殖行動を撮影することもできた（写真 7-14）。南部の岩滝付近では柵やネットが連続的に設置されており捕獲用罠の設置もみられる。地上 1.3m 付近に取り付けた巣箱にはヒメネズミの営巣痕が確認できた。夜間にはコウモリ類の飛来個体が多いが、秋吉台の鍾乳洞に生息する種の採餌場になっていると思われる。

(カ) 霜降山周辺

ニホンヒキガエル（写真 7-15）やヤマグチサンショウウオ等が産卵する湿地や溜池が森林の中にあるが、稜線部分は乾燥しておりカヤの群落が点在している。アカネズミ（写真 7-16）やノウサギの生活痕が多いことから、テンやキツネ等の生態系の上位種の豊かさにつながっている。山頂の南陵に広がる森林地帯は、湧水が多く小さな谷川がいたるところで見られる。この水は真締川の水源となっている。

(キ) 厚東川河口

右岸に広がる湿地帯には水生動物が多いため、外来種であるウシガエル、ミシシippアカミミガメ、クサガメ（写真 7-17）等の水辺の動物相も豊かである。捕食者としてのヘビ類（写真 7-18）や、タヌキ、シベリアイタチなどの生態系の上位種が続くが森林棲の中型・大型哺乳類の進出は見られない。ただ、冬季には南端の竹の小島周辺にイノシシの食痕と足跡がみられることもある。

(ク) ときわ公園～片倉

外来種のカメ類やウシガエルの生息する湖には、アカハライモリ（写真 7-19）が生息する湿地が続いている。湖畔からの緑地帯は片倉の溜池地域まで続いており、丘陵に点在する田畑にはヒミズ・コウベモグラの一般的な種のほかにジネズミが生息している。ここにはヤマグチサンショウウオやニホンアカガエルも生息しており産卵もしている。この湿地はイノシシが蒐場に使うことも多く、運良く発生してもヘビ類やアナグマ（写真 7-20）、タヌキ、ノネコ等による捕食も懸念される。

(ケ) 真締川

霜降山の湧水を集めて都市部を南下し、宇部港まで流れる短い河川である。護岸整備は行き届いているが、水辺には多くの野生動物が生息している。それを捕食するため、周囲からいろいろな捕食者が集まってきている。上流域は森林、そして水田や畑と続き、住宅地には林が適度に残っている環境は、シベリアイタチ（写真 7-21）やタヌキ（写真 7-22）にとって隠れ家や子育ての場所となるため最適な環境と思われる。

(コ) 東部海岸～日の山

標高 146mの日の山の周辺には大小の溜池があり、ウシガエルを中心とした両生類の生息地となっている。その捕食者として、爬虫類はアオダイショウ、マムシのヘビ類と、外来種ミシシippアカミミガメ（写真 7-23）、クサガメがみられる。かつては篝火（昔の灯台）を焚いた山頂のお社には、タワヤモリが生息していたが、現在はニホンヤモリ（写真 7-24）との交雑が進みタワヤモリの純血種をみつけることはできなかった。ここから東側に広がるビーチで、スナメリの死体（頭部）を拾得した。

(3) 種ごとの状況

(ア) 両生類：両生綱 Amphibia Gray, 1825.

- ① チュウゴクブチサンショウウオ *Hynobius sematonotos* Tominaga, Matsui et Nishikawa, 2019
 - ・荒滝山・日ノ岳周辺の谷筋で卵のうをみつけた。1 個体の産卵とみられることから周辺に生息する個体数は少ないと思われる。当地における本種の分布記録は過去にない。
 - ・流水域への産卵習性を持ち行動範囲の広い種であるため、本山系の標高 300m 付近に優れた繁殖地があると思われる。
 - ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて準絶滅危惧とされるほか、種の保存法に基づく特定第二種国内希少野生動植物種に指定される。
- ② ヤマグチサンショウウオ *Hynobius bakan* Matsui, Okawa et Nishikawa, 2019
 - ・荒滝山・日ノ岳周辺、厚東川中流、霜降山周辺及びときわ公園～片倉において、繁殖しているが、その生息地は分断されている。
 - ・湧水のある水溜まりに産卵する習性をもつ種である。
 - ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて絶滅危惧Ⅱ類とされるほか、種の保存法に基づく特

定第二種国内希少野生動植物種に指定される。

③ アカハライモリ *Cynops pyrrhogaster* Boie, 1826

- ・宇部市の全域に分布するが、全国的には希少な種である。腹部の赤色が毒々しいが、無毒である（強い刺激に対し、首付近から分泌される白色粘液には有毒物質が含まれる）。
- ・比較的きれいな小川や水溜りに産卵する習性をもつ種である。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて準絶滅危惧とされる。

④ ニホンヒキガエル *Bufo japonicus japonicus* Temminck et Schlegel, 1838

- ・吉部地域及び霜降山周辺に分布する。
- ・産卵池に集まって集団産卵して、近くに森林がある環境が生息適地である。遺伝学的には樫野川より西側の個体群は九州タイプの可能性が高い。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて絶滅危惧Ⅱ類とされる。

⑤ ニホンアマガエル *Dryophytes japonicus* Günther, 1859

- ・山口県全域に分布する。自販機などの明かりに集まったガを捕食するなど適応性が高い。
- ・水田かそれに近い水溜まりがあれば繁殖できる。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑥ タゴガエル *Rana tagoi tagoi* Okada, 1928

- ・平原岳周辺及び荒滝山・日ノ岳周辺の森林の林床部に隠れて生活しているため、登山中に鳴き声で生息を確認することが多い。
- ・林床部の湧水の岩や倒木の陰などに、白色で半透明の卵を粒単位で産卵する。
- ・保全に関する情報：山口県においては生息域が局所的であり保護が必要と考えられる。

⑦ ニホンアカガエル *Rana japonica* Boulenger, 1879

- ・小野湖周辺、厚東川中流、霜降山周辺、ときわ公園～片倉、東部海岸～日の山に分布する。
- ・水田の開けた水路などに産卵し、その周辺に生息している。
- ・保全に関する情報：山口県においては生息域が局所的であり保護が必要と考えられる。

⑧ ヤマアカガエル *Rana ornativentris* Werner, 1903

- ・厚東川中流地域・平原岳周辺地域、荒滝山・日ノ岳地域、吉部地域・霜降山周辺地域に分布する。
- ・森林の中の水田や耕作放棄地の水溜りに、早春に卵塊を産みその周辺に生息している。
- ・保全に関する情報：山口県においては生息域が局所的であり保護が必要と考えられる。

⑨ ウシガエル *Lithobates catesbeianus* Shaw, 1802

- ・アメリカ東部・中部、カナダ南部の原産。宇部市だけでなく日本のほぼ全域に分布する。
- ・日本産のカエルが生息する環境は、すべてに適応し勢力を拡大している。
- ・保全に関する情報：特定外来生物に指定され、積極的な駆除が望まれる。

⑩ ツチガエル *Glandirana rugosa* Temminck et Schlegel, 1838

- ・宇部市の全域に分布する、山口県では一般的な種でイボガエルとも言われる。
- ・日本列島の全域に分布するが、遺伝的には数種類のタイプがみつまっている。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑪ トノサマガエル *Pelophylax nigromaculatus* Hallowell, 1861

- ・宇部市のほぼ全域に分布し、山口県としても全域が生息地である。

- ・日本と近隣国に分布するが、北海道や対馬の個体群は国内移入のものとされる。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて準絶滅危惧とされる。

⑫ **ヌマガエル** *Fejervarya kawamurai* Djong, Matsui, Kuramoto, Nishioka et Sumida, 2011

- ・宇部市のほぼ全域に分布し、山口県としても全域が生息地である。
- ・日本の中部以西と近隣国が本来の生息地であるが、いまでは全国的に分布している。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑬ **シュレーゲルアオガエル** *Zhangixalus schlegelii* Günther, 1858

- ・小野湖周辺の右岸、厚東川中流及び吉部地域に分布し、山口県では山陽側の中山間域に点在する。
- ・日本固有種であり、卵塊は水田の畔などに穴を掘って産むが、はみ出していることが多い。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑭ **モリアオガエル** *Zhangixalus arboreus* Okada et Kawano, 1924

- ・厚東川中流及び平原岳周辺の2地域に生息しているが、大型のコロニーではない。
- ・日本固有種であり、泡状の卵塊は水辺に張り出した樹上に産み付けられる。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて準絶滅危惧とされる。

⑮ **カジカガエル** *Buergeria buergeri* Temminck et Schlegel, 1838

- ・平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺の山裾を流れる厚東川・有帆川の上流域で確認されている。成体の目撃情報だけであるため上流の繁殖地からの流下個体と思われる。
- ・日本固有種であり、山口県では岩国市の南桑カジカガエル生息地が国の天然記念物に指定される。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて準絶滅危惧とされる。

(イ) 爬虫類

① **クサガメ** *Mauremys reevesii* Gray, 1831

- ・平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺の山稜を除くすべての地域に分布し、汽水域に多い。
- ・日本・大韓民国・中国・台湾に分布するが、我が国には元々分布していないと考えられている。
- ・保全に関する情報：特になし。

② **ニホンイシガメ** *Mauremys japonica* Temminck et Schlegel, 1838

- ・小野湖周辺の山稜の溜池、厚東川中流、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域の溜池に生息するが、繁殖個体群としては分断されている。
- ・クサガメとの交雑により絶滅が懸念されている。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて絶滅危惧Ⅱ類とされる。

③ **ミシシippアカミミガメ** *Trachemys scripta elegans* Wied, 1839

- ・平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域を除く、宇部市の全地域に分布。
- ・全国的にも広範囲に分布しており、平成28年には全国で約800万個体が生息すると推定されている。
- ・保全に関する情報：アカミミガメ *Trachemys scripta* が令和5年6月より条件付き特定外来生物に指定される。

④ **ニホンスッポン** *Pelodiscus sinensis* Wiegmann, 1834

- ・小野湖周辺、厚東川中流、吉部地域、霜降山周辺、ときわ公園～片倉の河川及び溜池。
- ・本州以南に生息するが、養殖用に持ち込まれた海外の種と野生種の交雑が危惧されている。

- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて情報不足とされる。

⑤ タワヤモリ *Gekko tawaensis* Okada, 1956

- ・日の山において1997年5月10日に捕獲したが、その後の調査では生息確認ができていない。
- ・瀬戸内海に面する各県で見つかっている。香川県多和が模式産地。ニホンヤモリとの交雑が進み、本種の絶滅が危惧されている。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて絶滅危惧Ⅱ類とされる。

⑥ ニホンヤモリ *Gekko japonicus* Duméril et Bibron, 1836

- ・宇部市の全地域に生息している。山口県においても全域に分布している。
- ・海岸に近い照葉樹林帯に生息する本種は、タワヤモリとの交雑種である可能性が高い。
- ・保全に関する情報：約3000年前に中国から渡来したと推定されているものの、複数の都道府県でレッドリストに記載されている。

⑦ ニホントカゲ *Plestiodon japonicus* Peters, 1864

- ・厚東川河口を除く、宇部市の全地域に生息している。
- ・西日本の平野部に分布するが、都市化の影響か不明であるが局所的に姿を消した地域もある。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑧ ニホンカナヘビ *Takydromus tachydromoides* Schlegel, 1838

- ・宇部市の全地域に生息している。山口県においても全域に分布している。
- ・日本全土に分布する。ニホントカゲと間違われることが多く、目撃される機会も多い。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑨ アオダイショウ *Elaphe climacophora* Boie, 1826

- ・宇部市の全地域に生息している。山口県においても全域に分布している。
- ・日本全土に広く分布する一般種である。家鼠を狙い家屋に入ってくることもある大型種。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑩ シマヘビ *Elaphe quadrivirgata* Boie, 1826

- ・宇部市の全地域に生息している。山口県においても全域に分布している。
- ・日本全土に広く分布する一般種である。ヘビ類の中では最も運動能力に優れた種である。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑪ ヤマカガシ *Rhabdophis tigrinus* Boie, 1826

- ・宇部市の全地域に生息している。山口県においても全域に分布している。
- ・日本全土に広く分布する一般種である。マムシと同様に毒腺を持つが、ヒトを咬む機能に乏しい。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑫ ニホンマムシ *Gloydus blomhoffii* Boie, 1826

- ・宇部市の全地域に生息している。山口県においても全域に分布している。
- ・日本固有種で国内に広く分布する毒蛇である。
- ・保全に関する情報：特になし。

(ウ) 哺乳類

① ニホンジネズミ *Crocidura dsinezumi* Temminck, 1842

- ・ときわ公園～片倉において、過去に死体拾得による記録があるが、近年の生息は不明。
- ・日本全国に分布し西日本のものは2亜種に分かれるとされるが、捕獲されることが極めて少ないため、本市の個体がどちらであるかは分かっていない。
- ・保全に関する情報：絶滅危惧種ではないが極めて個体数が少ないと推測される。

② ヒミズ *Urotrichus talpoides* Temminck, 1841

- ・宇部市内の全域に分布するが、田畑かその周辺域で厚さ10cmの土壌があれば生息する。
- ・日本固有種で、本州・四国・九州に分布する。
- ・保全に関する情報：特になし。

③ コウベモグラ *Mogera wogura* Temminck, 1842

- ・宇部市内の全域に分布するが、田畑かその周辺域で厚さ20cmの土壌があれば生息する。
- ・日本固有種で、西日本に広く分布する。
- ・保全に関する情報：特になし。

④ キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* Schreber, 1774

- ・夕方になると小野湖周辺、厚東川中流、平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域、霜降山周辺の森林地帯に、北方より飛来して未明には北方へ飛び去る。
- ・日本全土とユーラシア大陸に分布する。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑤ アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* Temminck, 1840

- ・宇部市の住宅地から河川・森林の上空を夕暮れになれば飛び回り、未明までには飛び去って行く。住宅の天井裏や雨戸の戸袋内を隠れ家をしている個体もいる。
- ・日本全土とユーラシア大陸に広く分布する。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑥ ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* Hodgson, 1835

- ・夕方になると小野湖周辺、厚東川中流、平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域、霜降山周辺の森林地帯に、北方より飛来して、未明には北方へ飛び去る。
- ・日本全土に分布するが、大規模な鍾乳洞に巨大なコロニーをつくる習性がある。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて準絶滅危惧とされる。

⑦ ニホンザル *Macaca fuscata* Gray, 1870

- ・小野湖周辺、厚東川中流、平原岳周辺、吉部地域に分布し、平原岳周辺にはおよそ3群が生息しているが、他地域は家族群の季節分布と思われる。
- ・日本全土に分布するが、2亜種のうち *M. f. fuscata* をホンダザルと呼ぶこともある。
- ・保全に関する情報：有害鳥獣捕獲の対象種となっている。

⑧ ニホンノウサギ *Lepus brachyurus* Temminck, 1844

- ・宇部市の全域に分布する。溜池や河川敷・土手などに糞を見つけることが多い。
- ・宇部市に生息するのは、亜種 *Lepus brachyurus brachyurus* Temminck, 1845 キュウシュウノウサギである。
- ・保全に関する情報：有害鳥獣捕獲の対象種となっている。

⑨ ムササビ *Petaurista leucogenys* Temminck, 1827

- ・小野湖周辺、平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、霜降山周辺の森林内に建立された神社の屋根裏などの巣穴痕を確認した。個体数は少ないが生息が認められる。
- ・日本固有種で本州・四国・九州に分布する。和名をホオジロムササビと呼ぶこともある。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑩ アカネズミ *Apodemus speciosus* Temminck, 1844

- ・厚東川河口を除く、宇部市全域に生息する代表的な野鼠である。
- ・日本固有種で北海道から本州・四国・九州に分布する。山口県産はホンドアカネズミ *A. s. speciosus* という亜種名で呼ぶこともある。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑪ ヒメネズミ *Apodemus argenteus* Temminck, 1844

- ・平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域の森林の樹上に生息する野鼠である。
- ・日本固有種で北海道から本州・四国・九州の森林帯に生息する。
- ・保全に関する情報：特になし。

⑫ カヤネズミ *Micromys minutus* Pallas, 1771

- ・小野湖周辺、厚東川中流、平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域のオギ、ヨシ、ススキなどのカヤ原やイネ科植物の生えた草地に生息する世界最小の野鼠である。
- ・日本とアジア北部・ヨーロッパに分布している。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストにて準絶滅危惧とされる。

⑬ ハツカネズミ *Mus musculus* Linnaeus, 1758

- ・霜降山周辺、厚東川河口、ときわ公園～片倉、真締川、東部海岸～日の山の人家や倉庫に生息する家鼠である。
- ・外来種であり(旧帰化動物)、日本全地域に生息している。
- ・保全に関する情報：衛生害獣であるが、飼育個体を実験動物として利用することもある。

⑭ クマネズミ *Rattus rattus* Linnaeus, 1758

- ・霜降山周辺地域、厚東川河口地域、ときわ公園・片倉、真締川地域、日の出・東部海岸地域の人家や倉庫に生息する家鼠である。
- ・外来種であり(旧帰化動物)、日本全地域に生息している。
- ・保全に関する情報：衛生害獣であるが、飼育個体を実験動物として利用することもある。

⑮ ドブネズミ *Rattus norvegicus* Berkenhout, 1769

- ・霜降山周辺、厚東川河口、ときわ公園～片倉、真締川、東部海岸～日の山の人家や倉庫に生息する家鼠である。泳ぎも得意で、しばしば水中に飛び込む。
- ・外来種であり(旧帰化動物)、日本全地域に生息している。
- ・保全に関する情報：衛生害獣であるが、飼育個体を実験動物として利用することもある。

⑯ ヌートリア *Myocastor coypus* Molina, 1782

- ・小野湖周辺地域は、渇水期の砂州に多数の足跡を残している。ときわ公園～片倉にも溜池が多く、同様に足跡が残っている。宇部市の他所にも分布があると思われる。

- ・南アメリカ原産。毛皮を取るために移入したものが野生化し、ほぼ全国に分布している。
- ・保全に関する情報：特定外来生物に指定されるほか、有害鳥獣捕獲の対象種となっている。

⑰ タヌキ *Nyctereutes procyonoides* Gray, 1834

- ・宇部市の全域に分布している。
- ・産地は日本と東アジア・東南アジアであるが、今は多くの国々に分布を拡大している。
- ・保全に関する情報：有害鳥獣捕獲の対象種となっている。

⑱ アライグマ *Procyon lotor* Linnaeus, 1758

- ・小野湖周辺地域において、目撃情報があるほか、原地区で捕獲されている。
- ・原産地はアメリカであるが、現在では多くの国々に分布を拡大している。
- ・保全に関する情報：特定外来生物に指定されるほか、有害鳥獣捕獲の対象種となっている。

⑲ ホンドキツネ *Vulpes vulpes japonica* Gray, 1868

- ・行動範囲が広いため宇部市のほぼ全域で目撃例があるが、繁殖地は森林内と考えられる。
- ・本州、九州、四国に分布する。北半球に広く分布するアカギツネの亜種とされているが、日本固有種の説もある。
- ・保全に関する情報：都市部の他県等で絶滅危惧種に指定されることもあるが、本県では指定なし。

⑳ ホンドテン *Martes melampus melampus* Wagner, 1840

- ・森林地帯が広がる小野湖周辺、厚東川中流、平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域、霜降山周辺に生息している。自動撮影装置ではアカネズミ類を探している行動が多く確認される。
- ・本州・九州・四国に分布する。夏毛と冬毛で色が変わる。
- ・保全に関する情報：他県等で絶滅危惧種に指定されることもあるが、本県では指定なし。

㉑ ニホンイタチ *Mustela itatsi* Temminck, 1844

- ・ホンドテンとほぼ同じ分布域を持つが、個体数は少ない。
- ・本州・九州・四国に分布する。泳ぎがうまく、毛色は茶褐色で季節変化はほとんど感じない。
- ・保全に関する情報：山口県レッドリストの2002年版では準絶滅危惧とされていたが、2019年版では指定なしとなっている。雄は鳥獣保護管理法に規定される狩猟鳥獣である。

㉒ シベリアイタチ *Mustela sibirica coreana* Domaniewski, 1926

- ・吉部、霜降山周辺、厚東川河口、ときわ公園～片倉、真締川、東部海岸～日の山に多く生息している。
- ・日本とユーラシア大陸に広く分布するが、日本には朝鮮半島から移入したと考えられており、チョウセンイタチとも呼ばれる。生態は似ているが、在来種のニホンイタチはやや小型であるため本種から駆逐されている。
- ・保全に関する情報：鳥獣保護管理法に規定される狩猟鳥獣である。

㉓ ニホンアナグマ *Meles anakuma* Temminck, 1842

- ・小野湖周辺、平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域、ときわ公園～片倉に多く生息しているが、他の地域にも分布していると思われる。
- ・日本の本州、四国、小豆島、九州の里山に棲息する固有種。タヌキ・キツネの巣穴には本種の掘った穴が使われるため、これらをまとめた「同じ穴の貉(むじな)」という慣用語がある。
- ・保全に関する情報：有害鳥獣捕獲の対象種となっている。

⑳ ハクビシン *Paguma larvata* C. E. H. Smith, 1827

- ・小野湖周辺地域に生息しているという情報に基づいて記載した。
- ・産地は中国大陸南部である。日本では本州東部と四国に生息していたが、現在では全国に分布域を拡大している。
- ・保全に関する情報：特になし。

㉑ ノネコ *Felis silvestris catus* Linnaeus, 1758

- ・小野湖周辺、吉部地域の自動撮影装置で他の野生動物と同様に姿をとらえた。
- ・起源はイエネコ（飼い猫）であるが、野生動物の生息に影響を与えているため記載した。
- ・保全に関する情報：ノネコにならない対策が求められる。

㉒ ニホンイノシシ *Sus scrofa riukiuanus* Linnaeus, 1758

- ・小野湖周辺、平原岳周辺、荒滝山・日ノ岳周辺、吉部地域、ときわ公園～片倉の自動撮影装置で撮影できた。他の地域でも生活痕は少なからず確認できた。
- ・日本とユーラシア大陸に広く分布しており、家畜されたのがブタである。
- ・保全に関する情報：有害鳥獣捕獲の対象種となっている。

㉓ ホンシュウジカ *Cervus nippon centralis* Kishida, 1936

- ・小野湖周辺、平原岳周辺、吉部地域、ときわ公園～片倉の自動撮影装置で撮影できた。他の地域でも生活痕は少なからず確認できた。
- ・ニホンジカ *Cervus nippon* Temminck, 1836 は日本と中国大陸・ロシアに分布する。
- ・保全に関する情報：山口県の県獣であるが、有害鳥獣捕獲の対象種となっている。

㉔ スナメリ *Neophocaena phocaenoides sunameri* Pilleri and Gühr, 1975

- ・東部海岸付近に生息している。
- ・種スナメリの3亜種の1つで東アジアに広く分布する。日本沿岸では、有明海-橘湾、大村湾、瀬戸内海-響灘、伊勢湾-三河湾、東京湾-仙台湾の5つの地域個体群が知られている。
- ・保全に関する情報：山口県では海産ほ乳類は評価対象外であるが、他府県で絶滅危惧種とされることもある。

3. まとめ

宇部市全域において確認した両生類 15 種・爬虫類 12 種・哺乳類 28 種のうち、調査地点 10 ヶ所すべてで確認されたのは 16 種（両生類 5 種・爬虫類 6 種・哺乳類 5 種）である。

両生類 15 種のうち、調査地点 10 ヶ所すべてで確認され、広い分布域をもつと考えられる 5 種のうち、アカハライモリとトノサマガエルは共に山口県レッドリストにて、準絶滅危惧に指定されており、本市の自然度が高いことが分かる。しかし、ウシガエルは、特定外来生物に指定されるとともに、環境省の生態系被害防止外来種リストにおける重点対策外来種にも指定されている。本市で点在的な分布がみられる両生類は 10 種であるが、絶滅危惧Ⅱ類が 2 種（ヤマグチサンショウウオ、ニホンヒキガエル）、準絶滅危惧が 3 種（チュウゴクブチサンショウウオ、モリアオガエル、カジカガエル）あり、保全を目的とした詳しい生息状況の把握が急がれる。

爬虫類 12 種のうち広い分布域をもつ 6 種は山口県にとっては一般的な種である。しかし、分布域が少ない種のうち、7 ヶ所に生息するミシシippアカミミガメは条件付特定外来生物に指定される予定であるが、その帰化の理由がペット需要であるため、市民への啓蒙活動が望まれる。また、絶滅危惧Ⅱ類に 2 種（ニホンイシガメ・タワヤモリ）、情報不足に 1 種（ニホンスッポン）の生息が確認で

きた。希少性の特徴として固有種ニホンイシガメと外来種と考えられているクサガメ、同じく固有種であるタワヤモリと外来種と考えられているニホンヤモリの間で交雑がすすんでおり、固有種（純血種）の絶滅が懸念されている。

哺乳類 28 種のうち 5 種は、山口県全域に広く分布している。コウベモグラの坑道は田畑を荒し、アブラコウモリのグアノは家屋の糞害、ノウサギは植林幼木の食害など人間とのトラブルがみられる。同様に、分布域は少ないが家鼠 3 種（ハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミ）も衛生害獣として歓迎されない。特定外来生物はヌートリアとアライグマが該当する。いずれも小野湖地域で確認しているが、ヌートリアは広域的な分布が予想される。また、有害鳥獣のニホンザル・イノシシ・ホンシユウジカについては、その対策として中山間域の農地には必ず電気柵やネット等が見られる。希少種は、準絶滅危惧であるユビナガコウモリ・カヤネズミがあげられるが、ユビナガコウモリは目撃情報からであり、捕獲による生息確認ではない。同様に、ヤマネ・カワネズミも生活痕や捕獲による確認ができなかった。なお、スナメリは海産棲であるため、これを除外すると 27 種となる。

引用文献

- 村田 満, 1998. 新発見、山口県産のタワヤモリについて, 山口生物 25 卷 11-12. 山口生物学会
- 古田欧介・田村心葉・村田 満, 2020. 錦川清流線『とことこトレイン、コウモリ坑道』における冬季 61 日間の生態系, 山口生物 39 卷 43-47. 山口生物学会
- 山口県, 2019. レッドデータブックやまぐち 2019 山口県の絶滅のおそれのある野生生物.
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/41/20708.html>
- 日本爬虫両棲類学会, 2022. 日本産爬虫両生類標準和名リスト 2022 年 11 月 6 日版 (PDF 版)
http://herpetology.jp/wamei/index_j.php
- 日本哺乳類学会分類群名・標本検討委員会, 2018. 世界哺乳類標準和名目録. 哺乳類科学 : 第 58 卷別冊.
日本哺乳類学会 https://www.jstage.jst.go.jp/article/mammalianscience/58/Supplement/58_S1/_pdf



写真 7-1 たも網を使う踏査調査



写真 7-2 カメ籠によるトラップ調査



写真 7-3 自動撮影装置



写真 7-4 生活痕調査（巣材）



写真 7-5 自動撮影装置に映ったイノシシ



写真 7-6 哺乳類 5 種の足跡



写真 7-7 ノウサギ成体



写真 7-8 ヤマグチサンショウウオ



写真 7-9 ニホンザル雄成体



写真 7-10 テン幼体



写真 7-11 ヤマグチサンショウウオの卵囊



写真 7-12 イノシシのぬた場と卵囊



写真 7-13 ホンシュウジカ親子



写真 7-14 キツネ

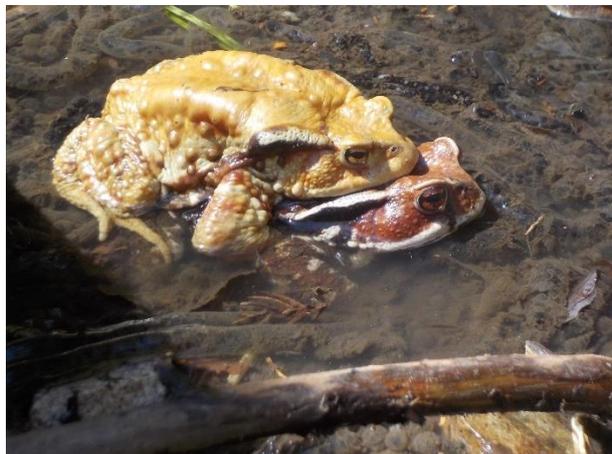


写真 7-15 ニホンヒキガエルの抱合



写真 7-16 アカネズミ成体



写真 7-17 クサガメ



写真 7-18 アオダイショウ



写真 7-19 アカハライモリの腹部



写真 7-20 アナグマ



写真 7-21 シベリアイタチ



写真 7-22 タヌキ



写真 7-23 ミシシippアカミミガメ



写真 7-24 ニホンヤモリ